史　跡

盛岡城跡 II

－第２期保存整備事業報告書－

2008. 3

盛岡市教育委員会

序　　言

盛岡市は岩手県の内陸部に位置します。現在の中心市街地は、今から400年余り前、盛岡南部氏が築いた城下町が基礎になっております。市の中心部にある、盛岡城跡は、江戸時代、盛岡藩政の拠点であり、昭和12年４月17日に国史跡に指定されました。昭和59年度からは、国、県の補助により、石垣修復のための保存整備事業を実施しております。これまでの発掘調査と修復工事によって、石垣の造り方や城の変遷が明らかとなり、城内の様子や歴史を知る上で、大変貴重な調査成果がありました。

現在盛岡市では、この盛岡城跡を中心とする街づくりについて、その方向性を模索しております。中心市街地の発展のため、史跡の保存活用と、周辺都市整備との整合を図りながら、よりよい街づくりを進めていかなくてはなりません。そのためにも、本報告書が、歴史学、考古学研究のみならず、幅広い分野でご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、事業を進めるにあたりまして、懇切なる御指導と御助力を賜りました、文化庁記念物課、独立行政法人文化財研究所、岩手県教育委員会ならびに関係各位に対し、篤く御礼申し上げ、報告書刊行のご挨拶といたします。

平成20年３月31日

盛岡市教育委員会

教育長　八巻恒雄

例　　言

1　本書は、平成３年度から平成19年度まで実施した、史跡盛岡城跡第２期保存整備事業のうち、発掘調査、石垣修復工事の報告書である。

2　平成12年12月24日未明の文化財調査室火災により、遺構図面や写真、調査記録のほか、陶磁器、瓦類、金属製品などの出土遺物も、多く罹災した。遺構図はコピーなどの控えを活用し、可能な限り復元に努めた。

3　本書の作成は、盛岡市教育委員会歴史文化課　千田和文、津嶋知弘、三浦陽一、花井正香、盛岡市遺跡の学び館　菊地幸裕、神原雄一郎、今野公顕、佐々木亮二、鈴木賢治、浅沼のぞみの協力を得ながら、室野秀文が編集した。また、出土遺物の写真撮影は神原雄一郎が担当した。

4　発掘調査の平面位置の表示は、日本測地系第Ｘ系を座標変換して表示した。

　　調査座標原点　　Ｘ　－32,000.000　　Ｙ　＋27,000.000

5　高さの表示は，標高値をそのまま使用した。

6　遺構略称は次のとおりとした。

ＳＡ　塀・柵・柱列等	ＳＢ　建物跡	ＳＤ　堀・溝等
ＳＥ　井戸跡	ＳＦ　土塁等	ＳＧ　削平地等
ＳＨ　道路・通路等	ＳＪ　水溜・排水施設等	ＳＸ　その他

6　既刊の発掘調査概報、報告書には次のものがある。

1986. 3	盛岡城跡　－昭和59年度発掘調査概報	概報84
1987. 3	盛岡城跡　－昭和60年度発掘調査概報	概報85
1988. 3	盛岡城跡　－昭和61・62年度発掘調査概報	概報86・87
1990. 3	盛岡城跡　－昭和63年度・平成元年度発掘調査概報	概報88・89
1991. 3	盛岡城跡Ⅰ－第1期保存整備事業報告書	盛岡城跡Ⅰ
1999. 3	盛岡城跡　－平成10年度発掘調査概報	概報98
2000. 3	盛岡城跡石垣移動量調査報告書	移動量報告
2001. 3	盛岡城跡　－平成10・11・12年度発掘調査概報	概報98～00
2002. 3	盛岡城跡　－平成13年度発掘調査概報	概報01

目　次

Ⅰ　盛岡城と環境
（1）　位　置…… 1
（2）　盛岡南部氏と盛岡築城…… 2
Ⅱ　事業の経過…… 9
Ⅲ　城跡の現状と石垣
1　盛岡城石垣の現状…… 14
2　石垣の分類…… 21
3　石垣変移調査…… 27
Ⅳ　発掘調査
1　二ノ丸南東部の調査…… 34
2　本丸北東部の調査…… 41
3　本丸北西部の調査…… 69
4　本丸南西部の調査…… 85
5　出土遺物…… 132
Ⅴ　まとめと課題
1　遺構変遷と課題…… 181
2　石垣修復と課題…… 184

挿図目次

第１図　史跡盛岡城跡の位置……1
第２図　盛岡旧図……3
第３図　中世の不来方周辺……5
第４図　盛岡城下図……8
第５図　史跡盛岡城跡全体図……10
第６図　明治六年陸軍省江引渡絵図面……15・16
第７図　旧不来方城址公園敷地設計図……17
第８図　石垣の分類……21
第９図　石垣変位調査測定地区……29
第10図　調査座標とグリッド……34
第11図　発掘調査位置図……35
第12図　二ノ丸南東部石垣立面図（１：100）……36
第13図　二ノ丸南東部石垣の石材（１：100）……37
第14図　二ノ丸南東部遺構平面図……39
第15図　二ノ丸南東部土層断面図……40
第16図　本丸北東部不来方城期の遺構……43
第17図　SD106、107、108堀、SG102犬走り平面図……44
第18図　SD105、106、107堀土層断面図……45
第19図　盛岡城１期の遺構……47
第20図　盛岡城１期石垣、SB105門跡、SG104段築平面図……48
第21図　盛岡城１期の遺構土層断面図……49
第22図　本丸北東部、二ノ丸南東部全体図……50
第23図　本丸北東部盛岡城2期石垣立面図……51・52
第24図　本丸北東部石垣土層断面図……54
第25図　本丸北東部、二ノ丸南東部石垣根石平面図……55
第26図　SD100堀切底面及び本丸北東部石垣下の遺構……56
第27図　SB115冠木門跡……57
第28図　SB115冠木門跡　門柱……58
第29図　SB130隅櫓跡、SB160多聞櫓跡（上面）……60
第30図　SB130隅櫓跡、SB160多聞櫓跡……61
第31図　SB160多聞櫓跡、SB130隅櫓跡南面石垣……62
第32図　石垣抜取穴等最終面……62
第33図　SB130隅櫓跡、SB160多聞櫓跡断面図……63
第34図　本丸北東部調査区南半部の遺構……65
第35図　本丸北東部遺構土層断面図……66
第36図　本丸北東部SB101建物跡、柱列跡、柱穴土層断面図……67
第37図　本丸北西部の遺構……70

第38図　盛岡城第１期石垣、第２期石垣根石…… 71
第39図　本丸北西部地中石垣の石材…… 72
第40図　本丸北西部石垣断面図…… 72
第41図　本丸北西部石垣立面図１……73・74
第42図　本丸北西部石垣立面図２…… 75
第43図　SB140小納戸櫓跡、SB170多聞櫓跡…… 77
第44図　SB140小納戸櫓跡下層 …… 78
第45図　SB107建物跡、SK109土坑…… 80
第46図　本丸北西部遺構土層断面図…… 81
第47図　SB108建物跡 …… 82
第48図　SJ101排水口 …… 83
第49図　本丸南西部盛岡城１期、２期の遺構…… 86
第50図　本丸南西部石垣断面図１…… 87
第51図　盛岡城１期の石垣１…… 88
第52図　盛岡城１期の石垣２…… 89
第53図　本丸南西部の石垣立面図１……91・92
第54図　本丸南西部の石垣２…… 93
第55図　本丸南西部石垣捨石透視図…… 94
第56図　本丸南西部石垣断面図２…… 95
第57図　本丸南西部全体図…… 97
第58図　本丸南西部部分図…… 98
第59図　腰曲輪西側（本丸南西部下）の遺構２…… 100
第60図　腰曲輪西側土層断面図…… 101
第61図　本丸北東部石垣石材番号…… 110
第62図　本丸北東部石垣石材控えの長さ別分布…… 111
第63図　本丸北東部石垣石材形状別分布…… 112
第64図　本丸北西部石垣石材番号…… 118
第65図　本丸北西部石垣石材控えの長さ別分布…… 119
第66図　本丸北西部石垣石材形状別分布…… 120
第67図　本丸南西部石垣石材番号…… 129
第68図　本丸南西部石垣控えの長さ別分布…… 130
第69図　本丸南西部石垣石材形状別分布…… 131
第70図　土器、陶磁器１…… 135
第71図　陶磁器２…… 136
第72図　陶磁器３…… 137
第73図　本丸北東部の瓦１…… 138
第74図　本丸北東部の瓦２…… 139
第75図　本丸北東部の瓦３…… 140
第76図　本丸北東部の瓦４…… 141
第77図　本丸北東部の瓦５…… 142

第78図　本丸北東部の瓦６…… 143
第79図　本丸北東部の瓦７…… 144
第80図　本丸北東部の瓦８…… 145
第81図　本丸北西部の瓦１…… 146
第82図　本丸北西部の瓦２…… 147
第83図　本丸北西部の瓦３…… 148
第84図　本丸北西部の瓦４…… 149
第85図　本丸北西部の瓦５…… 150
第86図　本丸北西部の瓦６…… 151
第87図　本丸北西部の瓦７…… 152
第88図　本丸南西部の瓦１…… 153
第89図　本丸南西部の瓦２…… 154
第90図　本丸南西部の瓦３…… 155
第91図　本丸南西部の瓦４…… 156
第92図　本丸南西部の瓦５…… 157
第93図　本丸南西部の瓦６…… 158
第94図　本丸南西部の瓦７…… 159
第95図　本丸南西部の瓦８…… 160
第96図　本丸南西部の瓦９…… 161
第97図　本丸南西部の瓦10…… 162
第98図　本丸南西部の瓦11…… 163
第99図　本丸南西部の瓦12…… 164
第100図　本丸南西部の瓦13…… 165
第101図　本丸南西部の瓦14…… 166
第102図　本丸、腰曲輪遺構変遷…… 183
第103図　本丸北東部石垣復元案…… 185

表　目　次

表１　保存整備事業一覧表 …… 12
表２　本丸北東部石材法量計測表…… 104
表３　本丸北西部石材法量計測表…… 113
表４　本丸南西部石材法量計測表…… 121
表５　土器、陶磁器…… 167
表６　金属製品、古銭他…… 172
表７　瓦集計表…… 174
表８　盛岡城遺構変遷表…… 182

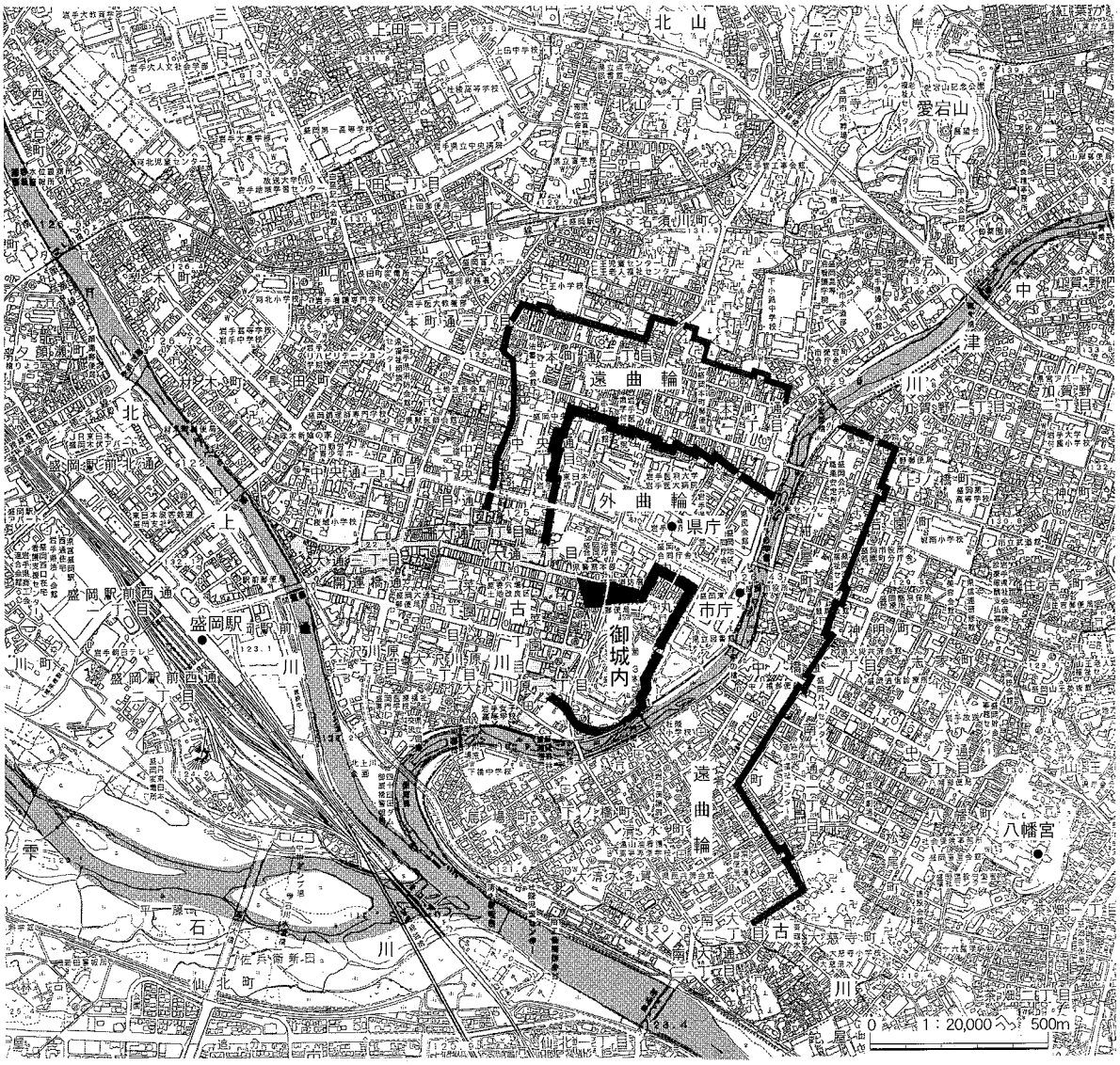
図 版 目 次

第１図版　　史跡盛岡城跡全景
第２図版　　明和三年盛岡城図
第３図版　　元禄16年、元文５年盛岡城図
第４図版　　軒丸瓦、軒平瓦
第５図版　　本丸、二ノ丸遠景
第６図版　　本丸南西部盛岡城1期石垣
第７図版　　本丸東側盛岡城1期石垣
第８図版　　本丸南西部二階櫓石垣（修復後）
第９図版　　本丸北東部、本丸堀切
第10図版　　本丸北東部石垣隅部
第11図版　　本丸北東部石垣断面
第12図版　　本丸北西部石垣
第13図版　　本丸北西部の石垣と遺構
第14図版　　本丸南西部石垣
第15図版　　本丸南西部石垣
第16図版　　土器、陶磁器
第17図版　　陶磁器、瓦
第18図版～第21図版　瓦

Ⅰ　盛岡城と環境

(1) 位　置

盛　岡　市　岩手県の盛岡市は、北上盆地の北部に位置する県庁所在地である。中央を南流する北上川は、雫石川と中津川が合流すると、水量を一気に増加させて、宮城県石巻市で太平洋に注いでいる。藩政時代には、盛岡を基点に仙台領石巻まで舟運が開かれており、北上川は物流の大動脈であった。盆地の西側には、県境を形成する奥羽山脈、東側には北上山地がつらなり、盛岡以南の地域は北上川西側に広い平坦地や段丘、扇状地が形成されている。東側は北上川近くまで、北上山地から派生した山や丘陵が迫り、段丘面や平坦地は比較的狭い。盛岡以北の地域は北上川東岸地域に山地性の地形が発達し、西側には岩手山からの噴出物で形成される火山灰砂台地が広く形成されている。



第1図　盛岡城跡位置図

盛　岡　城　盛岡城は市の中心部内丸に所在し、旧北上川と中津川合流点に突出する、花崗岩質の小丘陵に築かれている。現在の北上川は流路を西側に変えているが、これは寛文13年（延宝元年：1673）の河川改修によるものである。城の中心部の丘陵は、北上川、中津川河床面との比高約20mで、現在のように高層建築が立ち並ぶ前は、城下一円はもちろんのこと、岩手郡南部から志和郡まで、周囲の眺望が開けた場所である。城の北側は、現状では平坦な台地となって、北側の愛宕山や北山の丘陵地帯へと続いている。この方面には盛岡城の外曲輪や遠曲輪が存在した地域であり、北上川河床面との比高は３mから６mほどである。また、中津川対岸の地域にも堀がめぐらされており、南側の北上川河床面とは、比高３m～４mの段丘崖で画されている。

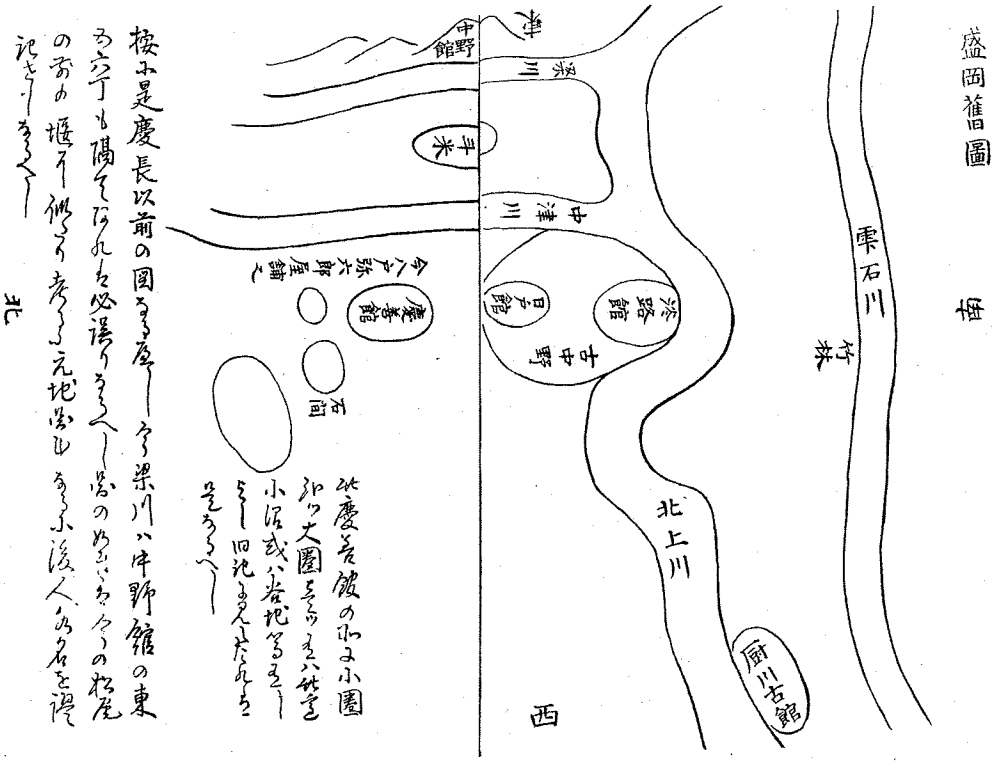
（２）　盛岡南部氏と盛岡築城

盛岡南部氏

甲斐国巨摩郡南部郷を本領とする南部氏が、陸奥北部で活動し始めるのは、建武の新政のころからである。陸奥国司北畠顕家によって、糠部検断奉行となった、南部帥行を初めとする根城南部氏（八戸氏）は、南北朝合一の後も、八戸根城を拠点に勢力を伸ばし、郡内の領主との連合勢力を形成していった。室町時代の15世紀、根城南部氏は、奥州探題大崎氏から、内裏造営の段銭徴収や、軍事動員等を直接下命されており、糠部地域の領主層を代表する存在であったことがわかる。戦国時代の天文年間（1532～1555）には、一族の中の三戸南部氏や、九戸、二戸の領主九戸氏が大きく台頭して、根城南部氏を凌ぐようになる。天正10年（1582）、南部晴政、晴継父子急死のあと、三戸南部家を継承した南部信直は、九戸政実と対立する。前田利家を通じて豊臣政権を後ろ盾とした信直は、天正16年（1588）には斯波氏を降し、天正19年（1591）には九戸氏を滅ぼして、豊臣政権下の大名としての地位を確立した。信直は居城を三戸から福岡（二戸市）へ移転し、さらに、北上盆地北部の不来方に新城を定めて、盛岡南部氏の初代となった。

不来方と福士氏

今日の盛岡市街地中心部の地形は、南部氏の築城と、城下町建設により改変された地形である。室町時代から戦国時代にかけて、福士氏が支配しており、その居城が不来方城であった。福士氏は南部氏と同じ甲斐源氏の一族と伝えられ、南部氏に随身して奥州に来住したとされている。福士氏の系譜や菩提寺東顕寺の記録では、明徳２年（元中元年：1391）に福士政長が没しており、このころには不来方を領していたらしい。また、応永11年（1404）には、大膳（系譜では南部義政とされる）から不来方の領有を認められている。福士氏は南部氏の、甲斐以来の重臣の家柄と伝えられているが、16世紀の中ごろには、斯波氏の勢力が岩手郡に大きく拡がっている。また、それ以前から川村氏の一族も、志和郡の河東から岩手郡東部一帯に、支族をおいている事実がある。不来方の福士氏が、室町、戦国期を通じて、南部氏に属したまま推移したということは考えにくい。南部晴政の岩手郡進出のときに、晴政に服属したが、九戸合戦時の福士氏の動向は不明であり、盛岡築城のころには、信直の意に反し、不来方を出奔している（『奥南旧指録』）。福士氏については、駿河の南条氏または富士氏の一族とする説もあり、福士氏の出自や来歴、不来方領有時代の事績を含めて、今後の研究にゆだねられるところが多い。



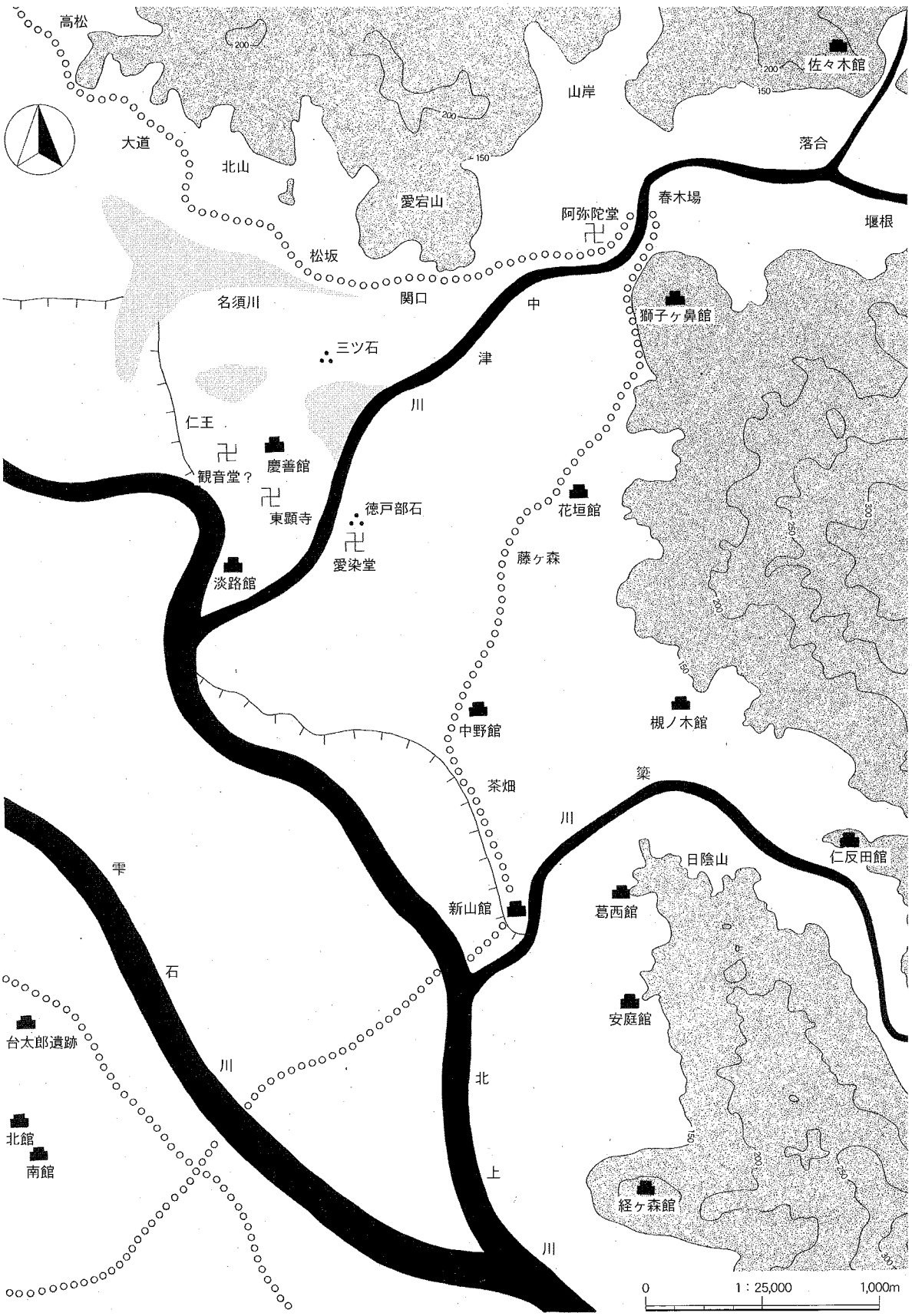
第２図　盛岡旧図（『盛岡砂子』）

不来方の地形と環境

盛岡城下開設以前の地形の詳細については明らかではないが、藩政時代に編纂された地誌類の記述や、『盛岡砂子』に収録される盛岡旧図（第２図）を基にすると、凡そ第３図の如く復元される。当時北上川の流れは現在とは異なり、現在の旭橋付近から大通方面に大きく蛇行して、不来方城の丘に突き当たり、南に流れを変えて、城の南側で中津川と合流していた。また雫石川についても、現在よりも南に流れ降り、仙北町南の川久保付近で北上川に合流していた。この図によれば、北上川と中津川合流点の北側に、淡路館と日戸館が南北に並び、この二つは古中野という大きな楕円でまとめられている。図中の位置関係から、この部分は後の盛岡城の内曲輪（御城内）に相当する範囲であり、淡路館は本丸や腰曲輪のあたり、日戸館は三の丸付近とされている。地形と合わせて考えれば、ここでの淡路館、日戸館は個別の城館名ではなく、それぞれ、一城内の曲輪を指していると理解できる。ここから北に離れて慶善館が存在し、「今八戸弥六郎屋敷之」と記される。これは現在の岩手県庁北側から岩手医科大学付属病院付近である。江戸時代この地点は、盛岡藩家老の八戸氏（遠野南部氏）の屋敷であり、邸内西よりには、花崗岩を多く含んだ小山が存在した。ここは当時城内の石垣の修復時には石切丁場となっていたところである。この小山が慶善館の跡地と伝えられる。平成11年の盛岡城外曲輪跡の発掘調査では、この北東側地点では外曲輪北辺の土塁と堀が確認され、土塁の下層には16世紀の掘立柱建物跡が複数発見され、慶善館の一部、または慶善館周辺の屋敷跡と推定された。この付近では現在でも地下工事中に、花崗岩の巨石が露出することが多い。この盛岡旧図には、慶善館の北側に小さな楕円が二つ、北西に大きな楕円が一つ描かれている。同図には「按慶善館の北に小圏弐つ其西に大圏壱つ　考るに此辺に沼或は谷地等所々に有し由旧記に見得たり　即是なるへし　愚按るに此図慶長以前の図と見得たり」と書き込まれている。これを

現在の地形に対比すれば、今の岩手医科大学付属病院付近に慶善館が存在し、その北側、本町通付近に２箇所の沼沢、その北西に大きな沼地もしくは谷地が存在したらしい。この大きな沼地か谷地の地形は、図中の位置から現在のＪＲ山田線上盛岡駅の周辺から名須川町付近の低地と推考される。このあたりは黒い腐食土層が深く厚く堆積しており、さほど深くないところからも湧水がある。元文五年盛岡城下図などでは、上田堤（高松の池）や北山久保屋敷方面からの湧水が流れ込み、三戸町付近を通じて、北上古川に流れ込む沢筋が描かれている部分に相当する。近世の盛岡城下町は、当初は、この沢筋から中津川の間の地域と、中津川東側の平坦地に形成され、後の城下拡張に伴い、周辺低地が埋め立てられ、市街地が拡大していった。また、城の北約1500m以北は、愛宕山、北山の丘陵地となるが、この裾部分は旧中津川の河道らしく、名須川町付近では現在でも低い地形になっている。この南側の東顕寺境内に隣接して、三ツ石神社の小丘があり、三つに割れた花崗岩の巨岩が存在する。この岩には鬼の手形が残ると伝えられ、地名の岩手や三ツ割の語源と伝承されているところである。盛岡城内にも、三の丸の烏帽子岩ほか、多くの花崗岩が露出しており、内丸の石割桜の巨岩や、中津川対岸には藩政時代までトッコベ石が存在し、一帯は花崗岩を多く産出する地域である。この地質は愛宕山や北山方面まで連続しており、もともとは、この地域は一体の地形、地質であった場所が、北上川や中津川などの河川が、永い年月を経ながら、合流、変転、侵食を繰り返し、前述の沼沢地や、花崗岩の小丘等が入り組む、複雑な地形が形成された。

東　顕　寺　現在の名須川町に存在する東顕寺は、福士氏の菩提寺であり、至徳元年（1384）の創建である。盛岡城築城以前は、内丸石間の楢山氏屋敷の位置に存在したという（『盛岡砂子』）。そこは現在の岩手県庁の位置であり、慶善館と淡路館の間に菩提寺が存在したことになる。内丸の西方、秋田街道や鹿角街道への出口には江戸時代に仁王小路と仁王新町があった。仁王の地名は観世音菩薩像を本尊とする、観音堂の仁王門が存在したことに由来するが、建武元年（1334）の陸奥国府が発した文書には岩手郡二王郷が記され（『大石寺文書』）ており、観音堂と仁王門はこれ以前に成立していたものであろう。観世音像は、南部重直の代に城下町の拡張に伴って移され、盛岡市玉山区の姫神嶽神社に遷座したという。現在玉山区城内の東楽寺には、平安時代後期の、像高361cm以上の十一面観世音像を含む、６体の十一面観世音像と２体の金剛力士像が伝えられている。これらの仏像は明治の廃仏希釈によって、一旦は廃棄されたものが、昭和２年に現在地に集められた仏像である。仁王観音堂の仏像が含まれているとされるが、どの仏像なのか特定できていない。また、中津川対岸の紺屋町周辺は徳戸部（斗米）と呼ばれた地域で、江戸時代までトッコベ石という巨大な奇岩があり、そこの密教寺院長福院の愛染明王像は室町時代の地方作といわれている（『盛岡の文化財』）。東顕寺の由来によれば、至徳年中に江刺郡正法寺の月泉和尚の高弟古山良空和尚が、不来方の徳戸部に至ったところ、そこは怪石奇岩の多い寂寞とした地であり、その石間に草堂を構えたところ、不来方城主福士五郎政長が檀那となり、東顕寺を建立開基したという（『盛岡市史中世期』）。この三ツ石神社の伝説や東顕寺開基にまつわるトッコベ石などは、巨岩、奇岩に付随する古信仰を物語るものである（前掲）。中世不来方は、北上川、中津川合流点の奇岩怪石の多い小丘と、沼沢の入り組んだ地形であり、そこは軍事的な要害であると同時に、古くからの信仰を集めた聖地であった。聖地の城郭化は、鎌倉時代終末期から南北朝時代、建武政権側が拠点とした船上山城、笠置山城、霊山城、宇津峰城などに類例があり、不来方に城が構えられたのもこれと似た考え方であったのかもしれない。南部氏の盛岡城下町建設以前には、不来方城や東顕寺、観音堂の至近地域には、人家



第３図　中世不来方の周辺

や集落は少なかったと伝えられているのは、この城の至近地域のことであり、人家が少ないのはもともと聖地であったが由縁であろう。当時の街道は、現在の国道4号線に近い、市街地北東側の山裾を通じており、この街道近くには、まとまった集落が形成されていた可能性が高い。

交通の要衝

当時の街道

不来方城の存在した室町時代から戦国時代、古街道は東に偏して通じており、現在の高松の池（上田堤）から北山の法泉寺、源勝寺、報恩寺前を通じ、愛宕山下の関口から春木場に進み、中津川を渡り、妙泉寺下、住吉神社前、盛岡八幡宮前を通じ、神子田から北上川を舟渡し、仙北から南西に進んでいた（『邦内郷村志』）。このルートに沿ったところには、北から上田城（詳細位置不明）、獅子ヶ鼻館、花垣館、中野館、新山館が並び、街道筋を押さえている。また、中津川沿いには、東の閉伊方面に抜ける山路があり、獅子ヶ鼻館はその分岐点に近い山上にある。ここから中津川をややさかのぼった浅岸の堰根遺跡や前野遺跡では、９世紀から10世紀後半にかけての集落が営まれており、さらに、堰根遺跡、前野遺跡と対岸の落合遺跡では、12世紀後半を中心とした屋敷や村落の遺構が確認されている。特に落合遺跡では当時の用水堰とみられる大溝も確認され、堰根遺跡にも最近まで機能していた大規模な用水堰があり、12世紀後半に中津川両岸地域の開発が、大きく進められたことが判明している。また、街道沿いの山岸阿弥陀堂は藤原秀衡の建立と伝えられている（『盛岡砂子』）。落合遺跡の北側には佐々木館が存在し、落合遺跡や堰根遺跡、前野遺跡など、周辺遺跡には14世紀から16世紀の陶磁器類も認められ、中世を通じてこの付近に村落が形成されていたことをうかがわせる。不来方福士氏の初代とされ、東顕寺開基の福士政長は、明徳２年（1391）に死去している（『東顕寺不来方碑名』）。その後、応永11年（1404）、南部大膳（義政とされる）から、不来方の食糧備蓄と伝馬の管理を命ぜられている。さらに、時代は下るが、文禄５年６月４日付けで南部信直が福士氏に発給した文書（『国統大年譜』）には、沼宮内（岩手町）から下田（盛岡市玉山区）、門前寺（同）、不来方の順に伝馬送りの道順が記されているが、これは先述の古街道に重なる道筋である。不来方には伝馬の宿駅が存在したことがわかり、この街道筋が当時の幹線道路であったことは疑いない。閉伊、秋田方面に向かう街道の結節点にも近く、北上川に面した不来方は、この地方の水陸交通の要衝としても重要な位置を占めていた。

要害としての不来方

これまでのべてきたように、不来方は北上川、中津川の合流点にある要害地形であり、そこは地域の信仰を集めた聖地であり、主要街道や北上川に面した交通の要衝であった。こうした地の利をえた不来方城は、室町時代から戦国時代にかけての軍事的な拠点としても重要な役割を担っていた。応永11年（1404）福士左京大夫と、福士治部少輔は、南部大膳から「不来方者境目候間　大切可仕候　粟米等其方蔵入置申可候」と、不来方城に粟、米等食糧の備蓄を命ぜられている（『福士系図』）。大膳は三戸の南部義政とされているが、実際には八戸根城南部氏からの命令であったのかもしれない。また、永享７年（1435）から翌年にかけて和賀、稗貫両郡に大乱があり、北奥27郡の軍兵が召集された。この鎮圧軍の終結場所が岩手郡不来方城であった（『稗貫状』）。この大乱のきっかけは和賀総領家と庶子須々孫氏との紛争で、当初、不来方城主福士伊勢守禅門は、南部遠江守長安の命をうけて、両者の調停に臨んだが、和賀庶子の黒沢尻氏が稗貫氏を介入させたために紛争が拡大し

たものである。南部長安ら北奥諸郡の軍勢は不来方城に数日待機し、翌年春には斯波御所を総大将に稗貫郡に出陣している。また、時代は下るが、戦国時代末期の天正14年から16年にかけて三戸の南部信直志和郡侵攻の際にも、不来方城は志和郡進出の拠点となっており、東の中野館とともに、斯波氏への備えとして位置づけられていた。このように、不来方が大規模な軍事行動の際の拠点として機能したのは、地形の要害性もさることながら、各地に通じる諸街道が交差する、交通の結節点であり、城の位置が岩手郡、志和郡それぞれに対応できる要地であったこと。また、周辺には生産力のある村落や農耕地も多く存在し、まとまった軍の駐留が可能であったためであろう。

後に盛岡南部氏の城地として、ここが選定された背景には、不来方の多様な地の利があったのである。

盛岡築城

九戸合戦の終結後、信直は帰還する豊臣軍を鳥谷崎（花巻）まで見送りした。『祐清私記』の「盛岡築城之事」には、このとき浅野長吉が不来方城に立ち寄り、城内を視察。信直に居城移転を強く奨めたことが記されている。

一　天正十九年九月八日浅野弾正長政公九戸御退治御帰陣之時、同十日晝頃岩手郡不来方に着玉ひ、於此處に長政信直公へ被仰候は、只今之御居城は尤御普代之地と申、其圍も堅固に御座候得共、四方高山を巻廣田畑無の地に有候得は中々豊饒之地と不被申候、願は此所を御取立候而御在城可然候、尤要害茂大概に御座候、是非此段御斗候様にと御異見有之、信直公扨々御懇切之思召忝奉存候、私事も兼而願居候得共家従一統不仕其上公方への御披露も不仕候而は御咎茂有之候はゝ如何と存候而延引仕候、若能御序も御座候はゝ此段申上當所か志和之高水寺之館か。右両所之内申請居城に取立申度奉存候、能御機嫌之砌にも御座候はゝ此段可然御取成奉願候、當時乱世之砌にも御座候はゝ悪敷被聞召候而は不可然候、此段能々御察可被下候由被仰候、弾正様被聞召、扨々御念被入候御事、左様之御遠慮は人にこそ寄候事に候、我等に御任せ候得、押付免許之命可然有之候、但志和郡古城とやらんは片時も關城に相近く候、其日信直様、長政様御同道被成、其外名有大将衆召連、南館地の山本丸・二の丸・三の丸迄大概縄張間積被成御覧候所に地山少狭少に候得共、少々築出し被成候はゝ可然由被相定候。

一　弾正様御供諸将當所之地形悉譽被申候、先ツ前は田畑に寄、後は大河を抱山川行路其法に相叶と誠に珍敷地形之由被賞翫候、尤見合候而北館をは切崩候様にと是又長政公御差図有之候由、長政様十一日晝頃當所御立十二日鳥谷崎へ御着信直様御見送有。

九戸の陣から帰還する天正19年の９月10日、豊臣軍の軍監浅野長政が不来方城において、南部信直に不来方城の地に新城を築くよう、積極的に奨めたことが詳細に記されている。信直の居城三戸城は、周囲を山に囲まれて堅固な構えであるが、広い田畑もなく、決して豊かな土地ではないこと、それに対して不来方は前に田畑が広がり、後ろには大河が流れ、周囲の山や河、街道に至るまで、利に適った場所であることから、是非この地に新城を築くべきであると説いたのである。同道した諸将も口々に「誠に珍しき地形」と賞賛したという。そして注目すべきは、南館（淡路館）の地形を大まかに計測して縄張りをし、地山が狭小ではあるが、盛土拡張すれば必要面積は確保できるこ

第４図　盛岡城下図（江戸時代中期）

とや、構造上障害となる北館（慶善館）を切り崩すように指示していることである。盛岡城の下層に存在する不来方城は、この地方の室町、戦国期城館の一般的な、土塁、空堀を主に構築した土造りの城である。これに対し、新たに築かれた盛岡城は総石垣で、新時代に対応した石造りの城である。

このとき九戸城では、蒲生氏郷によって、本丸、二の丸の改修が始められており、ここでも、本丸部分や二の丸大手には、石垣が築かれていた。本丸のプランは枡形の虎口や石土居、櫓台を備えた矩形のプランで、それまでの糠部の城には全く見られない構造であった。この城も信直の居城として引き渡されることになっていたが、その築城が始まったばかりのときに、次の時代を見据えた新城の築城を指示しているのである。しかも、その基本的な縄張までも、浅野長政自身が行っている。これは豊臣政権が、地方大名である、南部信直の居城について、立地や構造の詳細をも掌握することになり、同時に、南部氏独自の築城を許さないものであった。新城の構造から明らかなように、そこには中世糠部を生き抜いた南部氏の独自性や自立性は見えてこない。盛岡城は、あくまでも豊臣政権下の一大名、盛岡南部氏の居城であり、その築城は豊臣政権の政策が前面に出た内容で実施された。

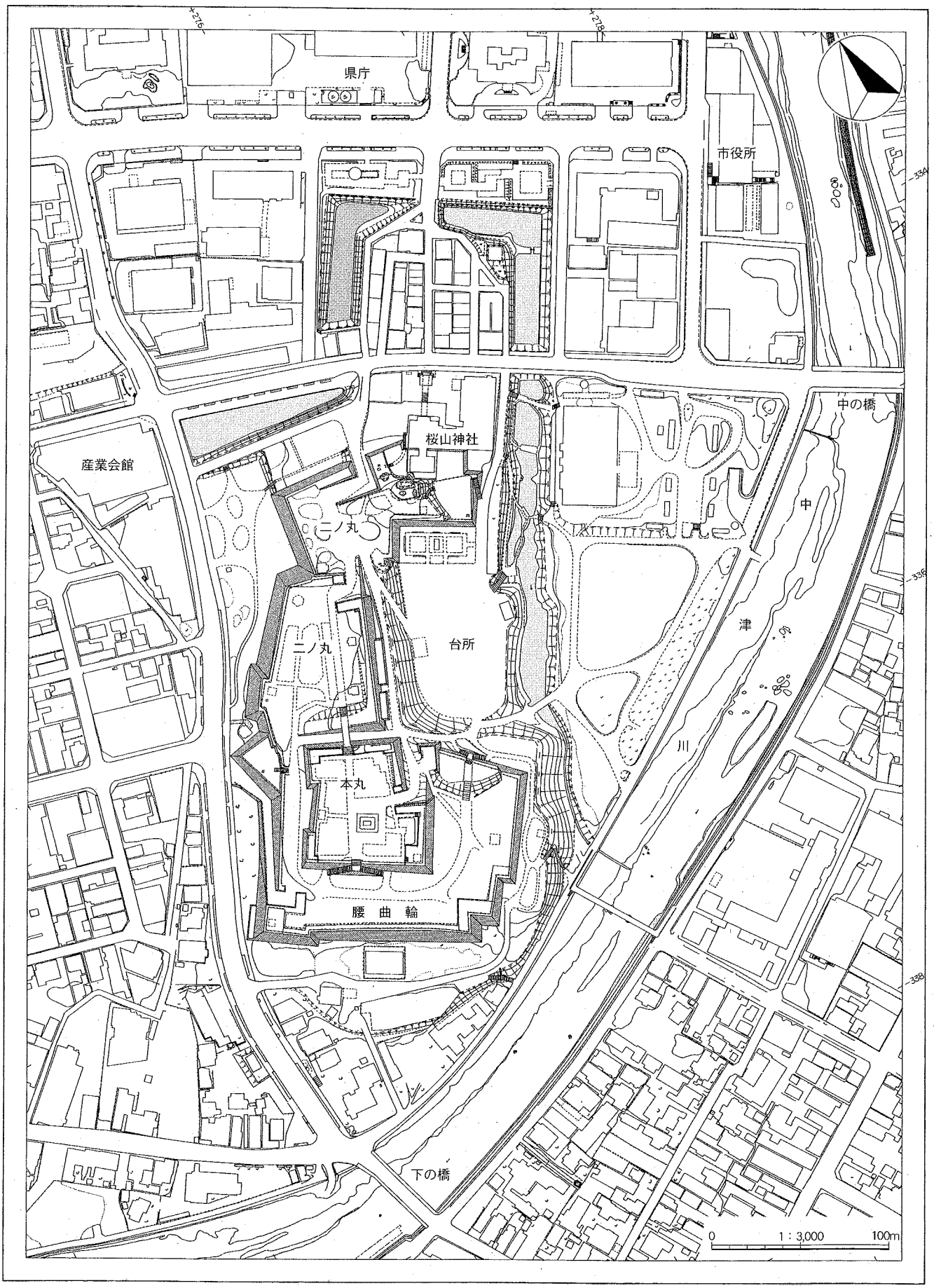
Ⅱ　事業の経過

保存整備事業

戦後、石垣の傷みが進行し、各所で石垣の崩落が心配されるようになった。昭和34年、榊山稲荷曲輪の北の二ノ丸南西側石垣が陥没し、崩落しかけた。これは戦時中に設けられた防空壕が陥没したもので、同年度中に国の補助を受けて修復している。城内ではこのほかにも各所で石垣の孕みなどが進行していた。昭和57年（1982）９月、文化庁記念物課仲野浩調査官が現地調査を実施した。その結果、①南側桜馬場下（腰曲輪南面）、②本丸東側の一部（本丸北東部）、③二ノ丸東側の一部（二ノ丸南東部）、④三ノ丸西側の一部（三ノ丸西面）の順に傷みが激しく、修理が急がれる。という診断結果であった。また、石垣の痛んだ箇所の修復とともに、明治の公園整備の際に改変された石垣については、藩政時代の姿に復元することが望ましいとの指導を得た。

第１期事業　この時の指導をもとに、盛岡市では石垣全体を精査し、およそ10000㎡の石垣のうち約5000㎡について修復する計画を立てた。昭和59年度（1980）からは国庫補助事業に採択され、第１期事業として、石垣変移が最も著しい、腰曲輪南東部から南側の石垣について修復工事を実施することになり、腰曲輪南東部の小櫓付近の石垣から着手した。工事に先立ち、城の遺構の発掘調査を実施した。また、石垣解体工事にあわせて石垣の構造調査、石材調査、石垣以前の遺構調査を実施した。第１期事業は平成２年度まで実施した（『盛岡城跡Ⅰ』）。

石垣移動量　また、昭和60年度から平成11年度にかけて、三ノ丸西側石垣について、変移計、ひずみ計による自動計測調査、計測調査及び定期的精密測量による調査。孔内傾斜計による地盤変移の調査を実施した（『石垣移動量調査報告書』）。



第５図　史跡盛岡城跡全体図

史跡盛岡城跡保存整備事業　年次計画表　（国庫補助事業分）

期	年次	年度	修理箇所	石垣修理			測量調査等		発掘調査他		計	備考
				解体(㎡)	復元(㎡)	金額(千円)	面積(㎡)	金額(千円)	面積(㎡)	金額(千円)		調査次数
第1期	1	59	淡路丸南東	222.1	199.2	27,000	294.0	0	293.0	0	27,000	1次、2次調査
	2	60	淡路丸南東	761.3	350.4	65,703	1,816.0	10,247	640.0	2,700	78,650	3次、4次
	3	61	本丸腰曲輪南	331.0	522.0	63,374	1,594.0	9,220	1,062.0	5,400	77,994	5次、6次
	4	62	本丸腰曲輪南	394.0	340.0	49,804	846.0	8,596	300.0	1,600	60,000	7次、8次
	5	63	本丸腰曲輪南	452.7	381.0	56,841	1,028.5	7,159	1,200.0	6,000	70,000	10次、11次
	6	元	本丸腰曲輪南	558.0	370.0	62,766	383.0	6,223	861.0	3,014	72,003	10,11次補足
	7	2	本丸腰曲輪南	0.0	350.0	35,918	807.0	9,682	0.0	0	45,600	10,11次補足
小計				2,719.1	2,512.6	361,406	6,768.5	51,127	4,356.0	18,714	431,247	
第2期	8	3	本丸二ノ丸堀切	0	0	0	430.0	23,000	140.0	1,000	24,000	20次
	9	4	二の丸南東	99.0	99.0	20,157	290.0	4,343	249.0	2,000	26,500	21次
	10	5	本丸北東	319.0	0.0	29,685	463.0	7,315	489.0	3,000	40,000	22次
	11	6	本丸北東	40.0	15.0	10,301	(定点観測)	4,469	79.0	630	15,400	22次補足
	12	7	本丸北東	0	286.0	52,940	214.0	7,060	0.0	0	60,000	
	13	8	本丸北西	225.0	227.2	63,564	564.0	14,646	327.0	2,590	80,800	24次、25次
	14	9	(本丸北西)	0.0	0.0	0	187.0	4,560	0.0	0	4,560	
	15	10	本丸北西･南西	53.7	25.7	13,472	1,488.0	18,816	186.0	3,712	36,000	26次
	16	11	本丸南西	196.4	0.0	24,746	変位調査のみ	630	192.0	4,624	30,000	28次
	17	12	本丸南西	24.6	65.6	14,385	560.0	7,823	330.0	3,792	26,000	30次
	18	13	本丸南西・吹上坂	70.4	86.2	22,215	598.0	5,733	109.0	1,052	29,000	31次
	19	14	本丸南西	0.0	55.9	10,107	変位調査のみ	893	0.0	0	11,000	
	20	15	本丸南西	0.0	58.5	10,083	変位調査のみ	871	指導旅費	46	11,000	
	21	16	本丸南西	0.0	12.1	4,377	変位調査のみ	830	指導旅費・資料整理費	253	5,460	
	22	17	(本丸南西)	0.0	0.0	0	240.0	3,145	資料整理費	205	3,350	
	23	18	(三の丸南東)	0.0	0.0	0	300.0	2,992	指導旅費・資料整理費	148	3,140	
	24	19	(二の丸･本丸)	0.0	0.0	0	変位調査のみ	1,000	指導旅費･修理報告書	4,000	5,000	
小計				1,028.1	931.2	276,032	5,334.0	108,126	2,101.0	27,052	411,210	
合　計				3,747.2	3,443.8	637,438	12102.5	159,253	6,457.0	45,766	842,457	

表１　事業一覧表

第２期事業　第２期事業における発掘調査と石垣修復工事は、平成３年度から平成15年度まで、二ノ丸南東部、本丸北東部、北西部、南西部石垣について実施した。この修復個所については、第11図及び表１に記載している。平成３年度は本丸と二ノ丸の間の堀切部分について発掘調査を実施した。翌平成4年度は二ノ丸南東部について発掘調査と石垣修復工事を実施した。工事では隅石を下から２石残し、南面石垣は根石のみ、東面石垣は根石から２段目までの石材をそのままとし、それより上部の石材すべてを解体して修復した。

本丸石垣は第２期整備事業の主体である。概ね矩形をなす曲輪のうち、北東部、北西部、南西部の石垣について修復工事を実施した。本丸北東部の石垣修復は平成５年度から７年度にかけて実施した。平成５年度は本丸北東部の発掘調査を実施し、隅櫓の石垣を確認。石垣は根石のみ残してすべての石材を解体した。その結果、現状の石垣の約５m内側に、野面石で構成される、築城当初の石垣根石列が確認され、本丸の縄張りが変化していることが判明した。また、現状の石垣の根石は、中世不来方城の空堀の埋土上面に設置されていることが明らかとなり、その埋土は簡易ボーリング

で探査の結果、極めて軟弱な土質であることが判明した。このため、石垣修復にあたっては、根石下の地盤の強度をいかにして確保するかが問題となった。これについては、平成６年度に文化庁、奈良国立文化財研究所の指導を得ながら、検討を重ねた結果、空堀に重複する根石を、一旦すべて解体し、空堀の発掘調査を実施して、その軟弱な埋土を除去したのち、栗石を充填して地盤の強度を確保することになった。平成６年度の発掘調査はこの検討結果を待って実施したため、年度末の雪解けを待ち、３月に実施した。その結果、石垣根石の直下から掘立柱の門跡と、前年度に確認した野面石の石垣に対峙する石垣が確認され、盛岡城１期の本丸虎口の存在が明らかになった。さらに下層の空堀は、新旧２時期の変遷があり、新しい時期の堀の埋土のみが軟弱な土質であるため、旧期の堀の埋土の大半は精査しなかった。平成６年度はこの空堀の中に栗石を充填したのち、石垣根石を再設置し、石垣は下から２段目まで復元した。平成７年度には石垣天端まで復元している。

本丸北西部は、発掘調査から石垣修復まで平成８年度単年度で実施した。発掘調査では、小納戸櫓の石垣平面や御殿の一部などを確認した。また現状の石垣の内側に、野面石を多く使用した別プランの石垣が確認され、ここでも本丸プランが改変されていることが判明した。本丸北東部の隅櫓と北西部の小納戸櫓の櫓台の内側石垣は、発掘調査成果に基づき、平成９年度に復元している。

平成10年度からは本丸南西部の発掘調査と石垣修復工事に着手した。二階櫓の櫓台石垣も明治期に改変されており、そのプランの確認と南側の石土居、排水施設を調査している。この年は二階櫓南端部のみ解体している。翌平成11年度は、二階櫓石垣を下部近くまで解体した。その結果、現状の石垣の内面から、盛岡城１期の石垣が、角石も残存する極めて良好な状態で確認された。また、調査前から、現状の石垣は盛岡城４期のものであることは判明していたが、この石垣の下部は、盛岡城２期石垣の下部であり、２期から４期にあたっては、本丸石垣プランの変更はなかったことが判明した。平成12年度は１期の石垣と、２期石垣の平面調査を実施し、４期石垣を下部のみ復元している。この石垣については、平成15年度までかけて断続的に復元を継続し、平成16年度、櫓台の石垣内面のプランを、発掘調査成果を基に復元して、本丸の石垣修復工事を終了した。

また、平成11年度12月からは、石垣移動量調査に替わり、コンタクト・ミクロン・ストレインゲージによる、石垣変位調査を実施している。この調査を始めて２年目の平成13年２月から３月にかけて、腰曲輪西側の吹上門坂道の石垣が急激に変位した。公園の利便性や安全確保の観点から、石垣と坂道の存続を図り、発掘調査と修復工事を実施している。このうち石垣解体工事と発掘調査は国庫、県費補助事業。石垣復元（積上げ）工事は市費単独事業で実施している（『盛岡城跡概報2002』）。

事業の体制

調査指導　文化庁記念物課

田中哲雄　本中　真　磯村幸男　伊藤正義　平澤　毅　市原富士夫　山下信一郎

奈良国立文化財研究所（2001年４月から独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所）

伊東太作　内田昭人（2004年から東京文化財研究所）

岩手県教育委員会生涯学習文化課

相原康二　高橋信雄　中村英俊　小田野哲憲　佐藤嘉広　菅　常久

担当者　盛岡市都市整備部

斉藤　勲　藤代英彦　高橋　徹　新沼正博

公園みどり課（公園緑地課）

鎌田勝男　小松利幸　山本　功　藤原利博　藤原仁巳　石森　武　黒沢　誠
竹内英世　畠山明広　本間剛英　長谷川順一　佐藤　博　小平敏彦　田中館　晋

盛岡市教育委員会

佐々木初朗　石川悌司　八巻恒雄　八重嶋勲　川股　裕　立花勇司　宇夫方正人
阿部光男　菅原康一　菊池　誠

文化課、歴史文化課（遺跡の学び館）

川村　滋　佐藤勝征　照井紀典　大崎琢夫　武石幸久　武藤英富　佐藤和男
亀山助正　八木光則　千田和文　似内啓邦　小原俊巳　室野秀文　菊池与志和
菊地幸裕　津嶋知弘　三浦陽一　神原雄一郎　黒須靖之　藤村茂克　権頭祐子
今野公顕　花井正香　佐々木亮二

《石垣修復工事》

株式会社大林組　中村石材工業株式会社

《石垣移動量自動計測調査》

株式会社大林組　株式会社エスコ

《石垣測量調査》

株式会社パスコ　株式会社ジーアイエス北日本

《地盤変位調査、石垣変位調査》

応用地質株式会社

《発掘調査・整理作業》

泉山紀代子　岩泉喜六　岩沼将吉　岩根陽子　内山陽子　大鹿ミヨ子　大場聡美　兼平千賀子
鹿野奈保美　川村久美子　久慈明美　小松愛子　菊池美枝子　小平信子　斉藤正二
佐々木正行　佐藤和子　佐藤美智子　武井久子　竹花栄子　谷藤貴子　千葉ふさ子
長岡ミエ　中島京子　引木宇吉　樋口泰子　日野杉節子　平野淑子　藤田友子
福田香乃　藤原政人　細田幸美　松田昭夫　三上良子　山下摩由美　結城ひろみ　吉田寿吉

《現地指導・助言》

発掘調査、及び、整理作業において、次の方々より、有益な御指導と御助言、ならびに御協力を賜った。記して感謝申し上げたい。

岩手県立図書館　三戸町教育委員会　花巻市教育委員会　盛岡市中央公民館
我妻　仁（仙台市教育委員会）　飯村　均（福島県文化センター）　大久保健司（中世城郭研究会）
神山　仁（日本城郭史学会）　五味盛重（建造物保存協会）　菅野文夫（岩手大学）
金森安孝（仙台市教育委員会）　北垣聰一郎（金沢城調査研究所）　北野博司（東北芸術工科大学）
近藤真佐夫（会津若松市教育委員会）　鈴木　啓（福島県考古学会）　関　豊（二戸市教育委員会）
関口和也（中世城郭研究会）　田中則和（仙台市教育委員会）　仲川　靖（滋賀県教育委員会）
中村良幸（花巻市教育委員会）　西川禎亮（中村石材工業株式会社）
西股聡生　（中世城郭研究会）　野田尚志（三戸町教育委員会）　松岡　進（中世城郭研究会）
三島正之（中世城郭研究会）　八巻孝夫（中世城郭研究会）　若松啓文（青森県）

※　所属等は調査・指導当時を基本としており、現職とは異なる場合があります。

Ⅲ　城跡の現状と石垣

1　盛岡城石垣の現状

近代の盛岡城跡

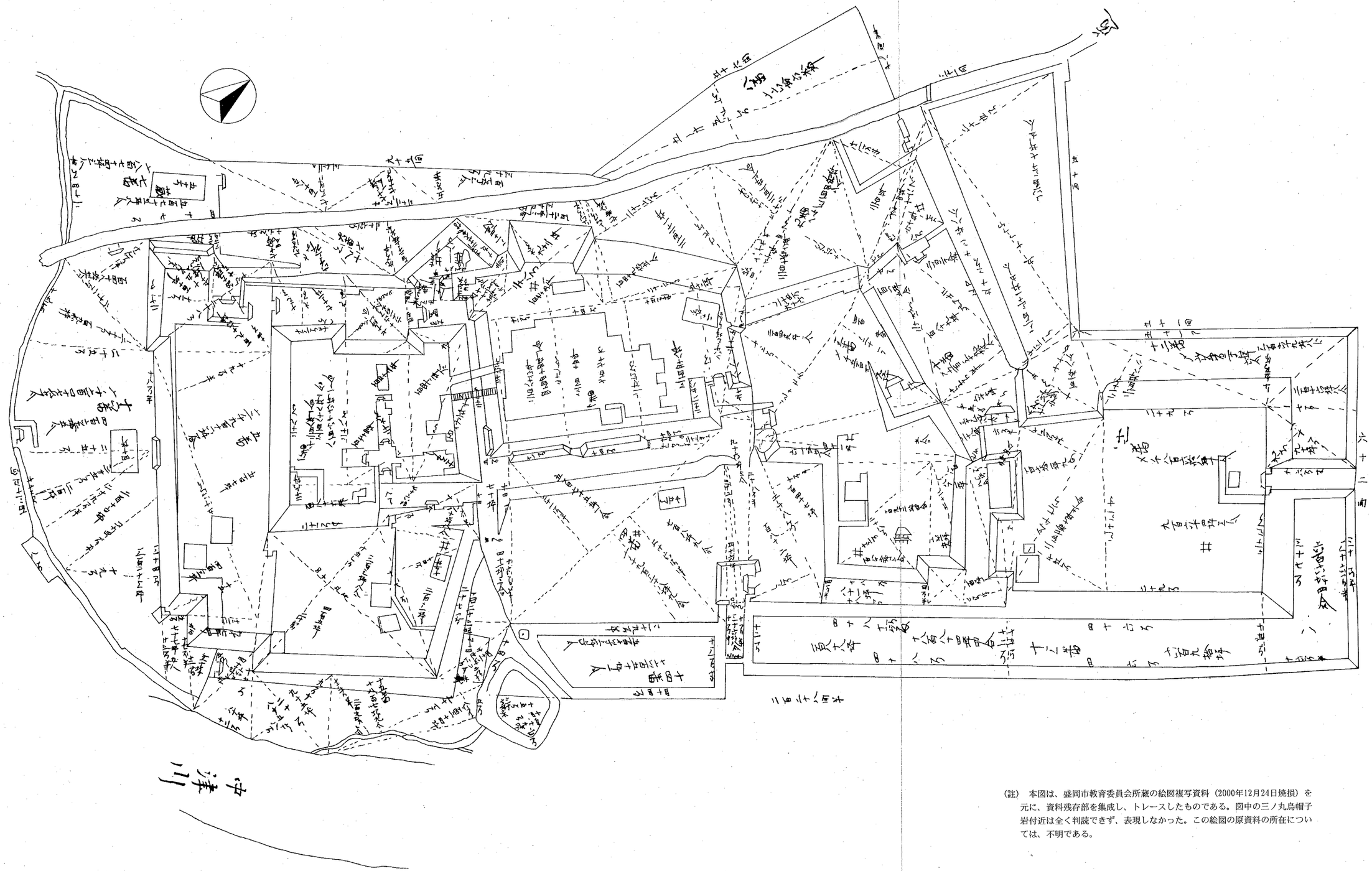
明治元年（1868）戊辰戦争で盛岡藩降伏後、盛岡城は新政府軍に接収され、松本藩、松代藩の取締りの下に置かれた。盛岡藩主南部利恭は白石藩知事を命ぜられ、藩士共々白石に移ったが、翌年７月22日には盛岡藩知事に復帰した。藩庁は盛岡城二ノ丸に置かれた。明治３年には盛岡藩から盛岡県となり、続いて明治５年１月８日には岩手県となった。城内の建物は老朽化のため取り壊しされることとなり、明治７年（1874）３月、入札による建物の払い下げが行われ、城内建物は土蔵１棟を残し、撤去された。第６図は陸軍省へ引き渡しの図面（註）であり、城内建物の輪郭や坪数等が記載されている。この後、城内は陸軍省所管となっていたが、しだいに荒廃していった。明治18年（1885）三ノ丸北側に、藩祖を祀る桜山神社が鎮座し、明治23年（1890）城内の26641坪の土地について、旧藩主南部家に特別縁故で払い下げられた。

公園化　明治36年（1903）、岩手県知事北条元利は、盛岡城跡の公園化を、失業者救済を兼ねて計画。土地は南部家より明治39年（1906）から30年間の無償貸借で借り受け、同年４月14日造成工事に着手した。開園は明治39年９月15日。対象面積は約14000坪、職工、人足は約22200人。総工費22,804円であった。公園の設計は、東京日比谷公園などの設計を手がけた長岡安平と田中真次郎。工事監督は岩手県技師一戸三矢である。この工事では、公園の回遊性を高めるため、吹上門や鳩門、穴門、台所門、不明門などの虎口の石垣や、二ノ丸大書院の石垣が撤去されたほか、本丸三重櫓、二階櫓、小納戸櫓、隅櫓、腰曲輪の各櫓の石垣も撤去、または改変されている。また、本丸南側や、腰曲輪の北東側、三ノ丸東側には、新たな石階が設けられたほか、吹上門への坂道は、石垣を足して勾配を緩やかにしている。

昭和９年（1934）12月１日、岩手公園は岩手県から盛岡市に移管され、盛岡市が南部家から土地を買い取り、城跡は市有地となった。続いて昭和12年４月12日、盛岡城跡は国指定史跡となって、永く保存されることになった。

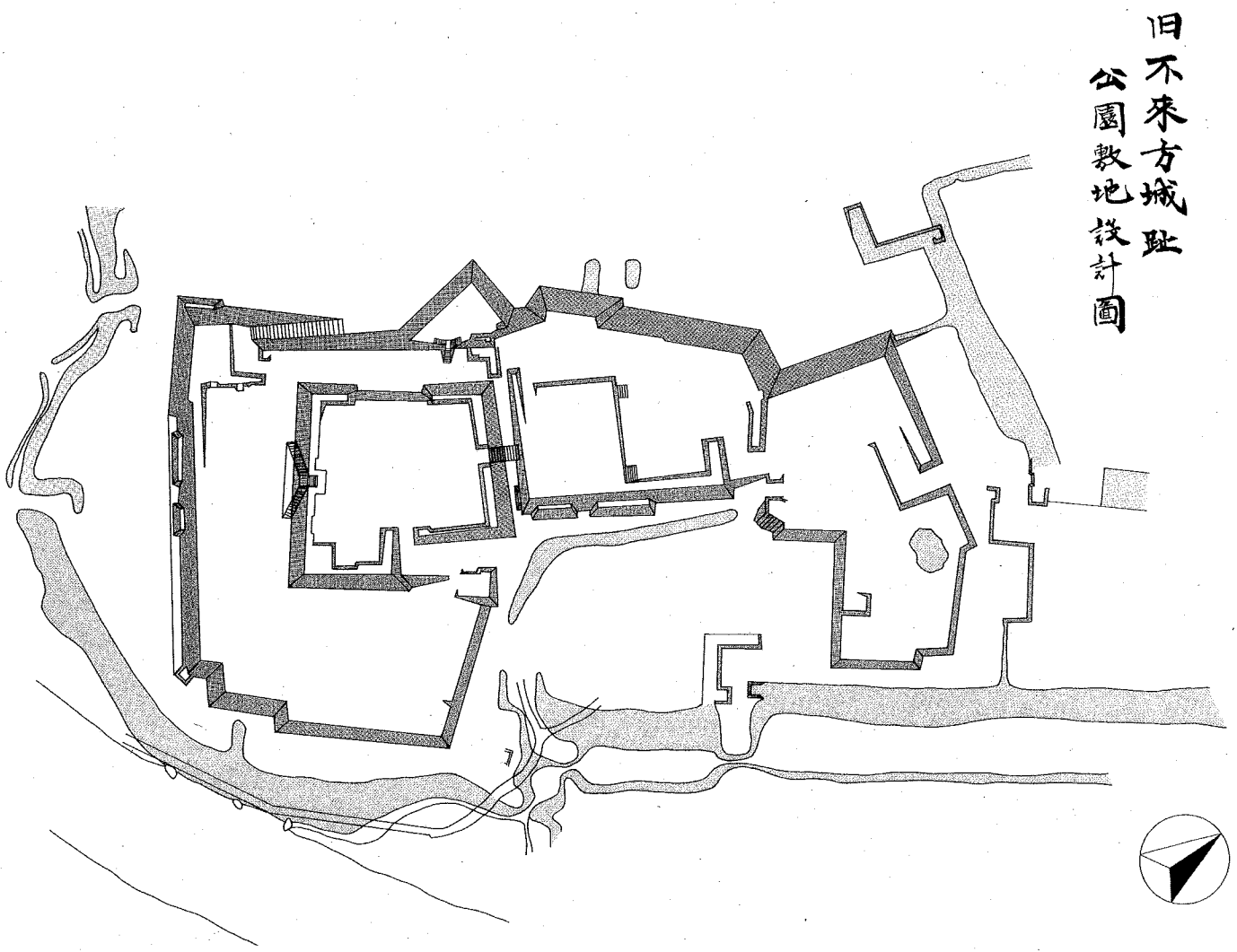
内曲輪の縄張りと石垣の現状

盛岡城内曲輪に相当する、本丸、二ノ丸、三ノ丸、腰曲輪など、内堀と旧北上川に囲まれた部分は、御城内と呼ばれた。この場所は旧北上川と中津川合流点の小丘陵であり、築城前まで不来方城の淡路館が存在した部分である。そして、この城地の選定と基本的縄張りについては、豊臣家重臣の浅野長政（長吉）が深く関与していたことは、前述のとおりである。また、実際の築城工事にあたっては、前田利家の家臣内堀伊豆頼式が奉行並として参画していた。その結果、盛岡城は、戦国期の北奥地域の城館とは大きく異なり、総石垣の豊臣系城郭として築城された、国内最北の事例となっている。もっとも、第１期の石垣は本丸、三ノ丸、などを中心とした中枢部分や、大手等の主



（註）　本図は、盛岡市教育委員会所蔵の絵図複写資料（2000年12月24日焼損）を元に、資料残存部を集成し、トレースしたものである。図中の三ノ丸鳥帽子岩付近は全く判読できず、表現しなかった。この絵図の原資料の所在については、不明である。

第６図　明治六年 陸軍省江引渡絵図面



第７図　旧不来方城跡公園敷地設計図

要虎口に限られていたようで、元和３年（1617）から同５年（1619）にかけての第２期の築城では、腰曲輪と三ノ丸に及んでおり、現状の縄張りが確定するのは貞享３年（1688）のことではあるが、１期から３期までの一貫した基本構成から、当初から総石垣を志向して築かれたと考えてよい。

この内曲輪は南側の最高地点に本丸が構築され、二ノ丸、三ノ丸、下曲輪と、北に向かって段下がりに連なり、本丸後背部に腰曲輪、二ノ丸西側に榊山曲輪が造られている。さらにこの全体を一段低い曲輪が囲み、連郭式の縄張りを基軸に、回郭式（輪郭式）の縄張りを合わせた構成になっている。三ノ丸烏帽子岩付近は、二ノ丸よりも高い丘であったところを、築城時に切り下げた地形であるという（『祐清私記』）。北側は地続きであるが、他の三方は河川に面し、北側に外曲輪、さらに外側地域と中津川対岸に遠曲輪を配し、城域全体としては梯郭式の縄張となっている。

本　丸

本　　丸　本丸は東西40m～61m、南北60mの矩形をなしているが、東側は御末門を境に喰違となり、南東部が大きく張り出している。このため大手側の北辺が狭く、搦手側の南辺が広い。御末門を出て坂を下りると、東側に御乗物部屋の石垣があり、これと本丸石垣の間には冠木門（ＳＢ115）が存在した。本丸には４基の櫓があり、南東隅に天守相当の三重櫓（ＳＢ110）、南西隅に二階櫓（ＳＢ120）、北

東隅に隅櫓（ＳＢ130）北西隅には小納戸櫓（ＳＢ140）が存在した。小納戸櫓と二階櫓の間は内側に窪んで、いわゆる合横矢のプランになっている。石垣は西辺中央部を除いて、内側にも石垣を備えた石土居となっていた。

虎口は２ヶ所開かれる。大手側、二ノ丸との間の堀切に面して廊下橋門（ＳＢ150）があり、この左右両翼には多聞櫓（ＳＢ170・180）が存在した。搦手側には御末門（ＳＢ160）があり、南脇には多聞櫓（ＳＢ190）が存在した。このほかに、南西側の二階櫓北側から合横矢の位置に百足橋という階段が下っていたが、二階櫓は大奥の長局や藩主の居間に近く、百足橋は非常時の脱出路であろう。

三重櫓の櫓台は、東西11m、南北10mで、現状では上面に東屋があり、現在南西側に石階が設けられているが、当時この場所には１間四方の突出部が設けられていた。ここに附櫓のような部分があり、櫓初階への出入り口であった。櫓台内面の石垣は、本丸平坦部よりも1.6m高い。第６図の明治六年陸軍省江引渡し図面では、三重櫓の箇所に二十六坪と記されている。櫓の初階は5間四方の25坪であり、残り１坪は南西側の突出部であろう。内側石垣は乱積Ｂ´で、角石や築石に小形の矢穴が認められ、17世紀後半以後に改修されている。三重櫓は延宝４年(1676)に再建されているが、おそらくはこの時の改修部分であろう。また、三重櫓北側の石土居は、南から８ｍに渡って間知積みになっているが、ここは石土居が狭くなっていたところを、明治期に拡幅した部分である。位置関係から、この部分にも三重櫓や石土居上面への昇降施設が存在した可能性がある。この新しい石垣には門礎らしい枘穴のある石材も用いられている。

南西側二階櫓の櫓台はＬ字形の平面で、２間×３間の二階櫓に５間×２間の長屋が付属した形の建物である。突出部分は明治期に撤去されていたが、平成10年～12年の発掘調査成果を基に復元している。この櫓台石垣は全体が布積Ｂに分類される。宝永２年（1804）の地震で石垣が損傷し、同４年にかけて積みなおされた石垣である。発掘調査では第２期の乱積Ｂの石垣の上に同一プランで積み直されていることや、５ｍ内側に第１期の別プランの石垣が残存することが確認されている。これについては第Ⅳ章で詳述する。

本丸北東隅櫓と北西の小納戸櫓はともに明治の公園造成時に改変されていたが、発掘調査で石垣の根石が確認され、結果に基づいて櫓台プランが復元されている。隅櫓は３間四方、小納戸櫓は３間×4.5間である。本丸北辺部はほとんど第２期の乱積Ｂであるが、明治期の改変部分のみ、新しい石垣になっている。小納戸櫓台は乱積Ｂ石垣に復元された。北東の隅櫓は、多聞櫓南面の一部に明治期の新しい積み方部分を残したが、他は乱積Ｂ石垣で櫓台を復元した。

腰　曲　輪

位　　置　本丸の北面を除く三方を、一段低く囲む曲輪である。本丸平坦部よりも６ｍほど低い。南辺は104m、東辺は85m、西辺は95m、曲輪の幅は東側が40m内外、南側は32m～38m、西側は12mと狭い。東側北端には12m×30mの低みがあり、石組井戸が現存する。現状ではここに登る石階が設けられているが、これは明治の公園造成の際に取り付けられたものである。腰曲輪の虎口は2ヶ所ある。一つは南西部の吹上門の虎口、いまひとつは、腰曲輪西側の北端、二ノ丸との境に設けられた虎口である。これは二ノ丸南辺の石塁との間を通る穴門に連続する狭小な虎口であるが、現存しない。吹上門の虎口は、内側の石土居が短くなっているが、他は概ね現存する。枡形の南側、東側の石垣は乱積Ｂ、西側の石垣は布積Ｂであり宝永２年の普請奉行名が刻まれていたが、現在は土中

に埋没しているらしい。腰曲輪外周の石垣は、西側と北東側は３期の布積みの石垣であるが、それ以外は２期の乱積みの石垣である。ほかに、腰曲輪の南面に３箇所、南西部に１箇所のハバキ石垣が存在した。南面の３箇所は、昭和60年度から平成２年度にかけて調査され、石垣修復後は解体されている。南西側のハバキ石垣は、調査の結果、第１期の空堀の埋土中位から積上げられ、現状の地下部分は野面石を多用した石垣。地上部分のうち、北半は新しい３期の乱積み、南端部は延享年間の布積である。この南西側１基のハバキ石垣は解体修復されて現存する。腰曲輪の発掘調査では、第１期は石垣のない曲輪で、外周を木柵が廻る。これが第２期になって石垣が構築されていることが判明している。現在腰曲輪の南面、東面にのこる石垣は元和３年からの第２期の石垣である。この段階では腰曲輪南側は、まだ低い地形となっていたことが判明している。明和３年（1766）盛岡城図でも、「此所地形窪」と記され、少なくとも18世紀中ごろまでは、石垣の天端よりは1.5mから２m低い土地になっていた。腰曲輪南面石垣には、この窪地から排水される石組の暗渠が確認されている。

櫓　腰曲輪の櫓は３棟存在した。南東部には小櫓と大櫓（二階櫓）が存在した。絵図から知られるのはこの２棟であるが、吹上門脇の南西隅にも、17世紀末から18世紀にかけて櫓が存在したことが、発掘調査で確かめられている。腰曲輪の調査成果に基づき、小櫓跡や宝蔵跡は芝生の基壇で規模を表示し、大櫓と南西隅櫓は、石垣の櫓台を復元している。

二ノ丸

位　置　本丸の北側に、堀切を隔てて存在する。中ノ丸とも呼ばれ、南北76m、東西40mから58mの広さがある。現状では南辺と東辺が一段高い地形となって、他は広く同一平坦面となっている。しかしこれは明治期の公園造成に伴い改変された地形である。本来は、大書院など主要殿舎の存在した南東部が、38m×32mの方形に石垣が築かれて一段高く、この西側と北側が２mほど低い地形となり、２段の構成になっていた。明和３年(1766)の盛岡城図では、この南東部に御中ノ丸と記されており、この一段高い部分に限って御中ノ丸と呼んだこともあった可能性がある。車門に続く北半部縁辺に、石土居が廻らされていたが、現在は公園造成土で埋もれているらしい。

穴　門　南側の堀切西端には、本丸西側の腰曲輪と二ノ丸を分ける喰違の石土居があり、狭く曲折する連続虎口が造られていた。特に二ノ丸側は、天井石を渡した穴門になっていたが、これも明治39年の公園造成で失われている。

車門は二ノ丸北東部にあった櫓門で、城内で最も大きな櫓門であった。この石垣は宝永２年に積み直されているが、一部に大石を用いた、第２期の部分も残存する。この門に続く東側の石土居の形状は残存するが、内側石垣は城内のなかでは本丸北西部小納戸櫓跡の改変部分の石垣に近く、明治期以後の可能性が高い。二ノ丸外面の石垣は、南面の堀切に面した石垣は、廊下橋下あたりは野面積に近い第１期の石垣。それより東側部分は２期若しくは２期以後、出角部分は３期以後の改修部分と考えられる。東面石垣の南半部に、延享年間に付加されたハバキ石垣が２ヶ所取り付いている。この背面の石垣は下部が１期の石垣。上部は２期の石垣となっている。北半部は３期の布積である。二ノ丸西側の高石垣は13mの高さがあるが、貞享３年（1688）に積上げられた石垣で、盛岡

刻　銘　城では最も遅れて石垣が構築された箇所である。この下部の石材には貞享三年三月吉日、奉行、奥寺八左衛門、野田弥右衛門の銘が刻まれている。

三　ノ　丸

位　　置　二ノ丸の北東側に多く張り出したプランであり、八幡曲輪、または日戸曲輪とも呼ばれていた。東西95m、南北56mの広さがある。桜山神社のある北東部分では顕著な横矢掛を形成している。この曲輪の中央部には烏帽子岩という花崗岩の巨岩があり、藩政時代には根元に八幡社、鹿島社などの社が存在した。現在の三ノ丸は二ノ丸よりも２mほど低いが、烏帽子岩付近は二ノ丸車門付近とさほど変わらない。この岩の東側部分はここから４mほど低い地形になっている。この南東部には石組井戸が現存する。この曲輪の虎口は北側大手方面には瓦門、二ノ丸車門東側の不明門の２箇所がある。いずれも喰違虎口である。不明門の虎口の東側石垣は、花崗岩の巨岩に乗りかかって構築されている。烏帽子岩南東側には、６m×８mの櫓台が存在したが、現存しない。三ノ丸北面瓦門

刻　　銘　の両側の部分は宝永２年に積みなおされた石垣で、三ノ丸に向かって右側の石垣には宝永二年九月二日、奉行、野田弥右衛門、川守田弥五兵衛の刻銘がある。その他の箇所はすべて第２期の石垣である。三ノ丸西面の石垣は二ノ丸北西部の地山に突き当たっており、第３期の二ノ丸石垣はこの部分を覆って構築されている。

榊山稲荷曲輪

位　　置　本丸西側の腰曲輪のさらに西側一段下に存在する曲輪である。このあたりは二ノ丸西側と同様、第３期の石垣構築にかかる部分であるが、第２期のこの場所にはすでに稲荷社が存在した。三角形に突き出した小規模な曲輪で、腰曲輪西側に登る、搦手の吹上坂や、二の丸西側に対して横矢を掛ける位置にあたるほか、二ノ丸西側の張り出しとは、高低差のある合横矢の関係になっている。この石垣については、二ノ丸西側石垣と同手法で構築されており、同年代の石垣であろう。ただし、二ノ丸高石垣が角脇石を完備するのに対し、この曲輪の出角には明確な角脇石が認められない。北側石垣には石垣出角の算木積みの側面が露出している箇所があり、当初はこの部分に穴門のような虎口が計画されていたことが判る。この東側は腰曲輪の高石垣であり、地形の関係から施工が困難であったために、設計を変更したものであろうか。

その他の石垣

現在の桜山神社拝殿のある地域、鳩門内の曲輪を鳩森下曲輪と呼び、三ノ丸瓦門の前面に、クランク状に曲折して入る鳩門が存在した。この虎口の石垣は現在地中に埋没しているが、拝殿前の石垣は、大半を積み替えられながらも、そのプランは概ね踏襲されている。石階東側の石垣の一部に野面積部分が現存するほか、北西出角が残存し、その北面部分が露出している。この部分は鑿加工された第３期以後の石垣である。この北西側に存在した商店の建物撤去の際の立会調査では、盛岡城１期石垣に見られるような野面石の石垣石材や、盛岡城第２期に相当する乱積Ｂの大形の矢穴の石材が認められ、鳩門付近も、築城の初期から石垣が構築されていた可能性がある。現状では見ることはできないが、鳩門の虎口のプランは、慶長５年（1600）に改修された和賀郡岩崎城（北上市）の本丸直下の虎口と同一プランである。鳩門は大手筋の重要虎口であることから考えても、盛岡城１期の段階から存在した虎口であろう。

2　石垣の分類

乱積石垣

乱積Ａ石垣　乱積Ａ石垣は、盛岡城１期の石垣である。現状では本丸御末門南東側の出角部分、三ノ丸不明門西側の石垣下部に認められる。また、発掘調査では本丸南西部で、石垣の地中から出角部分が確認されているほか、北東部、北西部では野面石の根石や根石列が確認されている。このタイプの特徴は築石のほとんどが野面石で、基本的に石材の長い面、広い面を表にして積んでおり、石材の控えは短い。また、上下、左右とも、石材相互の接点は少ない。間詰石は花崗岩の割石が用いられている。角石は矢穴を開けて粗く分割された石材が用いられている。矢穴の長さは９cmから10cmの大きさが多い。角石は必ずしも直方体ではなく、上下の角石間には詰石を入れて、角石の角度を調整して積んでいる。角脇石や角尻石にあたる石材も存在するが、これも角石の形状によって、上位の石材との間に別の石材を咬ませて高さを調整している。二ノ丸南東部や本丸北東部で確認された背面工法は、裏込の栗石と盛土を交互に積んでいる状況が認められる（第15図、24図）。

乱積Ａ´石垣　乱積Ａ´石垣は乱積Ａ石垣に近似した石垣で、築石に野面石を主体としながらも、100mm～130mmの比較的大形の矢穴の石材を含む石垣がある。この種の石垣の隅角部はまだ確認されていないが、本丸北西部石垣の地中部分で発見された石垣の上部や、現状では二ノ丸南面の廊下橋下付近、二ノ丸東側石垣の南半部などに認められる。これは乱積Ａ石垣の改修部分とも考えられるが、本丸北西部では、現状石垣の乱積Ｂ石垣解体後に、背面からこの石垣が確認されており、しかもその下部は乱積Ａ石垣である。また、本丸御末門南東側の乱積Ａ石垣の北面には、乱積Ａ´石垣が後から直角に取り付けられて、入角は組まれていない。このことから、１期の乱積Ａと２期の乱積Ｂ石垣との間に、乱積Ａ´石垣の時期が介在する可能性を示すものである。その一方で、この石垣は乱積Ａ石垣やＢ石垣と同一石垣面で連続する場合、その境界線は不明瞭であり、この種の石垣は乱積Ａ石垣やＢ石垣のバラエティーである可能性も否定はできない。先の２箇所の石垣の新旧関係は、第２期本丸構築の工程差であることも考えられ、この石垣の分類とその前後の時期との関係については、なお課題を残す。

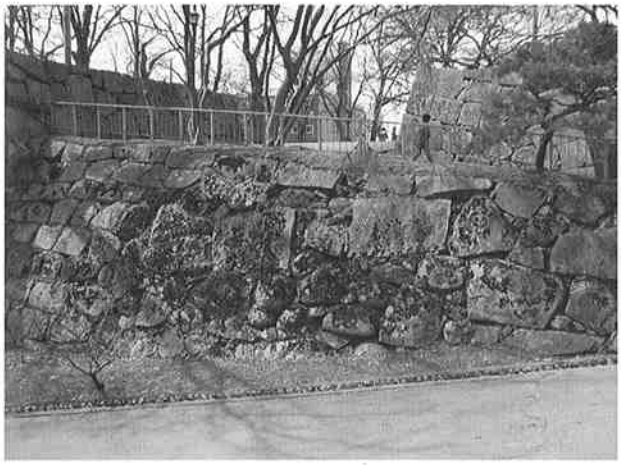
乱積Ｂ石垣　Ｂ石垣は盛岡城２期の石垣である。現状の石垣では本丸南西部を除く全域、二ノ丸南東部の上部、三ノ丸南東部から東側と西側石垣、腰曲輪北東側から東側、南面、南西部などに見られる。特徴は、野面石をほとんど含まずに、大形の矢穴を入れて分割された不定形な石材を積み上げている。石材どうしの接点は少ない。石材は表面よりも控えが長く取られている。角石は、乱積Ａ石垣に比較すれば、直方体に近い形状に加工されたものを用いている。角石はやはり詰石を用いて角度を調整するが、粗く鑿で整形した石材も散見される。矢穴の長さは140mm～210mmと大きく、その大きさから木製の矢である。腰曲輪や三ノ丸の石垣は、本丸の石垣に比較して角石の形状が整っている。これは第２期の本丸石垣が、第１期の石垣の石材を相当転用しているためであろう。これまでに石垣修復の対象とした石垣は、本丸南西部を除いて、この乱積Ｂの石垣であった。

これまで観察された石垣断面では、背面の裏込栗石と盛土との境に、大ぶりの栗石が階段状に重なっている状況が各所で認められた。この事から考えられる石垣背面の工法は、①まず石垣の石材を並べ、②次に石垣の築石１段～２段分程度の高さの裏込石を積み上げる。③裏込背面に大ぶりの栗石を積んで裏込の押さえとする。④背面の盛土を行ない、胴搗きなどで搗き固める。この工程を

第８図　石垣の分類

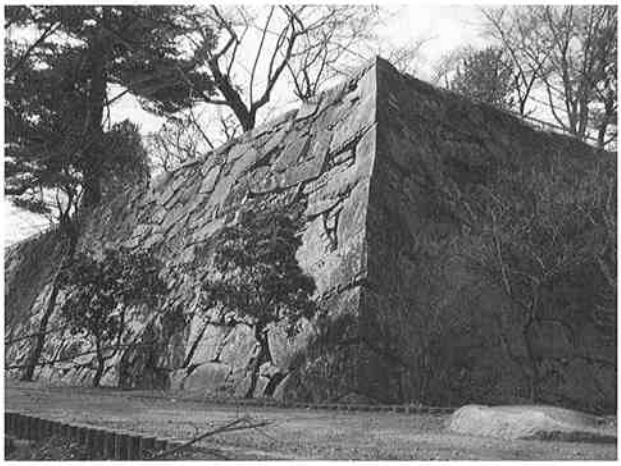
乱積Ａ　　本丸御末門南東側

乱積Ａ　　本丸御末門南東出隅



乱積Ａ　　三ノ丸不明門西側

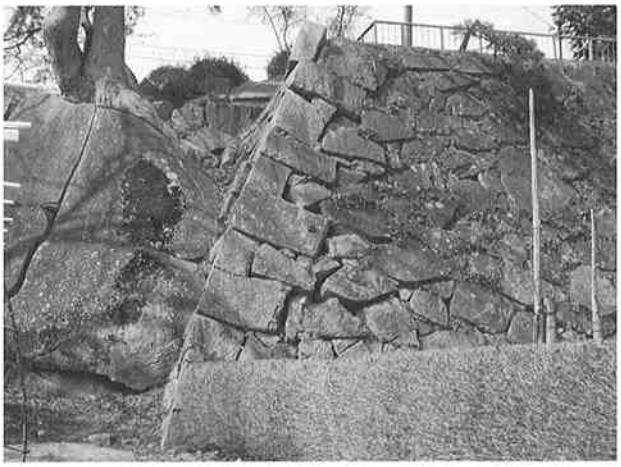
乱積Ａ´　二ノ丸東面石垣



乱積Ｂ　　腰曲輪北東隅

乱積Ｂ　　腰曲輪南西部（修復後）

乱積Ｂ　　本丸三重櫓台



乱積Ｂ　　三ノ丸不明門東石垣

乱積C　　二ノ丸南東部（隅部分）

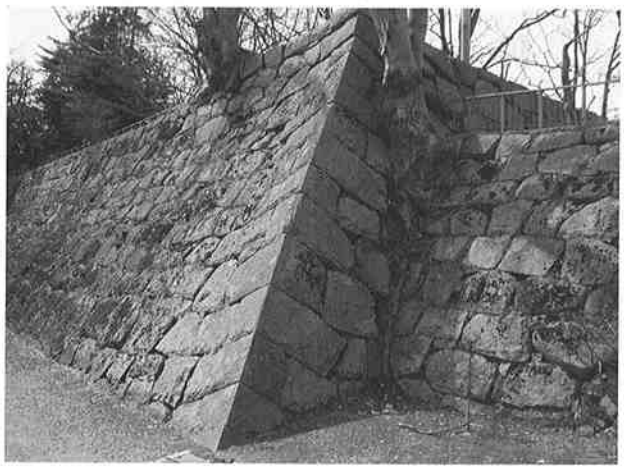
乱積C　　三ノ丸瓦門南東部（入隅）

布積A　　二ノ丸西側

布積A　　二ノ丸北西部

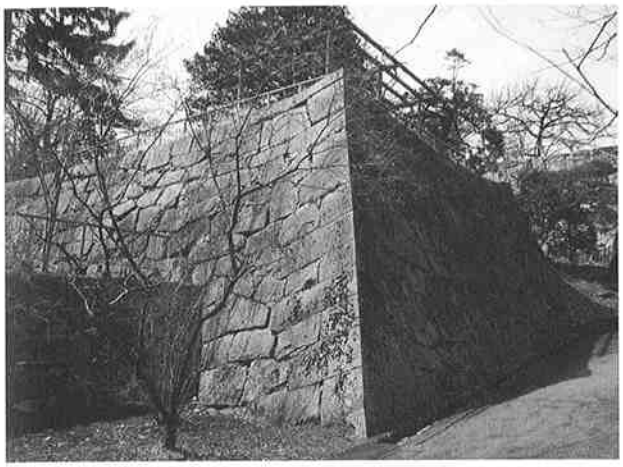
布積A　　榊山曲輪北面

布積A　　榊山曲輪東側



布積B　　二ノ丸北東隅

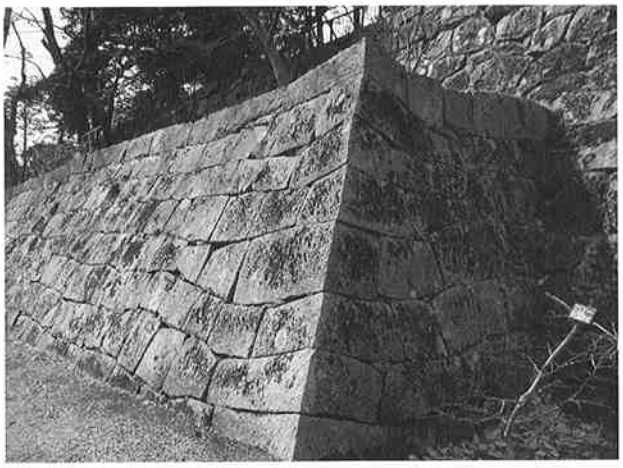
布積B　　二ノ丸車門



布積Ｂ　　御乗物部屋

布積Ｃ　　腰曲輪ハバキ石垣（撤去前）

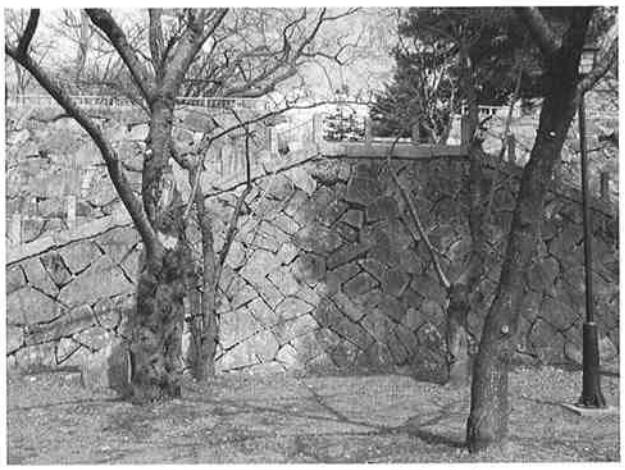
布積Ｄ　　二ノ丸東側ハバキ石垣



布積Ｄ　　二ノ丸東側ハバキ石垣

布積Ｅ　　二ノ丸北東部石土居

布積Ｅ　　本丸小納戸櫓台（撤去前）



間知積　　本丸南側

間知積　　三ノ丸東側

繰り返して積上げている。

乱積Ｃ石垣　分類では乱積であるが、築石や角石に小形の矢穴の石材を含むことから、明らかに盛岡城３期以後に改修された石垣である。この石垣には、本書で報告している二ノ丸南東隅角部が該当する。この角石下には根固め石が見られる。根固め石は宝永２年から改修された、本丸南西の二階櫓石垣の両隅にもある。三ノ丸瓦門の南東側入角部に、細かい石材を用いた石垣改修部分が見られるほか、本丸三重櫓台北西隅部分に、この積み方が認められる。

布積石垣

布積Ａ石垣　Ａ石垣は盛岡城第３期の石垣で、二ノ丸西側、榊山曲輪の石垣がこれに当たる。二の丸西側石垣は、石垣に残る普請奉行銘により、貞享３年（1688）３月竣工の石垣である。榊山曲輪の石垣も、これと同時か前後して構築されたものであろう。昭和34年、榊山稲荷曲輪北側の石垣が崩れかかり、修復工事が実施された。このときの工事写真によれば、二ノ丸石材は表面が50cm～60cmの方形になるように加工されており、石材の控えは100cm～120cmほどの長さのある規格材となっている。石材の表面は、角石、築石ともに鑿で丁寧に調整されている。特に角石の稜線部分は、やや鈍角に面取りされ、細かく丁寧に鑿が入れられている。また、角石の上下で石材が滑らないように、切組が付けられている。二ノ丸石垣は角脇石、角尻石も完成した状態である。榊山稲荷曲輪石垣では明確な角脇石、角尻石は見られない。角石部の間詰石はなく、築石部にも詰石はほとんど見られない。二の丸西側などの入角部分は組石にはならず、石垣下部では丸みを帯びた形状に詰まれた箇所もある。石垣の勾配は乱積よりも急で、石垣上部の四分の一程度が直立するぐらいの反りがあり、いわゆる寺勾配に近い。

布積Ｂ石垣　Ｂ石垣は盛岡城第４期の石垣で、本丸南西部、腰曲輪西側、二ノ丸北東部、三ノ丸北面に認められる。宝永年間に構築された石垣である。本丸南西部、三ノ丸北面の第２期の乱積Ｂ石垣の石材を転用した布積。腰曲輪西面、二ノ丸東面北半部の規格材で構築した布積みに分かれる。角石は鑿で調整、整形された直方体で、角脇石的な石材も存在するが、隅尻石は存在せず、そのまま築石となっている。角石の稜線部はやや鈍角に面取りされて、鑿が非常に細かい。角石の上下には切組がある。築石布積Ａに比較すると間詰石は多い。石材の控えは60cmから80cmほどあるが、中には石材の広い面を表に向けている石材も認められる。入角部は不規則な交互組石であるが、左右の石材の組み合わせはあまり大きくない。本丸南西部の石垣では、角の根石には根固め石が認められたほか、石垣上部には３段にわたる捨石列が存在する。解体した範囲では盛土を伴わず、裏込石の栗石を充填していた。

布積Ｂ´石垣　Ｂ´石垣には腰曲輪北西の御乗物部屋石垣は、布積Ｂよりも石材が規格化されている。この部分がいつ構築されたのかは不明であるが、布積Ｂと近い時期と推定しておきたい。

布積Ｃ石垣　Ｃ石垣は盛岡城第４期のうち、元文５年（1740）以後の構築になるものである。元禄16年（1703）、盛岡藩では、腰曲輪南面の石垣の全面改修を計画して幕府より許可されているが、その後の凶作等による財政的問題から着手できなかった。やむなく元文５年、幕府に再度届け出て、「此処根石積足申度候」として、高石垣の下部に、崩落防止のための小石垣を付け足したものである。同様の石垣は二ノ丸東側や腰曲輪南西角にも存在した。絵図によれば腰曲輪南側には５箇所存在したらしい

が、修復前には３箇所現存した。布積Ｃはハバキ石垣のうち、腰曲輪南面２ヶ所のものが該当する。昭和62年度、63年度に発掘調査し、撤去した石垣である。根石の部分は野面石を用い、築石、角石は粗く分割した不定形な石材が用いられ、乱積ではなく布積にしている。石材の多くには大形の矢穴があり、第２期の乱積Ｂ石垣の石材が使用されている可能性が高い。角石は築石の比較的長めの石材を使用しているが、丸い自然面を残すなど、形状は不ぞろいで、直方体にはなっていない。また、角脇石、角尻石にあたる石材も存在しない。間詰石は多く、石垣内部は裏込栗石が充填されており、石垣上面には捨石列がある。

布積Ｄ石垣　Ｄ石垣は盛岡城第４期のハバキ石垣のうち、腰曲輪南辺東端のものと、腰曲輪南西角石垣のうちの南端部、二ノ丸東側の２箇所が該当する。石材の切り出しや加工、運搬を入れると、寛保４年（延享元：1744）から延享５年（寛延元：1748）までの間に構築されたものである。この石材は城下南東郊外の日陰山から切り出されており、寛保４年に切り出され、冬季に石材を橇で運搬し、城内施工箇所に集積。翌年から構築に着手したものである（『御城廻御修補』）。腰曲輪東端の石垣は小形の矢穴で、長さは60㎜～70㎜、石垣表面は鑿で整形、調整されている。間詰石は少なく、石垣内部には栗石が充填されている。二ノ丸東側の石垣もこれと同様である。角脇石、角尻石は存在しない。

布積Ｅ石垣　Ｅ石垣には榊山曲輪東側石垣、二ノ丸北面石垣上部が該当する。布積Ａの改修部分と推定され、使用石材は布積Ａと同様の石材である。石積にやや乱れが見られる。石垣面の重複状況から、布積Ａより新しく、布積Ｂよりも古い。

布積Ｆ石垣　Ｆ石垣は二ノ丸北東部の車門南側の石土居内側の低い石垣である。石材の大きさはやや不ぞろいであるが、切込接に近い布積みである。本丸北西部の櫓台内面石垣のうち、明治期に改変された箇所の石垣も、この積み方に近い。本丸北東部の櫓台の改変箇所は、石材加工状況が異なるが、この分類で差し支えないものと思われる。

間知積またはその他の新しい石垣

間知積みは本丸、腰曲輪、三ノ丸に付された、公園用の石段の石垣。吹上門坂道の明治の付加部分、本丸三重櫓台北側の石土居内面の一部、現在の桜山神社拝殿北側石垣の大半が該当する。表面長方形の四角錘に加工された石材を矢羽状に落とし込んで積んでいる。平成13年度に吹上門坂道の石垣を修復したが、裏込は薄く、盛土も層厚が厚く、構築にあたって、あまり吟味した様子が見られない。また、本丸三重櫓台の石段南側の石垣は布積に近いが、ここも明治期以後の改変部分である。

3　石垣変位調査

（1）　石垣移動量調査と石垣変位調査

石垣移動量　盛岡市では昭和60年度から平成10年度まで、盛岡城跡石垣移動量調査を、三ノ丸西側石垣を対象に実施した。この調査はＨ鋼の不動梁を、石垣に寄りかかる形で縦方向に設置して、これと石垣の石材８個を変位計やひずみ計で連結し、石垣石材の動きを365日24時間自動計測するものである。平行して電子レベルによる定時自動計測や、精密測量による定点観測、孔内傾斜計による地盤調査、

沈下板の水準測量なども行ったもので、計測調査期間は13年である。この調査成果の詳細については、平成12年（2000）３月刊行の『史跡盛岡城跡石垣移動量調査報告書』を参照されたい。この調査方法は石垣の局部的な挙動を把握するには有効であるが、調査方法、経費両面において調査範囲がおのずから限定されるため、城の石垣全体の変位状況把握には不向きである。盛岡城跡の石垣の変位は、400年余の歳月を経て経年変化が進行してきたものであり、今後も同様の傾向が続くと考えられる。したがって、将来の石垣の保存管理、保存整備の計画や、修復の優先順位を決めるためにも、城の全体の石垣の変位状況を把握する必要がある。そのためには、微細な石垣移動量の絶対量の把握から、石垣移動量の相対的な変位量を把握する方法への変更が必要となった。そこで、石垣の孕みや陥没などの変形や、崩落など、石垣変位の大きな場所を選定し、ミクロン・ストレインゲージによる定期的な計測調査を実施することとなった。これは石垣の隣同士の石材の面に、金属製チップを強力な接着剤で貼り付け、先述のゲージを用いて２点間の距離を計測するものである。計測頻度は月一度とし、震度３以上の地震を観測した際には、その都度追加して計測調査を実施した。

調査箇所と配点状況

調査箇所は第９図のように、城内石垣の目視観察により、石垣の孕みや陥没、石垣面のひずみなど、変位の蓄積が著しい８地区を選定した。

Ａ－１地区は吹上門跡に登る坂道の石垣で、藩政時代の坂道を緩いスロープにするために、明治39年の公園造成工事で石垣を積んだ部分である。落し積（矢羽積）の石垣面が以前から著しく孕みだしており、特に石垣修復の工事車両が多く通過した、昭和60年ごろからの変位が著しい個所である。計測点は、孕みの著しい横方向のラインに、上下の石材をつなぐ形で５箇所設置した。計測の結果、平成13年１月から４月にかけて３㎜近い急激な変位があり、同年秋にこの石垣の解体修復工事が実施された。このため、Ａ－１地区の計測は平成13年８月までで終了している（『盛岡城跡概報01』）。

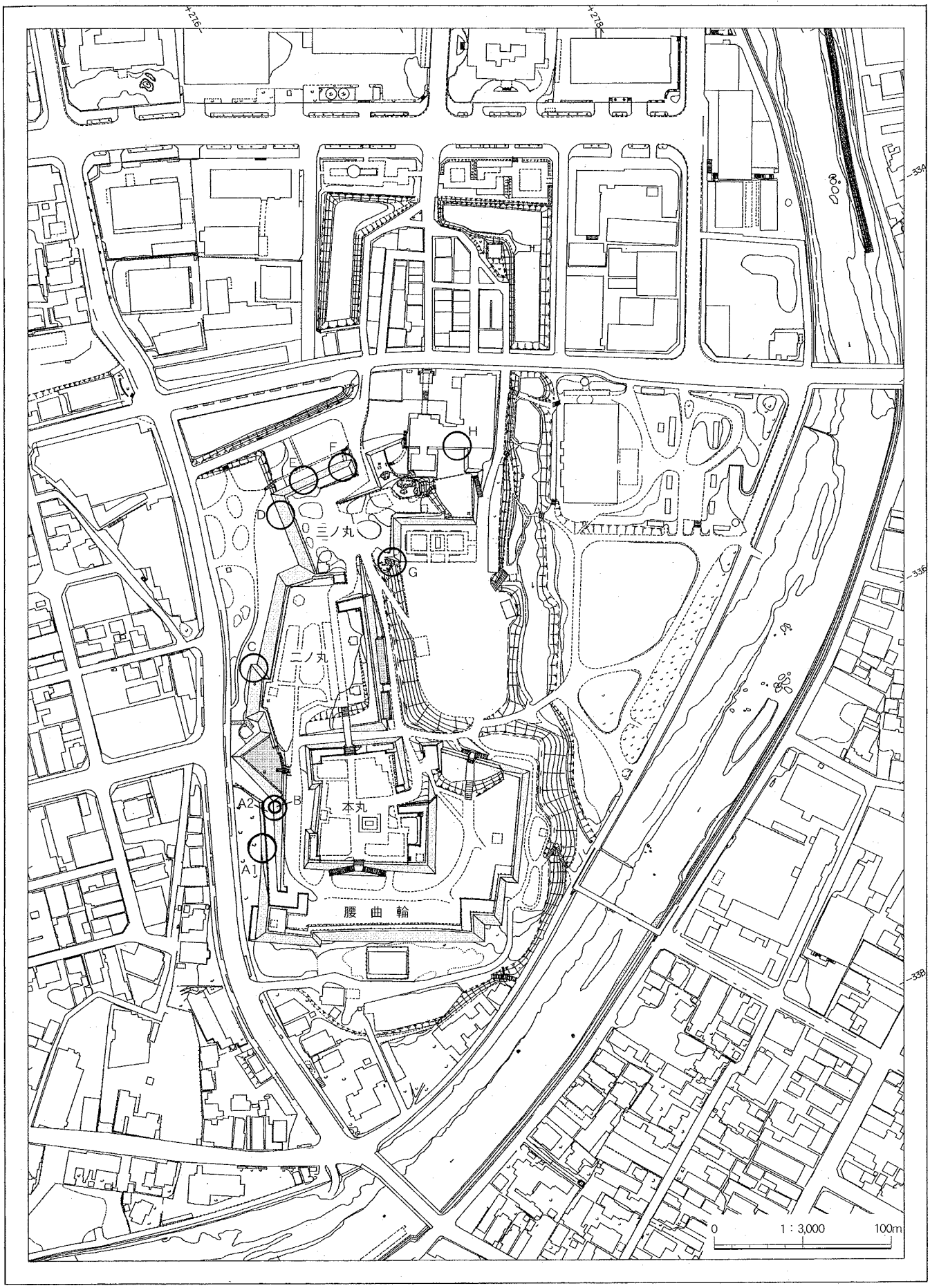
Ａ－２地区はＢ地区の両側部分である。平成13年８月までのＡ－１地区に変わり、平成13年12月より計測を開始した。計測点は腰曲輪と榊山曲輪石垣の接点に左右をつないで２ヶ所、Ｂ地区の南側の石垣孕みの箇所に、上下をつなぐ形で６箇所設置している。

Ｂ地区は、Ａ地区の石垣の坂道上の、腰曲輪石垣と榊山曲輪石垣の入角部分で、布積の石垣の面に孕みやひずみが認められ、この変位の著しい個所に、上下の石材をつなぐ形で２ヶ所、左右の石材をつなぐ形で３箇所の計５個所の計測点を設置した。

Ｃ地区は二ノ丸西側の高石垣の出角部分である。石垣角石と築石との間に、著しいひずみが認められる。この部分は布積Ａであり、石材の控えの長い規格材が用いられている。貞享３年（1688）３月吉日の銘が刻まれている。ひずみの著しい箇所で、角石と築石をつなぐ形で３箇所の計測点を設置した。

Ｄ地区は三ノ丸西側の石垣で、盛岡城第２期の築城による乱積Ｂの部分である。ここは石垣移動量調査の実施範囲内であり、このときの不動梁の北側にあたる。ひずみの著しい箇所の上下の石材をつなぐ３箇所と、左右の石材をつなぐ２ヶ所の計５個所の計測点を設置している。

Ｅ地区は三ノ丸北側の石垣の中央部であり、東側には宝永２年９月２日の銘が刻まれている。当初は石垣の孕みの最も著しい個所の上下の石材をつなぐ形で、上部と下部に２ヶ所計測点を設置した。その後変位の累積が認められ、平成15年の３月３日の震度３の地震のあと、石垣の孕みの著し



第９図　石垣変移調査測定地区

い横のラインで、左右にそれぞれ２ヶ所の計測点を増やした。さらに平成18年には、石材に新たな割れが認められた個所や変位の累積している箇所付近に２個所計測点を増やした。

Ｆ地区はＥ地区の東側、同じ石垣の出角部分であり、角石と築石にひずみのある３個所に計測点を設置している。

Ｇ地区は三ノ丸南側の不明門跡東側の出角部分と、それに接する巨岩である。ここは盛岡城第２期の乱積みＢの個所であるが、石垣が接している花崗岩の巨岩に亀裂が入り、岩の上に生えたケヤキの根が亀裂を拡大し、石垣の出角を中心に、大きな緩みや石材の脱落が生じている部分である。さらに石垣出角の天端石とその下の角石のズレが著しい。この地区では巨岩の亀裂を左右につなぐ２箇所、角石と築石の間隔が開いている個所を左右につなぐ形で２ヶ所、角石の天端とその下の角石を上下につなぐ形で１箇所の計５箇所を設けた。

Ｈ地区は三ノ丸北東部の北面の石垣で、盛岡城第２期の乱積Ｂの石垣である。現在桜山神社社務所が近接しており、石垣の孕みが建物に迫っている。孕みやひずみが最も顕著な２ヶ所を選定し、上下の石材をつなぐ形で測点を設置した。

（２） これまでの調査概要

平成11年12月から調査を開始し、８年余りが経過した。多くの計測点では、石垣移動量調査の時と同様に、季節や温度差等による周期的変動と見られる変位がほとんどで、拡大と収縮を繰り返しているが、一部には周期的に回帰しない計測点も存在し、ＡＢ地区、Ｅ地区、Ｇ地区、Ｈ地区の計測箇所では、変位の累積や地震時の急激な変動が認められた。

変位の形態　計測結果から把握された変位の発生形態は次の３つに区分される。

1) 単調増加型：季節的な変化はなく、年間を通じて単調に増加又は減少の傾向を示す。

2) 周期的非回帰型：季節によって周期的に変化し、全体として前年度より増減が認められる。

3) 地震時増加型：震度４以上の地震発生後に明瞭な変位が認められる。

変位の累積　変位の累積傾向が特に著しいのは、三ノ丸北面の石垣Ｅ地区のＥ－１で、孕みの上下の石の間の開きが、平成12年１月の計測開始時点から平成20年３月までの間に、拡大方向に5.0mm の累積が認められる。また、不明門脇のＧ地区の角石天端に設置した、Ｇ－５については、これまでに２mm の拡大方向への変位が見られる。Ｅ地区は石垣の中で孕みの最も著しい箇所であり、また、Ｇ地区は石垣に接する巨岩と、これの上に生育しているケヤキの巨木があり、この根の伸張による石垣の緩みが著しい箇所である。この２ヶ所については、単調増加型の変位形態を示しており、地震や降雨などの発生状況に関わらず、変位の状況を注視する必要がある。

地　　震　地震のデータには、対象地から約１km 程度離れた山王町の観測記録を用いている。これまでの調査期間中、盛岡市で観測された震度３以上の地震は19回であり、このうち、震度４の地震は平成13年12月２日、平成15年７月26日、平成16年２月４日、平成17年８月16日の４回ある。さらに、震度５弱の地震が平成15年５月26日に観測されている。この中で、※１平成15年５月26日に発生した震度５弱の地震では、地震の前後においてＤ－２で収縮方向に－0.257mm、Ｅ－２で収縮方向に－0.696mm、Ｈ－１で拡大方向に1.08mm、Ｈ－２では拡大方向に2.519mm の変位が確認された。また、Ｄ－４においては、地震から２週間後の６月10日までの間に拡大方向に0.161mm の変位

が記録されている。その他の計測箇所では、0.1mmを超える変位は観測されていない。地震の起きた日の６日前の５月20日以後、地震後の観測日まで盛岡市では降雨が記録されていないことから、上記の変位は地震によるものと考えてよいだろう。次に、震度４の地震時の変位を見てみると、※２平成15年７月26日の地震では、目だった変位は観測されていない。※３平成13年12月２日の地震では、Ｂ－３で0.239mmの変位が観測されている。また、※４平成16年２月４日の地震では、Ｅ－１で0.276mmの変移が観測されている。さらに、※５平成17年８月16日の地震では、Ｅ－１で0.276mm、Ｅ－５では0.235mmの変位が観測されている。

※１　平成15年５月26日18時24分発生、震源は宮城県沖、深さ72km、Ｍ:6.4

※２　平成15年７月26日４時50分発生、震源は宮城県中部、深さ12km、Ｍ:6.4

※３　平成13年12月２日22時１分発生、震源は岩手県内陸南部、深さ122km、Ｍ:6.4

※４　平成16年２月４日15時８分発生、震源は岩手県沖、深さ63km、Ｍ:5.3

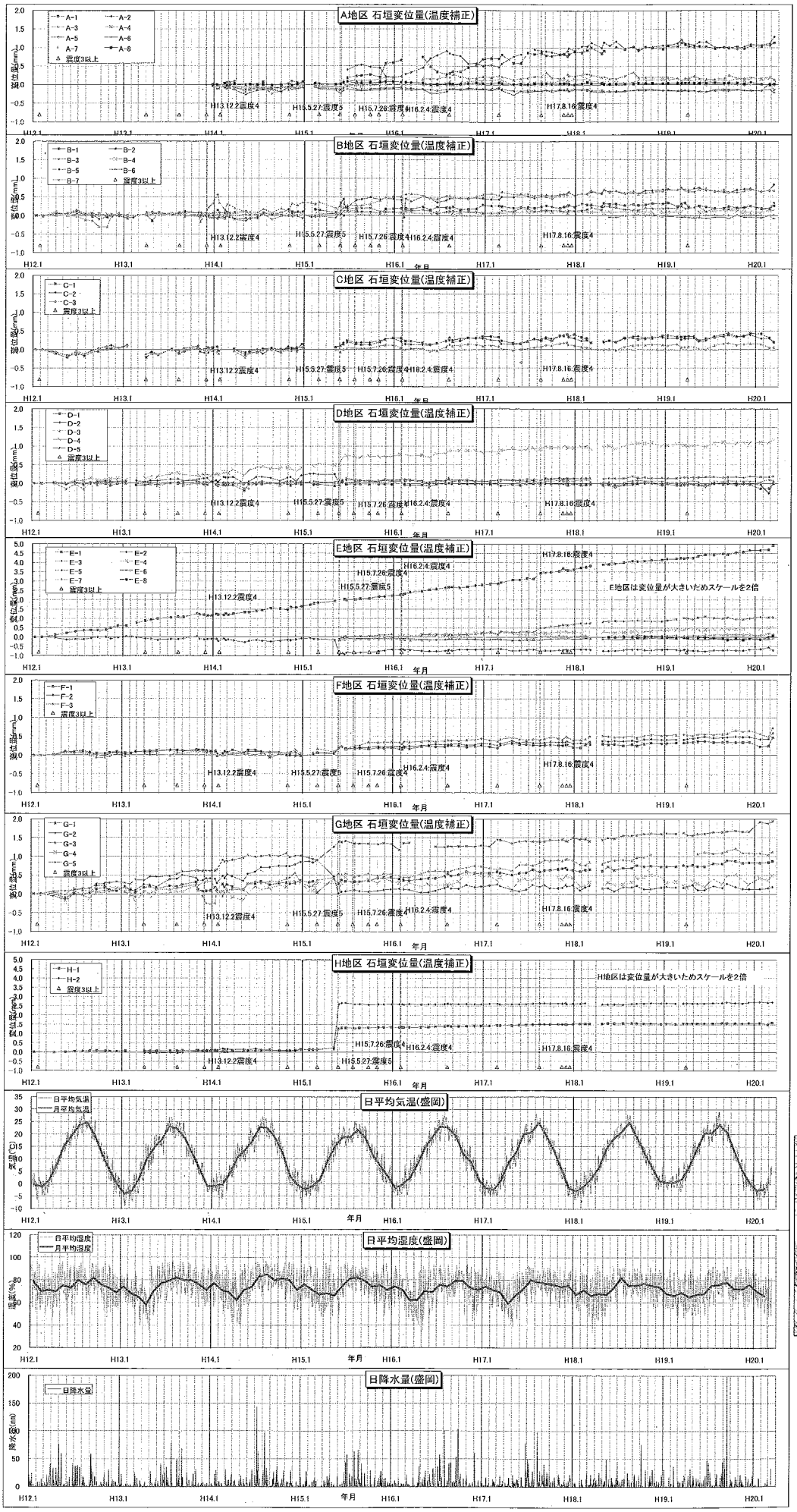
※５　平成17年８月16日11時46分発生、震源は宮城県沖、深さ42km、Ｍ:7.2

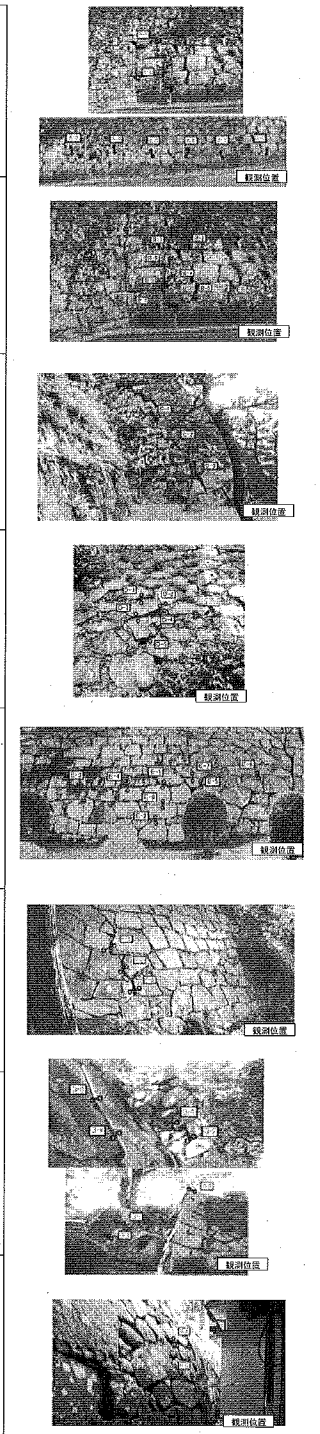
以上の計測結果は、地震時増加型の変位形態を示すものである。大まかには震度４以上で変位が発生すると言えるが、同じ震度４においても変位が発生しないこともあり、石垣の変位には地震動の方向成分（東西・南北・上下）や卓越周期が影響している可能性もある。

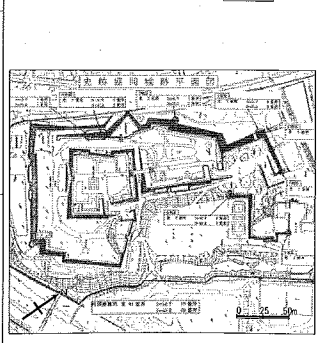
積雪と降雨　平成16年２月４日については、２日前からの降雪により盛岡市ではこの冬一番である43cmの積雪があった。また、平成17年８月16日の場合は、前日夜からの大雨により、98.5mmの降水を記録している。積雪や降水量がとくに見られなかった平成15年７月26日の地震では、目だった変位がなかったのに対し、積雪の多かった平成16年２月４日と降水量の多かった平成17年８月16日の場合にはやや大きな変位が観測されていることから、少なくとも震度４の地震時における石垣の変動は、当日の気象条件にも左右される可能性がある。また、平成19年９月16日夜から翌日夜にかけて、盛岡市では198mmの大雨による降雨が観測されている。この大雨が直接の原因であると考えられる変位は観測されていないが、１ヶ月から２ヵ月後の同年10月16日と11月14日の間に、Ｄ－１で0.201mmと、やや大きめの変位が記録されている。こうした事実を踏まえると、地下に浸透する降雨や積雪、融雪も石垣の変位、変動と大きく関係している可能性があり、これに大規模な地震が加わった場合は、石垣変位の急激な進行や、場合によっては崩落などに繋がる可能性があることを示しているのではなかろうか。

今後の調査

盛岡城跡の石垣変位調査は、今後も継続する計画である。長期的に城内石垣の変位を観測することは、石垣の保存と史跡整備の観点からも有益であり、また、公園利用者の安全を確保する防災面からも有効である。今後各計測個所、計測地区の変位状況を見定めながら、変位の累積傾向が加速した場合や、或は融雪や気象との関連性が認められた場合などには、計測個所や配点の見直し、増設も視野に入れ、さらに調査を継続していきたい。







付図-1
石垣の変位と気象データ
比較図 H12.1～H20.3

観測データ一覧表　　最終観測　　チップ落下計測不能　　初期値測定

年度	備考	地区	A地区								B地区							C地区		
		測定日	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	C-1	C-2	C-3
11年度		H12.1.12									-1.004	0.572	-0.967	-0.116	0.897			0.601	1.474	0.614
		H12.2.10									-1.023	0.569	-0.964	-0.117	0.905			0.589	1.453	0.614
12年度		H12.4.3									-0.941	0.580	-0.921	-0.100	0.845			0.556	1.457	0.588
		H12.5.19									-1.054	0.452	-1.212	-0.097	0.795			0.633	1.515	0.582
		H12.6.24									-1.021	0.486	-1.279	-0.075	0.850			0.823	1.566	0.725
		H12.7.29									-1.046	0.339	-1.452	-0.062	0.700			0.795	1.649	0.700
		H12.8.26									-1.101	0.356	-1.478	-0.040	0.716			0.902	1.744	0.748
		H12.9.22									-1.005	0.291	-1.542	-0.059	0.704			0.831	1.720	0.778
		H12.10.26									-1.078	0.424	-1.447	-0.076	0.804			0.780	1.697	0.785
		H12.11.14									-1.033	0.556	-1.008	-0.092	0.849			0.702	1.646	0.709
		H12.12.13									-0.977	0.561	-0.890	-0.101	0.909			0.623	1.501	0.632
		H13.1.16									-0.978	0.573	-0.890	-0.090	0.879			0.616	1.517	0.659
		H13.2.7										0.567								
		H13.2.27										0.567								
13年度		H13.4.3									-1.013	0.556	-0.951	-0.082	0.849			0.474	1.410	0.538
		H13.4.26									-1.172	0.582	-1.000	-0.058	0.860			0.611	1.508	0.572
		H13.5.23									-0.981	0.427	-1.202	-0.059	0.756			0.758	1.591	0.652
		H13.7.16									-1.047	0.379	-1.279	-0.046	0.662			0.988	1.778	0.806
		H13.8.14									-1.030	0.400	-1.279	-0.060	0.712			0.870	1.758	0.775
		H13.9.4									-0.950	0.436	-1.292	-0.050	0.711			0.850	1.744	0.772
		H13.10.30									-0.968	0.580	-1.059	-0.082	0.796			0.748	1.664	0.725
		H13.11.7									-0.953	0.506	-1.212	-0.076	0.816			0.677	1.477	0.648
		H13.11.26									-0.959	0.533	-0.974	-0.079	0.836			0.659	1.430	0.630
	A初期値	H13.12.10									-0.965	0.560	-0.735	-0.082	0.856			0.641	1.383	0.610
		H13.12.27	1.130	0.509	-0.225	1.852	-0.902	1.080	-1.804	-1.922	-0.946	0.579	-0.622	-0.077	0.843			0.632	1.476	0.579
		H14.1.15			-0.233	1.848	-0.908	0.969	-1.847	-1.916	-0.860	0.477	-0.404	-0.080	0.829			0.683		0.560
		H14.1.22	1.055		-0.247	1.825	-0.994		-1.840		-0.946	0.526	-0.690	-0.079	0.811			0.628		0.542
		H14.2.14	1.129		-0.282	1.848		0.969	-1.823	-1.904	-0.917	0.567	-0.751	-0.105	0.854					
		H14.2.22	1.162		-0.269	1.878		0.979	-1.828	-1.921	-0.927	0.567	-0.714	-0.093	0.855					
		H14.3.4	1.195		-0.256	1.907	-0.908	0.988	-1.832	-1.938	-0.936	0.587	-0.677	-0.081	0.856					
		H14.3.25	1.182		-0.279	1.833	-0.971	0.955	-1.850	-1.890	-0.936	0.445	-0.816	-0.055	0.762			0.664	1.521	0.602
14年度		H14.5.9			-0.337	1.823	-0.997	0.872	-1.819	-1.883	-0.941	0.357	-1.084	-0.072	0.611			0.675	1.569	0.516
		H14.5.27	0.993		-0.288	1.823	-0.965	0.929	-1.828	-1.871	-1.023	0.338	-1.082	-0.048	0.692			0.740	1.603	0.636
		H14.6.26	0.925		-0.258	1.828	-0.931	0.983	-1.807	-1.872	-1.025	0.371	-1.132	-0.055	0.664			0.762	1.664	0.658
		H14.7.19	0.968		-0.179	1.882	-0.938	1.036	-1.805	-1.848	-1.006	0.417	-1.143	-0.054	0.714			0.971	1.639	0.784
		H14.8.23	0.875		-0.373	1.825	-0.937	1.027	-1.800	-1.874	-1.010	0.404	-1.160	-0.042	0.608			0.905	1.722	0.743
		H14.9.30	0.885		-0.313	1.824	-0.944	0.956	-1.721	-1.883	-0.979	0.430	-1.026	-0.053	0.719			0.851	1.591	0.665
		H14.10.30	1.000		-0.332	1.825	-0.919	1.047	-1.789	-1.876	-0.859	0.502	-0.959	-0.066	0.813			0.723	1.632	0.646
		H14.11.12	1.143		-0.280	1.823	-0.965	0.983	-1.873	-1.909	-0.932	0.527	-0.771	-0.090	0.790			0.759	1.605	0.652
		H14.12.4	1.149		-0.294	1.842	-1.001	0.978	-1.865	-1.898	-0.922	0.633	-0.741	-0.083	0.844			0.665	1.576	0.598
		H14.12.26	1.146		-0.240	1.834	-0.989	0.992	-1.857	-1.853	-0.897	0.651	-0.559	-0.066	0.858			0.693	1.488	0.609
		H15.1.30			-0.291	1.825			-1.865			0.567	-0.561							
		H15.2.14	1.147		-0.237	1.829	-0.979	1.012	-1.855	-1.885	-0.834	0.567	-0.640	-0.078	0.871					
		H15.3.3			-0.221	1.832	-0.990	0.974	-1.867	-1.886	-0.865	0.591	-0.643	-0.072	0.855					
15年度		H15.5.9			-0.248	1.821	-0.983	0.966	-1.858	-1.890	-0.951	0.533	-0.901	-0.052	0.754			0.788	1.645	0.673
	地震観測	H15.5.29			-0.086	1.823	-0.973	0.927	-1.804	-1.837	-1.019	0.699	-1.042	-0.007	0.826			1.008	1.821	0.712
		H15.6.10			-0.035	1.883	-0.948	0.996	-1.724	-1.810	-1.056	0.844	-0.920	0.006	0.926			1.007	1.865	0.761
	Eの観測	H15.6.17			-0.291	1.825			-1.865			0.567								
		H15.6.25	1.148	0.483	-0.049	1.915	-0.899	1.031	-1.764	-1.787	-0.942	0.622	-0.951	-0.004	0.897			1.056	1.925	0.796
		H15.8.1	1.143	0.474	-0.007	1.969	-0.955	1.009	-1.767	-1.803	-0.948	0.768	-1.024	-0.024	0.878			1.081	1.925	0.821
		H15.8.21	1.152	0.490	-0.003	1.924	-0.955	1.006	-1.766	-1.813	-0.98	0.785	-1.027	-0.026	0.868			1.066	1.930	0.821
		H15.9.26	1.223	0.540	-0.023	1.946	-0.963	1.000	-1.774	-1.816	-0.965	0.882	-0.930	-0.039	0.914			1.004	1.880	0.793
		H15.11.4	1.222	0.684	-0.030	1.945	-0.975	0.978	-1.781	-1.826	-0.978	0.892	-0.730	-0.043	0.892			0.964	1.838	0.789
		H15.11.27	1.695	0.717	-0.035	1.969	-0.991	0.961	-1.791	-1.846	-0.833	1.038	-0.496	-0.043	0.991			0.885	1.763	0.740
		H15.12.27	1.734	0.743	-0.033	1.974	-0.995	0.960	-1.792	-1.846	-0.816	1.031	-0.436	-0.041	1.000			0.892	1.768	0.731
		H16.1.29	1.803	0.771	-0.291	1.825	-0.982	0.957	-1.797	-1.859	-0.805	1.009	-0.437	-0.051	0.999			0.884	1.678	0.658
	地震観測	H16.2.9			-0.291	1.825			-1.865			0.567								
		H16.2.16		0.751	-0.291	1.825	-0.999	0.942	-1.800	-1.851	-0.816	1.011	-0.414	-0.043	1.008			0.857	1.641	0.631
		H16.3.9		0.789	-0.291	1.825	-0.998	0.935	-1.794	-1.861	-0.837	0.933	-0.408	-0.041	1.001			0.858	1.638	0.662
16年度		H16.4.26	1.182	0.498	-0.277	1.828	-1.007	0.979	-1.788	-1.908	-0.787	1.023	-0.526	-0.044	0.982			0.891	1.690	0.700
		H16.5.26	0.836	0.519	-0.233	1.766	-0.994	0.916	-1.788	-1.916	-0.898	0.873	-0.742	-0.029	0.860			0.976	1.790	0.694
		H16.6.23	0.634	0.445	-0.211	1.795	-0.994	0.932	-1.776	-1.892	-0.837	0.709	-0.851	-0.006	0.723			1.106	1.911	0.766
		H16.7.30	0.516	0.447	-0.123	1.856	-0.959	0.996	-1.746	-1.876	-0.866	0.713	-0.837	-0.012	0.733			1.235	2.026	0.905
		H16.8.12	0.583	0.482	-0.154	1.905	-0.952	1.048	-1.744	-1.874	-0.863	0.802	-0.777	0.004	0.783			1.201	2.083	0.941
		H16.8.25	0.656	0.502	-0.088	1.671	-0.964	1.033	-1.759	-1.884	-0.823	0.841	-0.783	-0.016	0.826			1.133	1.993	0.881
		H16.9.24	0.674	0.532	-0.164	1.850	-0.974	1.014	-1.759	-1.897	-0.895	0.859	-0.760	-0.020	0.824			1.111	1.986	0.873
		H16.10.26	0.907	0.617	-0.265	1.824	-0.970	0.981	-1.781	-1.916	-0.843	0.975	-0.613	-0.023	0.939			1.015	1.870	0.815
		H16.11.28	0.985	0.676	-0.267	1.828	-0.998	0.970	-1.786	-1.904	-0.833	1.013	-0.519	-0.020	0.939			0.982	1.846	0.792
		H16.12.24	1.205	0.747	-0.255	1.819	-1.016	0.947	-1.788	-1.936	-0.711	1.046	-0.382	-0.042	0.971			0.946	1.766	0.708
		H17.1.27	1.246	0.818	-0.284	1.807	-1.021	0.921	-1.799	-1.937	-0.731	1.041	-0.327	-0.057	0.996			0.913	1.703	0.710
		H17.2.27	1.267	0.827	-0.251	1.830	-1.010	0.941	-1.793	-1.924	-0.724	1.062	-0.341	-0.046	1.017			0.859	1.652	0.658
		H17.3.10	1.324	0.793	-0.248	1.840	-1.018	0.929	-1.784	-1.933	-0.755	1.082	-0.321	-0.040	1.038			0.838	1.628	0.630
17年度		H17.4.27	0.965	0.654	-0.263	1.755	-1.024	0.867	-1.769	-1.913	-0.839	0.939	-0.597	-0.014	0.881			0.970	1.772	0.708
		H17.5.26	0.946	0.669	-0.218	1.840	-1.016	0.969	-1.761	-1.898	-0.822	0.998	-0.593	-0.009	0.951			0.979	1.817	0.742
		H17.6.23	1.145		-0.164	1.862	-0.985	0.975	-1.749	-1.883	-0.842	0.865	-0.723	0.008	0.852			1.160	1.977	0.815
		H17.7.20	1.138	0.429	-0.136	1.857	-0.986	0.992	-1.752	-1.876	-0.867	0.842	-0.734	0.018	0.805			1.187	1.992	0.839
		H17.8.17	1.120	0.266	-0.110	1.892	-0.992	1.020	-1.725	-1.866	-0.835	0.846	-0.781	0.018	0.779			1.220	2.044	0.882
		H17.9.5	1.105	0.392	-0.029	1.862	-0.988	1.024	-1.746	-1.864	-0.801	0.927	-0.756	-0.009	0.838			1.194	2.038	0.892
		H17.9.28	1.141	0.489	-0.198	1.838	-1.003	0.957	-1.760	-1.903	-0.816	0.947	-0.735	-0.006	0.877			1.055	1.942	0.841
		H17.10.31	1.254	0.628	-0.243	1.870	-1.003	0.970	-1.758	-1.906	-0.832	1.056	-0.554	-0.003	0.947			1.086	1.917	0.837
		H17.11.16	1.325	0.772	-0.262	1.849	-1.028	0.944	-1.774	-1.916	-0.781	1.118	-0.440	-0.014	0.984			0.996	1.879	0.815
		H17.11.30	1.285	0.869	-0.175	1.845	-1.002	0.942	-1.773	-1.927	-0.753	1.158	-0.418	-0.044	0.999			1.023	1.870	0.805
	予備の初期値	H17.12.5	1.324	0.933	-0.212	1.821	-1.036	0.913	-1.780	-1.937	-0.731	1.185	-0.377	-0.031	1.009			0.971	1.825	0.759
		H17.12.29	1.434	0.972	-0.244	1.842	-1.025	0.937	-1.771	-1.969	-0.771	1.133	-0.379	-0.035	1.042			0.964	1.740	0.701
		H18.1.27	1.395	1.053	-0.199	1.849	-1.039	0.942	-1.759	-1.942	-0.687	1.175	-0.364	-0.017	1.040			0.913	1.692	0.680
		H18.2.17	1.469	1.085	-0.179	1.868	-1.061	0.958	-1.767	-1.908	-0.710	1.166	-0.347	-0.019	1.081			0.855	1.685	0.649
		H18.3.6	1.481	1.033	-0.184	1.833	-1.047	0.923	-1.776	-1.918	-0.730	1.171	-0.343	-0.026	1.073			0.835	1.701	0.676
18年度	A・B緊急観測	H18.4.17	1.307	0.858	-0.240	1.798	-1.038	0.900	-1.767	-1.909	-0.783	1.116	-0.461	-0.012	0.990					
		H18.4.26	1.329	0.876	-0.199	1.813	-1.048	0.928	-1.775	-1.919	-0.703	1.151	-0.422	-0.025	1.035	観測開始	観測開始	0.967	1.787	0.692
		H18.5.19		0.653	-0.225	1.853	-1.024	0.948	-1.744	-1.900	-0.747	1.060	-0.565	-0.007	0.978	0.464	1.357	1.072	1.900	0.748
		H18.6.14	1.183	0.639	-0.202	1.865	-1.012	0.970	-1.738	-1.890	-0.758	1.024	-0.614	-0.005	0.908	0.473	1.352	1.104	1.914	0.753
		H18.7.19	1.110	0.441	-0.130	1.859	-1.007	0.985	-1.718	-1.878	-0.799	0.943	-0.678	0.016	0.845	0.521	1.361	1.227	2.018	0.857
		H18.8.23	1.132	0.371	-0.001	1.911	-0.974	1.030	-1.708	-1.866	-0.783	0.928	-0.699	0.003	0.787	0.545	1.352	1.305	2.133	0.931
		H18.9.12	1.124	0.431	-0.176	1.917	-0.997	1.028	-1.698	-1.869	-0.784	0.982	-0.664	0.013	0.851	0.531	1.389	1.153	2.052	0.890
		H18.10.11	1.245	0.634	-0.205	1.895	-1.011	1.007	-1.713	-1.893	-0.756	1.096	-0.571	0.000	0.957	0.522	1.370	1.108	1.964	0.856
		H18.11.8	1.257	0.739	-0.214	1.890	-1.025	0.986	-1.746	-1.900	-0.710	1.141	-0.488	-0.024	0.985	0.508	1.362	1.051	1.935	0.835
		H18.12.20	1.322	1.028	-0.267	1.853	-1.060	0.937		-1.932	-0.691	1.261	-0.320	-0.026	1.078	0.454	1.319	0.983	1.808	0.747
		H19.1.10	1.413	1.041	-0.277	1.861	-1.052	0.923		-1.929	-0.659	1.279	-0.275	-0.020	1.091	0.443	1.351	0.988	1.787	0.723
		H19.2.17	1.383	1.067	-0.294	1.846	-1.066	0.913		-1.920	-0.761	1.248	-0.285	-0.031	1.086	0.434	1.326	0.961	1.788	0.768
	地震観測不能	H19.3.5	1.420	1.018	-0.316	1.870	-1.034	0.934		-1.906	-0.709	1.250	-0.332	-0.008	1.078	0.438	1.351	1.043	1.825	0.732
		H19.3.20	1.440	1.059	-0.300	1.851	-1.051	0.916		-1.918	-0.664	1.258	-0.305		1.073	0.427	1.356	0.959	1.776	0.691
19年度	3/31地震	H19.4.3	1.341	0.948	-0.272	1.852	-1.053	0.928		-1.907	-0.786	1.203	-0.391		1.042	0.429	1.353	1.039	1.828	0.732
		H19.4.26	1.288	0.831	-0.196	1.842	-1.045	0.947		-1.905		1.214	-0.458		1.028	0.426	1.340	1.084	1.891	0.758
		H19.5.16	1.250	0.755	-0.229	1.850	-1.042	0.955	0.418	-1.890	1.220	1.173	-0.494	-2.300	0.988	0.454	1.369	1.068	1.869	0.760
		H19.6.13	1.160	0.556	-0.200	1.905	-1.018	0.983	0.416	-1.856	1.167	1.019	-0.586	-2.270	0.768	0.465	1.391	1.243	1.997	0.805
		H19.7.18	1.150	0.529	-0.228	1.909	-1.016	1.017	0.471	-1.860	1.142	1.051	-0.594	-2.264	0.909	0.472	1.396	1.207	2.056	0.875
		H19.8.24	1.161	0.460	-0.193	1.937	-0.990	1.049	0.424	-1.864	1.130	0.995	-0.584	-2.255	0.870	0.490	1.386	1.278	2.136	0.942
		H19.9.12	1.151	0.488	-0.111	1.897	-1.009	1.037	0.415	-1.861	1.190	0.987	-0.629	-2.248	0.866	0.446	1.380	1.295	2.156	0.954
		H19.10.16	1.286	0.674	-0.249	1.931	-1.013	0.995	0.400	-1.893	1.178	1.151	-0.504	-2.276	0.980	0.500	1.377	1.094	1.955	0.829
		H19.11.14	1.238	0.763	-0.252	1.868	-1.034	0.969	0.373	-1.917	1.179	1.192	-0.457	-2.305	1.024	0.445	1.378	1.106	1.956	0.841
		H19.12.10	1.394	1.024	-0.274	1.893	-1.061	0.937	0.369	-1.902	1.249	1.277	-0.289	-2.325	1.123	0.425	1.391	1.057	1.893	0.789
		H20.1.23	1.424	1.098	-0.309	1.841	-1.070	0.919	0.368	-1.963	1.187	1.232	-0.284	-2.318	1.122	0.397	1.358	0.991	1.745	0.748
		H20.2.25	1.462	1.162	-0.274	1.879	-0.869	0.937	0.350	-1.979	1.197	1.279	-0.256	-2.271	1.114	0.450	1.352	0.870	1.731	0.648
		H20.3.14	1.427	1.091	-0.287	1.862	-1.025	0.898	0.369	-1.926	1.244	1.331	-0.398	-2.257	1.168	0.408	1.383	0.908	1.778	0.735

地区	D地区						E地区										
測定日	D-1	D-2	D-3	D-4		D-5	E-1		E-2	E-3	E-4		E-5		E-6	E-7	E-8
H12.1.12	0.697	-1.040	0.109	-0.313		0.592	-1.782		0.279								
H12.2.10	0.695	-1.039	0.108	-0.310		0.593	-1.778		0.285								
H12.4.3	0.711	-1.016	0.123	-0.308		0.599	-1.696		0.284								
H12.5.19	0.696	-1.048	-0.008	-0.371		0.606	-1.700		0.310								
H12.6.24	0.734	-0.992	0.130	-0.312		0.631	-1.638		0.372								
H12.7.29	0.687	-1.031	0.004	-0.342		0.617	-1.623		0.409								
H12.8.26	0.739	-1.029	0.190	-0.259		0.634	-1.603		0.461								
H12.9.22	0.723	-0.967	0.104	-0.299		0.632	-1.559		0.471								
H12.10.26	0.707	-0.968	0.142	-0.251		0.623	-1.483		0.405								
H12.11.14	0.644	-0.983	0.136	-0.211		0.624	-1.323		0.231								
H12.12.13	0.691	-0.990	0.129	-0.174		0.625	-1.163		0.257								
H13.1.16	0.695	-0.986	0.123	-0.178		0.622	-1.127		0.265								
H13.2.7									0.267								
H13.2.27	0.659	-0.964	0.146			0.581	-1.031		0.282								
H13.4.3	0.656	-0.995	0.071	-0.185		0.621	-0.950		0.256								
H13.4.26	0.686	-0.957	0.122	-0.160		0.620	-0.921		0.272								
H13.5.23	0.688	-0.950	0.078	-0.211		0.613	-0.953		0.330								
H13.7.16	0.732	-0.901	0.163	-0.156		0.632	-0.930		0.432								
H13.8.14	0.720	-0.894	0.170	-0.126		0.636	-0.891		0.418								
H13.9.4	0.715	-0.953	0.093	-0.163		0.681	-0.860		0.407								
H13.10.30	0.730	-0.928	0.125	-0.134		0.679	-0.576		0.402								
H13.11.7	0.720	-0.919	0.123	-0.115		0.635	-0.605		0.242								
H13.11.26	0.685	-0.904	0.126	-0.096		0.624	-0.613		0.202								
H13.12.10	0.665	-0.900	0.125	-0.077		0.613	-0.620		0.162								
H13.12.27		-0.995	0.138	-0.091		0.630	-0.614		0.173								
H14.1.15		-0.962	0.097	-0.077		0.554	-0.552		0.190								
H14.1.22	0.636	-1.002	0.052	-0.086		0.557	-0.609		0.114								
H14.2.14	0.653	-0.872	0.135	-0.004		0.582	-0.550		0.149								
H14.2.22	0.650	-0.876	0.130	-0.016		0.581	-0.562		0.151								
H14.3.4	0.647	-0.881	0.125	-0.028		0.579	-0.575		0.152								
H14.3.25	0.654	-0.866	0.131	0.042		0.614	-0.549		0.132								
H14.5.9	0.514	-1.027	-0.001	-0.153		0.573	-0.557		0.142								
H14.5.27	0.692	-0.974	0.003	-0.030		0.643	-1.857		0.229								
H14.6.26	0.690	-0.852	0.178	0.048		0.623	-1.811		0.279								
H14.7.19	0.701	-0.843	0.202	0.041		0.666	-1.824		0.320								
H14.8.23	0.717	-0.878	0.172	0.014		0.615	-1.673		0.229								
H14.9.30	0.704	-0.952	0.071	0.023		0.629	-1.689		0.247								
H14.10.30	0.693	-0.887	0.146	0.084		0.651	-1.672		0.201								
H14.11.12	0.653	-0.869	0.144	0.070		0.652	-1.538		0.191								
H14.12.4	0.696	-0.971	0.198	-0.010		0.633	-1.529		0.191								
H14.12.26	0.661	-0.827	0.151	0.123		0.611	-1.406		0.170								
H15.1.30		-0.786				0.607	-1.311		0.189								
H15.2.14	0.662	-0.783	0.159	0.147		0.640	-1.256		0.171								
H15.3.3	0.671	-0.798	0.154	0.213		0.629	-1.255		0.195	観測開始	観測開始		観測開始		観測開始		
H15.5.9	0.641	-0.786	0.136	0.140		0.632	-1.221		0.214								
H15.5.29	0.667	-1.043	0.127	0.160		0.688			-0.482	1.668	0.305				2.162		
H15.6.10	0.740	-0.949	0.242	0.301		0.688			-0.405	1.703	0.376				2.194		
H15.6.17							-1.776		-0.433	1.699			0.166		2.176		
H15.6.25	0.690	-0.934	0.288	0.367		0.607	-1.776		-0.406	1.712	0.380		0.175		2.181		
H15.8.1	0.703	-0.924	0.239	0.314		0.668	-1.798		-0.363	1.728	0.348		0.173		2.168		
H15.8.21	0.697	-0.937	0.211	0.298		0.683	-1.757		-0.325	1.740	0.356		0.173		2.165		
H15.9.26	0.694	-0.951	0.233	0.343		0.661	-1.705		-0.354	1.682	0.325		0.195		2.155		
H15.11.4	0.684	-0.989	0.174	0.360		0.672	-1.550		-0.370	1.645	0.348		0.257		2.144		
H15.11.27	0.683	-0.951	0.222	0.416		0.672	-1.461		-0.429	1.562	0.324		0.276		2.119		
H15.12.27	0.669	-0.954	0.196	0.414		0.650	-1.413		-0.403	1.549	0.357		0.315		2.104		
H16.1.29		-0.943	0.199	0.468		0.654	-1.352		-0.418	1.522	0.331				2.075		
H16.2.9							-1.324		-0.419	1.523	0.342				2.065		
H16.2.16	0.658	-0.937	0.201	0.456		0.647	-1.328		-0.409	1.527	0.366				2.100		
H16.3.9	0.652	-0.947	0.193	0.423		0.676	-1.238		-0.391	1.523	0.387				2.079		
H16.4.26	0.662	-0.958	0.158	0.421		0.647	-1.809		0.260	1.555	0.447		0.293		2.070		
H16.5.26	0.638	-1.035	0.044	0.313		0.636	-1.792		0.321	1.630	0.499		0.295		2.088		
H16.6.23	0.689	-0.937	0.189	0.402		0.688	-1.803		0.388	1.703	0.514		0.276		2.108		
H16.7.30	0.726	-0.946	0.224	0.385		0.686	-1.777		0.459	1.757	0.546		0.272		2.137		
H16.8.12	0.726	-0.905	0.306	0.463		0.716	-1.722		0.476	1.765	0.535		0.253		2.127		
H16.8.25	0.711	-0.930	0.216	0.487		0.663	-1.690		0.418	1.732	0.535		0.253		2.120		
H16.9.24	0.711	-0.928	0.209	0.486		0.685	-1.702		0.440	1.716	0.545		0.253		2.109		
H16.10.26	0.692	-0.948	0.230	0.543		0.661	-1.559		0.317	1.628	0.503		0.294		2.074		
H16.11.28	0.686	-0.970	0.191	0.535		0.651	-1.480		0.288	1.594	0.524		0.318		2.049		
H16.12.24	0.678	-0.992	0.156	0.528		0.667	-1.399		0.269	1.530	0.518		0.368		2.022		
H17.1.27	0.675	-0.975	0.154	0.547		0.630	-1.340		0.247	1.521	0.514		0.439		2.012		
H17.2.27	0.685	-0.959	0.142	0.546			-1.305		0.254	1.535	0.376	offset	0.315	offset	2.015		
H17.3.10	0.638	-0.947	0.181	0.585			-1.275		0.290	1.552	0.545	0.040	0.468	-0.063	2.033		
H17.4.27	0.690	-0.942	0.209	0.563		0.704	-1.248		0.328	1.593	-1.192		0.327		2.044		
H17.5.26	0.666	-0.950	0.157	0.529		0.698	-1.257		0.360	1.622	-1.288		0.339		2.036		
H17.6.23	0.706	-0.957	0.175	0.521		0.724	-1.231		0.455	1.739	-1.212		0.352		2.081		
H17.7.20	0.714	-0.940	0.183	0.549		0.725	-1.252		0.464	1.754	-1.263		0.321		2.062		
H17.8.17	0.722	-0.997	0.120	0.526		0.703	-0.976		0.434	1.906	-1.123		0.556		2.097		
H17.9.5	0.714	-0.904	0.216	0.600		0.745	-0.903		0.407	1.885	-1.157		0.564		2.127		
H17.9.28	0.706	-0.910	0.205	0.596		0.735	-0.843		0.342	1.825	-1.168		0.644		2.115		
H17.10.31	0.693	-0.892	0.207	0.626		0.736	-0.727		0.311	1.793	-1.170		0.686		2.100		
H17.11.16	0.694	-0.929	0.190	0.665		0.719	-0.542		0.251	1.729	-1.172		0.735		2.084		
H17.11.30	0.668	-0.937	0.172	0.661		0.730	-0.611		0.261	1.727	-1.188		0.714		2.065		
H17.12.5	0.657	-0.951	0.164	0.641		0.726	-0.641		0.238	1.691	-1.200		0.732		2.086		
H17.12.29	0.678	-0.908	0.174	0.649		0.717	-0.561		0.238	1.692	-1.240		0.786		2.035		
H18.1.27	0.655		0.202	0.678		0.730	-0.471		0.268	1.719	-1.240		0.827		2.053		
H18.2.17	0.659		0.215	0.690		0.725	-0.424		0.255	1.730	-1.163		0.824		2.089		
H18.3.6	0.676		0.159	0.621		0.730	-0.410		0.275	1.674			0.825		2.073		
H18.4.17		-1.034								1.385							
H18.4.26	0.659	-1.049	0.166	0.624		0.721	-0.395		0.286	1.713	0.299		0.904		2.085	観測開始	観測開始
H18.5.19	0.701	-1.075	0.178	0.638		0.748	-0.411		0.348	1.809	0.321		0.915		2.118	0.723	0.018
H18.6.14	0.669	-1.124	0.057	0.541		0.743	-0.424		0.400	1.825	0.317		0.935		2.114	0.727	-0.011
H18.7.19	0.701	-1.063	0.177	0.610		0.746	-0.369		0.446	1.889	0.348		0.918		2.132	0.772	0.005
H18.8.23	0.735	-1.052	0.227	0.650		0.803	-0.327		0.509	1.934	0.402		0.950		2.149	0.664	-0.007
H18.9.12	0.712	-1.016	0.234	0.692		0.758	-0.288		0.449	1.926	0.386		0.967		2.137	0.770	-0.020
H18.10.11	0.712	-1.000	0.204	0.710		0.766	-0.239		0.376	1.865	0.361		0.933		2.126	0.737	0.018
H18.11.8	0.714	-1.012	0.189	0.740		0.743	-0.157		0.328	1.829	0.362		0.930		2.157	0.736	0.047
H18.12.20	0.652	-1.047	0.163	0.703		0.743	-0.063		0.261	1.754	0.357		0.931		2.082	0.735	0.028
H19.1.10	0.677	-1.022	0.146	0.714		0.723	-0.022		0.262	1.736	0.375		0.974		2.102	0.784	-0.001
H19.2.17	0.648	-1.047	0.146	0.734	offset	0.725	-0.002	offset	0.251	1.770	0.403		1.040		2.058	0.746	-0.025
H19.3.5	0.654	-1.022	0.144	0.711	D'-4	0.752	-0.006	E'-1	0.276	1.739	0.410						
H19.3.20	0.672	-1.091	0.147	0.708	-0.031	0.754	0.005	0.006	0.265	1.723	0.403		1.110		2.090		-0.015
H19.4.3	0.677	-1.072	0.163	-0.281		0.751	-1.124		0.275	1.779	0.465		1.082		2.080		-0.024
H19.4.26	0.682		0.208	-0.284		0.764	-1.163		0.275	1.818	0.486		1.027		2.102		
H19.5.16	0.671	-0.892	0.173	-0.301		0.765	-1.118		0.335	1.865	0.474		1.128		2.104	0.788	0.130
H19.6.13	0.668	-0.935	0.073	-0.378		0.784	-1.103		0.398	1.922	0.495		1.165		2.123	0.868	0.119
H19.7.18	0.714	-0.844	0.206	-0.260		0.784	-1.068		0.403	1.938	0.484		1.089		2.123	0.881	0.103
H19.8.24	0.698	-0.810	0.205	-0.245		0.774	-1.024		0.432	1.977	0.502		1.066		2.143	0.865	0.070
H19.9.12	0.714	-0.830	0.228	-0.278		0.776	-1.056		0.437	1.971	0.525		1.112		2.151	0.851	0.000
H19.10.16	0.666	-0.870	0.188	-0.240		0.779	-0.895		0.322	1.906	0.480		1.031		2.068	0.816	0.078
H19.11.14	0.704	-0.879	0.192	-0.203		0.758	-0.850		0.294	1.877	0.487		1.031		2.101	0.857	0.000
H19.12.10	0.670	-0.869	0.173	-0.193		0.786	-0.701		0.273	1.823	0.499		1.085		2.114	0.902	0.082
H20.1.23	0.555	-0.899	0.140	-0.166		0.766	-0.667		0.247	1.746	0.463		1.164		2.051	0.812	0.055
H20.2.25	0.557	-1.130	0.209	-0.158		0.763	-0.620		0.341	1.855	0.460		1.156		2.015	0.958	0.175
H20.3.14	0.703	-0.816	0.196	-0.133		0.791	-0.470		0.285	1.854	0.592		1.141		2.106	0.911	0.240

地区	F地区				G地区						H地区		日平均気温	湿度	降水量
測定日	F-1	F-2		F-3	G-1	G-2	G-3	G-4	G-5		H-1	H-2			
H12.1.12	0.585	0.763		0.492	0.266	1.169	1.113	2.000	0.360		-2.420		0.0	56.0	2.0
H12.2.10	0.588	0.763		0.493	0.266	1.176	1.096	2.002	0.367				-0.4	58.0	0.0
H12.4.3	0.572	0.736		0.460	0.332	1.178	1.138	2.022	0.454		-2.415		4.2	47.0	
H12.5.19	0.558	0.705		0.399	0.379	1.271	1.028	1.773	0.528		-2.363		16.5	68.0	
H12.6.24	0.508	0.670		0.347	0.538	1.453	1.167	2.091	0.563		-2.321		19.5	80.0	
H12.7.29	0.510	0.649		0.307	0.564	1.524	1.089	1.966	0.629		-2.294		24.6	79.0	0.0
H12.8.26	0.479	0.601		0.252	0.602	1.585	1.066	1.888	0.635		-2.273		24.5	77.0	1.0
H12.9.22	0.507	0.585		0.246	0.640	1.667	1.080	2.032	0.719		-2.288		18.5	79.0	
H12.10.26	0.548	0.643		0.313	0.586	1.572	1.149	2.039	0.706		-2.318		11.6	62.0	0.0
H12.11.14	0.626	0.776		0.425	0.439	1.307	1.184	2.195	0.682		-2.352		4.5	79.0	0.0
H12.12.13	0.686	0.853		0.537	0.344	1.246	1.255	2.154	0.689		-2.377		-0.8	55.0	0.0
H13.1.16	0.694	0.845		0.529	0.363	1.282	1.209	2.150	0.623		-2.369		-6.4	62.0	0.0
H13.2.7	0.676				0.330	1.185	1.105	2.047	0.610				-5.0	67.0	
H13.2.27	0.668	0.853			0.337	1.302	1.040	1.800	0.751				1.9	55.0	0.0
H13.4.3	0.659	0.795		0.470	0.513	1.506	1.162	2.048	0.751		-2.336	0.687	5.6	68.0	0.5
H13.4.26	0.646	0.761		0.428	0.571	1.543	1.079	1.896	0.867		-2.331	0.691	8.2	65.0	0.5
H13.5.23	0.576	0.664		0.313	0.667	1.657	1.140	2.008	0.924		-2.288	0.744	19.8	72.0	
H13.7.16	0.540	0.660		0.241	0.809	1.937	1.108	2.028	0.963		-2.285	0.789	25.0	89.0	10.5
H13.8.14	0.544	0.648		0.310	0.790	1.948	1.137	2.064	1.017		-2.273	0.765	25.1	79.0	0.0
H13.9.4	0.564	0.670		0.330	0.775	1.974	1.208	2.068	1.058		-2.277	0.770	19.9	85.0	0.0
H13.10.30	0.678	0.800		0.527	0.683	1.714	1.328	2.233	1.023		-2.307	0.774	7.6	80.0	
H13.11.7	0.684	0.834		0.542	0.454	1.619	1.178	2.219	1.011		-2.321	0.783	5.2	63.0	0.0
H13.11.26	0.690	0.868		0.557	0.397	1.595	1.029	2.303	0.998		-2.336	0.791	4.0	64.0	0.5
H13.12.10	0.697	0.901		0.571	0.340	1.571	0.880	2.336	0.986		-2.351	0.800	-0.6	57.0	0.0
H13.12.27	0.698	0.861		0.567	0.347	1.564	0.860	2.336	0.975		-2.353	0.799	-1.2	72.0	0.5
H14.1.15	0.685	0.882		0.565	0.450	1.582	0.868	2.177	0.981		-2.339	0.821	0.6	83.0	0.0
H14.1.22	0.535	0.763		0.459	0.432	1.527	1.250	2.051	1.033		-2.336	0.809	4.1	82.0	8.5
H14.2.14	0.664	0.797		0.527	0.471	1.584	1.080	2.074	1.251		-2.399	0.848	-4.6	70.0	0.0
H14.2.22	0.662	0.806		0.535	0.492	1.639	1.143	2.107	1.241		-2.397	0.851	3.0	81.0	2.5
H14.3.4	0.660	0.814		0.542	0.512	1.694	1.206	2.139	1.231		-2.398	0.855	-0.2	76.0	0.5
H14.3.25	0.698	0.784		0.499	0.506	1.692	1.228	1.904	1.289		-2.358	0.829	3.3	48.0	0.0
H14.5.9	0.554	0.687		0.385	0.563	1.731	1.151	1.841	1.395		-2.335	0.912	14.0	65.0	
H14.5.27	0.619	0.720		0.401	0.723	1.920	1.312	2.026	1.472		-2.301	0.879	14.4	63.0	
H14.6.26	0.613	0.707		0.339	0.756	2.005	1.358	2.210	1.430		-2.282	0.959	16.0	74.0	0.0
H14.7.19	0.512	0.627		0.312	0.909	2.231	1.289	2.127	1.486		-2.262	0.933	23.4	91.0	0.5
H14.8.23	0.401	0.666		0.386	0.751	2.154	1.354	2.151	1.479		-2.241	0.900	18.1	79.0	
H14.9.30	0.501	0.685		0.380	0.765	2.165	1.357	2.229	1.454		-2.290	0.861	16.4	84.0	
H14.10.30	0.533	0.741		0.490	0.650	2.012	1.492	2.192	1.479		-2.327	0.810	6.3	62.0	0.0
H14.11.12	0.528	0.739		0.486	0.642	2.033	1.520	2.321	1.387		-2.307	0.812	8.2	83.0	5.0
H14.12.4	0.550	0.802		0.604	0.604	2.010	1.657	2.338	1.393		-2.303	0.793	3.6	94.0	3.5
H14.12.26	0.593	0.797		0.581	0.583	1.968	1.441	2.295	1.367		-2.277	0.794	-3.6	70.0	0.0
H15.1.30					0.518	1.980	1.341	2.094	1.302		-2.296		-4.2	73.0	0.5
H15.2.14	0.622	0.804		0.576	0.586	1.986	1.343	2.085	1.284		-2.288		-1.4	63.0	0.0
H15.3.3	0.637	0.815		0.642	0.333	2.096	1.477	2.292	1.276		-2.271		1.9	73.0	0.5
H15.5.9	0.557	0.734		0.493	0.793	1.766	1.510	2.285	1.658		-2.166	0.876	8.6	49.0	
H15.5.29	0.627	0.747		0.473	0.812	1.493	1.542	2.157	1.860		-1.084	3.395	20.5	63.0	
H15.6.10	0.690	0.820		0.558	0.867	1.490	1.540	2.291	1.833		-1.051	3.420	17.5	69.0	
H15.6.17													21.4	77.0	
H15.6.25	0.641	0.743		0.476	0.826	1.499	1.573	2.432	1.857		-2.408	3.433	17.0	91.0	7.5
H15.8.1	0.604	0.738		0.530	0.880	1.611	1.467	2.248	1.811		-2.416	3.388	22.1	80.0	0.0
H15.8.21	0.611	0.745		0.531	0.885	1.577	1.494	2.288	1.813		-2.404	3.391	22.2	83.0	1.5
H15.9.26	0.621	0.790		0.659	0.860	1.499	1.573	2.403	1.789		-2.404	3.347	18.0	79.0	0.0
H15.11.4	0.700	0.884		0.718	0.828	1.418	1.528	2.295	1.742		-2.400	3.323	10.9	52.0	0.0
H15.11.27	0.764	0.974		0.831	0.709	1.288	1.659	2.419	1.722		-2.429	3.276	0.6	74.0	
H15.12.27	0.795	1.000		0.861	0.688	1.273	1.650	2.344	1.685		-2.428	3.274	-1.4	59.0	0.0
H16.1.29	0.759	1.007		0.850	0.648	1.287	1.620	2.300	1.529		-2.446	3.269	-1.7	63.0	0.0
H16.2.9	0.768	1.003		0.846							-2.438	3.266	-4.1	72.0	0.0
H16.2.16	0.785	0.984		0.836	0.654	1.313	1.548	2.198	1.727		-2.432	3.267	1.6	71.0	0.0
H16.3.9	0.739	0.982		0.823	0.644	1.307	1.548	2.300	1.734		-2.426	3.297	1.9	80.0	0.5
H16.4.26	0.769	0.951		0.788	0.756	1.311	1.621	2.201			-2.400	3.310	7.0	62.0	0.0
H16.5.26	0.722	0.874		0.719	0.892	1.461	1.645	2.260			-2.371	3.350	16.0	62.0	
H16.6.23	0.654	0.835		0.628	0.978	1.595	1.620	2.230	0.368		-2.326	3.390	22.2	71.0	0.0
H16.7.30	0.623	0.774		0.604	1.092	1.737	1.591	2.242	0.381		-2.298	3.423	26.9	78.0	0.0
H16.8.12	0.673	0.815		0.661	1.109	1.717	1.590	2.255	0.378		-2.283	3.426	23.1	72.0	
H16.8.25	0.697	0.853		0.684	1.027	1.627	1.630	2.259	0.368		-2.314	3.395	20.8	71.0	
H16.9.24	0.700	0.880		0.698	1.019	1.593	1.702	2.334	0.358		-2.322	3.380	18.3	76.0	1.5
H16.10.26	0.752	0.968		0.830	0.948	1.506	1.785	2.571	0.309		-2.345	3.332	6.5	77.0	0.5
H16.11.28	0.788	0.996		0.855	0.884	1.430	1.845	2.562	0.283		-2.343	3.302	4.9	51.0	0.0
H16.12.24	0.851	1.090		0.948	0.812	1.354	1.859	2.458	0.287		-2.364	3.274	-1.0	76.0	0.0
H17.1.27	0.823	1.095		0.924	0.789	1.358	1.815	2.494	0.252		-2.356	3.298	-2.8	78.0	3.0
H17.2.27	0.813	1.080		0.921	0.789	1.349	1.798	2.367	0.421		-2.344	3.285	-5.3	72.0	0.0
H17.3.10	0.844	1.074		0.921	0.830	1.379	1.801	2.450	0.437		-2.334	3.278	-0.3	68.0	2.0
H17.4.27	0.816	1.012		0.839	0.947	1.485	1.679	2.105	0.416		-2.295	3.354	13.2	51.0	
H17.5.26	0.773	0.941		0.773	1.012	1.467	1.813	2.369	0.472		-2.263	3.359	14.8	56.0	
H17.6.23	0.715	0.898		0.672	1.131	1.635	1.792	2.399	0.521		-2.241	3.418	22.8	72.0	
H17.7.20	0.706	0.889		0.720	1.176	1.715	1.781	2.381	0.496		-2.223	3.413	20.0	71.0	2.5
H17.8.17	0.665	0.845		0.653	1.175	1.747	1.814	2.457	0.515		-2.186	3.458	25.1	74.0	
H17.9.5	0.710	0.897		0.736	1.153	1.705	1.925		0.492		-2.212	3.424	19.7	90.0	5.0
H17.9.28	0.755	0.968		0.825	1.097	1.547	1.921		0.511		-2.231	3.392	14.8	74.0	
H17.10.31	0.798	1.032		0.874	1.025	1.434	1.984	2.112	0.467		-2.240	3.357	7.4	71.0	
H17.11.16	0.830	1.094		0.884	0.968	1.366	1.990	2.038	0.460		-2.259	3.321	1.9	71.0	0.0
H17.11.30	0.857	1.100		0.980	0.973	1.423	2.032	2.137	0.412		-2.261	3.340	0.7	76.0	4.0
H17.12.5	0.851	1.114		0.960	0.945	1.401	2.032	2.128	0.415		-2.268	3.287	1.6	84.0	4.0
H17.12.29	0.812	1.105		0.923	0.860	1.360	2.028	2.087	0.478		-2.275	3.284	-2.9	62.0	0.0
H18.1.27	0.795	1.103		0.918	0.854	1.252	1.904	1.868	0.452		-2.249	3.302	-1.3	55.0	0.0
H18.2.17	0.883	1.090		0.947	0.867	1.305	1.900	1.867	0.449		-2.258	3.316	-2.7	58.0	0.5
H18.3.6	0.849	1.089		0.969	0.964	1.449	1.944	1.971	0.416		-2.233		3.4	69.0	4.5
H18.4.17													4.9	56.0	1.0
H18.4.26	0.813	1.043		0.911	1.008	1.474	1.864	1.795	0.487		-2.219	0.706	10.0	53.0	0.5
H18.5.19	0.759	0.982		0.844	1.193	1.557	1.910	1.975	0.566		-2.168	0.727	15.2	85.0	50.0
H18.6.14	0.737	0.940		0.773	1.162	1.543	1.915	1.908	0.570		-2.170	0.753	20.2	70.0	0.0
H18.7.19	0.693	0.922		0.775	1.232	1.668	1.923	1.919	0.659		-2.159	0.753	20.8	79.0	0.0
H18.8.23	0.691	0.898		0.757	1.292	1.732	1.877	1.964	0.676		-2.126	0.819	25.6	80.0	1.0
H18.9.12	0.707	0.944		0.773	1.269	1.664	1.995	2.090	0.656		-2.163	0.797	18.2	78.0	0.0
H18.10.11	0.784	1.040		0.873	1.182	1.515	2.031	2.116	0.669		-2.184	0.783	14.2	82.0	
H18.11.8	0.842	1.090		0.936	1.144	1.450	2.111	2.164	0.656		-2.206	0.786	10.1	70.0	0.0
H18.12.20	0.891	1.168		1.014	0.998	1.353		2.112	0.602		-2.253	0.732	0.4	80.0	
H19.1.10	0.898	1.170		1.026	0.996	1.364		1.950	0.610		-2.240	0.737	0.0	59.0	0.0
H19.2.17	0.912	1.174	offset	1.028	1.008	1.356		1.988	0.605	offset	-2.246	0.714	0.8	72.0	0.0
H19.3.5			F'-2							G'-5			6.7	83.0	10.5
H19.3.20	0.907	1.168	-0.019	1.037	1.044	1.348		1.887	0.633	-0.042	-2.228	0.733	0.8	62.0	0.0
H19.4.3	0.886	0.790		0.974	1.071	1.434		1.828	0.547		-2.219	0.750	5.0	60.0	0.0
H19.4.26	0.871	0.763		0.931	1.146	1.541		2.001	0.548		-2.199	0.768	8.4	64.0	2.0
H19.5.16	0.843	0.720		0.902	1.195	1.500	2.906	1.934	0.624		-2.191	0.780	14.8	60.0	
H19.6.13	0.794	0.665		0.824	1.298	1.631	0.584	1.847	0.673		-2.157	0.837	23.2	61	
H19.7.18	0.802	0.675		0.856	1.314	1.653	0.581	2.060	0.688		-2.167	0.816	18.2	79	0
H19.8.24	0.784	0.664		0.845	1.343	1.657	1.364	1.928	0.705		-2.138	0.851	21.1	67	
H19.9.12	0.800	0.683		0.872	1.413	1.745	1.414	2.137	0.715		-2.152	0.873	19.8	82	0
H19.10.16	0.851	0.792		1.049	1.280	1.515	1.526	2.171	0.694		-2.183	0.794	10.5	72	0
H19.11.14	0.860	0.790		1.031	1.220	1.449	1.424	2.041	0.659		-2.207	0.773	9.7	73	4.5
H19.12.10	0.921	0.871		1.128	1.126	1.326	1.458	1.914	0.618		-2.195	0.771	1.7	56	
H20.1.23	0.827	0.850		1.087	1.069	1.269	1.470	2.090	0.864		-2.216	0.780	-2.2	78	0
H20.2.25	0.852	0.873		1.009	1.071	1.280	1.431	2.025	0.814		-2.278	0.752	-3.1	56	0
H20.3.14	0.999	0.920		1.149	1.238	1.467	1.461	2.150	0.928		-2.155	0.819	7.2	82	32

データ整理方法:
データシートの「平均値」を「形式を選択-値」でコピーする。

付図2　石垣変位調査計測データ

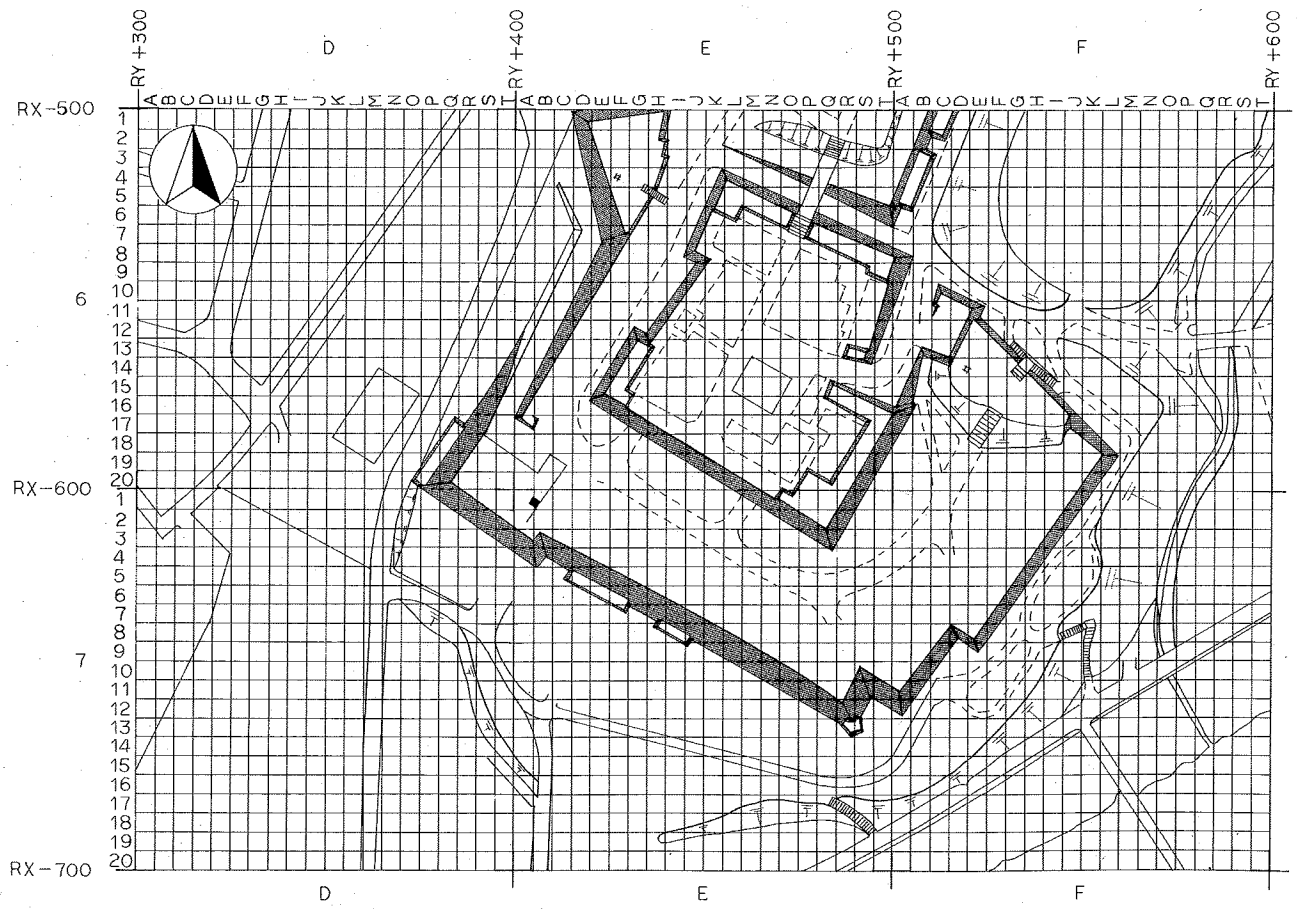
Ⅳ 発 掘 調 査

1 二ノ丸南東部の調査（第21次調査）

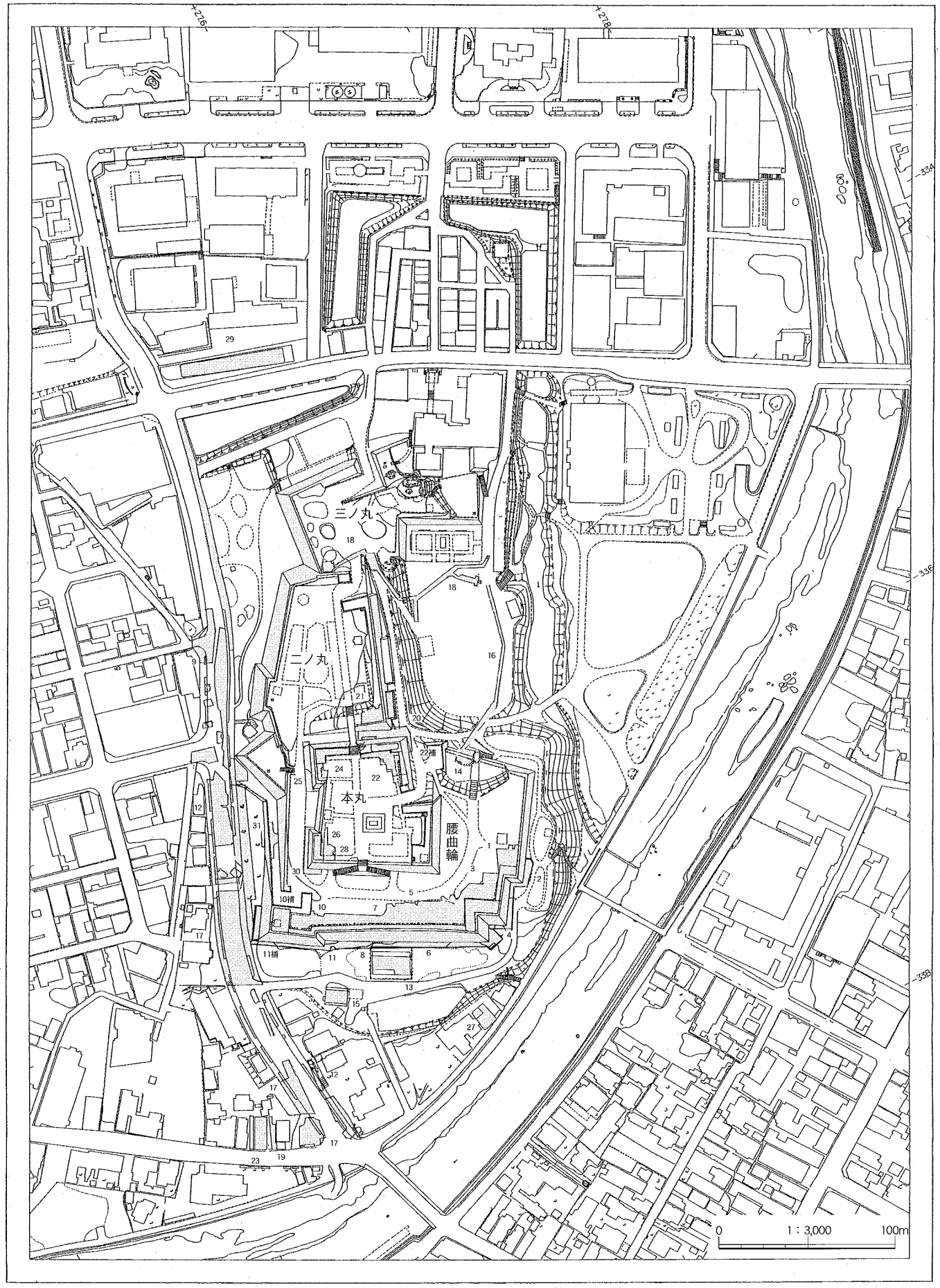
位　　置　この区域は平成３年度から平成４年度にかけて発掘調査と石垣修復工事を実施した。二ノ丸の修復箇所は大書院跡の南東側石垣の出隅部分であり、堀切をはさんで本丸北東部石垣に対峙する。つまり、二ノ丸南面石垣と本丸北面石垣は、そのまま堀切の壁面を形成する石垣でもある。

（1）石垣と構築状況（第12図～第15図）

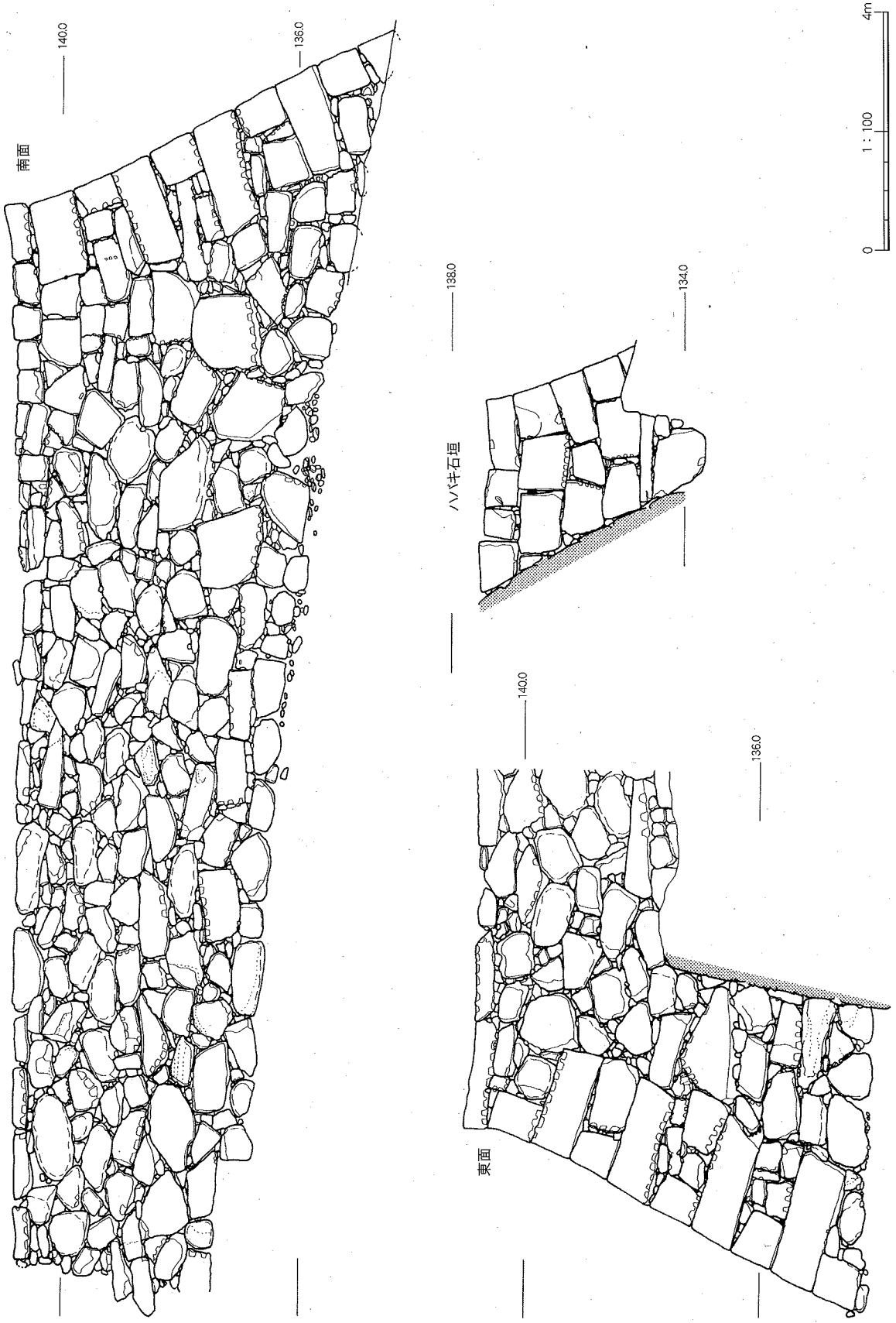
石　　垣　二ノ丸南東部石垣の出角部分は、野面石が多く見受けられ、一見古風な石垣にも見える。しかし、隅角部の天端石には明瞭なキオイが認められることや、隅角付近の築石も布積みに近い積み方があり、江戸時代でも新しい時期の改修部分が存在する。その一方で、南面石垣の廊下橋の西側には、盛岡城１期の乱積Ａ部分が残存する。修復部分の石垣を詳細に見ると、第13図に見られるように、



第10図　グリッドと座標



第11図　発掘調査位置図



第12図　二ノ丸南東部の石垣立面図（1：100）

第13図　二ノ丸南東部の石垣の石材（1：100）

東面石垣の築石部分は、野面石がまとまって使用され、間に入る築石の矢穴は１期石垣の石材に認められる長さ90㎜から120㎜の矢穴であり、この部分は盛岡城１期の乱積Ａまたは乱積Ａ´である。また、二ノ丸南面石垣は、野面石が割石の間に散在して使用されており、この部分では根石も控えを長く取る据付方であり、盛岡城２期の乱積Ｂに分類される。ただし、南面石垣において、この乱積みＡと乱積Ｂの境界は必ずしも明瞭ではない。修復範囲外ではあるが、廊下橋の真下付近がその境界線になりそうである。また、出角を中心とした改修箇所は、南面の天端で角から約６ｍ、東面石垣天端で角から２ｍほどの範囲である。特に南面石垣の出角近くでは、鑿加工も比較的顕著で、天端近くの築石には布積みに近い積み方も見られる。このことから隅角部分は18世紀～19世紀の改修部分と判断される。角石は概ね直方体に分割されており、矢穴は100㎜内外のものである。１期から２期の石垣角石が再利用されている。東面石垣には延享年間に付加されたハバキ石垣が２ヶ所存在して、大半が隠されているが、築城当初の乱積Ａ石垣または乱積Ａ´石垣が、石垣の下半部分を中心に残存するようである。それより上位の部分は第２期以後の改修部分と判断される。また、修復範囲外であるが、ハバキ石垣の北側部分では、３期以後の改修による布積Ｂとなっている。

背面工法　東面石垣は花崗岩真砂土の地山を急角度に根切して構築され、上部は背面盛土を伴いながら積まれている。石垣下部には石垣裏込石の充填と背面盛土が交互に行われている部分があり、裏込石と盛土境の断面が鋸歯状を呈する（第15図）。これは後述する本丸北東部の盛岡城１期石垣の背面盛土と裏込の関係と共通する工法である。また、南面石垣は地山を急角度に根切して構築されるが、上部の背面盛土は少なく、根切面と石材の間に裏込石を充填している。

なお、石垣石材の計測データが罹災しているため、石材の詳細については記す事ができない。

（２）下層の遺構（第14図）

盛　　土　石垣構築後の遺構で、最上面の盛土Ａ層に覆われた遺構である。Ａ層は瓦の破片を多く含む土層で、Ａ１層は赤褐色の花崗岩風化土と基本土に、黄褐色の粘土、または褐色の花崗岩風化土を混入する。Ａ２、Ａ３層は、暗褐色土と黄褐色または褐色土の混合土である。

ＳＫ201～206土坑

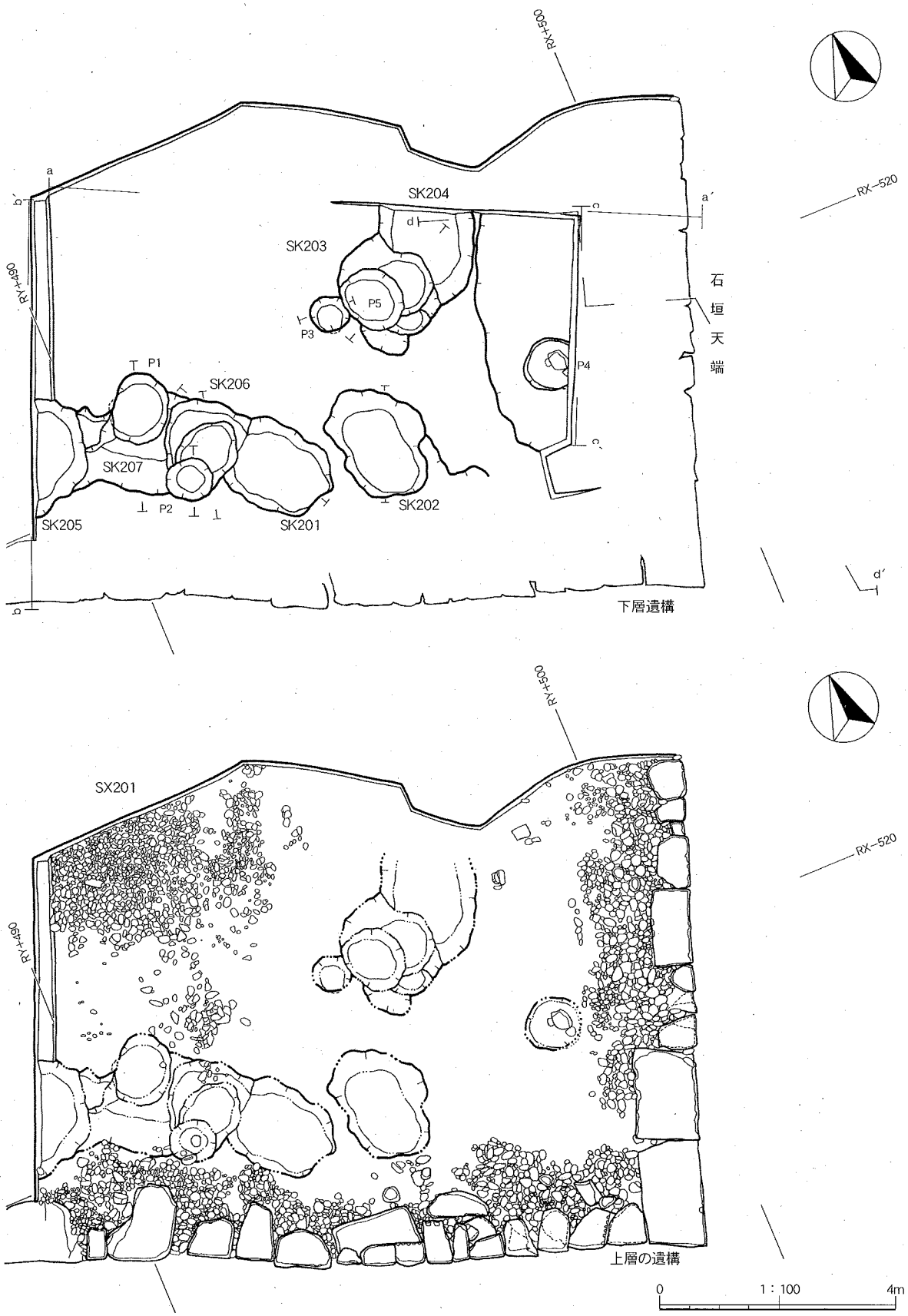
ＳＫ201土坑は長い軸1.7m、幅1.45m、深さ32cmの楕円形土坑で、ＳＫ206土坑を切っている。南東部は攪乱されている。埋土は人為堆積で、黒褐色土または暗褐色土と、黄褐色土ブロック、褐色土ブロックの混合土である。遺物は出土していない。

ＳＫ202土坑

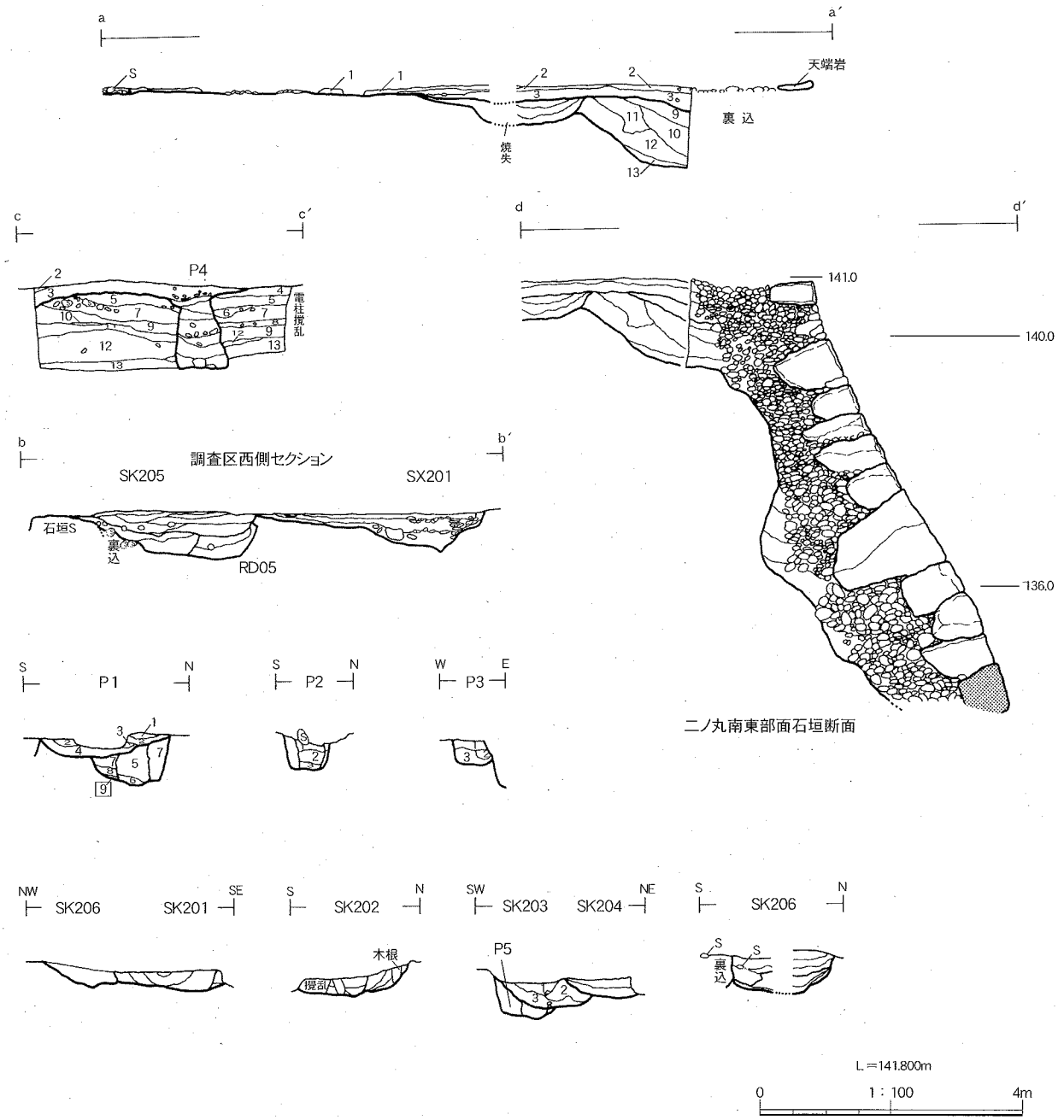
ＳＫ201土坑の東側にある。長軸2.1m、幅1.2m～1.5mの不正楕円形である。埋土は人為堆積で、黄褐色土と暗褐色土、黒褐色土の混合土である。埋土はしまりがよく、硬い。

ＳＫ203・204土坑

調査区北部に位置し、ＳＫ203土坑をＳＫ204土坑が切っている。ＳＫ203は長軸1.6m、幅1.45mの楕円形で、深さ54cm。ＳＣ201柱穴群のＰ４を切っている。埋土は人為堆積で、黄褐色土と褐色



第14図　二ノ丸南東部の遺構



第15図　二ノ丸南東部遺構土層断面図

土主体で、暗褐色土の粒状の混合土である。ＳＫ204土坑は調査区外に伸びる遺構で、長軸1.6m以上、幅1.58mの楕円形土坑である。埋土は褐色土主体、黄褐色土が粒状ないし塊状に混入する。

ＳＫ205土坑

調査区西端にあり、埋土上部を盛土Ａ層が覆っている。埋土の堆積状況から、複数の土坑が重複している可能性もあるが判然としない。西側半分ほどが調査区外であり、確認した規模は、東西90cm以上、南北2.05mで、深さは68cm。円形または楕円形プランと考えられる。埋土は褐色土と黒褐色土、暗褐色土の混合土である。

ＳＫ206・207土坑

ＳＫ206土坑はＳＫ201土坑に東側を切られている。また、この土坑とＳＫ205土坑との間には、ＳＫ207土坑が存在するが、この土坑とＳＫ205・206土坑との新旧関係は不明確である。ＳＫ206の規模は径1.5mの不整円形で、深さは60cm、埋土は黄褐色土と褐色土、暗褐色土の混合土で人為堆積である。ＳＫ207は南北1.9m、東西２m以上の不整形な土坑で、深さは25cm内外、ＳＣ201柱穴群のＰ１を切っている。埋土は褐色土と黄褐色土、暗褐色土の混合土で人為堆積である。

ＳＣ201柱穴群

調査区内から５つの大形柱穴が確認された。規模は径70cmから1.2m、深さは40cmから1.2mである。配置に規則性は見られないが、何れも盛土Ａ層よりも下層で確認されている。このうち、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ５では柱痕跡が断面で確認されている。また、Ｐ４では土層断面が柱穴中央部から外れたために柱痕跡の断面は確認されなかったが、柱穴の底面中央に礎板状の平らな石が設置されており、これにより柱穴と判断した。柱痕跡は黒褐色土が基本土で暗褐色土や褐色土が粒状に混入する。掘方の埋土に比べて、やや締りが弱く、やわらかい。柱穴掘方の埋土は褐色土や黄褐色土の粒状または塊状の混合土である。

（３）上層の遺構（第14図、15図）

ＳＸ201瓦溜り

調査区北西部に確認された瓦溜りである。東西４m、南北３mの範囲に瓦が堆積しており、北西方向に調査区外に拡がるものである。調査区西端のトレンチでは、瓦の堆積の下に、深さ60cmの掘り込みを確認している。検出範囲では赤瓦は認められず、燻瓦などの平瓦、丸瓦、塀瓦の破片が多数出土している。この遺構は石垣解体工事の掘削範囲から外れるため、瓦の掘りあげは行わず保存した。検出面で取り上げた瓦は小破片が多く、図示できるものは少ない。遺物で図示したものには第78図27の丸瓦がある。検出遺構では最も新しく、明治７年（1874）の城内建物破却に伴う瓦溜りと推定される。

２　本丸北東部の調査（第20次・22次・22次補足調査）

位　　置　二ノ丸南東部とは堀切を隔てた位置にあり、本丸廊下橋門東側の多聞櫓、隅櫓の存在したところである。調査はこの櫓跡と本丸御殿北東部。本丸石垣とその下層遺構。石垣下の冠木門跡、二ノ丸石垣との間の堀切底面を対象に実施した。この石垣は著しい孕みを見せており、角石の描く隅角部の稜線は、その下部で「く」の字に曲がるほど変形していた。石垣解体後、この石垣根石が、中世不来方城の堀に堆積した、軟弱な土層の上に設置されていることが判明し、石垣の基礎地盤を強固にするため、軟弱な堀の埋土を入れ替えることになり、この部分も遺構精査の対象となった。また、現状の石垣の内側から、より古い石垣の根石が確認された。さらに、現在の石垣根石の下層からは、古い石垣に伴う門の遺構が確認された。これらは層序や遺構相互の重複関係から、南部氏による最初の築城段階の遺構と判断した。この遺構の下層には戦国期の堀が存在し、埋土はヘドロ状の黒色

土で軟弱である。調査の結果新旧２時期の堀のプランが確認され、古い堀の埋土は比較的硬く、精査は行わなかった。不来方城期の堀のうち、新しい時期の堀の埋土はすべて掘り上げて、栗石を充填し、石垣地盤の強度を確保した。

（１）不来方城期の遺構（第16図～18図）

曲輪の造成状況

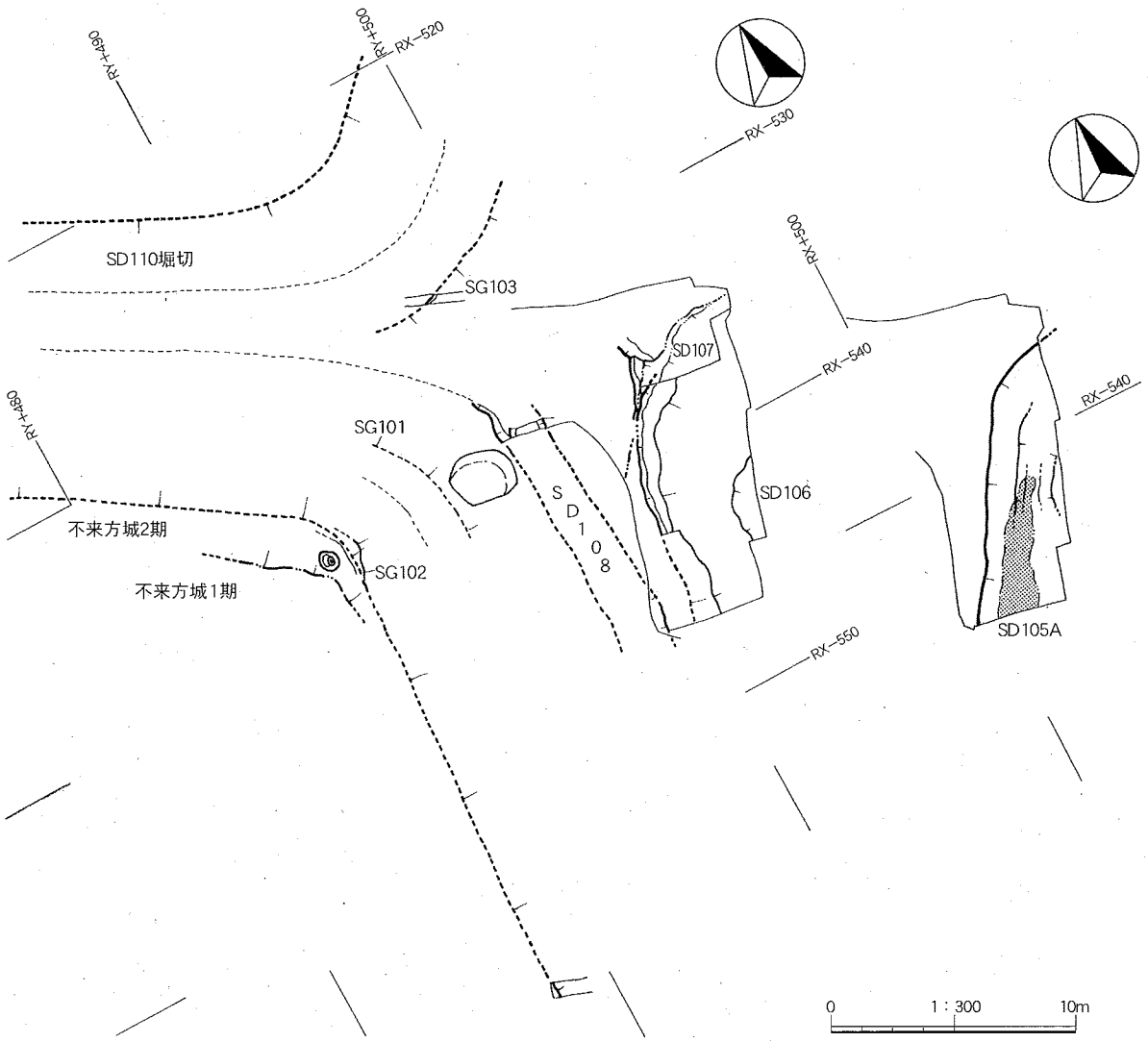
近世盛岡城の本丸部分は、中世不来方城淡路館（南館）の主郭である。現在本丸地表面の標高は142m、北側多聞櫓の部分では標高144.2mである。地山は花崗岩の赤色風化土、または黄褐色風化土であるが、後述するＳＢ170多聞櫓の櫓台石垣内部では、地山の最高点の標高は143mで確認している。不来方城期の遺構については、石垣修復のための掘削範囲内に限定された調査であり、盛岡城築城によって失われた部分が多いため、プランについては断片的に確認されているに過ぎない。第16図や第17図に示したプランは、実際の確認された遺構と、周辺遺構や地形との関係から推定した部分が多い。

曲輪の造成　曲輪の造成は新旧２時期確認されており、旧期（２ａ期）は地山を削り出して造られ、新期（２ｂ期）は旧期の外側に盛土をして、曲輪を一回り大きく拡張している。旧期、新期ともに斜面中腹に犬走りが伴う。旧期のＳＧ102犬走りは幅30cmから50cmの小段であり、南側延長は調査範囲外へと伸び、北側は盛岡城２期の石垣構築時に切り落とされているが、延長部分が廊下橋方向に屈曲して回り込むプランで確認されている。このことから、現状の石垣による堀切の位置に、同じ方向での堀切が存在したことが解る。この小さな平坦面の標高は141.05m～141.15mである。この上面は不来方城２期の曲輪造成時の盛土に覆われている。２期のＳＧ101犬走りは幅約1.6mで、これは石垣解体工事掘削法面による土層断面のみで確認している。この平坦面の標高は138.7mである。不来方城２期のＳＧ101犬走りは、盛岡城１期の本丸造成に伴う盛土層に覆われている。

盛　土　層　主郭（本丸）拡張に伴う２期の盛土層は、本丸側から流しこまれたような堆積を示し、Ａ層は黒褐色土主体で、暗褐色土の粘質土がブロック状に混入する。Ｂ層は暗褐色土と黒褐色土混合土で、花崗岩赤色風化土も混入する。比較的締まりと硬さがある盛土である（第24図）。

ＳＤ110堀切（第26図）

盛岡城１期、２期の、石垣によるＳＤ100堀切の前身となる堀切で、この底部が廊下橋下の第20次調査区の西端で確認されている（第26図Ｃ－Ｃ´）。幅2.4mの平坦な底面で、この箇所の標高は138.4mである。石垣を伴わない、素掘りの堀切で、大半はＳＤ100堀切によって、壁を切り落とされ、削平されている。堀切の底部と本丸や二の丸地山との関係から規模を復元すると、堀切の幅は廊下橋付近で11m余り。深さは本丸側から5.5m、二の丸側からからは2.5mから３mである。新期と旧期とでは規模が異なるとも考えられるが、確かではない。底の幅のある箱薬研掘で、本丸側の壁面中腹には犬走りが伴う可能性がある。堀切底面に堆積した土は暗褐色土主体で、花崗岩赤色風化土や黄褐色風化土を多く含む土層である。

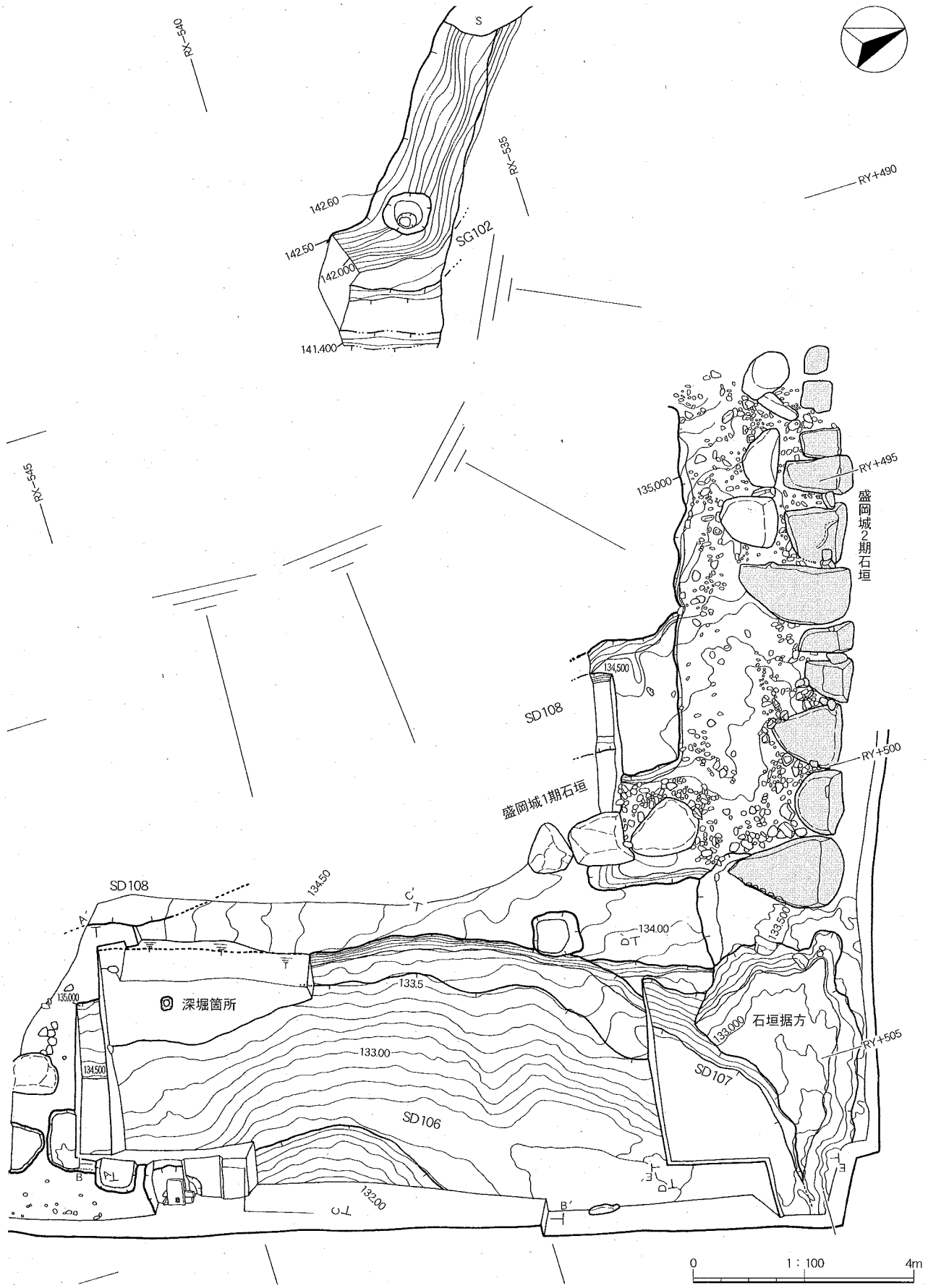


第16図　不来方城期の遺構

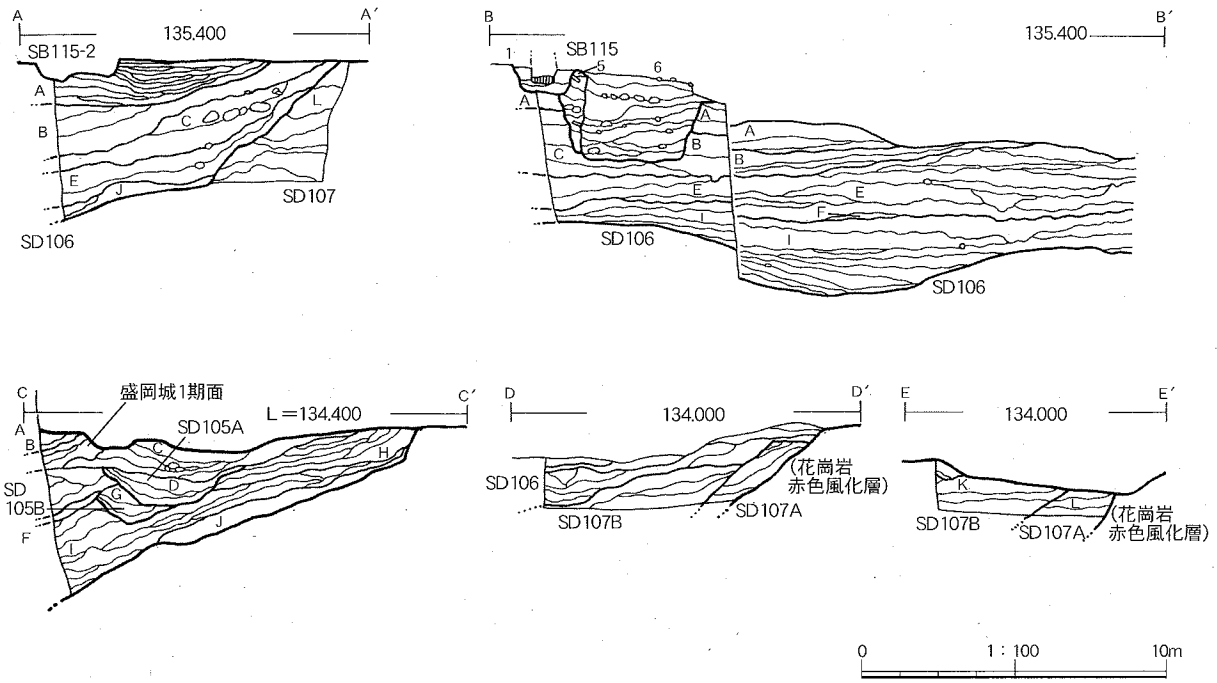
ＳＤ105、106、107堀（第16図～18図）

この３条の堀は、ほぼ同一位置に重複する堀で、ＳＤ107→ＳＤ106→ＳＤ105の準に変遷する。特にＳＤ106とＳＤ107は、同一堀内の埋没過程における、面の違いの可能性もあるが、堀の壁の方向が異なるため、ここでは別遺構として把握し、報告する。

ＳＤ105　ＳＤ105堀は、ＳＤ106堀の埋土精査中に確認した溝である。当初、人頭大の礫が多数堆積した落込みが確認されたが、ＳＤ106の埋土の堆積の最終段階ととらえて進めたため、土層断面で堀の存在を確認した時点では、堀の壁面や底面は一部を残して掘り下げてしまっていた。このため、ＳＤ105Ａについては、平面プランの一部を確認しＳＤ105Ｂについては、土層断面を確認できたにすぎない。ただし、この２条の大溝については、調査区の調査区中央部の土層断面付近では確認できているが、南側や北側の土層断面では、明確なプラン、断面を確認できていない。この２条の溝はＳＤ106堀の埋没過程で開削されており、ＳＤ105ＢはＳＤ106堀のＥ層上面から、ＳＤ105ＡはＳＤ106のＣ層上面から掘り込まれている。ＳＤ105Ａは幅1.58m、底幅80cm、深さ50cmの逆台形の断面で、大溝の方向はＳＤ106堀に近似している。埋土は自然堆積であり、黄褐色土が少量混入する黒褐色土または暗灰褐色土が主体である。３層に細分される。ＳＤ105Ｂは幅1.2m以上、深さ48cm



第17図　SD106、107、108堀　SG102犬走り平面図



第18図　SD105、106 、107堀　土層断面図

で、断面はU字形である。埋土は自然堆積で暗褐色土の混入する黒灰褐色土である。3層に細分される。

ＳＤ106　ＳＤ106堀はＳＤ107堀が半ば埋没した段階で開削された堀である。弓形に湾曲した堀の内側の壁面を確認している。堀は北東側へと回りこんでおり、近世の御台所平坦部の南西隅付近に向かっている。南側は湾曲して南東側へと伸びているらしく、その曲がり方から、近世腰曲輪北端の半月形の平坦地南側法面に続くらしい。大半が調査区外に拡がる遺構で、詳細な規模やプランは明らかでないが、周辺地形との関係から、幅は８ｍ～10m、深さは３ｍ程度と推定される。埋土中位はＳＤ105ＡとＳＤ105Ｂに掘り込まれている。壁の上部には幅50cm ～１ｍ程度の犬走りが伴う。

埋土は、最上層のＡ層は人為堆積土であり、浅黄橙色の花崗岩風化土主体で暗褐色土のブロックが混入する土層で12層に細分されている。Ｂ層からＧ層の大方の部分は自然堆積層である。Ｂ層は黒灰褐色土が主体。Ｃ層は暗褐色土から黒褐色土主体、Ｄ層は暗灰褐色土主体、Ｅ層は黒色土または黒褐色土主体で、15cm ～30cm 大の円礫が多数堆積している。Ｆ層は黒褐色土と黒灰褐色土の混合土主体。Ｇ層は黒褐色土主体でグライ化が進んだ土層である。Ｂ層からＧ層は軟弱な土層であり、修復石垣の地盤強化のため、調査範囲内のこの土層は、全て除去した。

ＳＤ107　ＳＤ107堀はＳＤ106堀の下層に存在しており、壁の一部を確認したのみであるが、壁面は花崗岩の赤色風化土で固く締まっている。壁の方向は、北部はＳＤ106とほぼ重なるが、南部は直線的で近世の御末門の方向に進むようでありＳＤ106よりも南西方向に逸れていくらしい。ＳＤ106堀よりも深く大規模と推定されるが、深さや幅は不明である。また、Ｊ層も壁を形成する土層と見られ、ＳＤ107も新旧２時期に変遷している可能性がある。調査区南西隅と北部の２箇所で、ＳＤ106堀の壁を掘り込み、埋土の一部を調査している。

埋土はＳＤ106からの連続層名で記述する。Ｈ層は暗い茶褐色土主体で、浅黄橙色の花崗岩風化土や黒褐色土が混入する。Ｉ層は暗褐色土と花崗岩赤色風化土、浅黄橙色の花崗岩風化土が多く混入する土層。Ｊ層は花崗岩の赤色風化土主体で、暗褐色土や浅黄橙色の花崗岩風化土が少量混入する。精査した範囲では、ＳＤ107の埋土は良く締まり、硬い。

出土遺物　南端の深堀部分Ｈ層から、第70図７の瓷器系の甕口縁部、同じく10の瀬戸窖窯期の鉄釉瓶子底部

が出土している。また、ＳＤ106埋土のＥ層～Ｇ層より、第70図11と12の瀬戸美濃灰釉皿が出土している。なお、図示していないが、埋土中から縄文時代早期の条痕文土器の破片が出土している。

ＳＤ108堀（第16図～18図）

ＳＤ108は主郭東側裾を廻り、西側に湾曲してＳＤ110堀切に連続していたものであり、ＳＤ107堀を切っている。大半が盛岡城１期の石垣構築時に破壊されているが、堀の内側の壁と底部が残存している。底は２段になっているが、最低部の幅は２ｍである。ＳＧ101犬走りの面から、この堀の底面までの深さは4.4mである。堀の断面形状は箱薬研堀である。なお、堀の壁面中腹には、径３ｍ余の花崗岩転石が大きく露出している。

この堀の埋土は、Ａ層は人為堆積で、黄褐色土と暗褐色土の混合土。Ｂ層はややグライ化した暗褐色土が主体で、これに黒褐色土や褐色土が混入する。

（２）盛岡城１期の遺構（第19図～21図）

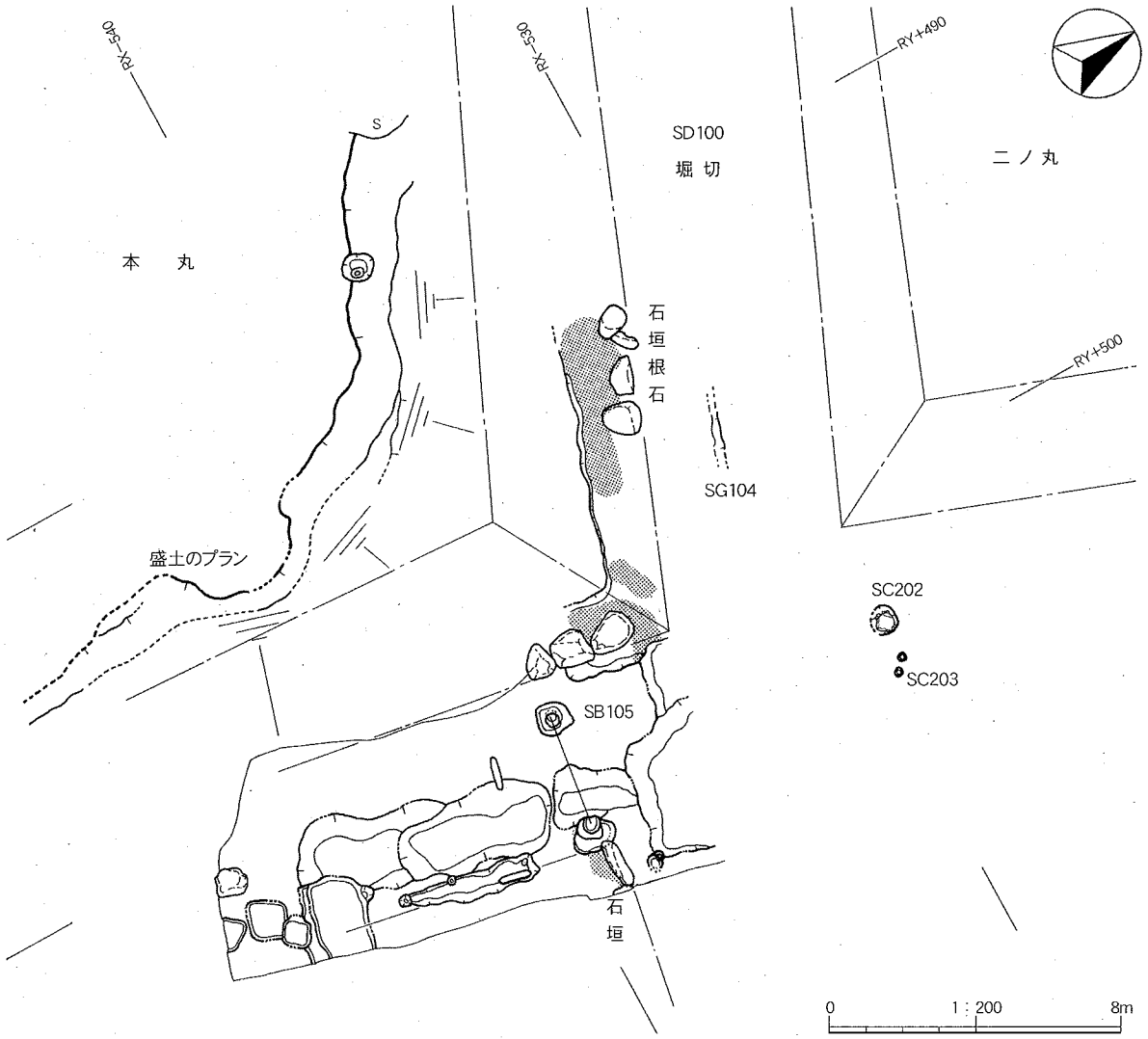
曲輪の造成状況（第24図）

盛岡城２期の石垣解体後に確認された、盛岡城１期の盛土の地形は第19図に示したとおりである。盛土上部のＡ層、Ｂ層に花崗岩赤色風化土が多く入っていることから、不来方城期の主郭を大きく削平して造成している可能性がある。この時期の本丸には、後述するように石垣が構築されている。曲輪造成の盛土は、そのまま石垣背面の盛土層である。また、主郭下のＳＤ105、106は埋没し、盛土が行なわれ、本丸御末門に上る坂道になり、虎口が構えられる。

１期石垣（第20図、21図）

盛岡城２期の石垣の内側から確認された、本丸東面、北面の石垣と、２期以後の冠木門坂道の地下から確認された、虎口の石垣である。本丸北東部を形成する石垣は、野面石の根石６個が確認されている。６個のうち２個は石材の控えを幾分長くとっているが、４個は石材の長い面を表に見せる形で設置され、石の控えは短い。石垣背面の根切は、ＳＤ108堀を切っており、この石垣の表側は盛岡城２期の石垣構築により壊されている。石垣背面盛土や裏込の状況は、二の丸東側石垣と同様、盛土と裏込を交互に積み上げていく工法であり、石垣盛土断面（第24図１期盛土Ｆ層からＩ層）でその状況が観察できる。

盛　土　層　盛土の土質はＡ層が赤色の花崗岩風化土主体で、浅黄橙色の花崗岩風化土、暗褐色土が混入する。Ｂ層は暗褐色土主体で、これに黄褐色土、赤色花崗岩風化土、淡い黄橙色の花崗岩風化土が混入するＣ層は鈍い黄橙灰色土に赤褐色花崗岩風化土が混入する。Ｄ層は暗褐色土に赤褐色花崗岩風化土や黄褐色土、褐色土がブロック状に混入する土層、Ｅ層は褐色土と黄褐色土、赤褐色花崗岩風化土の混合土、Ｆ層は暗褐色土と褐色土混合土である。Ｇ層は褐色土と赤色風化土の混合土。Ｈ層は黒褐色土と褐色土の混合土。Ｉ層は褐色土と暗赤褐色土の混合土である。

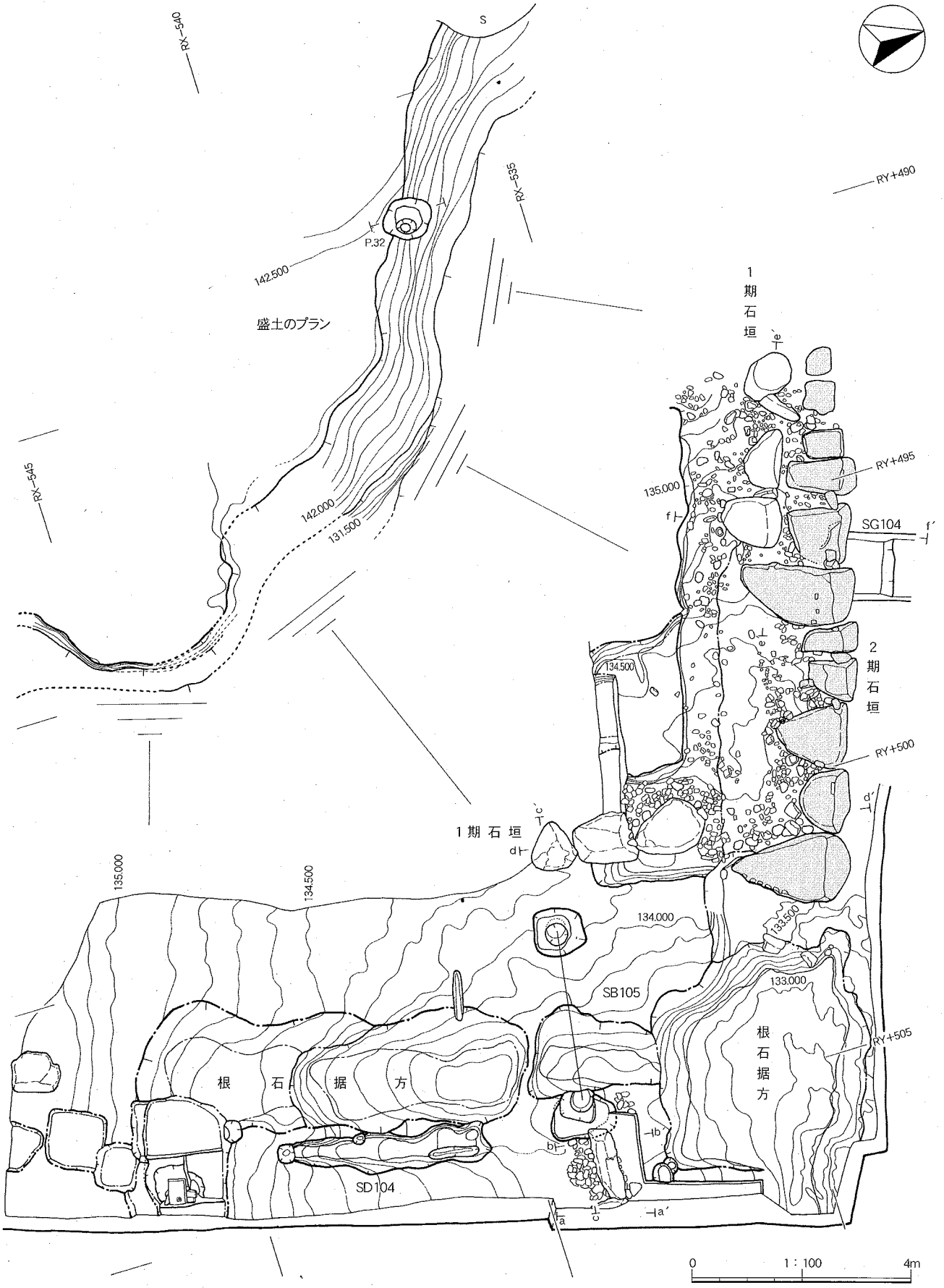


第19図　盛岡城１期の遺構

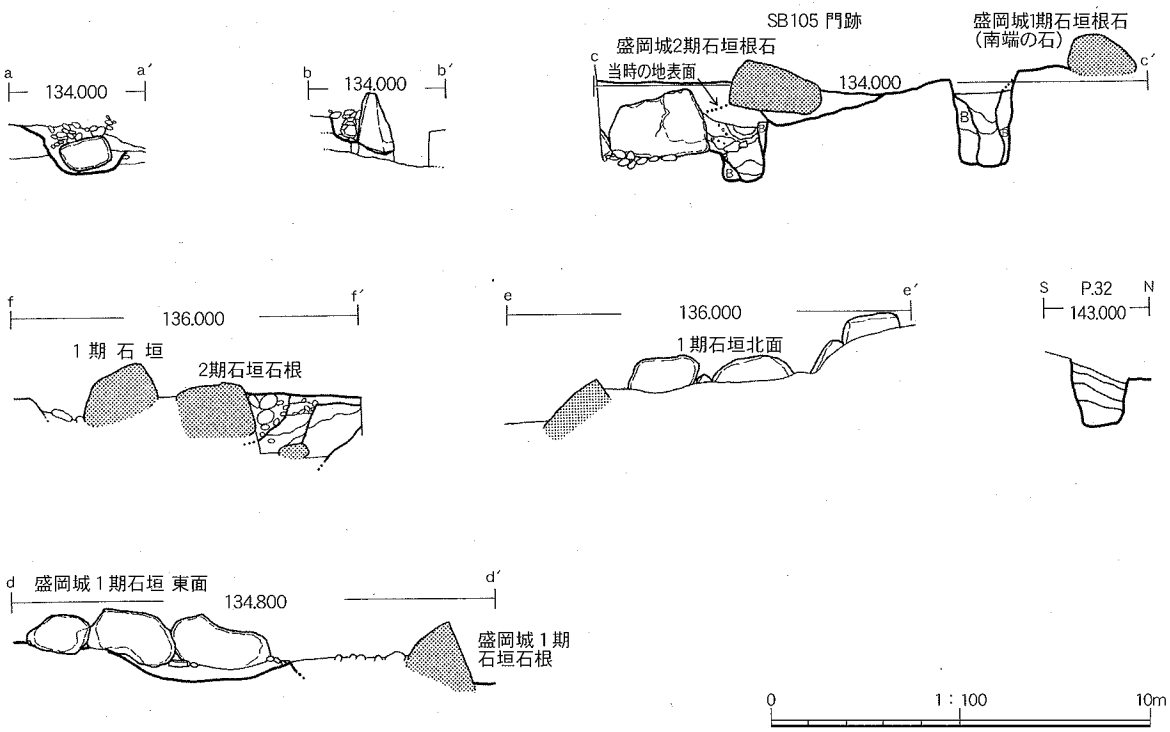
石　　垣　虎口の石垣は、野面石２個が確認されている。門側の平たい石材は角石で、大面（広い面）を表に見せて、立てて設置されている。裏込の栗石層は20cm から40cm である。

ＳＤ104溝（第20図）

虎口の石垣に直交し、門反対側の石垣と併行している短い溝状の遺構である。溝の内部３箇所に小柱穴があり、板材などを留める杭であろう。遺構の形態とその位置から、門、石垣と共に虎口を形成する遺構の一つであり、虎口石垣に連続する、土手（土塁か？）の土留痕跡であろう。内部に小柱穴があり、板材などを留める杭であろう。遺構の形態とその位置から、門、石垣と共に虎口を形成する遺構の一つであり、虎口石垣に連続する、土手（土塁か？）の土留痕跡と推定される。



第20図　盛岡城1期石垣　SB105門跡、SG104段築平面図



第21図　盛岡城1期遺構土層断面図、石垣立面図

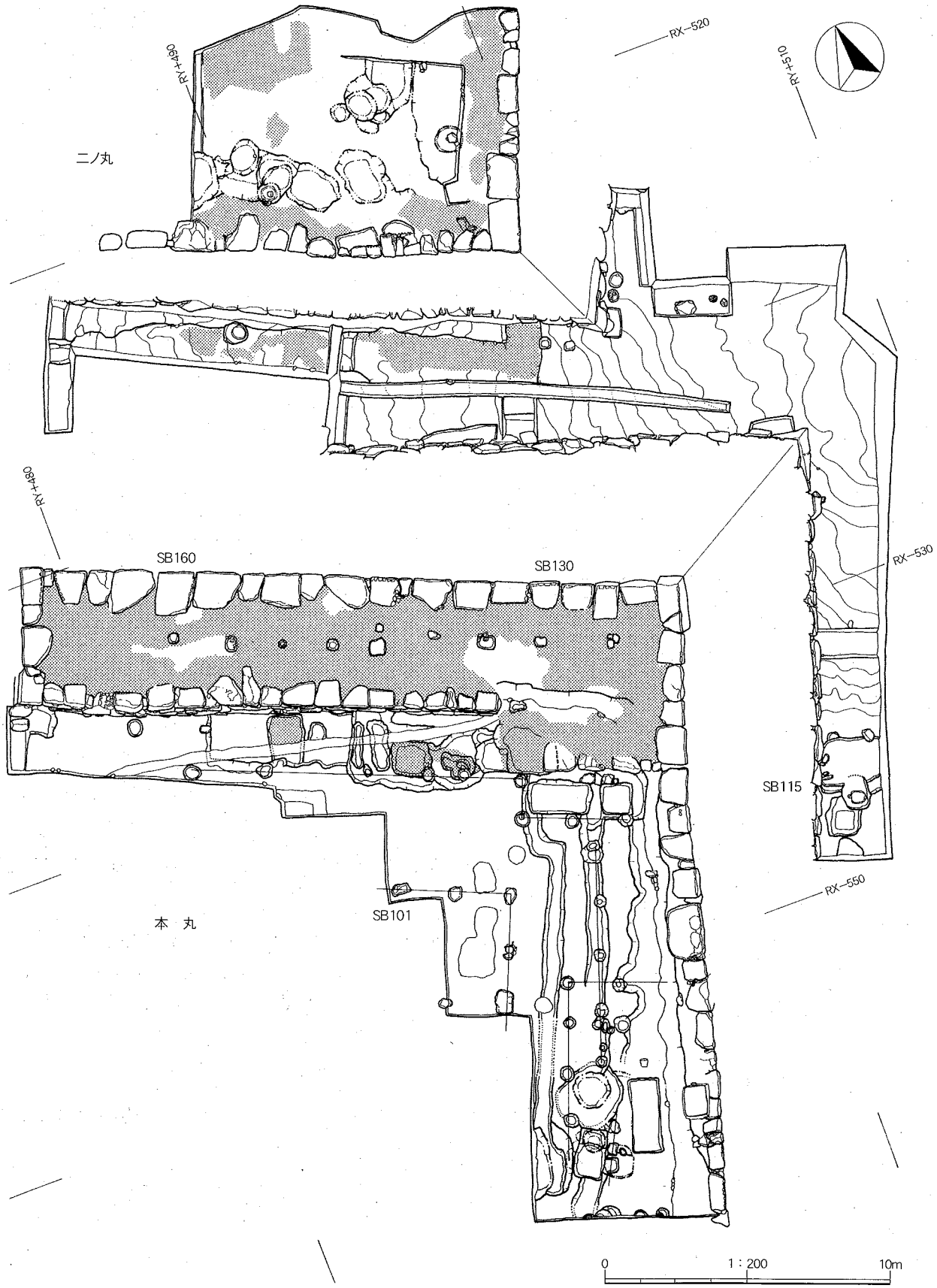
ＳＢ105門跡（第19図、20図）

石垣の間に確認された、２口の柱穴からなる、掘立柱の門跡である。西側のＰ１は平面80cm四方の方形、東側のＰ２は60cm×70cmのやや不正方形で、Ｐ２は柱穴上部を柱の抜取り穴により壊されている。各柱穴には径36cmの丸い柱痕跡が確認されている。Ｐ１の柱痕跡は、石垣根石から96cm離れており、Ｐ２の柱痕跡は、石垣角石から30cm離れている。門柱の間隔は、柱の芯々で3.04mである。柱穴の埋土のうち、柱痕跡はやわらかめの暗褐色土主体、柱穴掘形埋土は小礫の混入する暗褐色土と褐色土混合土である。

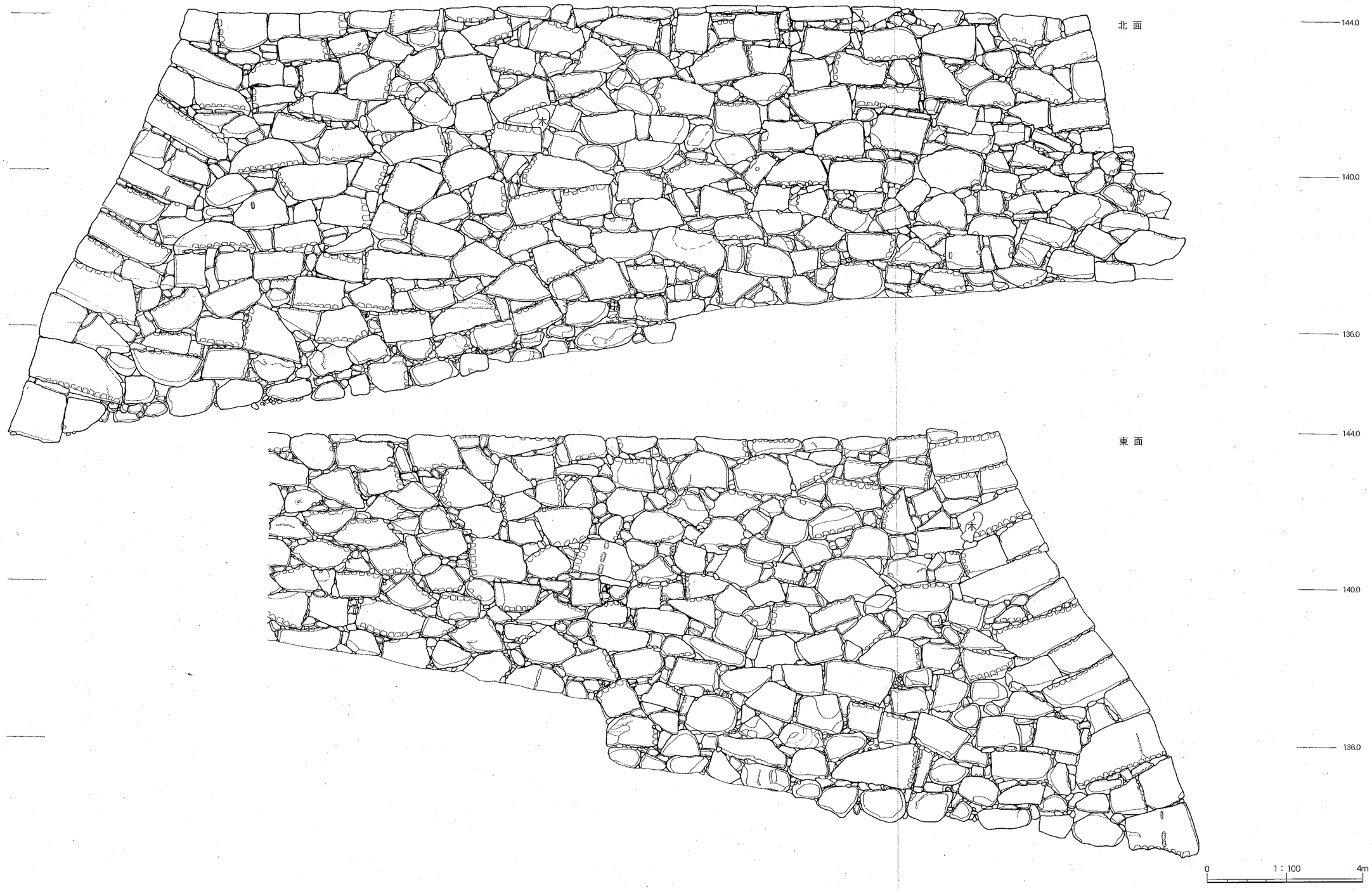
ほかに、門から内側1.9mの位置に、門と併行する幅18cm、深さ８cmの小さな溝が存在する。この溝の東側は盛岡城２期の石垣根石の据方に切られている。根太のようなものの痕跡と考えられるが、明確ではない。

ＳＣ202礎石、ＳＣ203柱穴（第26図）

ＳＤ100堀切の東端部、二の丸南東部下の盛土下から確認された。層位から盛岡城１期または２期に伴う建物の礎石である。近接して２口の小柱穴が存在する。



第22図　本丸北東部、二ノ丸南東部平面図



第23図　本丸北東部盛岡城2期石垣立面図

（3）盛岡城２期及び２期以後の遺構

曲輪造成状況（第19図）

盛岡城１期の石垣よりも外側に石垣を築き、現状で見られる本丸北東部の石垣が構築される。

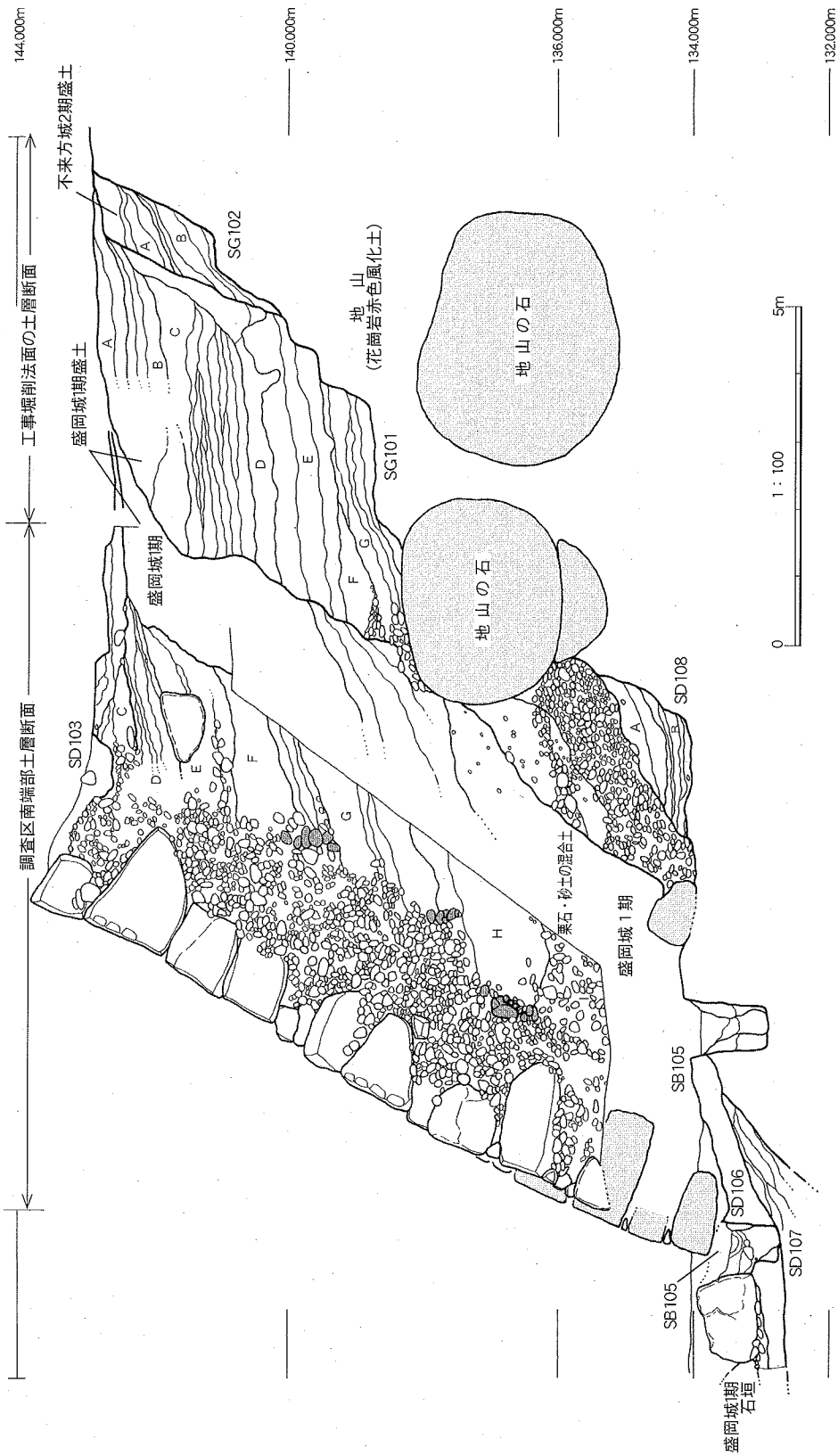
盛岡城２期本丸北東部石垣（第23図）

石垣の構築　本丸北東部石垣のうち、北面石垣は第１期石垣のすぐ前面に構築され、東面石垣は約５ｍ外側に構築される。１期石垣のほとんどを解体して構築される。北面石垣は地山の花崗岩赤色風化土を階段状に切土して整形しているのが断面観察で確認している（第11図版）。石垣はその法面と石垣築石との間に、拳大程度の栗石を裏込に充填して構築される。北側ＳＢ160多聞櫓の西部では、人工の盛土は僅かであり、地山の花崗岩赤色風化土を削りだして石垣や櫓台を構築している。このことから、盛岡城１期の本丸北東部や北側の石垣も、２期の石垣と同等の高さがあったことが判る。また東面の石垣は、１期石垣の上に盛土を行い、構築されている。この根石は第１期のＳＢ105門跡付近を掘り込み、不来方城２期のＳＤ106堀の埋土上面に据付けられている。

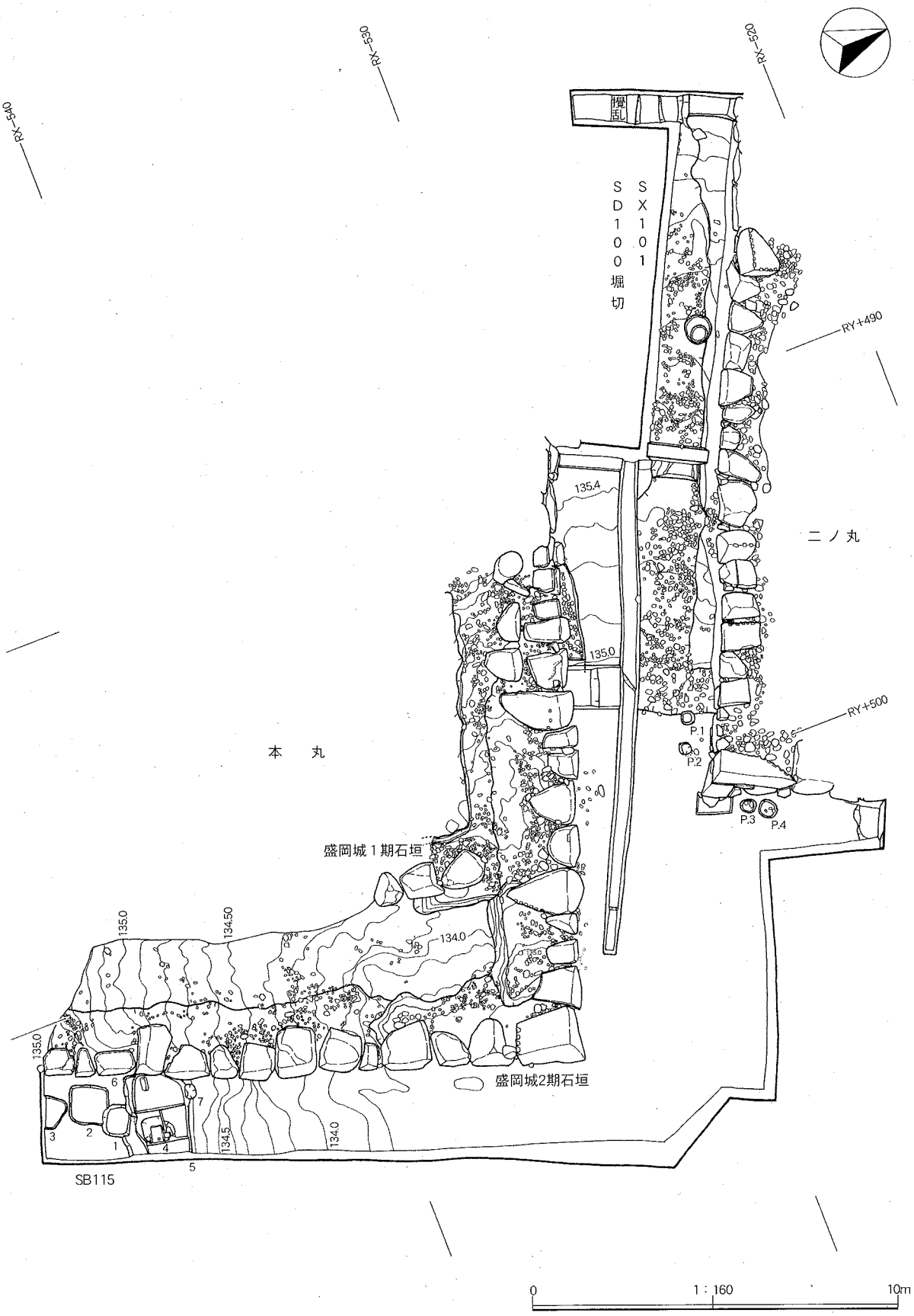
盛　　土　盛土のうち、Ａ層は本丸北東部の上面に薄く広がる、硬い黒褐色土主体で暗褐色土や褐色土が粒状に混入する層である。Ｂ層は暗褐色土と褐色土の混合土。Ｃ層は暗褐色土主体で、褐色土や花崗岩赤色風化土が混入する。Ｄ層は灰褐色土主体で赤色風化土や褐色土が混入する。Ｅ層は砂質の明るい灰褐色土主体で、赤色風化土や褐色土が塊状に混入する。Ｆ層は明るい褐色土主体で、褐色土や赤色風化土、黒褐色土が粒状ないし塊状に混入する。Ｇ層は鈍い青灰褐色の砂質土主体で赤色風化土が少量混入する。Ｈ層は鈍い青灰褐色砂質土主体。Ｉ層は鈍い青灰褐色土と赤色風化土の混合土。Ｊ層は青灰褐色砂質土主体。Ｋ層は青灰色砂質土主体。Ｌ層は青灰色砂質土と暗褐色砂質土主体で、裏込と同様の栗石が多く混入する。

石垣の高さ　石垣の高さは隅角部で11m、廊下橋門脇で７ｍ、冠木門の位置で8.6mほどである。隅角部付近は下から３分の１ほどのところで著しく孕みだしており、当時の正確な勾配は不明確であるが、石垣全体の形状から見て、下から63度～66度の勾配で直線的に立ち上がり、上部３分の１か４分の１ほどの部分で緩く反りを持たせていたと考えられる。石垣の石材は、自然石を荒く分割した割石が主体である。根石部分に野面石が多用されているのは、１期石垣の石材を転用した可能性がある。２期石垣の石材は、この丘陵の地山の中に含まれる転石を分割したものであることは、多くの石材に、丸い自然面が残っていることからも明らかである。角石は、直方体に近い形状に分割されたものも存在するが、比較的下部の角石には、自然面の丸い面を残した石材や、やや不定形な角石も多く見受けられる。矢穴は口の広さが130㎜や140㎜を超えるものがほとんどで、中には180㎜前後の大形の矢穴も存在する。また、角石に鑿調整の痕跡は認められない。この点、同じ乱積Ｂの石垣であっても、第１期整備事業で修復した、腰曲輪石垣とは、やや趣が異なる石垣となっている。

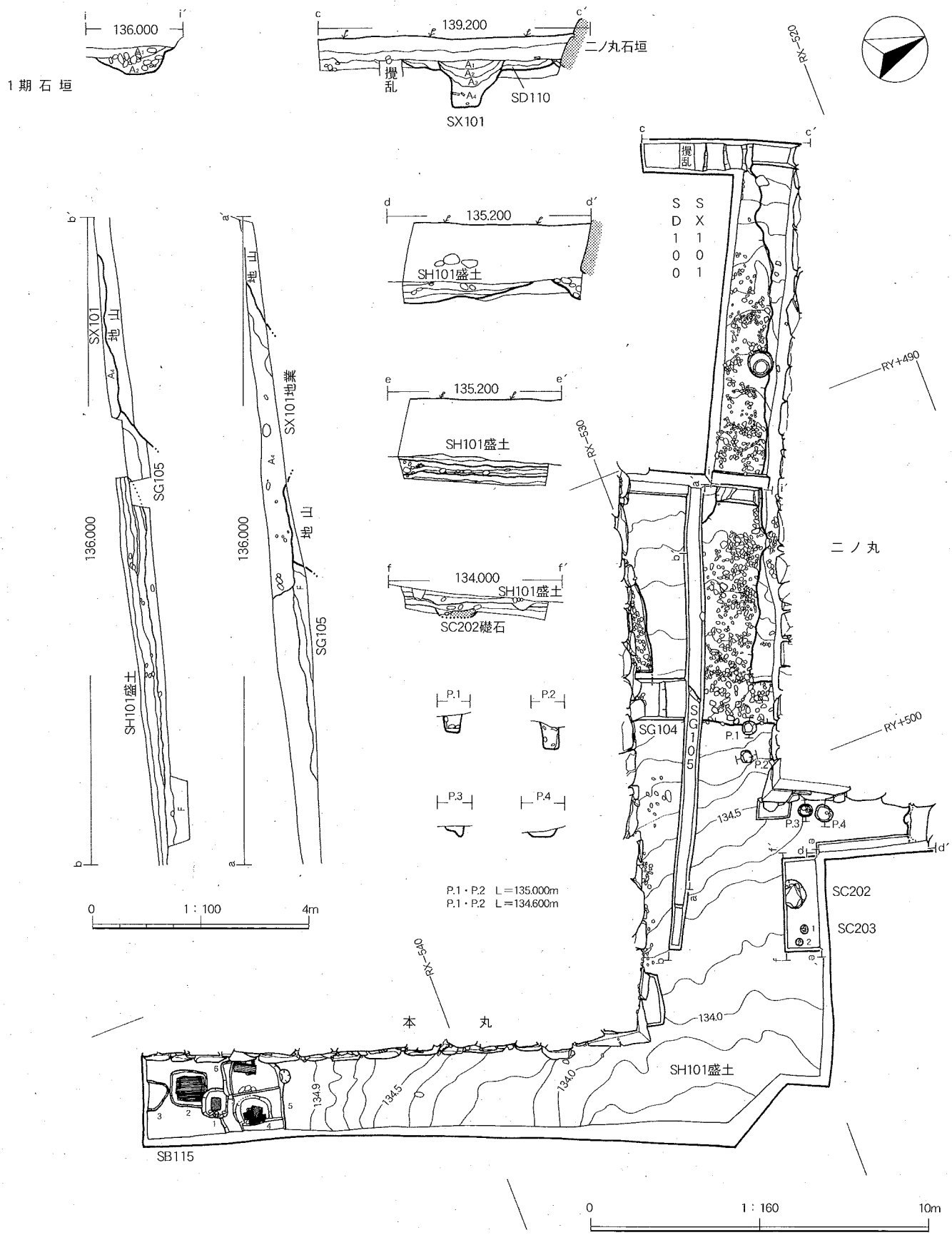
石材の多くは、その前面の大きさよりも控えを長く取る形状に分割されているが、図で見る如く、



第24図　本丸北東部土層断面図集成図



第25図　本丸北東部 二ノ丸南東部石垣根石平面図

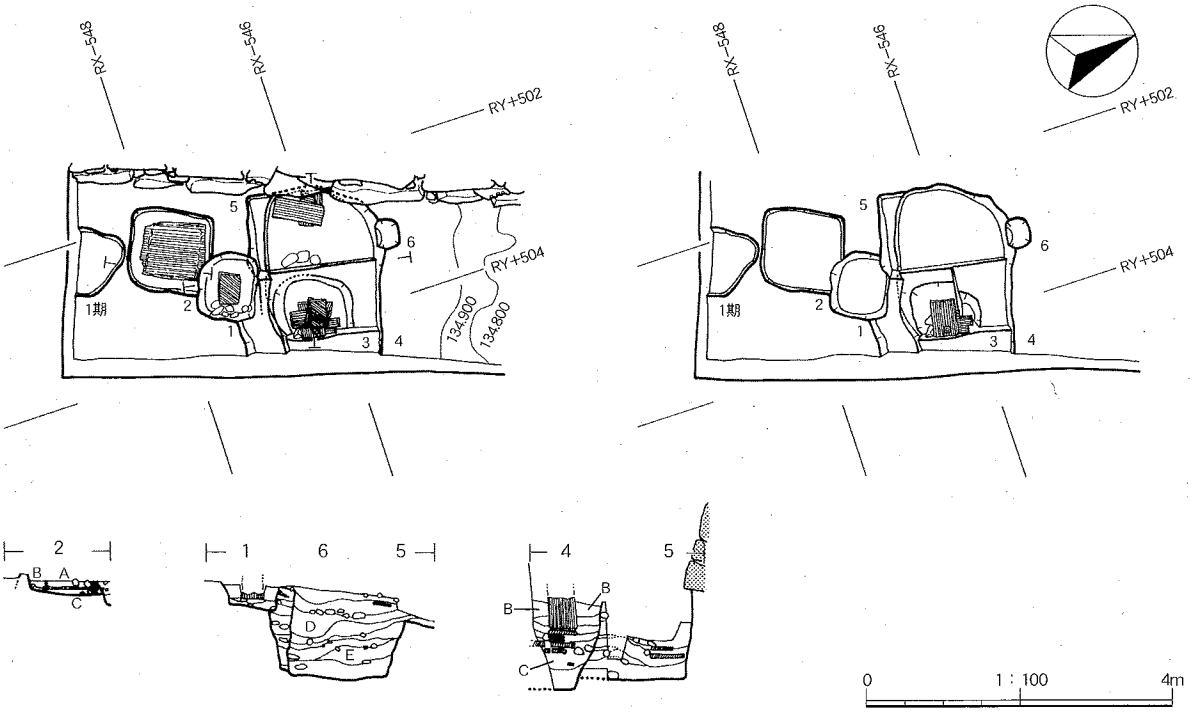


第26図　本丸北東部石垣下の遺構

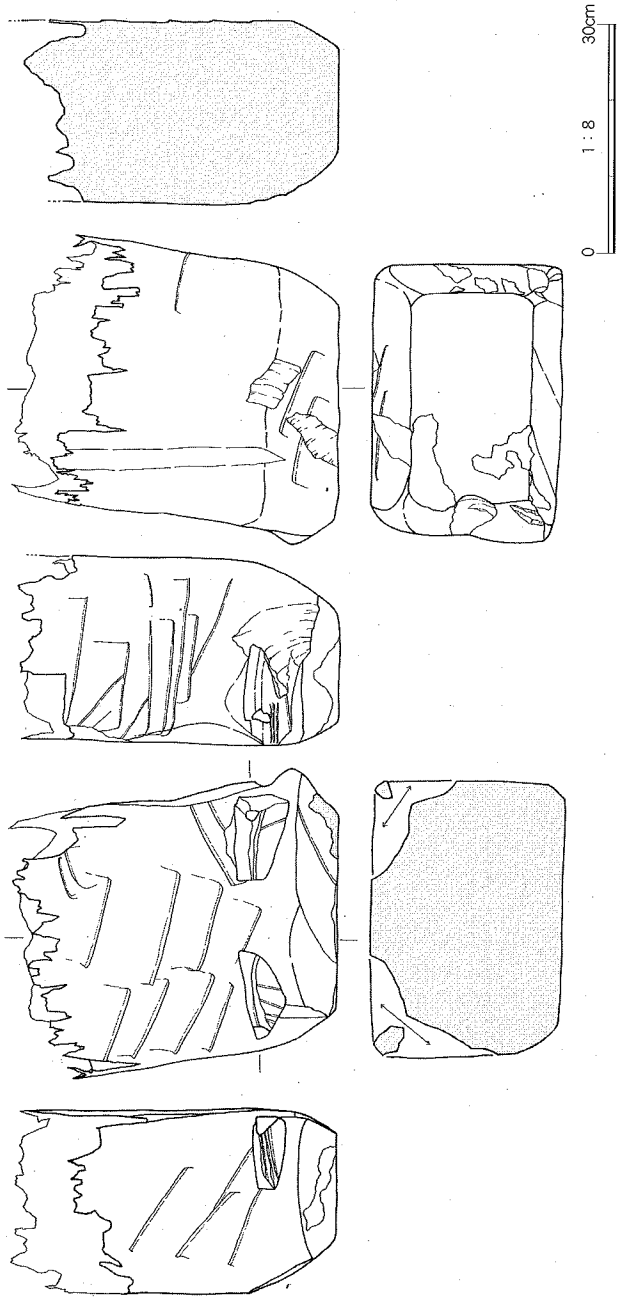
石材の大きさや形状は不揃いであり、控えの長さや石材の形状により、使用位置は異なっている。第62図には、控えの長さ別にみた分布状況、第63図には、石材の表面の大きさに対する、控の長さの割合による、石材形状別の分布状況を示した。図で見るように、大形で控えの長い石材や、控えを長くとった形状の石材は、比較的バランスよく分散して配置されている。これは所々に控えの長い石材を配置することにより、石垣の重心を、全体的に石垣背面側に持たせて、石垣全体を安定させるための工法と考えられる。本丸内面の石垣についてはＳＢ130隅櫓とともに説明する。

ＳＢ115冠木門跡（第25図、28図）

本丸御末門に登る坂道の中途に存在した門であり、絵図では冠木御門或は冠御門と記された門である。本来左右一対の柱で門を構成していたが、調査区の関係から本丸側の柱穴のみ確認した。柱穴のうち、Ｐ１の柱痕跡内には、24cm×38cmの、腐食の著しい柱の下端部分が残存していた。Ｐ２は方形の深さ10cmに満たない、浅いピットの底面に、72cm×81cmの方形の板が置かれており、65cm×70cmの方形に鉄製の釘の列が残っている。上面の検出時には、釘列の輪郭のように酸化鉄分のプランが認められた。木箱のようなものを設置した土坑の可能性もあるが。周囲が削平されている可能性もあることや、この板が礎板で、門柱の根元を鉄板で巻いていた可能性も考えられるので、とりあえず門柱穴として報告する。また、Ｐ２の南側調査区壁面に不整形な穴が確認されたが、これは第２期石垣根石の据え方に切られている。重複する柱穴のうち、Ｐ１はＰ２とＰ５を切っている。Ｐ５はＰ４に切られ、Ｐ４はＰ３に切られている。Ｐ６とＰ５の新旧関係は把握できていない。Ｐ５とＰ４の柱穴は、東西に細長いプランで掘られており、ほぼ同位置で重複し、Ｐ５は南側の壁がわずかに残るのみである。Ｐ４は石盛岡城２期の石垣根石下をオーバーハングしており、底部近くに礎板が残存する。Ｐ３はＰ４の埋土と底部を掘り込んでいるが、底面よりも44cm浅く礎



第27図　SB115冠木門跡



第28図　SB115冠木門 門柱

板が３枚重ねられ、その上に門柱（第28図）が残存していた。門柱は栗材（株式会社ニッテツ・ファイン・プロダクツによる）で、側面は斧仕上げされ、メド穴が残存している。柱の下面は面取りされており、タール状の付着物が認められた。門柱はＰ１の柱痕跡内にも、24cm×38cmの、腐食の著しい柱の下部が残存していた。出土遺物は、Ｐ１とＰ２からは赤瓦と瓦の小破片、Ｐ４とＰ３からは瓦と燻瓦の平瓦破片が出土している。また、冠木門の前面（北側）からＳＤ100堀切に至る間の表土中からは、18世紀以後の陶磁器類、瓦類が出土している。

出土遺物

ＳＤ100堀切、ＳＸ101集石遺構（第22図、25図、26図）

ＳＤ100堀切は本丸と二ノ丸を分ける堀切で、南壁は本丸北面の石垣、北壁は二ノ丸南面石垣である。不来方城期のＳＤ110を削平している。底面は廊下橋付近から東へ緩く傾斜する平坦な坂道状で、東端部の幅は2.4m、廊下橋付近では約３ｍを測る。底面の上は公園造成土で覆われているが、二ノ丸石垣下端よりも20cmから35cm低く、公園造成時に堀切内の坂道を緩くするために削平したことが判る。底面中央から二ノ丸石垣側には、幅80cmから１ｍで深さ30cmから80cmの溝状の遺構があり、これはＳＤ100堀切と、ＳＤ110堀切の底面を切っている。内部には径10cm～20cmの礫が集積し、暗褐色土が体積している。

表土中から瓦類、陶磁器類が出土している。

ＳＢ130隅櫓跡、ＳＢ160多聞櫓跡（第29図～35図）

櫓台の規模

この２棟の櫓は本丸北辺中央の廊下橋門から東に連なる櫓である。ＳＢ130隅櫓は本丸北東角の櫓であるが、明治の公園造成で櫓台南側石垣が改変されていたため、調査実施前までは具体的規模やプランは不明であった。ＳＢ130隅櫓の櫓台石垣は、本丸東石垣の天端から５ｍのところまで、石垣の下部のみ残存し、この隅石部分は根石まで抜き取られている。この南石垣の位置から、この櫓台の規模は上面で東西6.7m～6.9m、南北6.2mの平面に復元される。外面石垣のプランから、北辺と東辺が鈍角に交わるが、概ね３間四方の平面である。これに接続されるＳＢ160多聞櫓の櫓台は、石垣の輪郭や礎桁行方向に16m、梁間は4.2mの規模で、概ね桁行８間、梁間２間の平面である。ＳＢ130

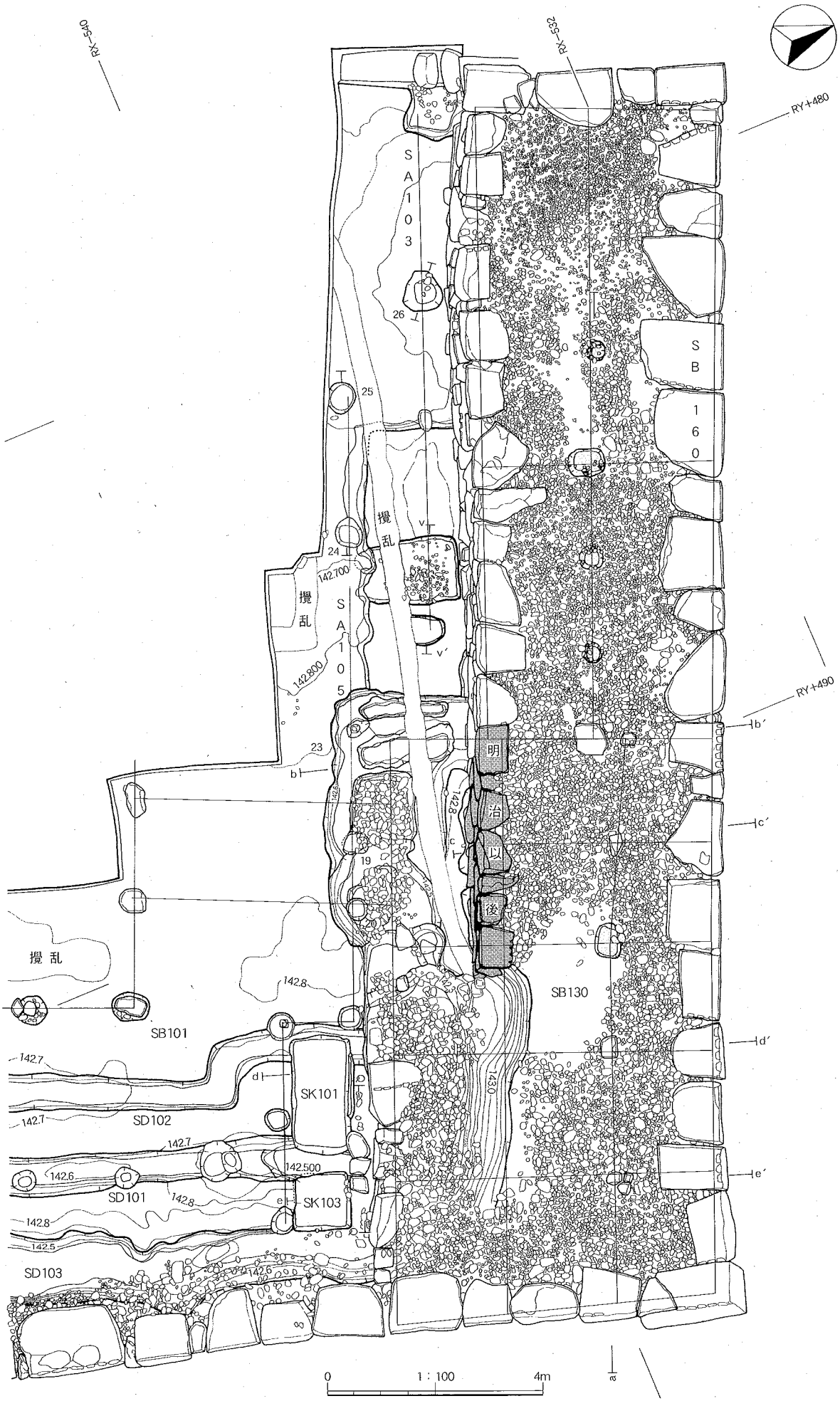
櫓台石垣

隅櫓の櫓台石垣は、本丸東石垣の天端から５ｍのところまで、石垣の下部のみ残存し、この角石部分は根石まで抜き取られている。また、ＳＢ160多聞櫓の櫓台南石垣は、本丸北面石垣より4.2m～4,4mの幅で積まれており、西側の廊下橋門の際から16.2m残存するが、このうち東側4.5mは、明治期（または明治期以後）に積み替えられた、新しい石垣である。石垣の高さは、ＳＢ160多聞櫓の櫓台南石垣は高さ1.6m～2.3mで、ＳＢ130隅櫓の櫓台南石垣も、外面石垣との高さの関係から、同等の高さに復元できる。ＳＢ130隅櫓の櫓台南石垣とＳＢ160多聞櫓の櫓台南石垣は、その接続部分を中心に、明治の公園造成時に取り崩され、ＳＢ160多聞櫓側のみ積みなおされて、ＳＢ130隅櫓の南側には、昇降用の石階が設けられていた。当時の石垣の残存部は、本丸北東部外面の石垣と同様、乱積Ｂに分類される石垣で、盛岡城２期の石垣である。石垣は残存部分で見る限り、改修痕跡は見当たらない。

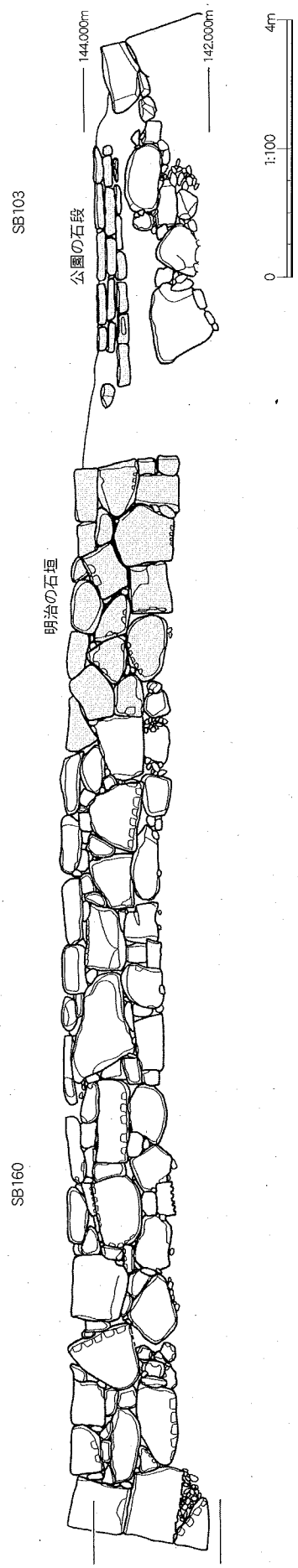
櫓の規模

櫓台上面に残る礎石と礎石抜取痕跡を説明する。ＳＢ130隅櫓とＳＢ160多聞櫓の礎石は、その痕跡を含めて10箇所確認できた。このうち、ＳＢ130東端から10.7mの位置の櫓台中央に残る礎石は58cm×54cmの大きさでもっとも大きく、この礎石６を境にして、西側と東側で、礎石列の筋が喰

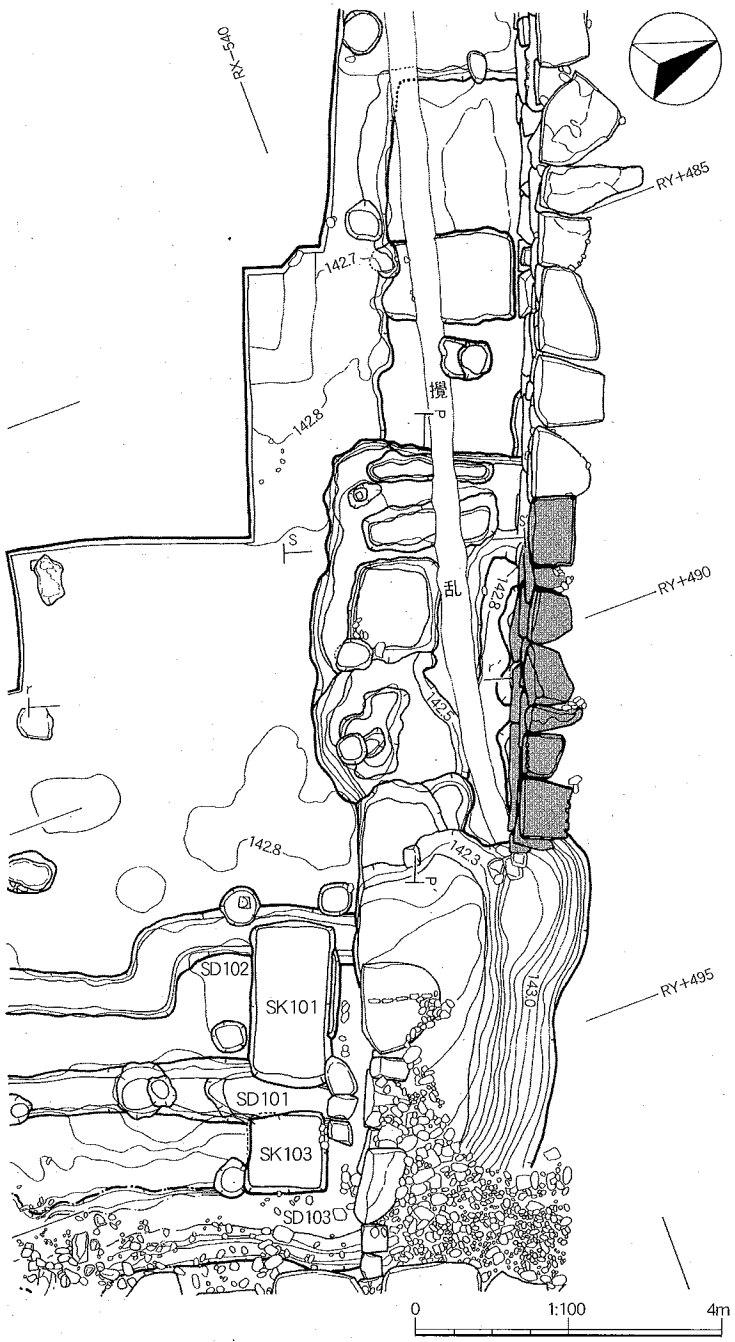
第29図　SB130隅櫓跡，SB160多聞櫓跡（上面）



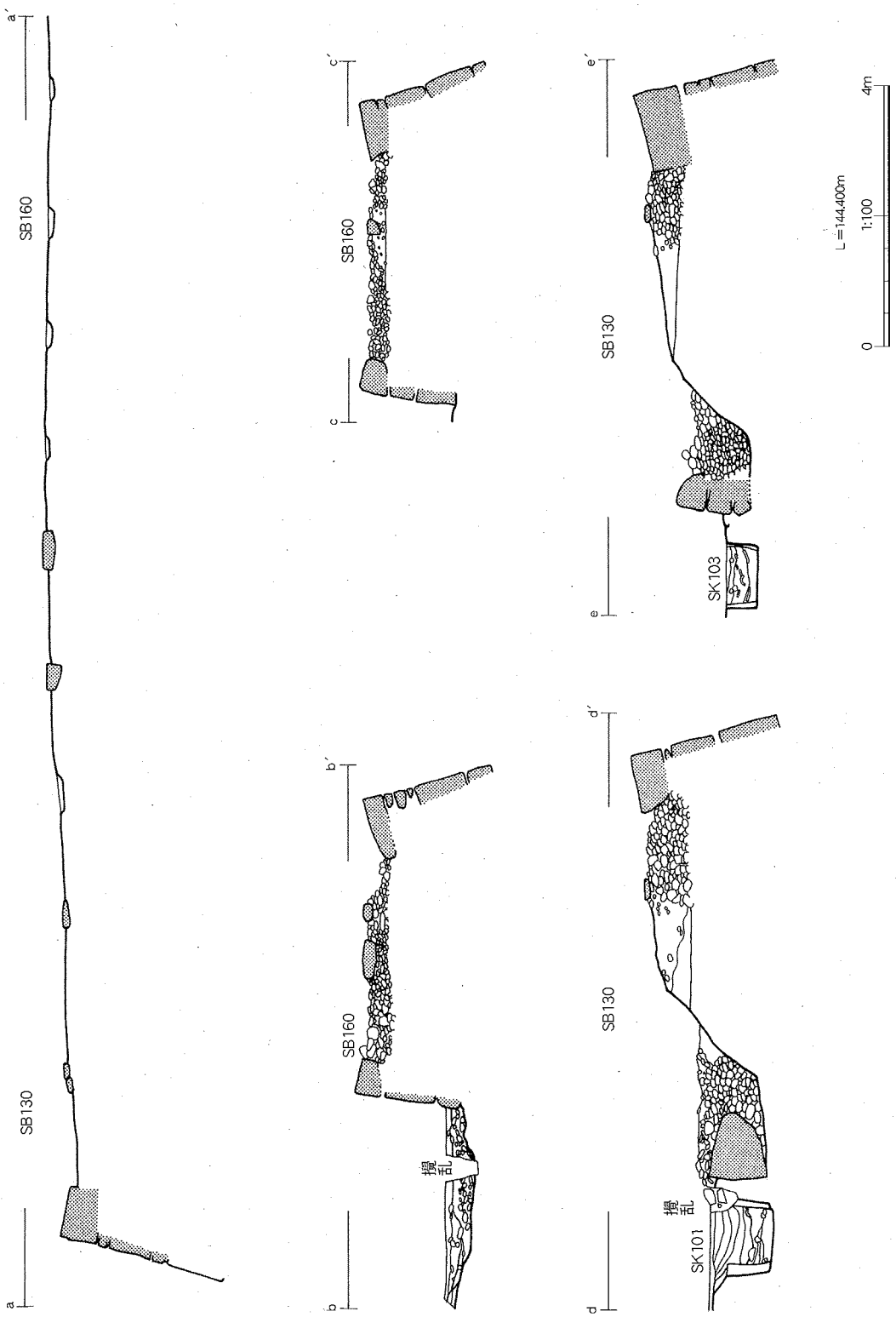
第30図　SB130隅櫓跡，SB160多聞櫓跡（上面）



第31図　SB160，SB130櫓台石垣



第32図　SB130隅櫓跡，SK101，103土坑最終面



第33図　SB130，SB170多聞櫓跡土層断面図

違を見せており、ここが実際の建物の境であった可能性が高い。これより東側では１から５の５間分の礎石または礎石痕跡が確認されており、その列は櫓台北辺から1.6mから２mの、概ね１間の位置にあることから、この部分の櫓の規模は桁行５間、梁間３間と考えられる。櫓台の規模から南西側の東西２間、南北１間部分が櫓台からはみ出すことになるが、この部分には、後述するＳＢ101礎石建物跡の柱筋に対応する礎石の坪地形（礎石11、12）と、その西側に平行する細長い窪み２ヶ所を確認している。この礎石はＳＢ130隅櫓の櫓台南石垣と連続して抜き取られているが、ＳＢ101との位置関係から、ＳＢ101建物からの渡り廊下と櫓への昇降施設部分と推定され、これを櫓内に取り込んでいたとすれば、ＳＢ101隅櫓は先述の５間×３間の規模となる。これに続くＳＢ160多聞櫓は、ＳＢ130隅櫓と廊下橋門の櫓をつなぐ建物である。礎石６の西には、７、８、９、10の礎石抜取痕跡があり、柱間は東から1.55m、1.79m、1.79m、2.1mである。礎石抜取痕跡は９が大きく、礎石６と同等の大きさがある。これを境に西側区画の柱間が大きいとすれば、この部分は2.1m等間の３間と推定され、桁行は1.55m～2.1mの柱間で総長11.43mの６間、梁間は2.0m～2.1mの柱間で４m～4.45mの２間の規模の櫓である。この西側に１mの余白があくことになるが、この部分は、ＳＢ160多聞櫓がさらに３尺（0.5間）長かったか、あるいは廊下橋門櫓の東端部であったかのどちらかであろう。

ＳＢ101礎石建物跡（第34図、36図）

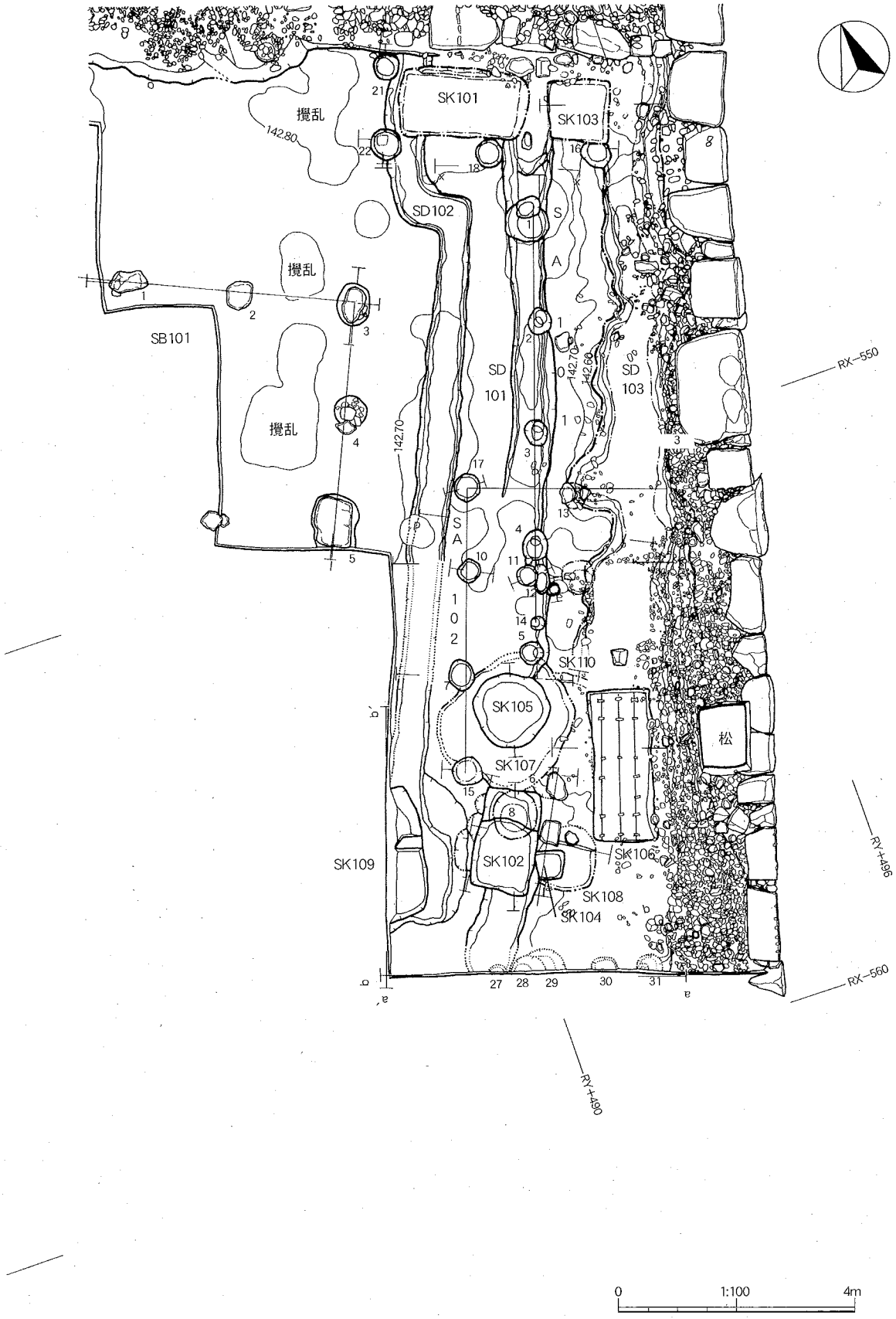
本丸御殿の北東隅部にあたる建物の一部で、建物の方位はN24°Ｅを示し、ＳＢ130隅櫓やＳＢ160多聞櫓とほぼ同方向を示す。調査範囲では、1.91m等間の東西２間、南北２間を確認しているが、建物の大半は西方、南方に広がるものである。現状の地表面から10cm余の地下に礎石上面があり、東列の礎石では、礎石よりも一回り大きな礎石据方のプランが認められる。北側柱列の礎石では、据方のプランは明確ではない。この礎石列は「御城大絵図」に見られる「用之間」の北東隅に該当する。「盛岡城本丸建物平面図」では部屋の注記がなく、幕末の「霊承院様御代大奥御住居図」では「広間」とされる部分である。間取りに多少の異動は認められるが、平面規模は近似しており、同一礎石を用いての建物建て替えであったと推定される。

この建物跡は、今回の修復工事の掘削範囲外であるため、北東隅の礎石のほかは、礎石下部の調査は実施しておらず、そのまま埋め戻し、保存している。この遺構の状態から、周辺部の御殿等、礎石建物跡の保存状態は比較的良好と思われる。

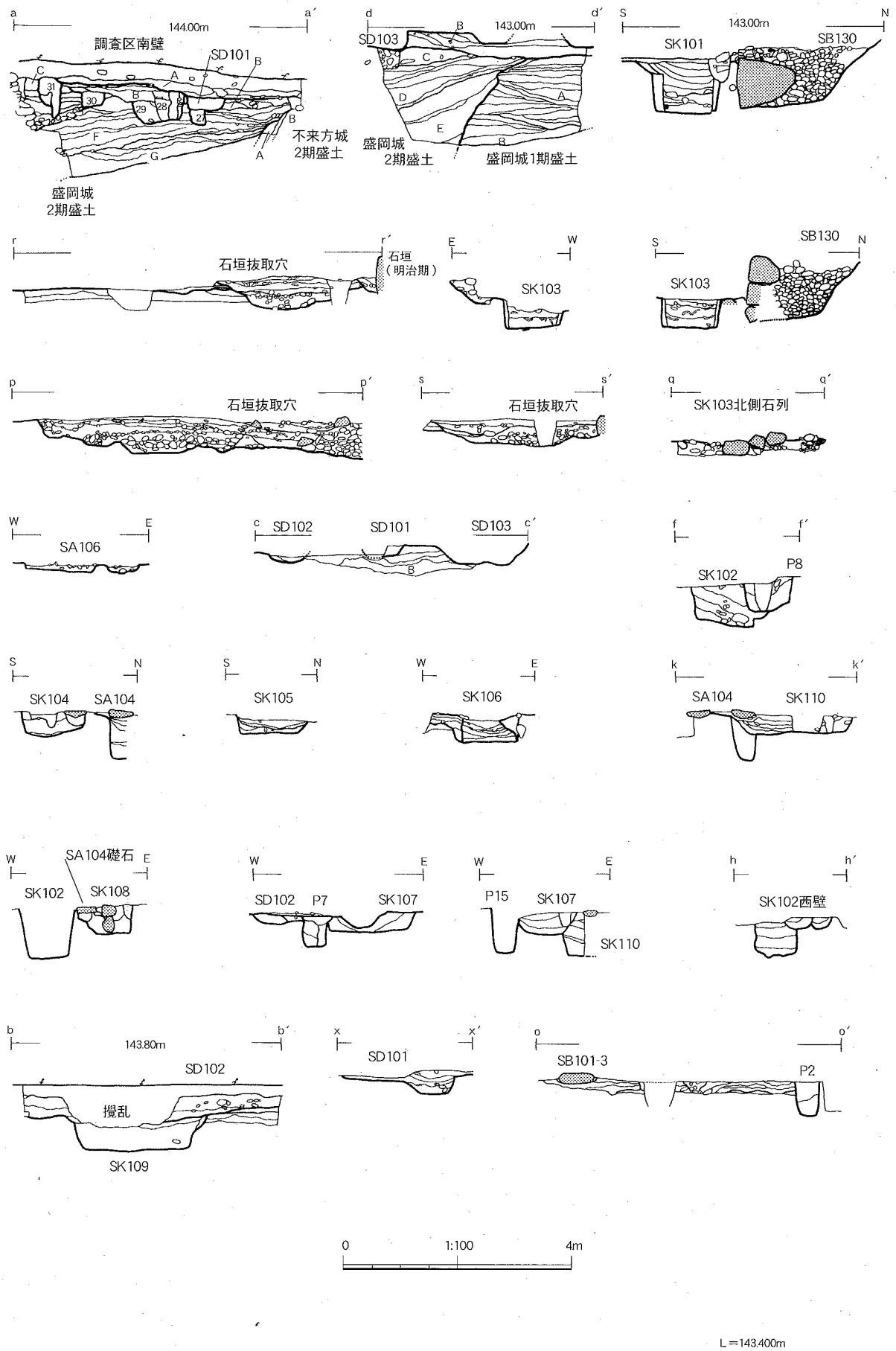
ＳＡ105掘立柱列跡、ＳＡ106礎石柱列跡（第29図、30図、36図）

この２列の柱列は、その位置関係と方向から、ＳＢ130隅櫓とＳＢ160多聞櫓の付属施設または下屋の柱列と考えられる柱列である。

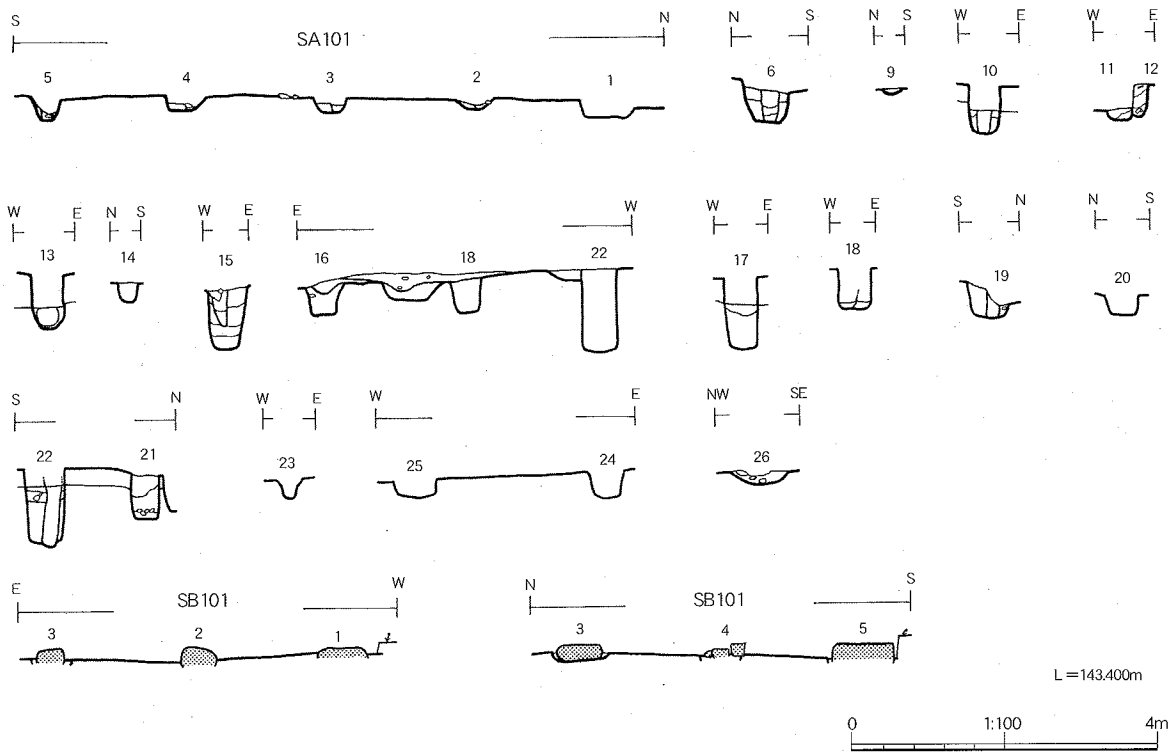
ＳＡ105掘立柱列はＳＤ101溝、ＳＤ102溝を切り、ＳＤ103溝に切られる。ＳＡ105柱列は、ＳＢ160多聞櫓台の天端から2.2m～2.4m離れて、ＳＢ130隅櫓とは２m離れて並行する掘立柱の列である。柱間寸法は西から2.54m、3.62m、2.18m、1.2m、2.06m、1.3m、1.8m、1.9mであり、東側は１間×２間の規模で鍵形に曲折し、ＳＢ130隅櫓との間にＳＫ101土坑とＳＫ103土坑を内包する。ＳＡ103礎石柱列はＳＢ160多聞櫓天端から0.9m内外離れて平行する柱列である。ＳＡ105柱列とは1.5m内外の距離で平行するが、柱位置は対応しない。礎石の抜き取り痕跡、または坪地業と思われる痕跡が４箇所確認されている。



第34図　本丸北東部調査区南半部の遺構



第35図　本丸北東部遺構土層断面図



第36図　本丸北東部SB101期建物跡、柱列跡、柱穴土層断面図

ＳＡ101掘立柱列跡、ＳＡ102掘立柱列跡（第34図、36図）

ＳＡ101掘立柱列跡はＳＤ101溝と重複するが、新旧関係は不明である。４間の1.78m等間である。ＳＡ102掘立柱列跡はＳＫ107土坑を切り、ＳＤ103溝に切られる。南北３間、東西１間を確認しており、掘立柱建物の一部である可能性がある。

ＳＡ104礎石柱列跡（第34図、35図）

ＳＫ108土坑、ＳＫ110土坑よりも新しい礎石２個を確認している。間隔は80cmほど。ＳＫ102土坑の壁に平行し、ＳＫ102土坑に伴う可能性もある。

ＳＫ101土坑、ＳＫ103土坑（第30図、32図～35図）

ＳＢ130隅櫓南側に並ぶ土坑である。絵図ではこの辺りに厠があり、２基とも、その形状や土層のあり方から便槽と推定される。ＳＤ101・102溝を切る。ＳＫ101ａ土坑は1.1m×2.2mの長方形土坑で、深さは90cmである。東側の壁に東西1.2m、深さ80cmのＳＫ101ｂ土坑がわずかに残存する。ＳＫ101ａ土坑はＡ層が黒褐色土主体の自然堆積。Ｂ層が暗褐色土と黒褐色土の混合土である。

Ｃ層は暗褐色土主体の裏込土。Ｂ層とＣ層の境界には薄い木質部の残存が粉末状に認められた。土坑内部Ｂ層、Ａ層から燻瓦の軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦が出土している。

ＳＫ103土坑はほぼ１ｍ四方の平面に深さ50cmの規模で、Ａ層は黒褐色土主体、Ｂ層は暗褐色土と黒褐色土混合土、Ｃ層は暗褐色土主体で裏込土。Ｂ層とＣ層境界には僅かな木質部が残存していた。Ａ、Ｂ層から軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦が出土している。瓦、または燻瓦であり、赤瓦は僅少である。

ＳＫ106土坑（第34図、35図）

調査区南東部の石垣よりに、石垣と併行して存在する長方形土坑で、東壁は石垣裏込に接している。ＳＫ110土坑を切る。長さ2.6m、幅１ｍで、深さは45cmである。東壁は石垣裏込が土坑内部に崩れかけている。壁面には薄い木質部分が認められ、底面には長軸方向に４枚の板が鎹で固定されて残存していた。土坑の形状から便槽と考えられる。埋土は黒褐色土主体で礫や瓦破片が多い。内部から燻瓦の輪違いや棟板瓦が出土している。

ＳＫ102、104、105、107、108、109、110土坑（第34図、35図）

ＳＫ106の西側に重複して確認される土坑群である。このうちＳＫ109はＳＤ102溝と重複し、ＳＤ102溝埋土のほうが上位に存在するが、同時期の遺構の可能性もある。ＳＫ102土坑のように長方形に近いもの。ＳＫ104は浅い不整方形のもの。ＳＫ107、105、108は不整形、または不整円形のプランである。埋土は暗褐色土と黒褐色土の混合土のものが多い。ＳＫ105と107は互いに重複するが、穴の形状や壁の状況から、植樹痕跡の可能性もある。重複関係は次のとおり。

ＳＫ110　→　ＳＫ107　→　ＳＫ105・ＳＤ101
↓
ＳＫ108　→　ＳＫ104　→　ＳＫ102

ＳＤ101、102、103溝（第34図、35図）

ＳＢ101礎石建物跡と本丸東面石垣の間に併走する３条の溝である。このうちＳＤ103溝は石垣裏込の内面に裏込を切って存在する凹凸の著しいプランの溝で、埋土は表土に近く、土質から近代の溝である。内部から近世後半のかわらけ、飴釉の陶器壷などが出土している。ＳＤ101溝はＳＡ101掘立柱列と重複して存在する同一方向の溝である。埋土は黒褐色土主体である。ＳＫ101土坑とＳＫ103土坑に切られる。ＳＤ102溝は、ＳＢ101礎石建物東側を囲むように掘られた溝で、ＳＫ101土坑に切られ、ＳＫ109土坑埋土上に重なる。ＳＢ101建物の柱筋からＳＤ102溝の中心までは、1.6mで、この建物の雨落溝であったらしい。埋土は暗褐色土主体である。

3　本丸北西部の調査（第24次、25次調査）

本丸北東部とは、北辺中央の廊下橋門（ＳＢ150）を挟んで反対側にあたる。北西隅には二層の小納戸櫓（ＳＢ140）が存在し、廊下橋門の両翼に多聞櫓と隅櫓が連なっていた。この北西部は本丸西辺中央部よりも西に張り出しており、この張り出しの北端が小納戸櫓の位置である。櫓台の形状は、調査前は多聞櫓の櫓台を西端まで延長したような形状になっていたが、調査の結果、明治期に改変された形状であることが判明した。現状の石垣の地下には、より古い時期の石垣が確認された。ここも本丸北東部と同様に、盛岡城２期の本丸造営によって拡張されていたことが判明した。

（１）不来方城期から盛岡城１期の遺構（第38図、89図、42図）

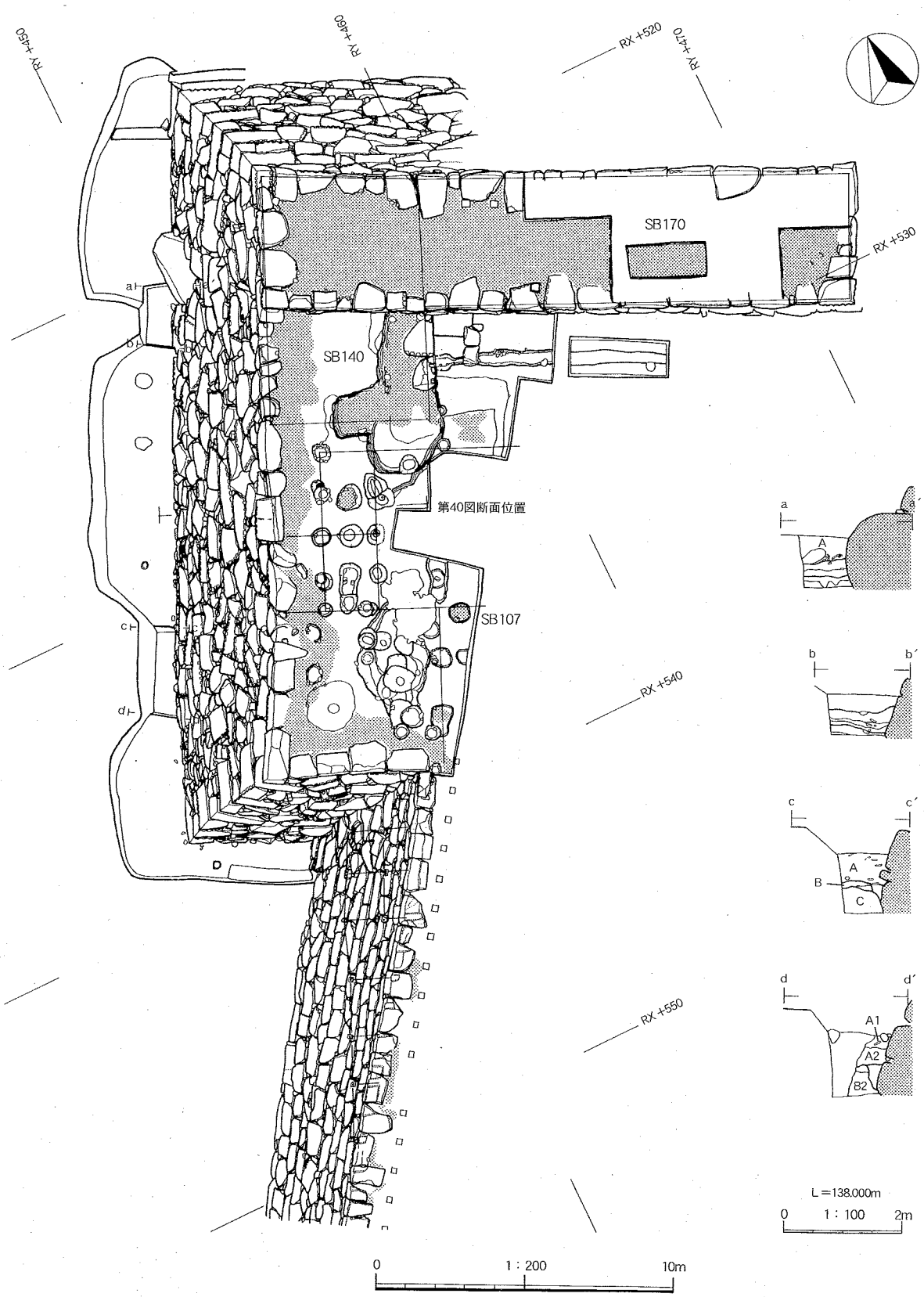
盛岡城１期の石垣（第38図、39図）

現状の張り出した石垣の背面や下層から確認された石垣で、現状の本丸西面中央の石垣の延長にあたる。現状石垣の張り出しの南面石垣は、本丸西面中央の石垣に突き当たっており、入角の算木積みにはなっていない。また、本丸北面石垣と、石垣内部に確認された地山転石との間に、西側に表を向けた野面石の石材が１石確認された。この石は本丸西面中央石垣の延長線よりも６ｍ余り西側に張り出した位置にあり、盛岡城１期の櫓台西面石垣の一部と考えられる。これにより、盛岡城１期の石垣プランは、本丸西面中央の石垣を北に延長し、小納戸櫓跡直下に確認された地山転石を半ば包み込むようにして、盛岡城２期よりも小さな張出しを構築していたことが判る。しかし、この張出し南面石垣の痕跡は確認されず、この時期の張り出しの平面規模は不明確である。

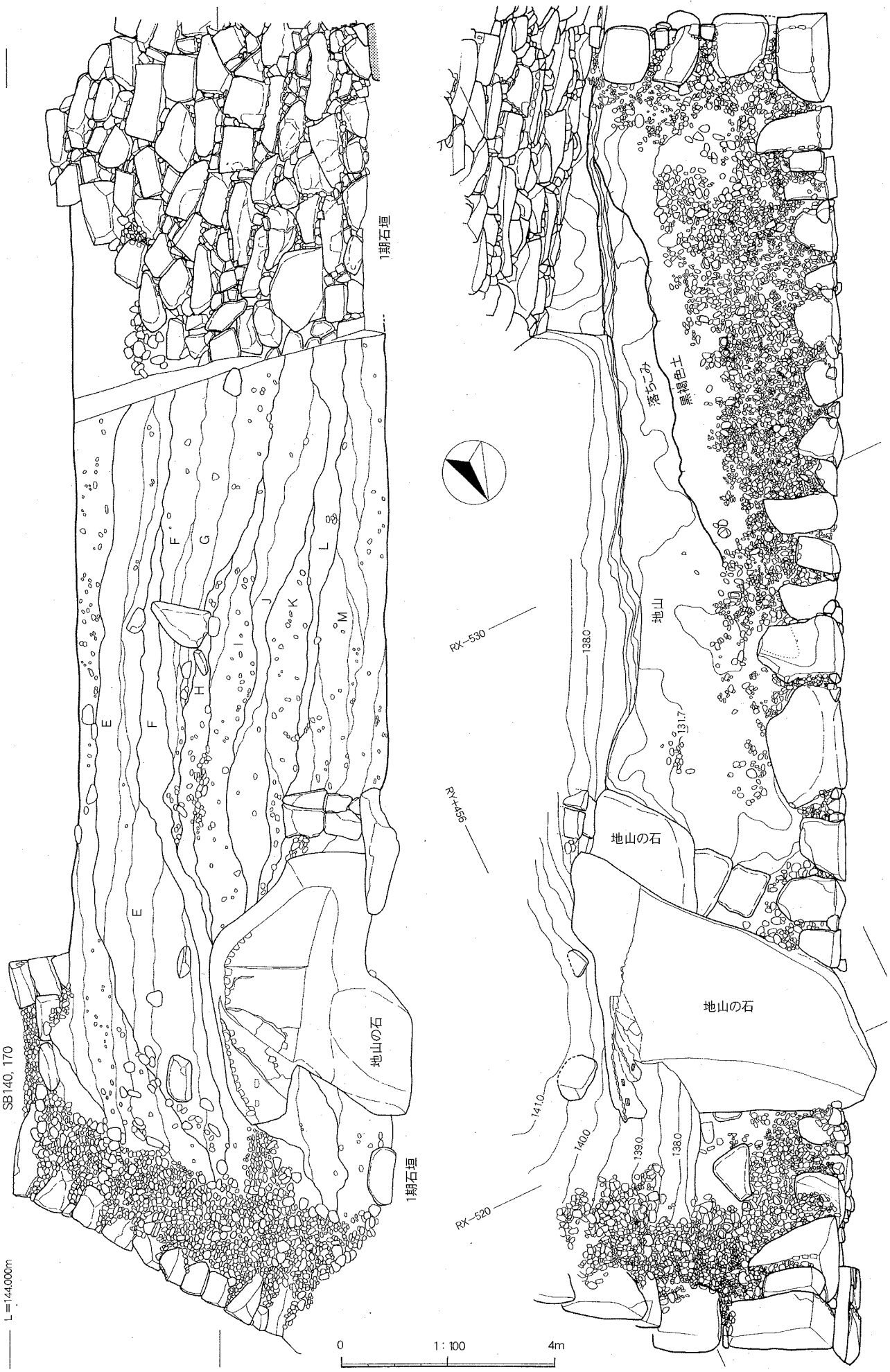
本丸西面中央の延長部分は、第38図、39図で見るように、野面石を多用した乱積である。第39図は野面石の使用状況を図示したもので、石垣の下３分の１ほどの個所が野面石のみで構築されている。1.6m×1.1mほどの大面を見せた石材も存在し、他の石材も控えが短いらしく、この部分は築城当初の乱積Ａに分類できる。この上の部分、石垣の中ほどから上部にかけては、野面石のほか、大形の矢穴で粗く分割された石材も多く使用されている。この部分も現状の石垣の背面から確認されており、乱積Ａ石垣よりも新しく、現状石垣の乱積Ｂ石垣よりも、先行する石垣である。矢穴には14cmほどの大形の矢穴も存在し、この大きさから見れば乱積Ｂの可能性もあるが、ここではとりあえず、乱積Ａ´石垣に分類しておきたい。この石垣は、今回の修復工事では解体せず、地下にそのまま埋め戻して保存している。

図示していないが、石垣前の落ち込み上面（盛岡城２期盛土Ｍ層下）より、16世紀の中国染付皿（Ｃ群）の破片が出土している。

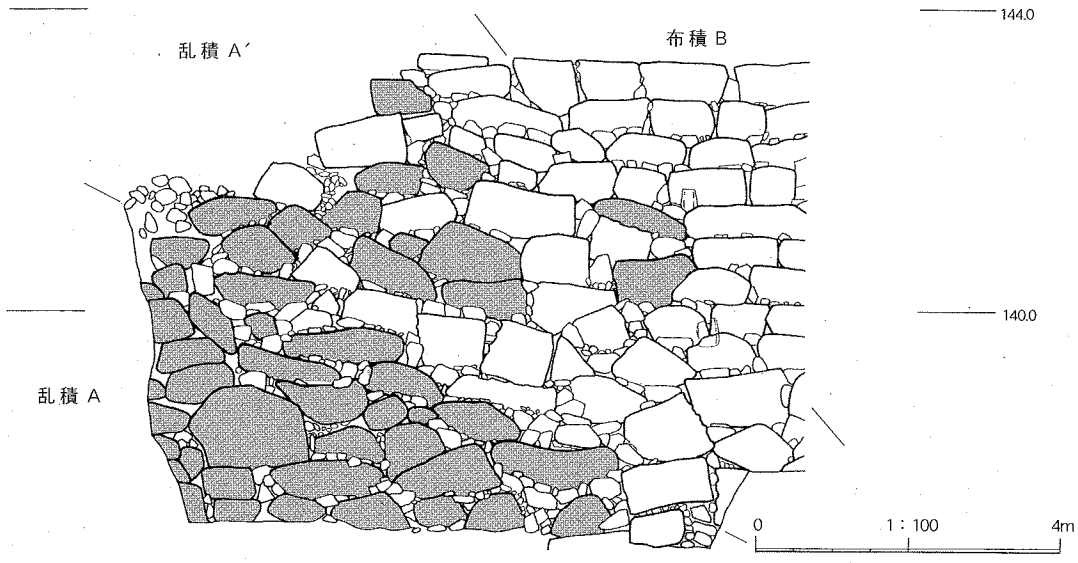
不来方城期　なお、石垣の下層に、黒褐色土主体の落ち込みの東壁が、おおむねＮ７°Ｅの方向で確認されている。また、先述の地山転石北側の野面石は、粘性のある黒色土層に乗っている。これらの落ち込みは、工事範囲の関係から、上面のみの確認で精査には至らなかったが、層位の関係から、盛岡城１期よりも先行するものである。特に地山転石北側の黒色土層は、その位置から、本丸と二ノ丸を分けるＳＤ110堀切の埋土と考えられる。不来方城期の遺構と考えるのが妥当である。



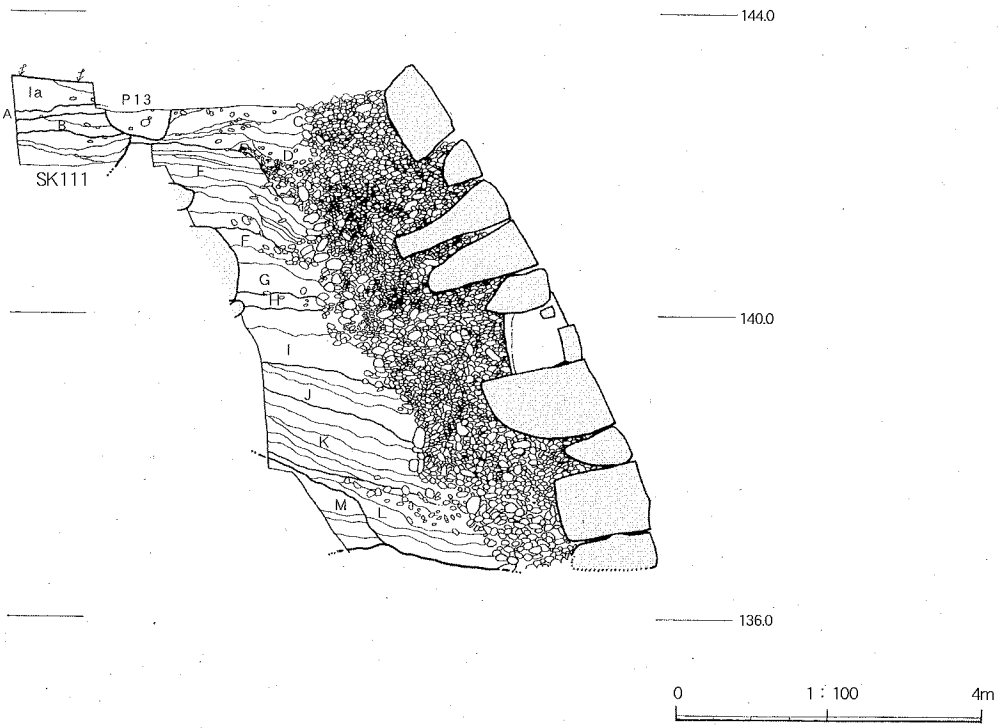
第37図　本丸北西部の遺構



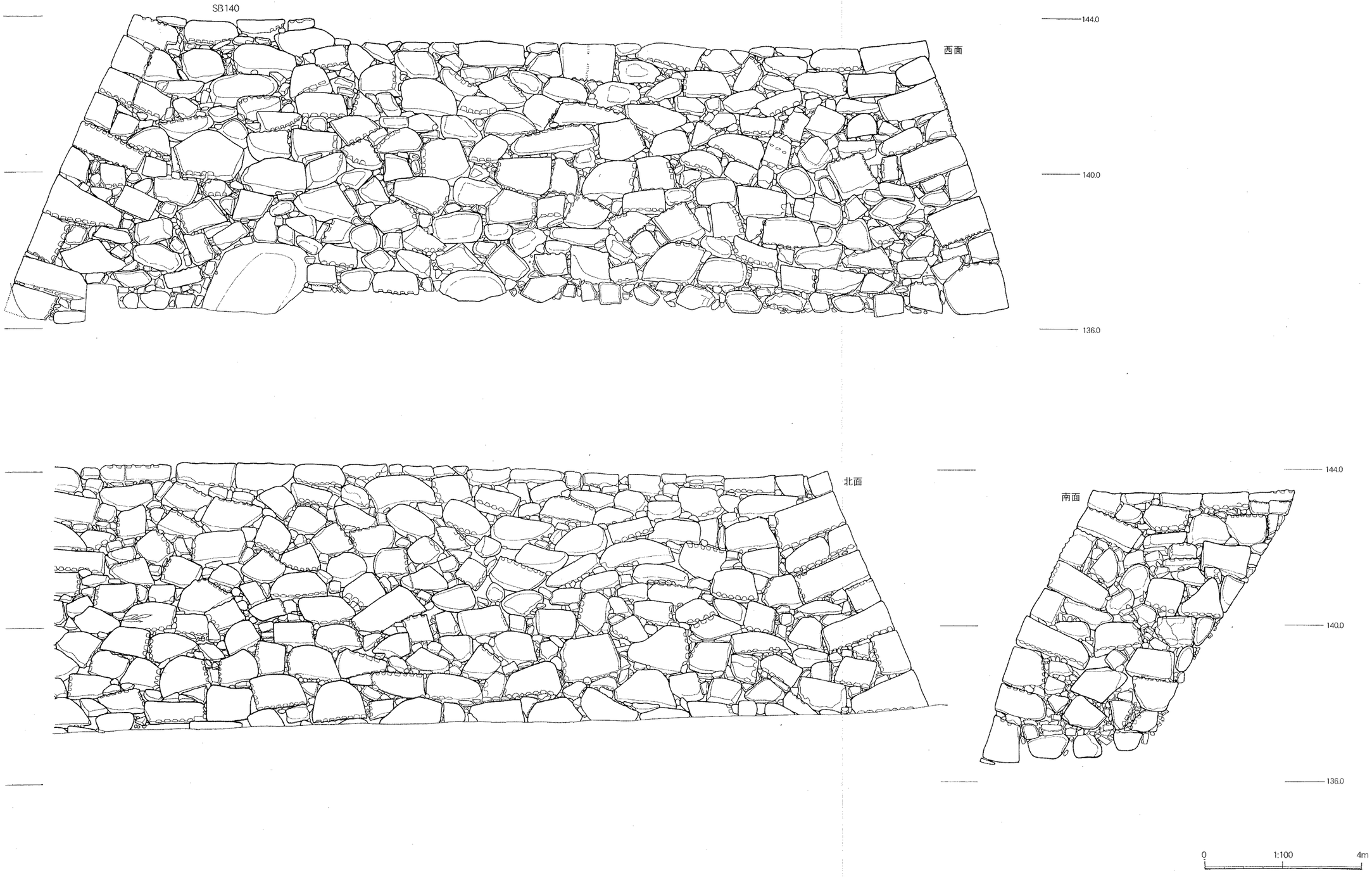
第38図　盛岡城第1期石垣、第２期石垣根石



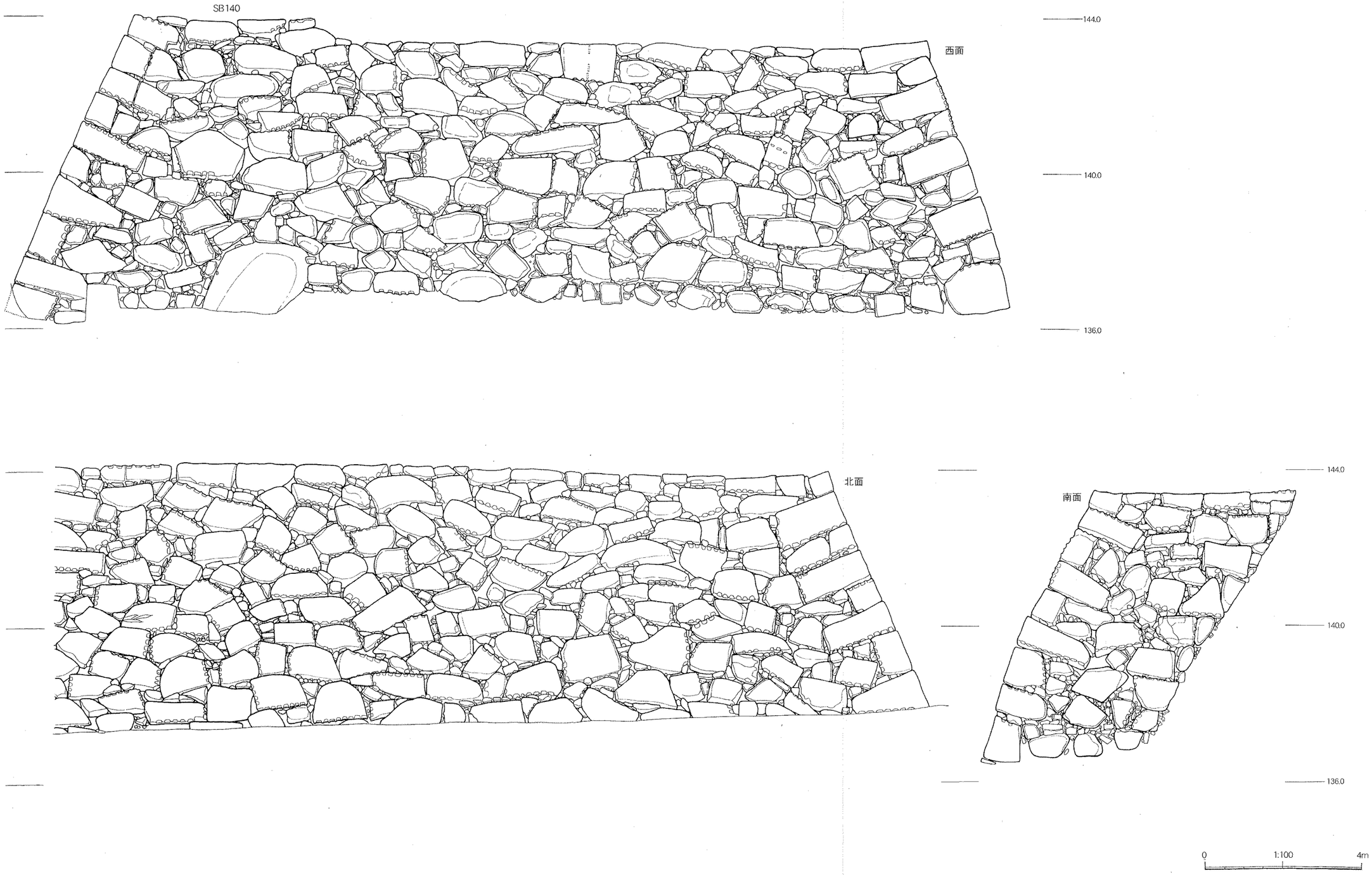
第39図　本丸北西部地中石垣の石材



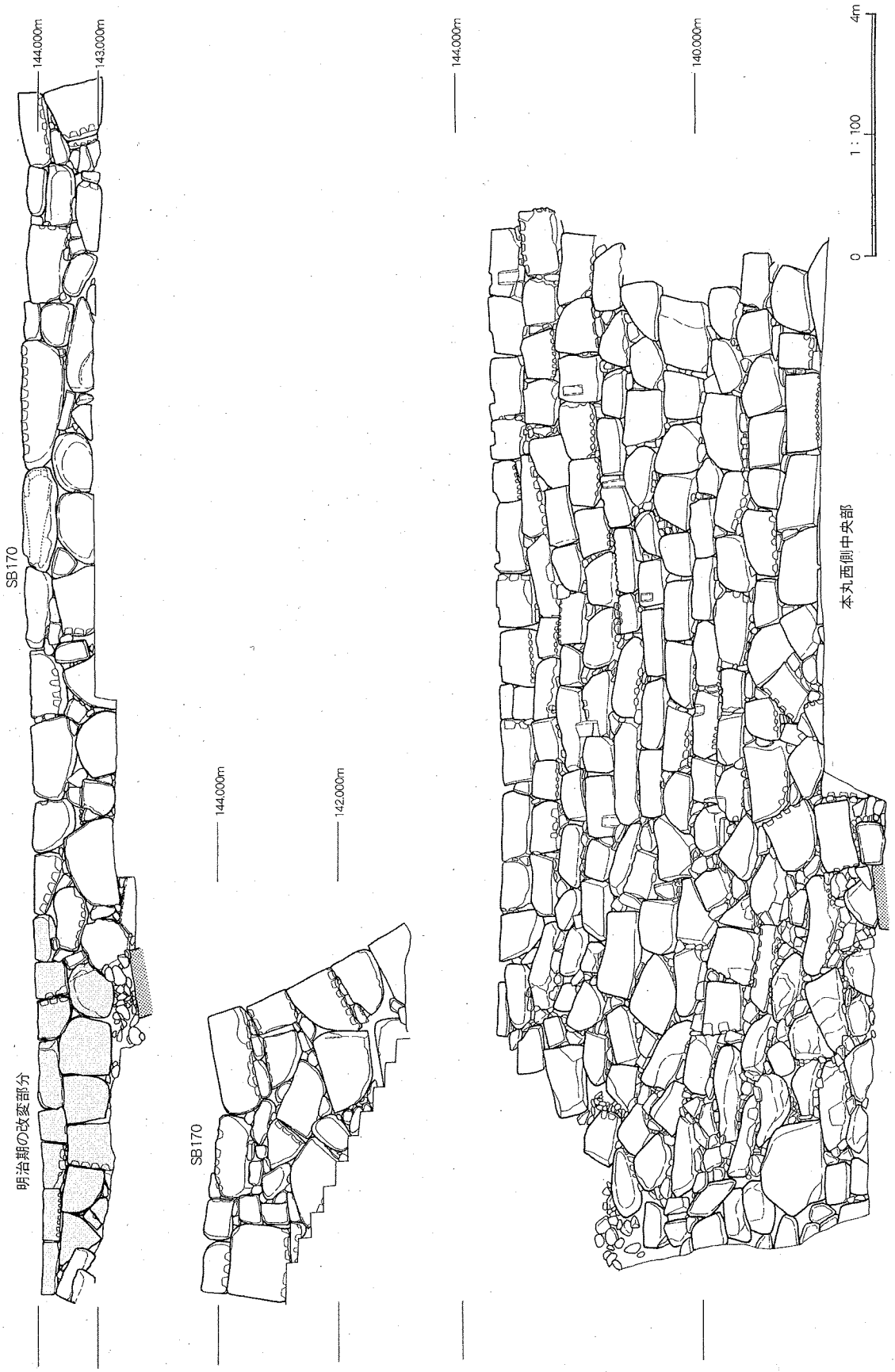
第40図　本丸北西部石垣断面図



第41図　本丸北西部石垣立面図1



第41図　本丸北西部石垣立面図1



第42図　本丸北西部の石垣立面図

（２）盛岡城２期以後の遺構（第40図～第48図）

盛岡城２期の石垣（第40図、41図、64図～66図）

石　　垣　盛岡城１期石垣を４ｍから６ｍ外側に拡張している。これにより、本丸西辺は中央部が窪み、南西部、北西部の櫓付近が、外側に張り出すプランに改変されている。西面石垣の北部には、地山の花崗岩の転石が本丸側から突き出している。この石に10cm～15cmの矢穴を入れて割っているが、完全には除去することができず、転石の下部をのこし、これに根石を乗せて構築している。石垣石材はすべて花崗岩である。

明治の改変　本丸外面の石垣は、北東部と同じ乱積Ｂであるが、高さは西面で6.65m、小納戸櫓台の位置では8.1mで、本丸のなかでは比較的低い。ただし、櫓よりも南側の部分、現状の天端石すべての上面に、玄翁による打ち欠きや、小形の矢穴の残る割面が認められる。これは明治期の公園造成時における改変と推察されるが、このことにより、当時の石垣が、現状の石垣天端よりもさらに１段ほど高く積まれていたことも考えられ、この部分の石垣の正確な高さは不明である。

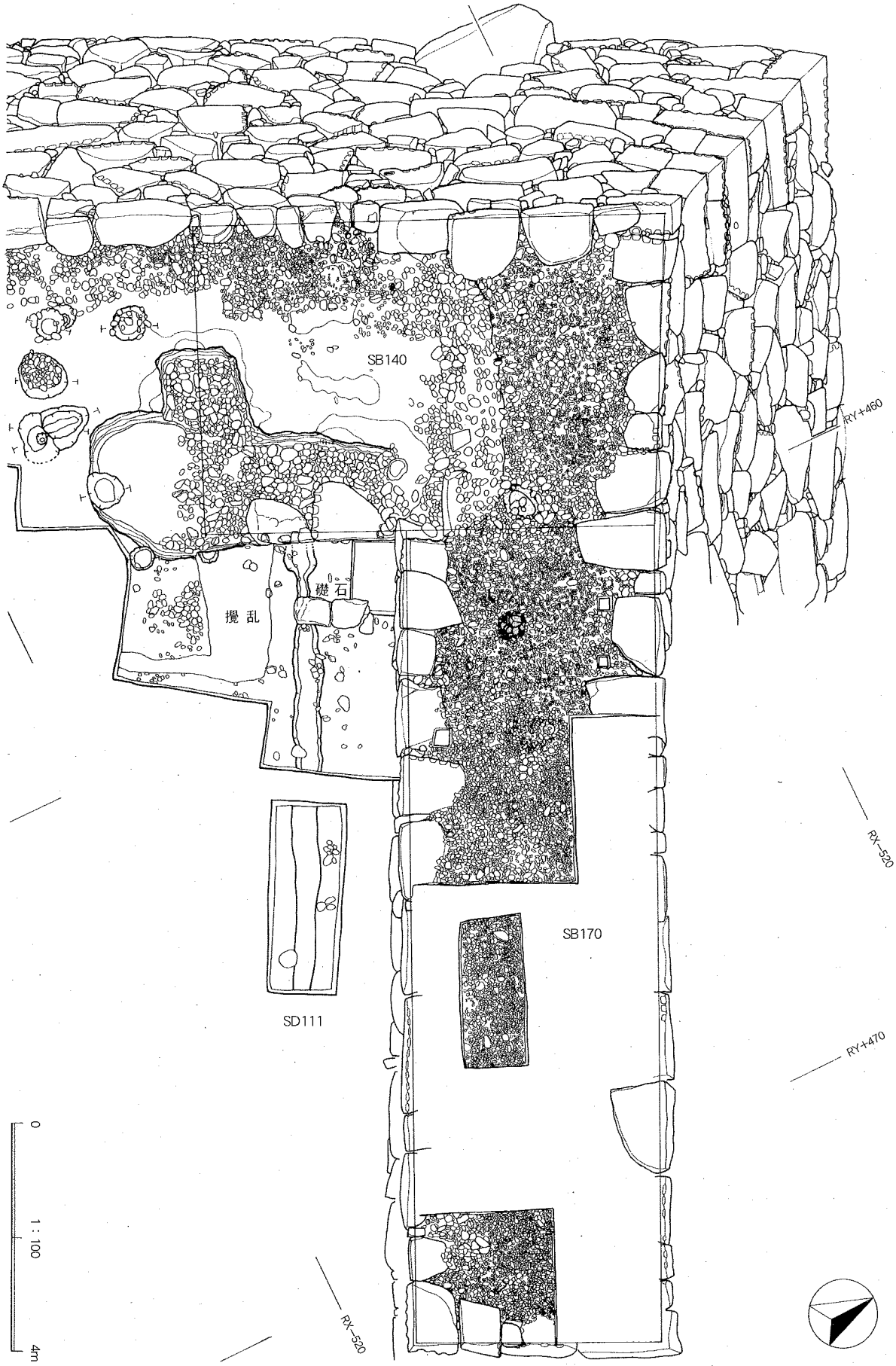
現状の石材も北東部の石垣よりもやや小ぶりであり、隅部の勾配も直線的で、上端の角石1石がごくわずかに反る程度である。解体前は西面石垣が全体に緩く孕みだし、南面石垣も石材相互の歪みが著しいほか、空隙が目立っていた。南面石垣に設けられたＳＪ101排水口は別の石材で閉塞されており、解体前にはその存在については全く不明であった。第65図、第66図は石材の控えの長さや石材形状別に分布状況を示したものである。控えの長さが151cmから180cm、または181cmから209cmの石材は、石垣面の中央部とその周囲に分散的に配置されているほか、南面石垣の中央部に１石配置される。また石材の形状で控えの長い形状の石材は、石垣西面の南端部分や南面石垣、西面石垣の北半の下部に分散的に配置される。ここでも控えの長い石材の役石的な使い方が認められる。角石は本丸北東部の石垣に比較すると、直方体の形状に近く、僅かながら鑿痕跡も見られる。角脇石は比較的大きな石材１石と高さ調整の石材１石で間に合わせている。隅尻石も不完全ながら存在し、本丸石垣のなかでは、腰曲輪の乱積Ｂ石垣に近い様相である。

石垣は西面石垣の北部で、地山の花崗岩転石に乗り上げて構築されるが、他の個所では大掛かりな盛土を行い、構築している。盛土と裏込の栗石、石垣築石の関係は、本丸北東部石垣と同様である。裏込石と盛土との境界には、大きめの栗石を積み、築石２段分から３段分ごとの階段状に、裏込石が充填されている。裏込石は中津川や北上川に多く存在する多種、多様な礫を用いているが、すべて川原石であり、割石や角礫は用いられていない。

本丸内面の石垣は、ＳＢ170多聞櫓の櫓台石垣が残存し、乱積Ｂ石垣である。ＳＢ140小納戸櫓の櫓台内面石垣は、南側にＬ字形に突き出していた部分が、明治期に撤去され、多聞櫓内面石垣の延長線上に、新しい石垣が構築されている。

ＳＢ140小納戸櫓跡（第43図～44図）

本丸北西隅に存在した二層の隅櫓である。南北に長いプランの櫓台であったが、その南半部分は明治の公園造成の際に撤去され、失われている。発掘調査の結果、この南半部の東面石垣の根石２個と、南面石垣の根石の据方が確認され、櫓台の規模が明らかになった。根石の形状から、この部



第43図　SB140 小納戸櫓跡、SB170 多聞櫓跡

第44図　SB140 小納戸櫓跡下層

分の石垣も乱積Ｂで、本丸外面石垣や多聞櫓内面の石垣と同一手法の石垣である。根石の据方の底には裏込の栗石が残存していた。南東側の角石は、近代以後の植樹で掘られており、残存しなかった。櫓台上面の規模と形状は、西辺が９ｍ、東辺が8.4ｍ、北辺が5.4ｍ、南辺が5.3ｍで、ゆがみのある長方形プランである。概ね4.5間×３間の規模に近い。ＳＢ170多聞櫓と接続する東辺に礎石の抜取り痕跡らしい窪みが存在する。

捨　石　列　この櫓の東側の柱筋に相当する部分には、上部の裏込石除去後に、捨石列が確認されている。（第44図）櫓台の捨石列は、昭和59年度調査の腰曲輪南東部のＳＢ410櫓跡でも確認されている。

ＳＢ170多聞櫓跡（第43図、44図）

ＳＢ140小納戸櫓とＳＢ150廊下橋門をつなぐ櫓の跡である。絵図では長屋と記される。櫓台上面の幅は4.5ｍ、ＳＢ140小納戸櫓東側から14.5ｍ、北西隅から20.1ｍで廊下橋門西側の石垣であり、ここまでがＳＢ170多聞櫓の櫓台である。『御城大絵図』では桁行８間、梁間３間で表現されているが、櫓台規模から梁間の長さは2.5間であったと考えられる。

ＳＤ111溝と礎石（第43図、44図）

ＳＢ170多聞櫓跡に併行する溝である。櫓台内面石垣の下端から1.3ｍほど離れている。溝の規模は幅20㎝～50㎝、深さ８㎝内外で、断面はレンズ状である。埋土は暗褐色土から黒褐色土である。溝の西端はＳＢ140小納戸櫓の石垣に突き当たっているが、この石垣から90㎝はなれて２個の礎石が据えられている。この礎石は小納戸櫓の付属施設と推定される。

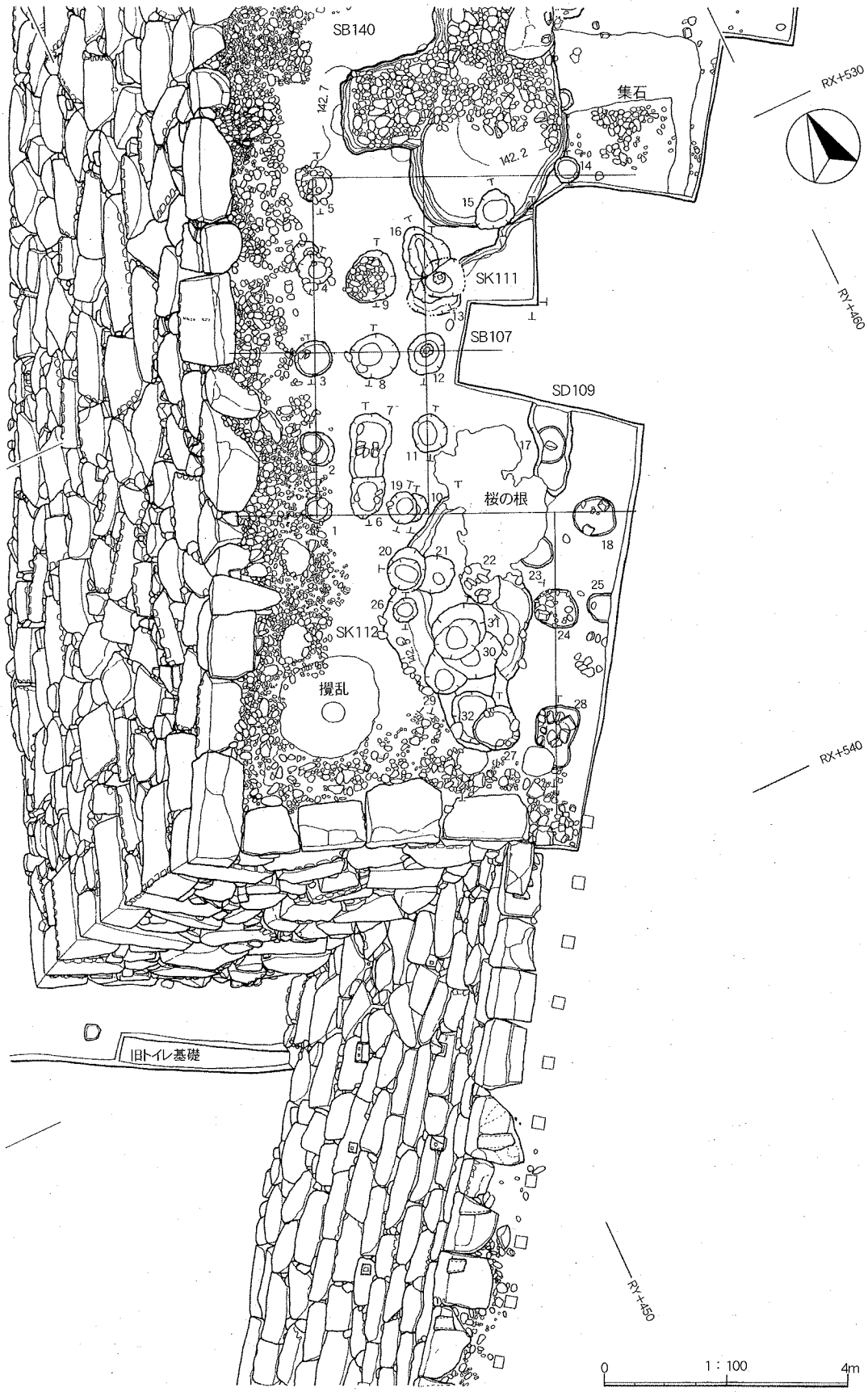
ＳＢ107礎石建物跡（第45図、46図）

ＳＢ140小納戸櫓の南側に存在する建物跡で、本丸中奥御殿の北西隅部分にあたる。確認されたのは礎石の抜取痕跡であり、個々の穴の形状は浅い皿形である。このうちＰ12、Ｐ13の底には、杭状のピットが確認されている。建物全域の検出ではないが、位置と柱配置から、「霊承院様（11代南部利敬）御代大奥御住居図」に見られる「湯殿」と「次」、「仕舞所」に相当する部分である。「次」と「仕舞所」の個所は、石垣上の、通常、塀の存在するラインが建物の壁であったらしい。

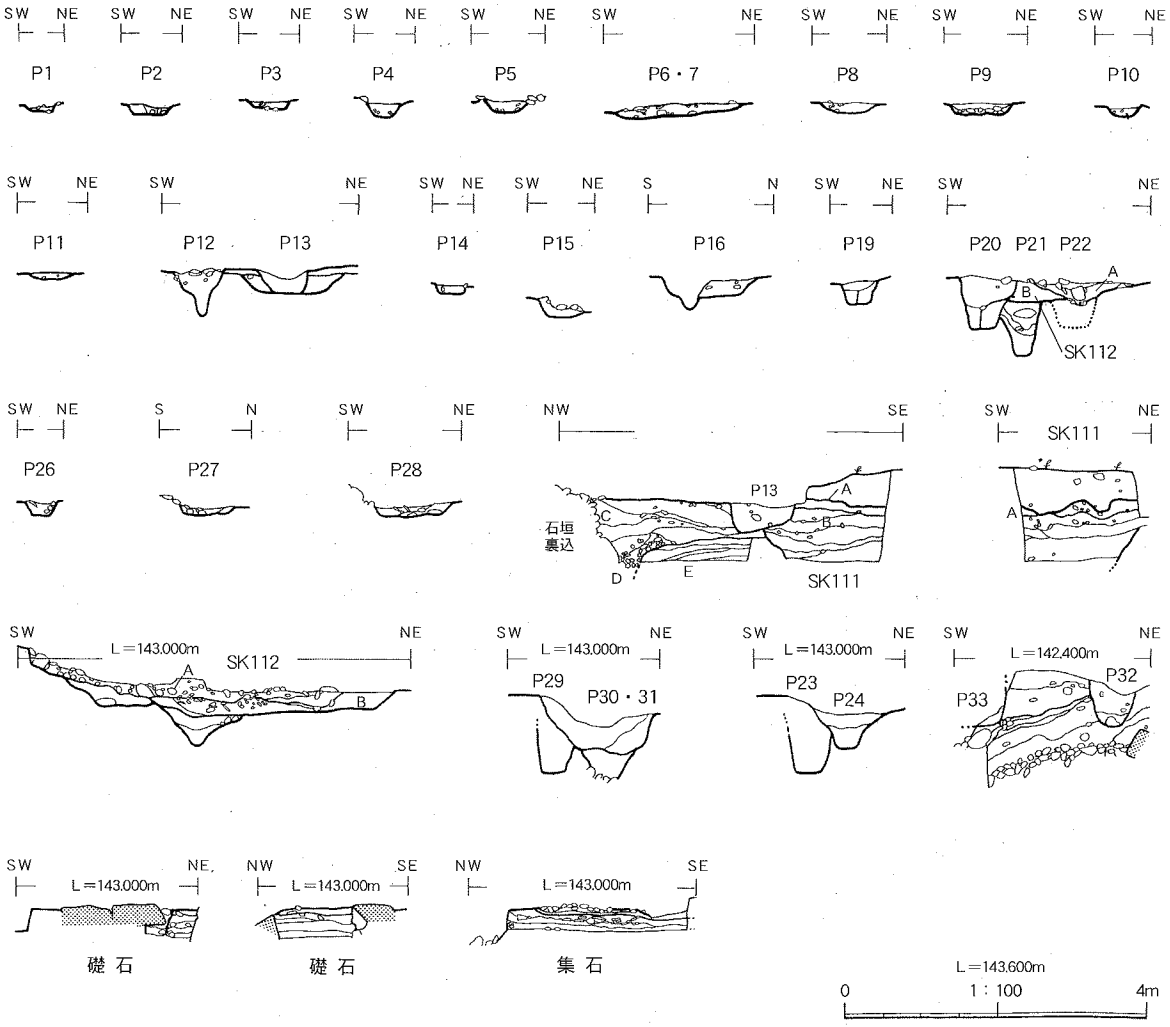
ＳＢ108建物跡（第47図）

石垣修復範囲外であるが、調査範囲の遺構と連続する建物跡と見られるため報告する。

本丸西辺中央部の石垣面に、６間×１間の柱配置で設けられた、垂直の柱の据方が存在する。石垣上に張り出した懸造り建物の遺構であり、西面中央石垣の間から、北側の仕舞所に渡るような施設が存在したことが判る。桁行方向は北から1.4ｍ、1.55ｍ、1.97ｍ、1.88ｍ、1.6ｍ、1.9ｍ。梁間は1.1ｍ～1.4ｍである。この柱位置に対応するように、石垣の天端石上面にも、建物の根太を受けた仕口（溝）が鑿加工で刻まれている。本丸から西側に突き出す根太は、半間の間隔で設けられ、石垣面の２列の柱列に直交する。建物の方位はＮ24.5°Ｅを示し、西面中央石垣の天端よりも11°西に振れて、北側の南面石垣に直交する。柱の据方の仕口は一辺15㎝～18㎝の方形で、石垣面を切り込んで造られている。底面中央に３㎝角の枘穴が穿たれている。西列の北から２つ目の据方だけは、24㎝×12㎝で、枘穴は２箇所穿たれている。この石垣は宝永４年（1706）に積みなおさ



第45図　SB107 建物跡、SK111 土坑



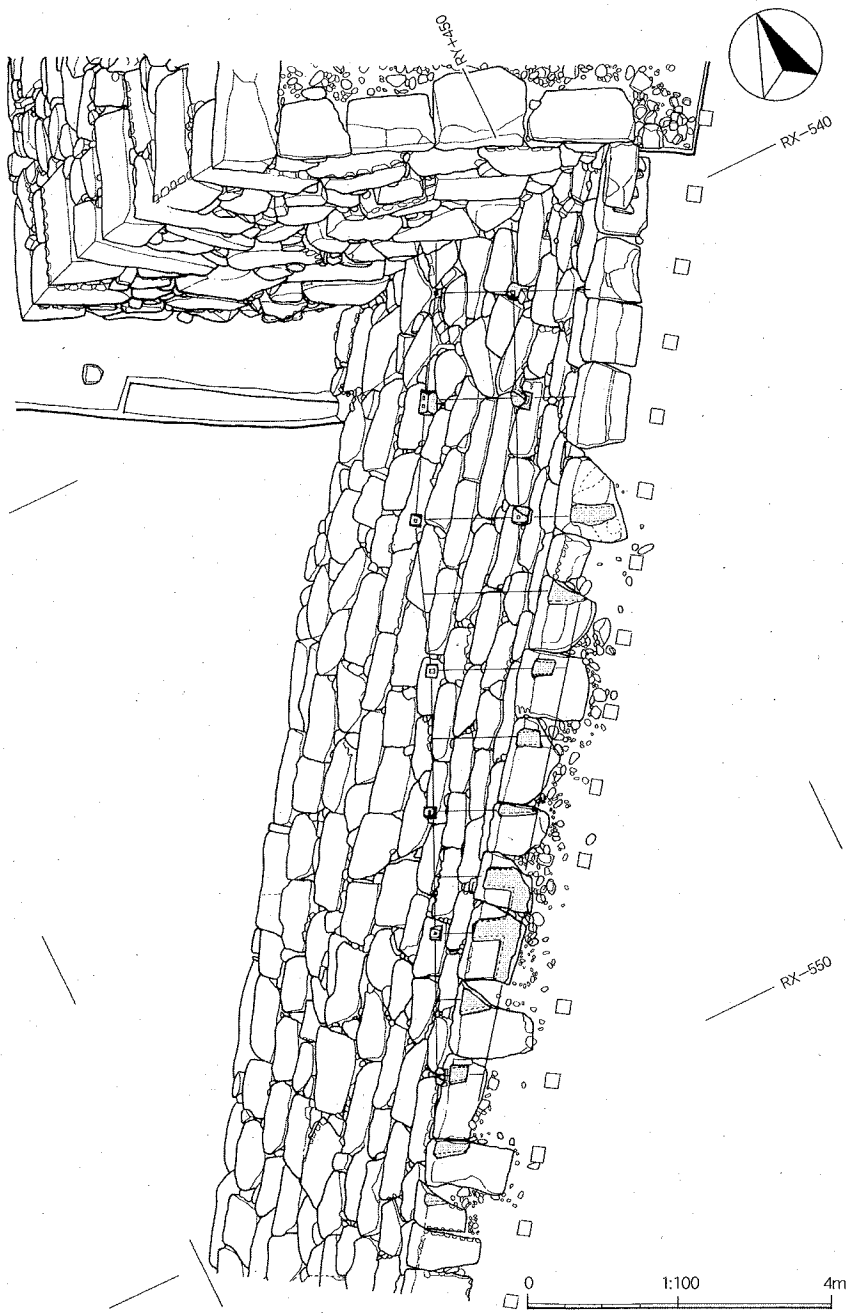
第46図　本丸北西部遺構土層断面図

れた布積Ｂ石垣であり、この遺構は18世紀以後、盛岡城４期または５期の建物跡である。

なお、この遺構に該当する建物については、現存絵図の中では確認できない。

ＳＫ112土坑、ＳＤ109溝（第45図、第46図）

ＳＫ112土坑は御殿の部屋割りでは「仕舞所」に該当する個所に存在する。建物との前後関係については明確ではない。東西2.4m、南北3.2mの楕円形で、断面皿状の土坑である。Ｐ22、Ｐ27、Ｐ29、Ｐ30、Ｐ31、Ｐ32を切り、Ｐ20に切られる。黒褐色土の埋土で自然堆積である。北東側にＲＧ109溝が存在する。幅50cm～70cm深さ15cmの溝で、黒褐色土の埋土である。ＳＫ112土坑とＳＤ109溝の埋土の土質は近似しているが、間に桜の巨木の根が存在し、新旧関係については把握できない。

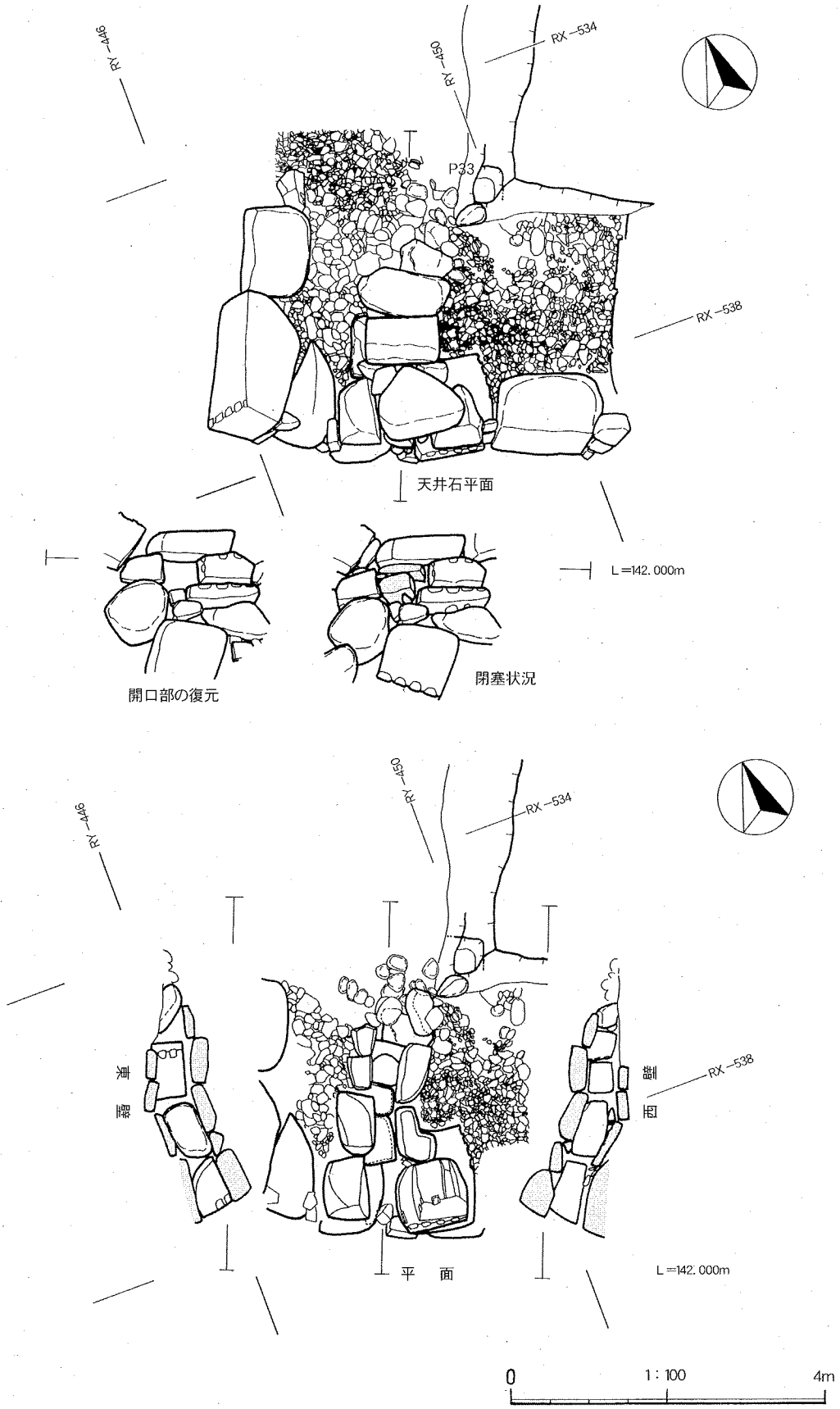


第47図　SB108 建物跡

ＳＪ101排水口（第48図）

石垣南面隅近くに設けられ、本丸北西部から南面石垣の外に排水する石組の排水施設である。この施設の入り口に当たる部分の真上には、後世電柱を設置した際の大きな撹乱があり、さらに南側石垣面の排水口は別の石材で閉塞されていたため、調査前にはこの存在は全く不明であり、石垣解体中に発見された排水施設である。石垣上面の調査では、周囲にこの施設に繋がる溝などは確認できず、本丸北西部からどのように排水されていたのかは解明できなかった。

排水口の大きさは60cm 四方ほどで、石垣南面上から２段目の隅石の隅尻に開口している。この



第48図　SJ101 排水口

天井石は石垣の隅尻石の位置にあり、排水口西側の壁を構成する側石は、上記２段目の隅石尻を直接受けている石材である。この付近は石垣の石材相互の空隙や緩みが大きく、石垣面や隅部の孕みも生じて、排水施設の石組みも、内側に相当沈下していた。特に本丸北西部上面からの排水を受ける受水槽が存在したと見られるあたりは、石組みの変形が著しく、本来なら排水口よりも高くあるべき底面は、排水口から75cm も沈下した状況であった。電柱撹乱の真下に確認されたＰ33は、残存部の形状から方形のピットであったと推定され、高さの関係から、この排水施設に繋がる受水槽のような施設であった可能性がある。石垣の孕みと電柱撹乱によって、排水施設の受水槽付近が破壊され、遺構が把握しにくくなったものである。

石組石材で確認できたのは、天井石大小６個、西壁を構成する側石５個、東壁を構成する側石が４個、底石３個である。底石は石垣裏込石に直接載せられており、この上に東西の側石が並べられ、天井石が架けられている。側石には、12cm ほどの矢穴が認められる石材があるが、東壁には野面石も用いられている。また、排水口西側の側石下の、丸い石垣築石の右上には、側石に対応するように、鑿による切込が認められる。石組内部に挿入されていた、木樋を受けていた痕跡であろう。

復元状況　この排水施設は、石垣復元に併せて、石組みの勾配を修正して復元しているが、受水槽部分については不明のままとした。また排水口には、大きさと形状を合せた、方形の石材を、石垣面よりも10cm ほど内側に入れて閉塞している。

4　本丸南西部の調査（第28次、30次調査）

本丸南西部は、北西部と同様に外側に石垣が張り出したプランで、三重櫓と対になる二階櫓の存在した位置である。この櫓は寛永13年（1636）の本丸火災（神山1990）の後、延宝２年（1674）から再建されたが、元禄２年（1689）11月より元禄14年（1701）４月23日までの間の地震により石垣が大破し、宝永４年（1707）に櫓を解体、石垣普請と櫓の再建を実施した個所である。今回の石垣修復工事では、この宝永４年の石垣全体に孕みが認められ、特に南西隅南側の隅石と築石との間には、６cmから10cmの空隙が生じていたことから、解体修復を実施したものである。その結果、宝永４年の石垣は、盛岡城２期の石垣のプランを踏襲して築造されたことや、盛岡城１期の石垣隅が約５m内側に確認され、盛岡城２期の造営において、本丸プランを大きく改変し、拡張していることが判明した。

（１）盛岡城１期の本丸と腰曲輪西側の遺構（第49図～52図）

現状石垣の西面石垣から東に3.8m、南面石垣から11m北に、石垣の隅部が確認されている。また、腰曲輪の遺構であるが、現状石垣の西側に1.4mから1.9mの位置に、石垣に概ね併行する柵の遺構、これを切る溝が１条確認されている。腰曲輪の盛土層や遺構面については後述する。

盛岡城１期の石垣　（第49図～52図）

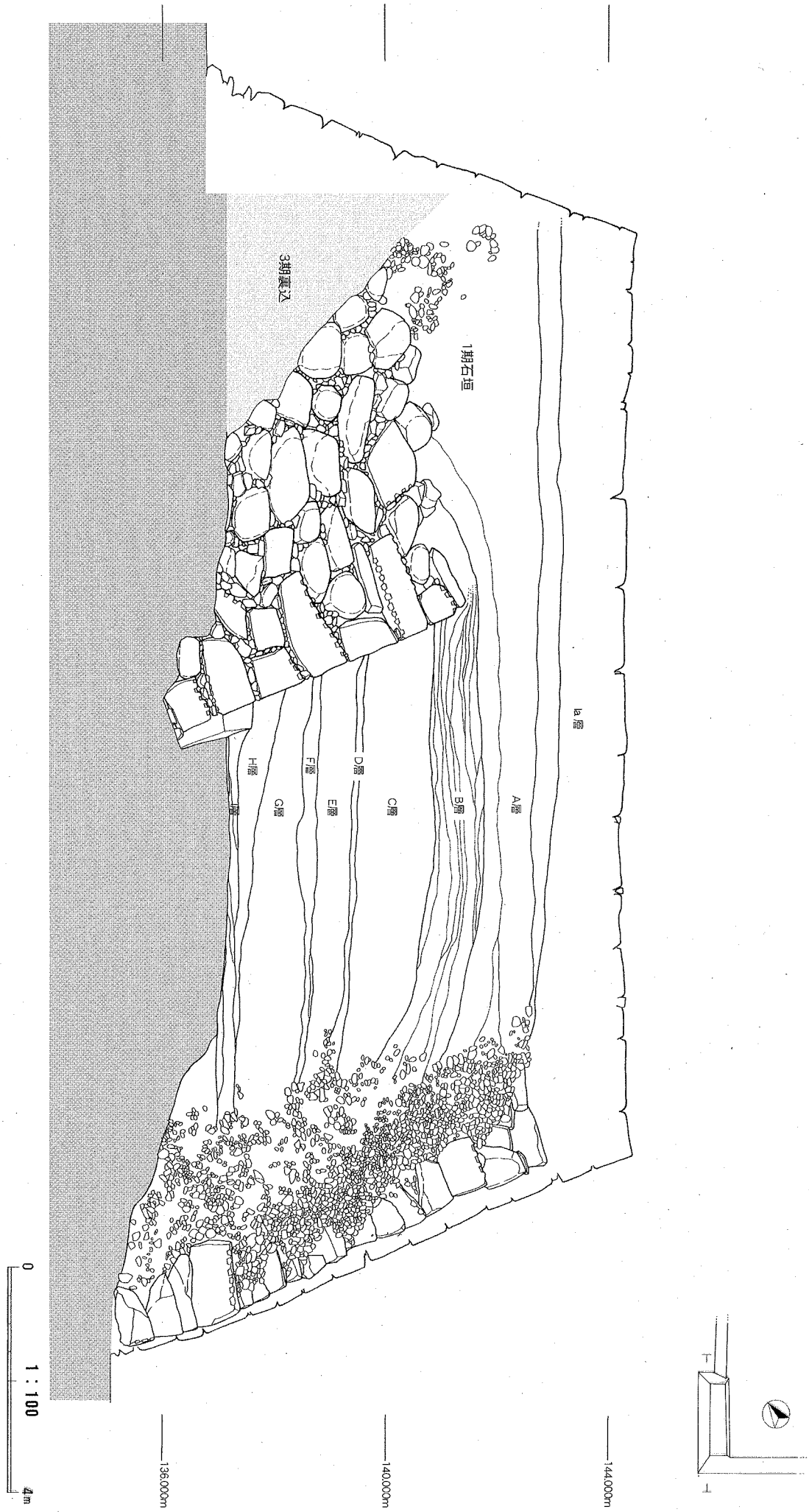
この石垣は隅石で７石、高さ5.2m残存している。石材はすべて花崗岩である。石垣の勾配は66°で、石垣残存部では反りは全く見られない。築石のほとんどは野面石であるが、隅石は、やや直方体に近い割石が用いられている。築石は、石材の大面（おおづら）を表に見せる積み方であるが、上部には控えをやや長くとる石材も見受けられる。隅石は９cmから10cmほどの矢穴で分割されているが、鑿調整痕は全く認められない。このため、隅角部稜線を真正面から見ると、上下の隅石の稜線が正確には通らず、微妙に左右に振れている。隅脇石に相当する石材も存在するが、形状が揃わないため、平たい石材を上などに噛ませて高さを調整している。詰石はほとんど割石が用いられている。石垣上面に裏込石を確認したが、調査区の関係でその厚さは不明である。

この石垣は今回の修復では解体せず、地下に埋め戻して保存している。

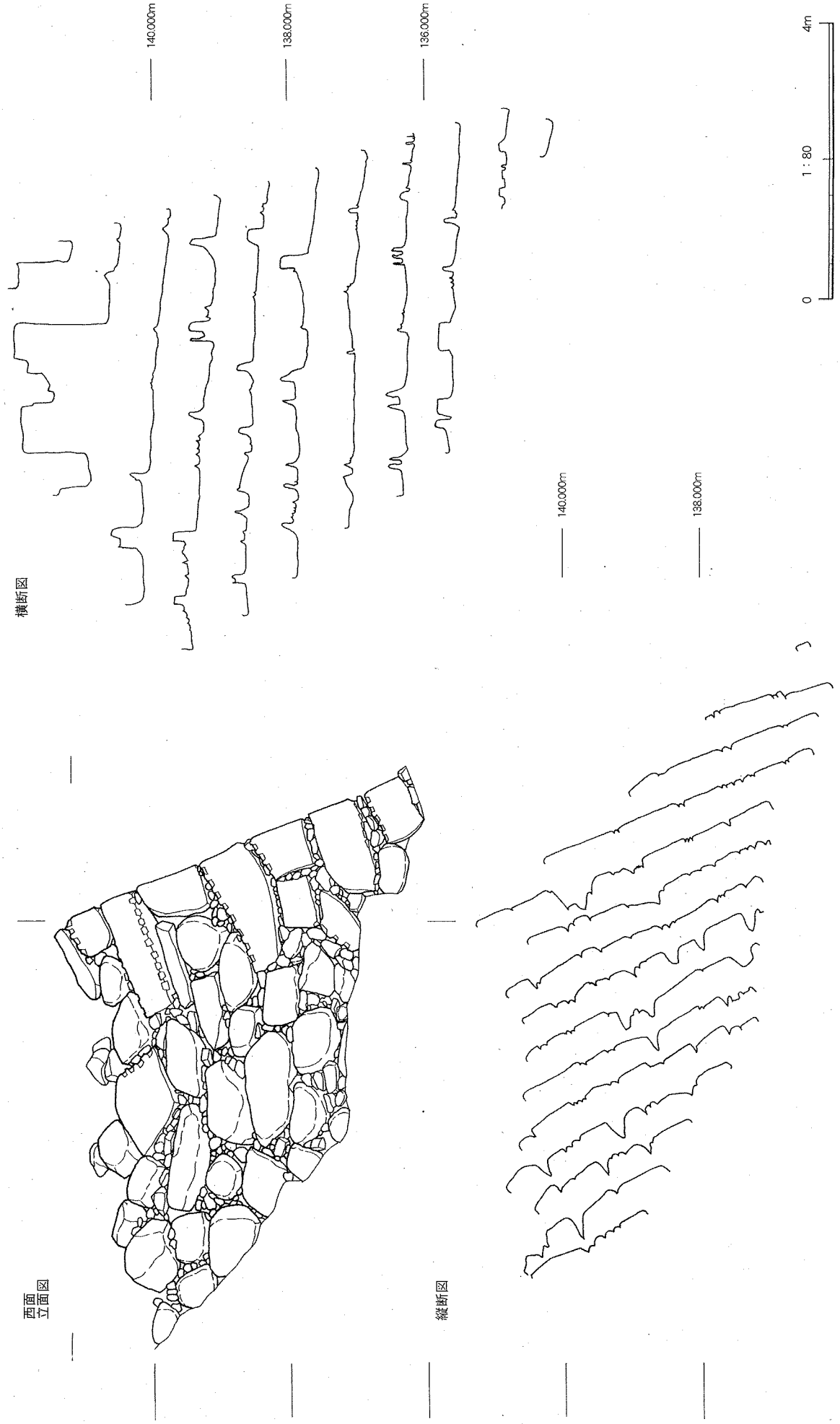
ＳＡ427柵跡、ＳＧ415、416溝跡（第49図、60図）

１期石垣と５m内外の距離で、概ね併行する、布掘の柵跡である。南端部で鋭角に折れ曲がっているが、北側は調査区外にさらに延伸するようである。この柵が腰曲輪西縁の囲郭施設であれば、この時期の腰曲輪西側部分は、かなり狭小なプランであったことになる。布掘溝の幅は40cm～50cm深さは62cmである（第60図Ｂトレンチ土層断面）。上面を盛土Ｅ層に覆われている。北半部では径10cm内外の柱痕跡が密に並ぶ。この柵は直行するＳＤ416溝に切られている。このＳＤ416と、これに概ね併行するＳＤ415溝も、同様の布堀溝の可能性がある。

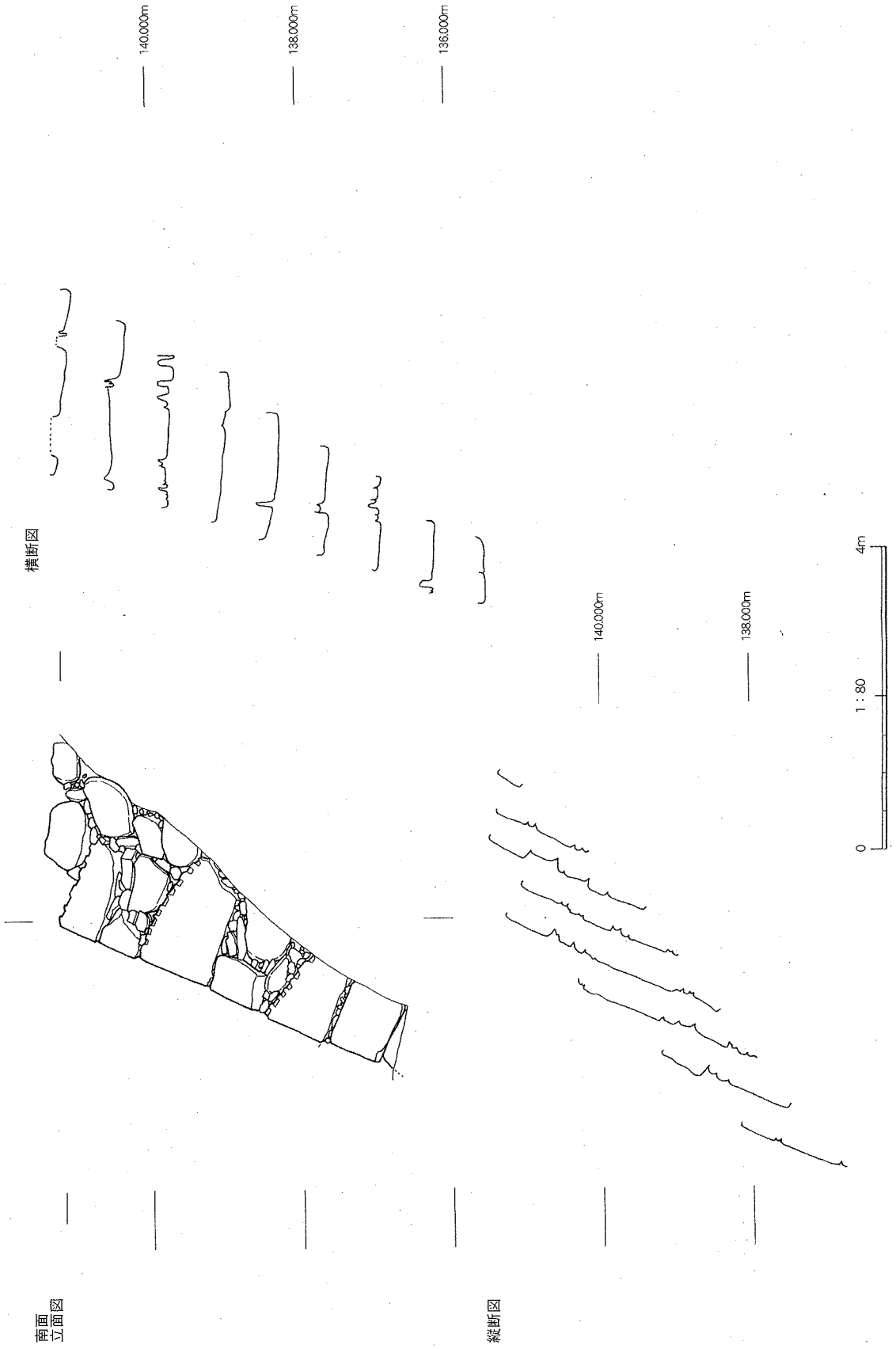
第49図　本丸南西部盛岡城第1期、第２期の遺構



第50図　本丸南西部断面図



第51図　１期石垣立面図・縦横断図



第52図　石垣立面図・縦横断図

（2） 盛岡城２期　本丸の遺構（第49図～50図）

盛岡城２期の石垣と盛土層（第50図、53図、54図）

盛岡城１期の石垣を西に５m、南に11m拡張し、現状のプランの本丸が構築される。この石垣は概ね地下部分のみ残存し、地上部分は宝永４年（盛岡城４期）に、すべて積みなおしている。北西隅部分は盛岡城４期に根石から積みなおしている。石垣根石は、盛土Ｅ層の上から、地山の花崗岩風化土を掘り込んだ溝（根石据方）の中に据えられている。今回の修復では、盛岡城２期の石垣には著しい変移が認められず、解体しなかったが、石垣石材や積み方は、同時期の本丸北東部や北西部の石垣と同様である。本丸南面石垣の裏込栗石層の背面は、第50図で示すとおり、すべて盛土で本丸を拡張している。盛土はＡ層が暗褐色ないしは黒褐色土主体で褐色土が混入する。Ｂ層は明灰褐色土や黒褐色土、褐色土の混合土。Ｃ層は黒色土に明灰褐色土が混入する土層で礫を含んでいる。Ｄ層は明灰褐色土主体。Ｅ層は黄褐色土と明灰褐色土の混合土、Ｆ層は明灰褐色土と黒褐色土、褐色土の混合土、Ｇ層は黄褐色土主体。Ｈ層は黒褐色土と褐色土混合土。Ｉ層は褐色土と明灰褐色土、暗褐色土混合土である。Ｊ層は明灰褐色土と黄褐色土混合土、Ｋ層は黒褐色土と暗褐色土主体である。このうちＡ層には礫が多く交り、焼けた壁土塊が混入する。また、盛岡城１期石垣根石際の小トレンチで確認されたＬ層からも焼けた壁土が出土しているほか、焼土粒や炭化物の混入が認められた。このことから、盛岡城１期においても、一部の建物が火災で焼失していた可能性がある。

盛土層

建物火災

図示していないが、２期盛土のＨ層下部から、唐津の鉄絵向付の破片が出土している。

（3） 盛岡城４期、本丸の遺構（第53図～58図）

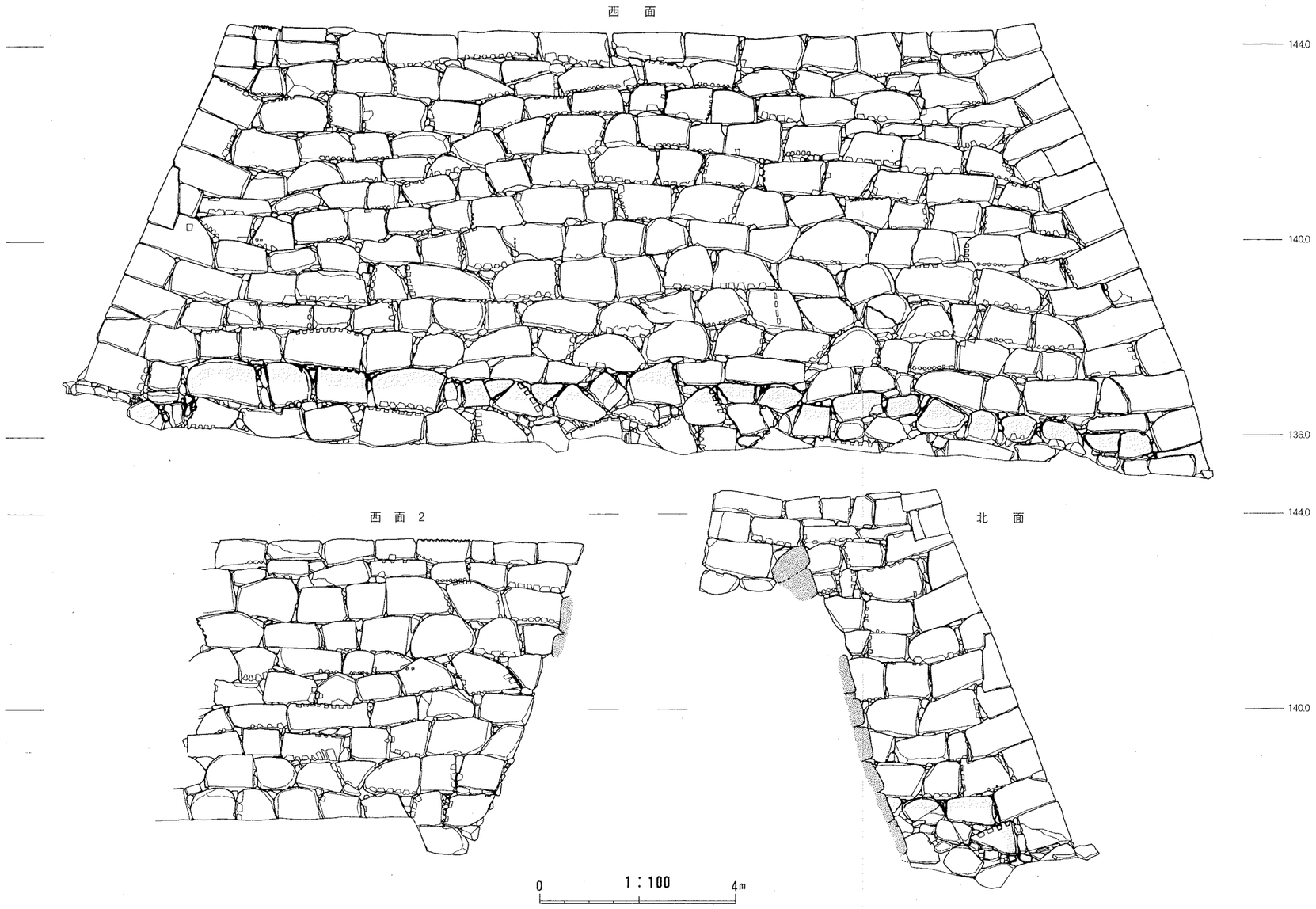
盛岡城４期の石垣（第53～56図、第67～69図）

盛岡城２期の石垣の地上部分と北西隅部分を、同一プランで積みなおした石垣である。この時不足の石材は、本町の裏、外曲輪北辺の堀の中に露出する、花崗岩が用いられ、石垣並びに二階櫓普請には、宝永４年２月19日に着手している（盛岡藩家老席日誌『雑書』）。

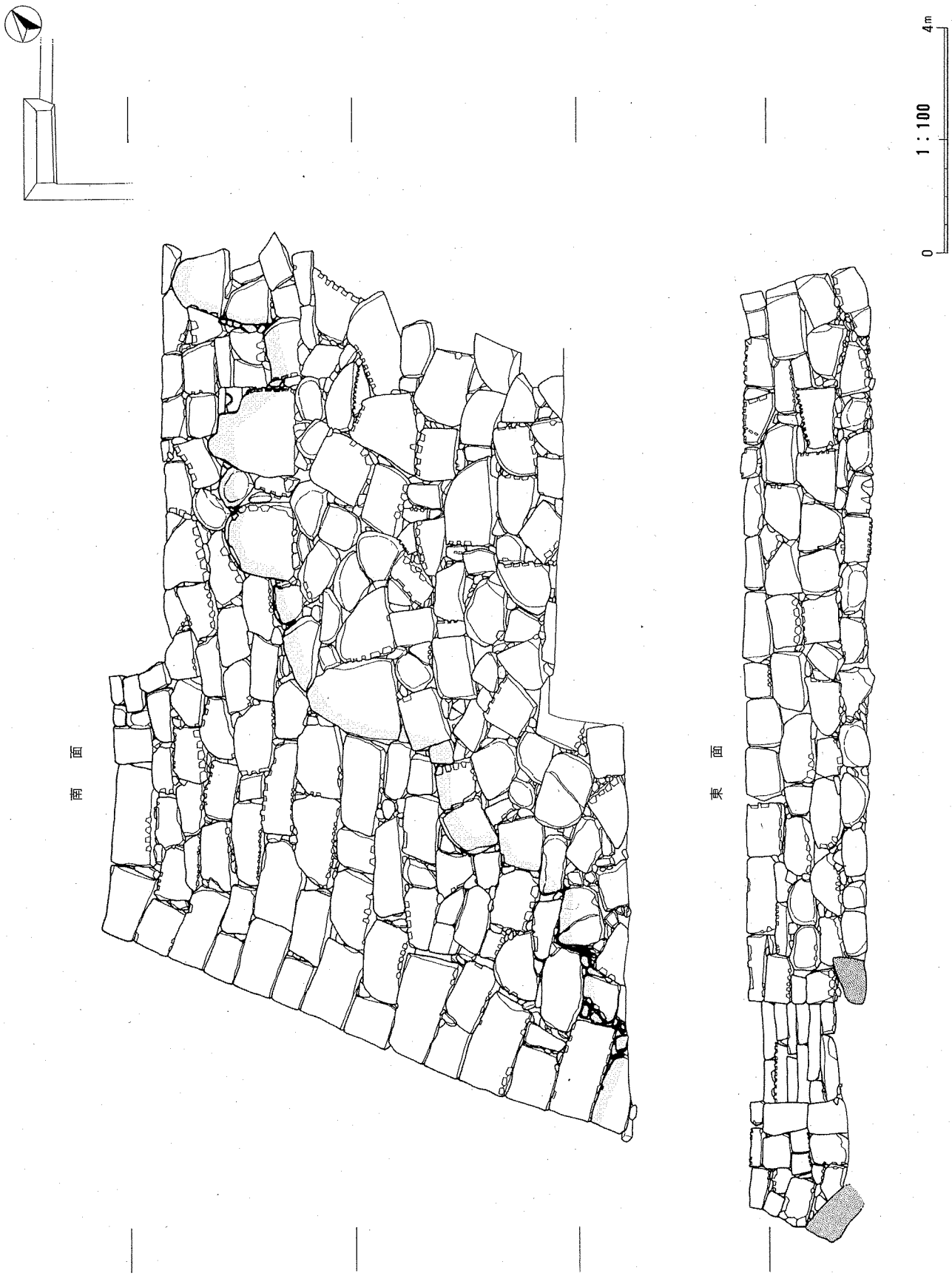
石垣の勾配は68°～69°で、天端石１石～２石が幾分反りをもつ。石材の加工状況から、石材のうち築石には盛岡城２期石垣石材の多くが転用されているらしい。多くの石材の表面には鑿調整痕が認められる。石材を分割した矢穴には、６～７cmの小形の矢穴と、14cmから18cm程度の大形の矢穴の２種類が認められる。小形の矢穴は宝永年間の石垣造営時、大形のものは盛岡城２期段階の石材が転用され、残ったものと理解できる。北西隅の根石下には、二ノ丸南東部石垣同様に、根固め石が敷かれている。南西部隅は盛岡城２期石垣の根石を残しているが、根石外側を土坑状に掘り下げて、その中に大小４個の石垣石材を落とし込んで、根石の回りを固めている。石垣の築石は、盛岡城２期石垣のように、極端に控えが長い石材や、石材の前面に比較して控えが著しく長い石材などは認められない。ただし、西面石垣の中央から南よりの中ぐらいの高さの位置などには、比較的控えの長い石材が集められている。これもある程度、役石としての効果を考えたものであろう。

根固め石

石垣隅角部分の隅石は、直方体に近い形状の石材が用いられる。下の隅石や角脇石には、上の隅石の滑り止めのための切組があり、北西隅角部の中ほどの隅石には、極めて特徴的な組石加工が行



第53図　本丸南西部の石垣立面図



第54図　本丸南西部の石垣

第55図　本丸南西部石垣捨石透視図

第56図　本丸南西部石垣断面図2

われている。この組石下側の隅石西面には、木材を挿し込んだ、四角い枘穴が残っている。隅石の鑿加工は盛岡城２期の隅石よりも顕著であり、石材の６面に及ぶものもある。このため、隅石では表面などに、大形の矢穴が残る石材は存在するが、小形の矢穴が残る例は認められない。それだけ鑿加工が顕著になっている。また、いわゆる「江戸切り」とは異なるが、隅石の稜線沿いの両面は面取りされて鈍角になっており、この面取り部分の鑿加工も、稜線に近づくほど、鑿調整が細やかである。隅脇石、隅尻石はほぼ１石で存在し、盛岡城２期石垣よりも明確になっている。入角部分については、築石同士がそのまま接しており、強固な算木積みにはなっていない。

この石垣背面の最大の特徴は、盛土をほとんど伴わず、背面の法面や旧石垣との間の部分には、裏込栗石が充填されている。そして、第59図に見るように、石垣上部には、３段にわたって捨石の列が設けられている。捨石のうち上２段は櫓台部分の内部にあたり、比較的整然と配置されている。捨石の大きさや形状は、割石や野面石が用いられるなど一定しないが、石垣構築の際の余剰石材が用いられているらしい。これと同様の捨石列は、腰曲輪南面石垣の下部に取り付けられた、ハバキ石垣のうち、元文５年（1740）から築造された布積Ｄ石垣の上部に認められる。

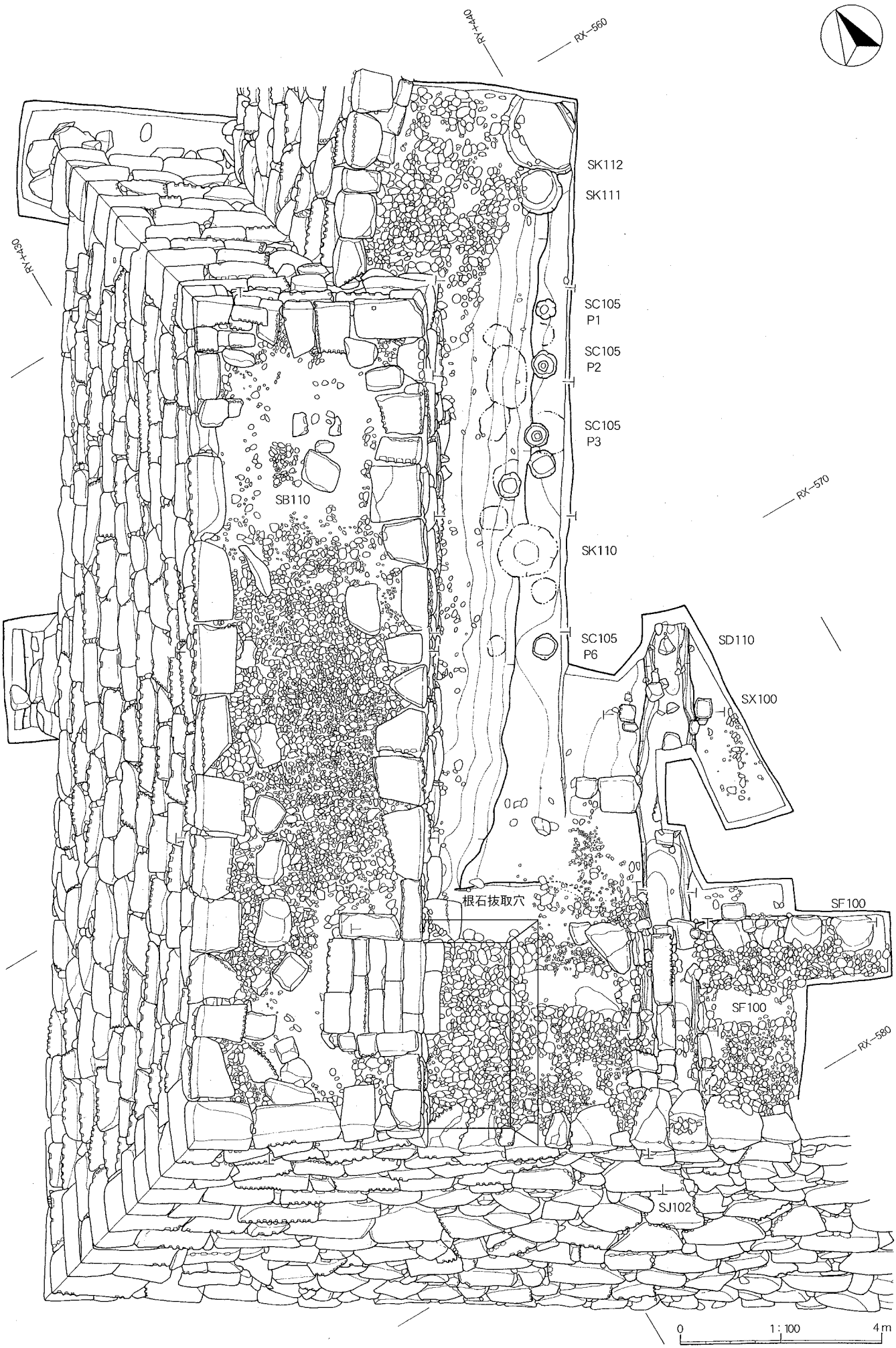
ＳＢ110二階櫓跡（第57図）

櫓のプラン　本丸南西部には、盛岡城２期当初から、二階櫓が存在したと考えられる。ここが宝永４年（1707）に石垣を積みなおしているのは先述のとおりであり、この櫓台も石垣普請と一体で構築されたものである。18世紀前半ごろと推定される「御城大絵図」（盛岡市中央公民館所蔵51.1－3）によれば、２間×３間の東西棟の櫓の北側に、２間×６間の長屋が付属し、全体としてＬ字形プランの櫓が存在したことがわかる。ただし、この絵図では二層目の規模は不明である。この櫓は江戸後期に至っては、本丸御殿の増築によって、本丸御殿南西部と一体化した建物になっていた。「本丸平面図」（同51.1－1）では、櫓（東西棟部分）の初階の規模は、２間×３間ではなく、２間×４間となり、１間東に延長される。そしてこの絵図には二階部分の掛紙があり、２間四方の部屋の東側に、0.5間×２間の床、または押入れが付属する構造で、二階全体では２間×２間半の規模であったことが判る。初階の桁行が４間に改められた際に、櫓台も拡張されたことも考えられるが、その場合、突出部の東面石垣は、後述するＳＪ102排水口の暗渠部分の西側に位置することになる。西側石垣天端からは８ｍ内外の位置である。しかしこの暗渠の西壁は２個の割石が設置されているものの、櫓台石垣の過重を支えるような強固な壁にはなっていない。このことから、櫓台のプランそのものは、宝永４年の普請の時から変更されておらず、以後の櫓も、櫓台平面にこだわらない構造で建てられていたと考えられる。これ以後、「霊承院様御代大奥御住居図」（岩手県立図書館所蔵）などの絵図で見る限り、藩政時代末期まで、櫓の平面規模とプランは変更されていない。

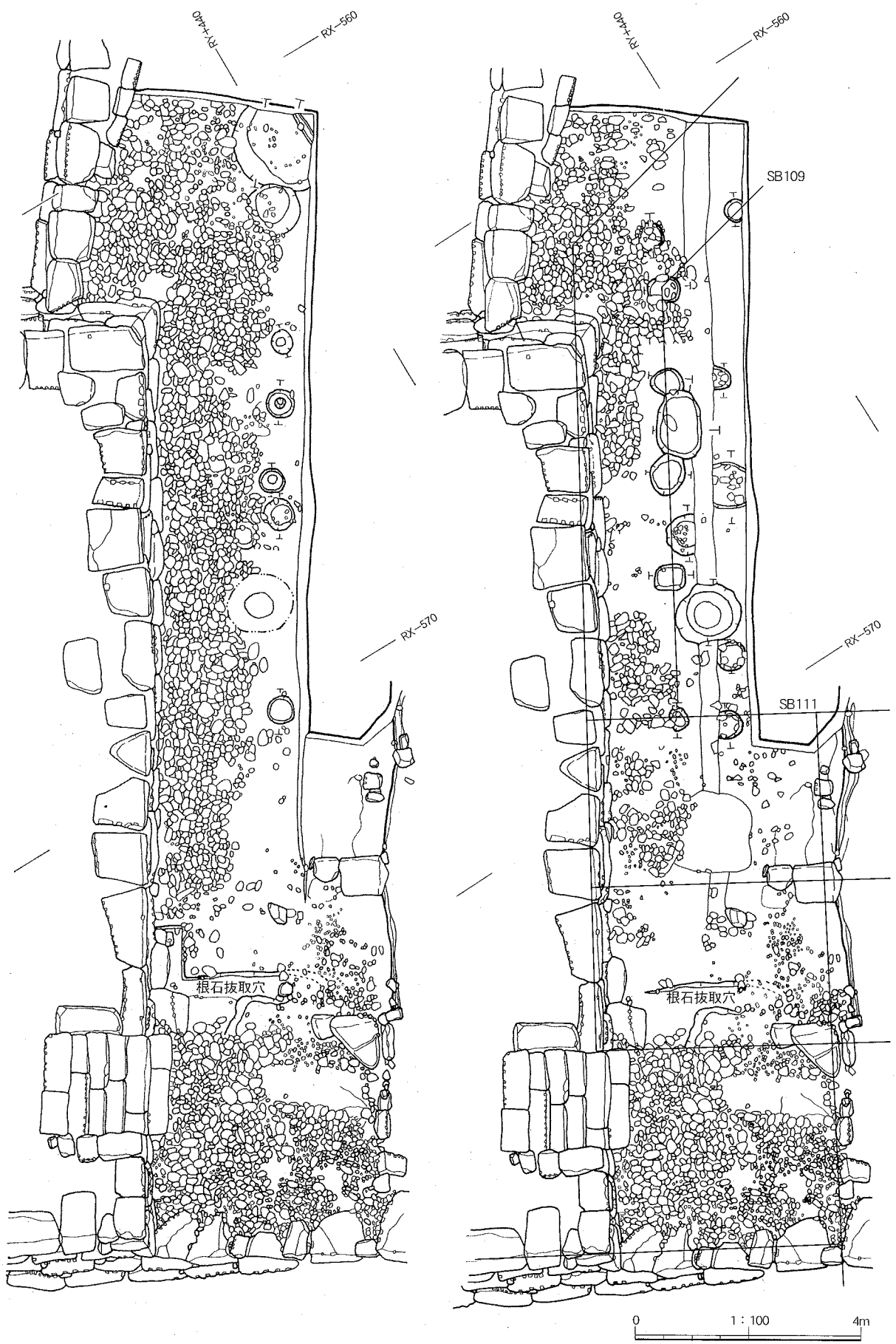
櫓台石垣　修復前の櫓台の形状は、石垣の天端で東西4.4m、南北は東辺で16.2m、西辺で16.5mの長方形プランであり、櫓台東辺の南よりに６段の石階が設けられていた。この石階の両側石垣は、明治以後の新しい石垣であり、本来のＬ字形プランの突出部分が、公園造成の際に撤去、改変された部分である。この突出部分については、その北面石垣、東面石垣ともに、根石まで撤去され、明確な抜き取り痕跡も確認できていないため、正確な規模は不明である。北側の長屋部分との接続部分に、１個の石垣石材が存在するが、これが北面石垣の根石とした場合、根石本来の勾配は保っておらず、石材に残る矢穴も５㎝に満たない小形のものであることから、この石が原位置を保った根石とは断定できない。櫓台突出部の北面石垣については、後述するＳＦ100石土居跡内面（北面）石垣の延長線上であった可能性が高い。東面石垣の位置については、櫓の平面規模にあわせれば、石垣天端で計測すると、西面石垣天端から６ｍ内外の場所であったことになる。また、北に接続される長屋部分の東面石垣の根石は、本丸の平坦地よりも50㎝低い法面に設置されている（第56図）。この低みには、栗石が充填され本丸平面と同じ高さに造られている。櫓台の上面は、天端石上端から70㎝ほどの高さまで裏込栗石が充填された上に、褐色土や暗褐色土混合土をつき固めながら盛土している。先述の石垣内の捨石列のうち、最上段の列のこの土層の上面に礎石や礎石の抜取痕跡を探したが、全体に撹乱が著しく、ことに櫓台北端部には防災用サイレンの鉄塔が建設され、撹乱が深く、裏込栗石層の上部にまで及んでいたため、建物の柱位置については全く明らかにできなかった。

ＳＢ109渡り廊下跡、ＳＢ111建物跡（57図、58図）

ＳＢ110二階櫓跡に接続される渡り廊下と、本丸南西部の建物跡である。渡り廊下の跡は、盛岡城概報1999においてＳＡ105として報告した遺構である。二階櫓の長屋部分の石垣天端よりも1.5m



第57図　本丸南西部全体図



第58図　本丸南西部部分図

の間隔をおいて、南から2.65＋1.7＋1.7＋1.7の４間併行し、東に43°方向を転じて1.9mの柱間が確認される。この先は御殿の「御居間」に通じる。これらの柱位置は径35cm～60cm、深さ８cm～15cmの浅い穴で残存し、穴の形状から礎石の抜取痕跡である。この南側、ＳＦ100石土居にかけて、御殿の建物礎石がいくつか確認されている。そこに「霊承院様御代大奥御住居図」の平面を重ねると、礎石位置が建物の部屋割りに概ね一致する。二階櫓長屋東側の「次」二部屋、二階櫓から一間置いた東側の「水之間」などの部屋に該当する。また、先のＳＢ109渡り廊下の先は、「御居間」に通じる。

ＳＦ100石土居跡（第57図）

本丸に南辺にあり、ＳＢ100三重櫓とＳＢ110二階櫓をつなぐ石土居である。現状の本丸南石垣天端の上面には、小さな矢穴の入った割面や、玄翁による打ち欠き面が認められ、本丸北西部と同様に、明治期の改変が考えられ、本来はさらに１段程度石垣が高かった可能性がある。現状の天端石の上端の線から、本丸側に4.4m内側に石材の前面を合わせ、石土居内面の石垣根石列を、東西に６m確認した。内面石垣の石材はすべて野面石であり、ＳＪ102排水口の西側では２段の重なりが確認できた。この上側の石材頂部は、現状の南面石垣天端よりも60cmほど低く、内面石垣も、あと１～２段高かったと推定され、この石土居の上部も公園造成によって削平されていたものである。本丸外面の南面石垣は、石垣石材の裏側に1.8m～２mの裏込石、内面石垣の裏面には60cmから１mの暑さの裏込石が確認できた。今回の修復ではこの石土居の残存部には工事が及ばないため、この部分の石垣解体は実施せず、地下にそのまま埋め戻して保存している。

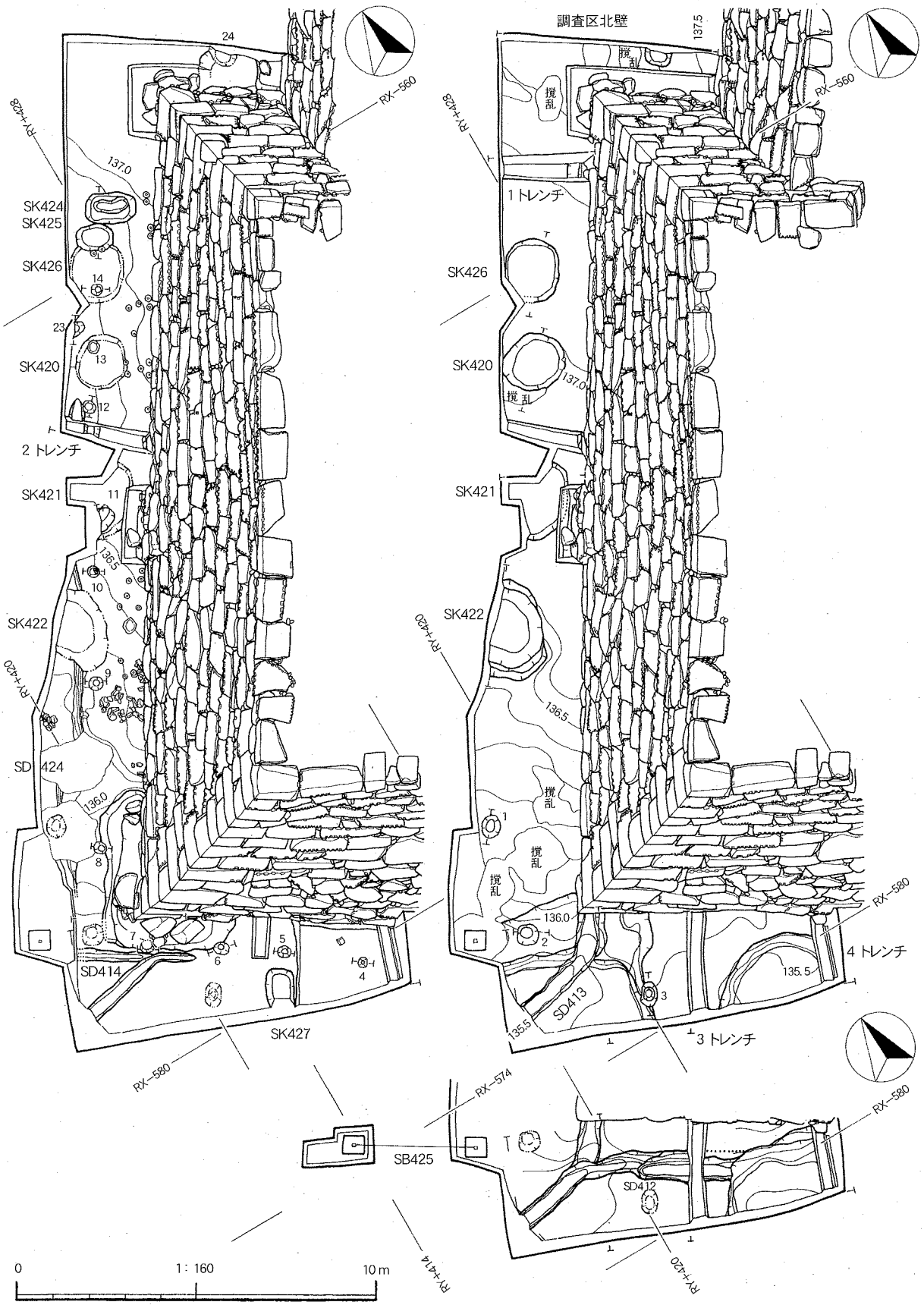
ＳＪ102排水口、ＳＤ110溝（第57図、58図）

排水施設　本丸内部の排水を、南面石垣の外側に排出する施設である。この延長線上には、腰曲輪南面石垣に開けられた、ＳＪ406排水口が存在する。ＳＤ110溝はＳＢ110二階櫓跡の東面石垣下端から４m東側に併行し、幅90cm～1.1m、深さ40cmの箱形の断面形である。これに続くＳＪ102排水口は、ＳＦ100石土居を幅３mほど掘り割って設置され、その中心線からやや西よりのところに、石製の樋4本を連結し、４枚の天井石をかぶせて、石土居内部を貫通する。樋は花崗岩をU字形に掘り込んで整形し、天井石はそれに見合う大きさの直方体に割られて作られている。先端の石樋は石垣よりも突き出していた部分は欠損している。矢穴の大きさは６cm～８cmほどである。江戸時代後期にはこの溝や排水口の上には本丸南西部の御殿が建てられており、この排水施設は、建物の床下を通じていたものである。

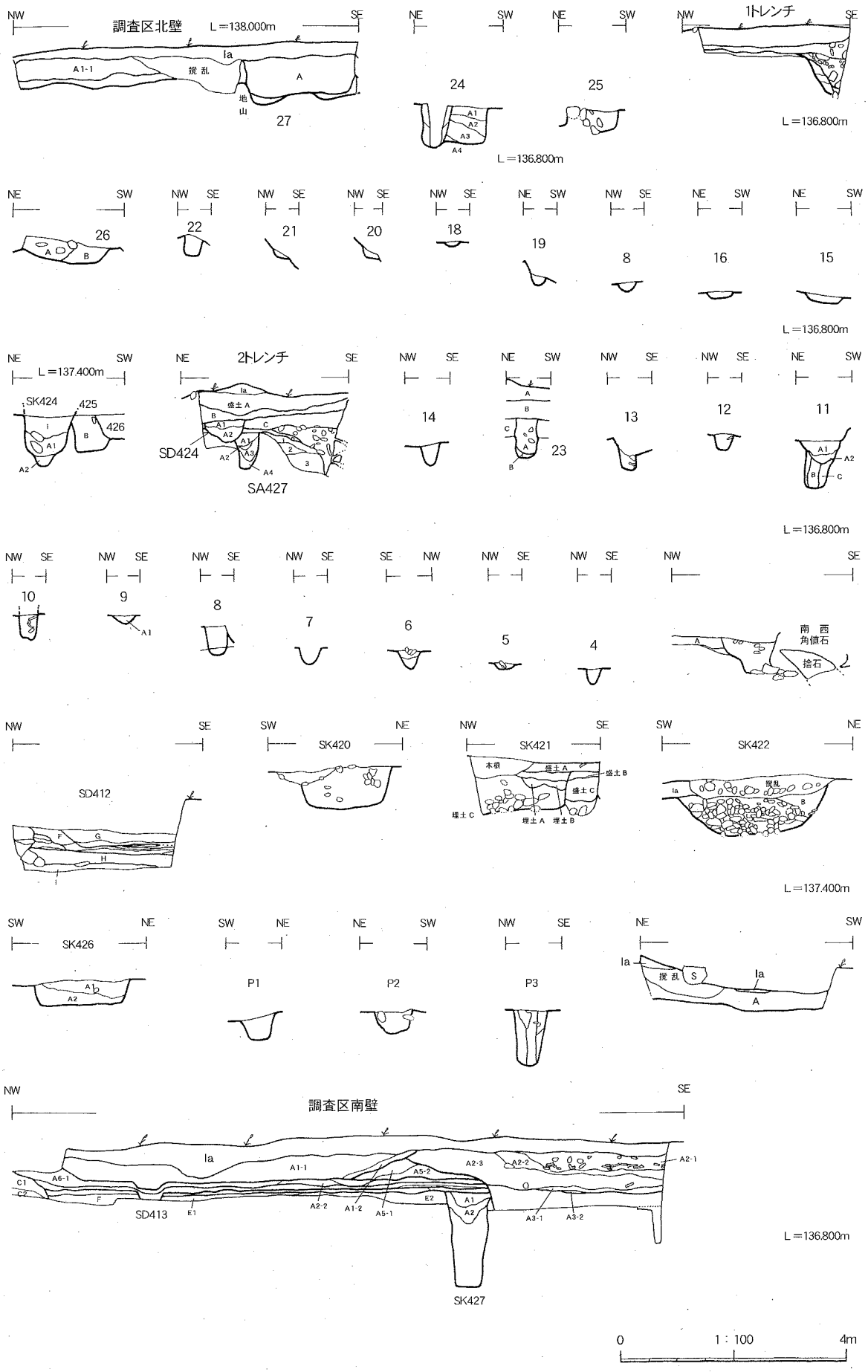
（４）　盛岡城３期　腰曲輪西側の遺構（第59図、60図）

腰曲輪の盛土層と遺構面

腰曲輪の盛土層は６層確認されている。地山の上に堆積する盛土Ｆ層は、花崗岩風化土の鈍い黄橙色土に粘土質の鈍い黄褐色土が混入する土層で、盛岡城１期、またはそれ以前の盛土層である。これは北西隅部西側の１トレンチ内で確認されており、このトレンチ内では地山の花崗岩風化土は確認されていない。２トレンチ内では、Ｅ層の直下にＦ層は存在せず、花崗岩風化土の地山が確認



第59図　腰曲輪西側（本丸南西部下）の遺構2



第60図　腰曲輪西側土層断面図

されている。E層は1と2の両トレンチ内で確認されており、褐色土と灰黄褐色土の混合土で、盛岡城1期布掘の柵の上面を覆っている。D層はE層上面から掘り込まれる、盛岡城2期石垣の根石据方内の埋土で、暗褐色土と灰黄褐色土の混合土で礫が多く混入する。C層は盛岡城2期の石垣据方の上を覆う土層で、灰黄褐色土主体の硬い盛土で、第1期保存整備事業で発掘調査と石垣修復を実施した、腰曲輪南部から南西部で確認された3c層（ⅢC期盛土）に近似するが、今次調査区の場合、赤瓦が多く出土している点が異なり、腰曲輪南西部などの3c層と同一層となるかどうかは不明である。この層の上面は西側に向かって緩やかに傾斜している。この上を被覆する盛土B層は、にぶい赤褐色の花崗岩風化土を多く混入する灰白色土の硬い盛土層であるが、これは腰曲輪の南部や南西部では認められなかった土層である。さらに、B層の上に盛られたA1層は、にぶい黄褐色の川砂や小礫で構成される砂礫層であり、腰曲輪南部から南西部にかけて堆積しているⅢf期盛土（3f層）とほぼ同質の土層である。この関係から、B層は腰曲輪Ⅲd期またはⅢe期に対応する可能性がある。

C層上面には、SK424、425土坑、427土坑SD414、415溝のほか、11口の柱穴または柱穴状の穴、石垣に接近して26口の小柱穴が存在する。B層上面から掘り込まれた遺構にはSK420、421、422、426の土坑、SB425門跡、SD412、413溝が存在する。また、SK427土坑東側には竪穴状の落ち込みが確認されており、その西壁は南面石垣に直交する。さらに、SD413の周囲は、確認範囲で1.8m×2mほどの低みになっている。どちらも調査範囲外に大きく拡がる遺構の一部であり、性格は不明である。A1層の上面には遺構は確認されていない。

SB425門跡（第59図）

門　跡　礎石建ちの門で、礎石は左右に各1個、A6層上面を掘り込んで設置されている。石垣南西隅から西に2.5m離れ、南面石垣根石の延長線よりも70cm南に位置する。礎石は64cm×56cmの方形で、厚さ42cm、中央に10cm×9cm深さ4cmほどの枘穴がある。東側の礎石上面中央の標高は136.02m、西側も同じ高さで、柱の間隔は芯々で3.41mである。控え柱などは明確ではないが、柱穴1と2は位置からみて、この門跡に関連する可能性もある。この門礎石は原位置のまま埋め戻して保存している。

SD415溝跡（第59図）

この溝はSB425門跡の下層に存在する溝で、西面石垣根石より1.9mから2.1mはなれ、石垣と概ね併行している溝である。溝のプランはやや不整形であるが、狭いところでは46cmの幅、広いところでは60cm以上の幅があり、深さは35cm内外である。溝の埋土は灰黄褐色土主体である。

SD412、413、414溝（第59図）

石垣南西隅南側に重複する溝で、溝の新旧関係は、SD414 → 413 → 412である。最も古いSD414溝は、南面石垣に併行する、深さ数cmの細く浅い溝で、西側では不明瞭になり、調査区土層断面には、明確な落ち込みとしては現れてこない。SD413溝は南面石垣より90cm離れて併行し、石垣隅近くで「く」の字に曲折して、吹上門方向に流れていく溝である、幅50cm、深さ10cm～18cmの規模で、この溝を境に石垣側が20cmほど高い。南西側に斜めに延びる部分は、断面は浅

い箱形で、ＳＤ412溝とそのまま上下に重複する。ＳＤ412溝は石垣隅石南側から発し、折れ曲がってからはＳＤ413溝を踏襲する位置、方向で重複する。掘り込み面はＳＤ413溝よりも２層上のＡ６－１層上面から掘り込まれている。溝の断面は、幅42cm、深14cmの箱形である。断面形状から、木製の樋が設置されていた可能性がある。ＳＤ413溝の埋土より、赤瓦の破片、国産染付の茶碗の破片などが出土している。

ＳＫ427土坑（第59図、60図）

ＳＤ413溝と同一面から掘り込まれた土坑である。長さ１m以上、幅80cm、深さ1.6mであり、形態は陥し穴状の穴である。灰黄褐色土主体の土が堆積している。

ＳＫ420～426土坑（第59図、60図）

西面石垣に沿って並ぶ４基の土坑で、径165cm～270cm、深さは46cm～65cmである。このうち、ＳＫ421土坑はＡ層に覆われている。ＳＫ421土坑とＳＫ422土坑は礫が多く堆積し、埋土は灰白色土と褐色土の混合土である。ＳＫ420とＳＫ426土坑の埋土は暗褐色土と黒褐色土、または褐色土の混合土である。ＳＫ421土坑から棟板瓦が出土したほか、各土坑内部からは赤瓦や瓦の破片、国産染付磁器類、陶器類が出土している。

ＳＫ424土坑、ＳＫ425土坑（第59図、60図）

北部にある小判形の土坑であり、ＳＫ425土坑はＳＫ424土坑とＳＫ426土坑に切られている。埋土はＳＫ424が鈍い黄褐色土主体、ＳＫ425が灰黄褐色土主体である。

表2　　盛岡城跡022次本丸北東部石材法量計測表(北面)

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
天角1	80	83	80	85	183	(ロ)天角1
天2	130	72	125	83	69	
天3	73	65	74	69	120	
天4	112	50	115	54	140	
天5	102	36	112	34	93	
天6	120	40	120	66	72	
天7	–	–	–	–	–	
天7下	45	20	48	18	42	
天8	129	27	108	13	107	
天9	48	49	46	30	66	
天10	93	32	80	56	100	
天11	130	29	134	23	103	
天12	66	16	63	14	90	
天13	124	17	124	20	115	
天14	71	11	73	16	98	
天15	152	29	147	39	128	
天16	113	10	95	59	154	
天17	124	43	73	49	151	
18	63	32	48	11	38	
19	–	–	–	–	–	
20	112	90	140	79	97	
21	110	32	114	71	95	
22	10	50	24	57	10	
23	36	41	32	40	52	
24	108	79	114	54	94	
25	63	14	55	35	17	
26	50	47	43	45	85	
27	80	101	83	101	148	
28	28	76	17	76	80	
29	179	74	158	8	134	
30	101	85	103	94	86	
31	25	59	41	52	60	
32	118	69	117	43	129	
33	86	15	97	85	142	
34	70	39	63	33	95	
35	90	52	90	76	117	
36	96	44	98	53	94	
37	126	61	129	57	117	
38	90	31	58	23	98	
角39	194	72	190	59	70	(ロ)角42
40	90	78	90	17	105	
41	32	48	29	47	74	
42	101	91	98	78	127	
43	52	56	57	63	119	
44	122	112	101	51	101	
45	109	74	47	83	105	
46	144	107	135	96	97	
47	60	36	55	3	32	
48	86	65	104	72	–	控え未計測
49	–	–	–	–	–	
50	–	–	–	–	–	
51	61	21	47	18	63	
52	38	42	29	46	75	
53	147	28	95	64	123	
54	156	109	141	57	96	
55	111	69	91	82	80	
56	85	77	93	86	123	
57	–	–	–	–	–	
58	–	–	–	–	–	
59	–	–	–	–	–	
60	–	–	–	–	–	
61	–	–	–	–	–	
62	165	87	24	79	103	
63	14	70	44	38	52	
64	144	70	123	104	109	
64下	57	18	55	12	15	
65	–	–	–	–	–	
66	92	37	105	68	91	
67	81	84	71	62	121	
68	–	–	–	–	–	
69	136	100	140	68	87	
70	79	85	87	80	123	
71	82	77	73	75	114	
72	45	28	40	24	218	
73	97	106	124	88	81	
74	122	78	110	58	90	
75	12	52	68	50	74	
76	111	46	107	62	90	
77	176	1	131	93	110	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
角78	76	90	89	80	173	(ロ)角43
角79	221	62	216	81	96	(ロ)角87
角79下	26	16	21	20	25	
80	96	34	85	14	81	
81	70	67	86	29	161	
82	61	47	23	48	64	
83	61	40	38	40	27	
84	130	120	57	80	80	
85	179	25	189	77	110	
85右	55	31	31	57	70	
86	86	80	147	90	67	
87	62	35	77	25	75	
88	170	87	147	54	100	
89	84	21	41	70	92	
90	26	39	20	46	53	
91	79	51	66	13	28	
92	114	68	140	82	87	
93	111	59	85	26	153	
94	86	60	57	58	180	
95	135	73	110	88	92	
96	38	61	29	73	16	
97	90	73	70	57	82	
98	42	71	40	57	80	
99	105	83	116	76	95	
100	37	71	50	40	41	
101	–	–	–	–	–	
102	84	68	72	73	106	
103	54	34	59	21	71	
104	150	60	123	86	177	
104右下	47	29	61	20	20	
105	72	62	95	51	124	
106	217	32	218	104	93	
107	57	47	75	44	92	
108	100	78	127	118	–	控え未計測
109	135	137	83	123	136	
110	60	102	72	94	125	
111	–	–	–	–	–	
112	170	116	154	120	160	
113	80	52	64	34	127	
114	–	–	–	–	–	
114上	40	15	46	17	10	
角115	94	80	96	87	240	(ロ)角88
角116	202	56	202	69	132	(ロ)角89
117	110	79	115	52	135	
117上	54	16	49	11	17	
118	148	81	142	66	129	
119	51	51	71	54	72	
120	113	84	117	82	110	
121	–	–	–	–	–	
122	79	87	100	85	121	
123	107	73	115	51	116	
124	70	93	83	111	126	
125	114	81	125	88	159	
126	127	84	124	81	102	
127	–	–	–	–	–	
128	118	73	110	86	159	
129	–	–	–	–	–	
130	94	84	111	93	172	
131	155	58	173	66	105	
132	–	–	–	–	–	
133	–	–	–	–	–	
134	39	75	33	75	102	
134下	50	42	43	32	72	
135	75	46	51	39	128	
136	–	–	–	–	–	
137	113	70	109	45	172	
138	121	65	129	56	102	
139	59	56	69	14	111	
140	54	45	61	50	137	
141	–	–	–	–	–	
142	133	77	126	87	146	
143	62	33	70	27	112	
144	130	60	84	41	120	
144上	62	17	60	31	86	
145	110	77	121	80	120	
145下	43	33	27	38	58	
146	–	–	–	–	–	
147	122	79	193	72	156	
148	38	40	55	47	30	
149	–	–	–	–	–	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
角150	138	62	142	80	252	(ロ)角124
角151	208	55	184	83	139	(ロ)角125
角152	114	42	120	81	209	(ロ)角163
153	92	33	95	58	93	
154	79	95	78	90	110	
155	–	–	–	–	–	
156	24	62	29	65	39	
157	87	69	92	74	111	
158	130	75	120	82	118	
159	–	–	–	–	–	
160	109	68	127	65	127	
160上	50	24	54	3	9	
161	209	67	209	86	89	
162	92	118	156	59	103	
163	143	119	173	24	133	
163上	49	42	43	25	97	
164	66	108	122	109	132	
165	40	23	60	25	77	
166	142	61	149	54	95	
167	–	–	–	–	–	
168	–	–	–	–	–	
169	–	–	–	–	–	
170	55	70	45	62	82	
171	–	–	–	–	–	
172	109	68	126	60	106	
173	–	–	–	–	–	
174	41	49	20	68	17	
175	45	22	37	34	18	
176	42	49	63	36	120	
177	108	51	101	55	112	
178	59	17	53	41	40	
179	35	62	50	35	43	
180	98	87	90	51	116	
181	–	–	–	–	–	
182	121	80	122	90	130	
183	56	38	57	24	16	
184	–	–	–	–	–	
185	30	40	57	40	134	
186	144	62	107	84	154	
187	130	80	162	40	113	
188	48	62	59	74	146	
角189	162	113	207	95	77	(ロ)角164
角190	107	105	93	121	157	(ロ)角192
角190右	27	56	7	53	21	
191	1	125	146	105	116	
角192	–	–	–	–	–	
193	28	56	24	53	35	
194	–	–	–	–	–	
195	–	–	–	–	–	
196	–	–	–	–	–	
197	–	–	–	–	–	
198	105	79	116	76	125	
199	–	–	–	–	–	
200	–	–	–	–	–	
201	62	142	153	128	171	
202	101	75	137	9	125	
203	94	62	143	83	120	
204	–	–	–	–	–	
205	129	78	124	88	147	
206	161	84	175	40	55	
207	–	–	–	–	–	

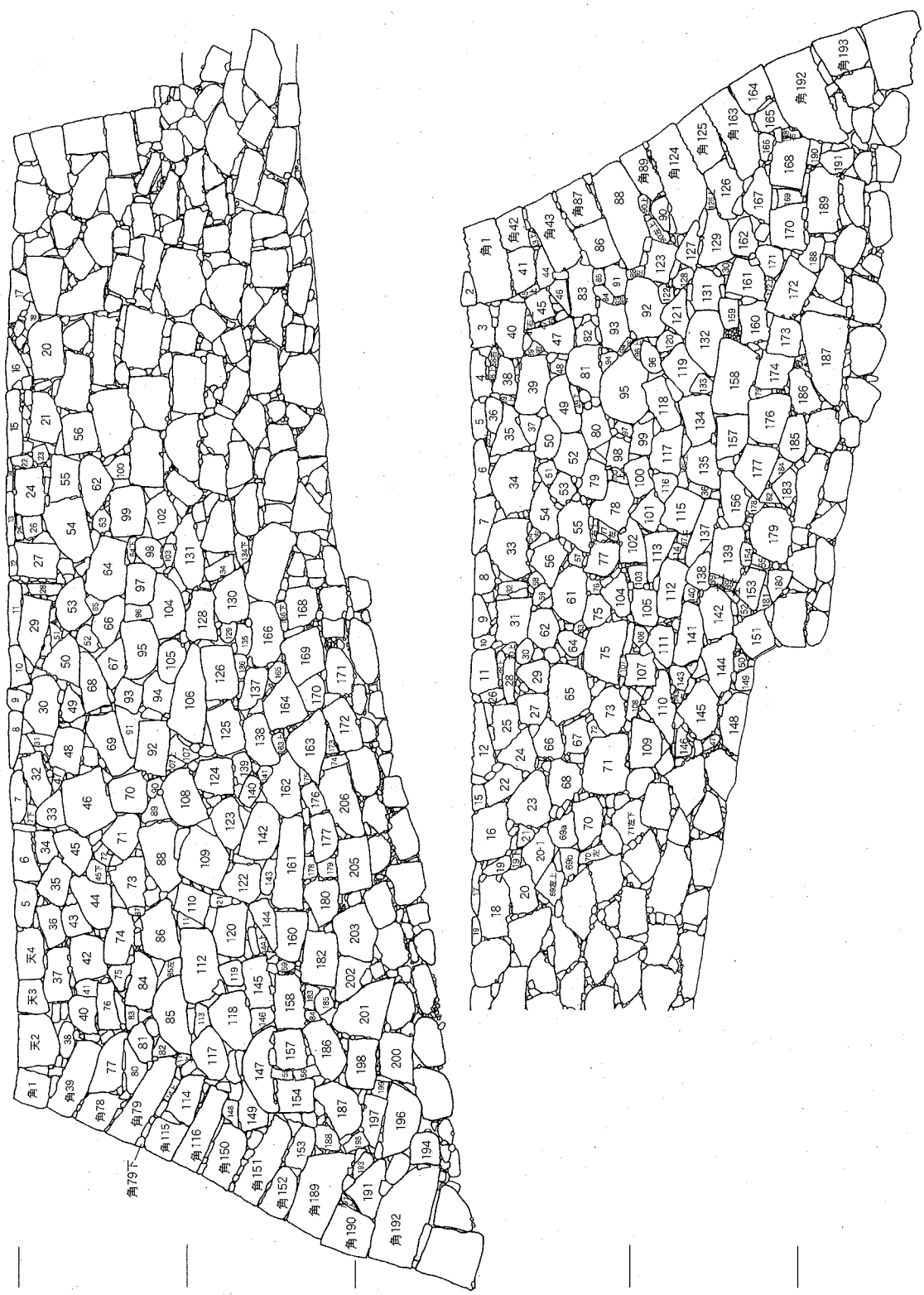
盛岡城跡022次本丸北東部石材法量計測表(東面)

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
天角1	183	85	197	77	80	
天2	71	12	69	27	65	
天3	104	55	96	59	92	
天4	110	24	98	34	72	
天5	89	25	88	38	90	
天6	126	25	122	47	110	
天7	127	52	130	29	98	
天7下	39	29	29	5	12	
天8	102	23	86	66	78	
天9	98	21	87	42	109	
天10	20	46	13	46	58	
天11	104	50	79	68	134	
天12	173	18	172	45	118	
13	–	–	–	–	–	
14	–	–	–	–	–	
天15	64	27	54	36	93	

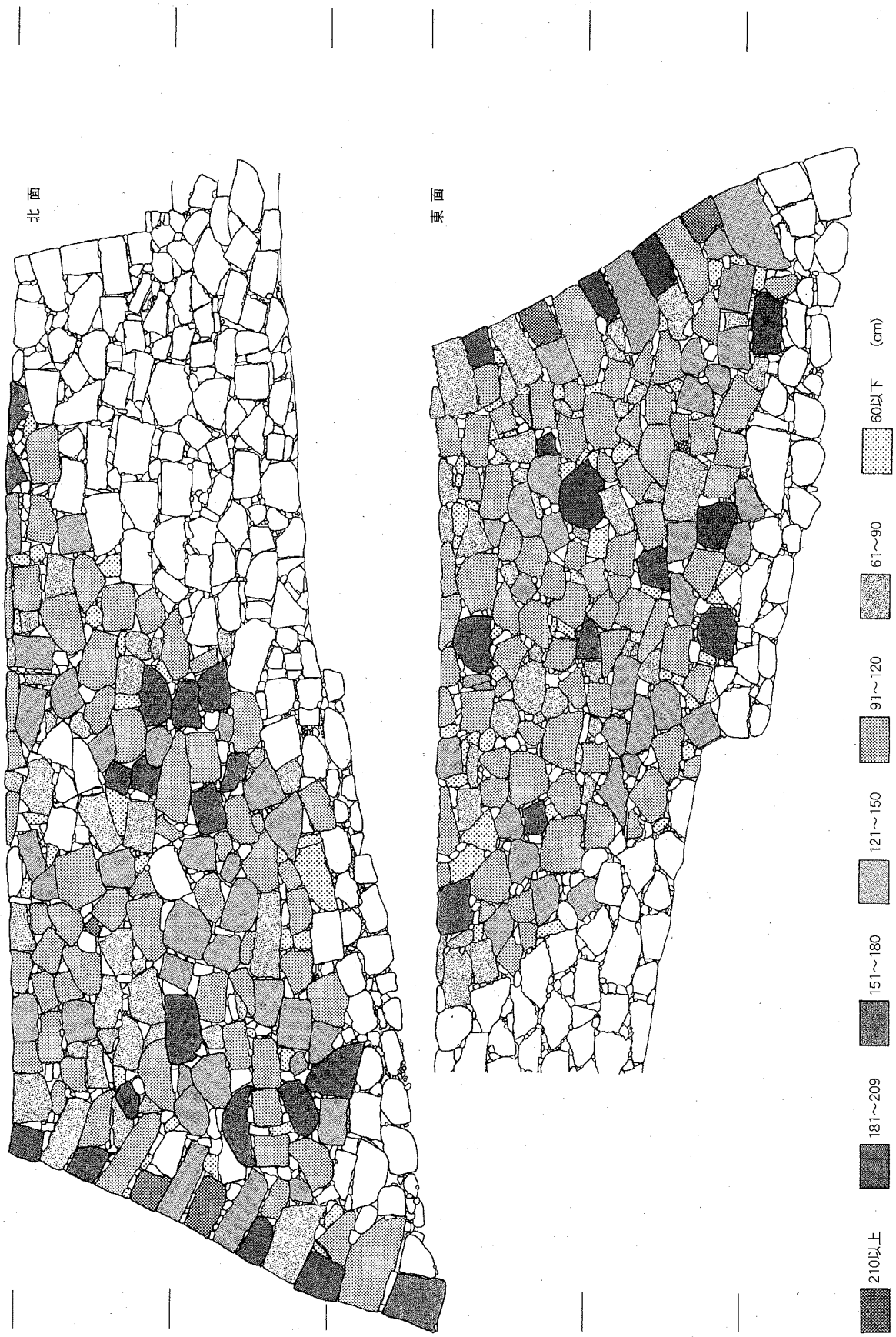
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
天16	110	89	128	102	155	
天17	133	19	125	11	63	
18	149	39	138	59	73	
19	72	25	64	10	68	
19	-	-	-	-	-	
19下	29	23	34	12	32	
20	101	64	103	72	90	
20-(1)	1	86	142	80	125	
21	52	43	7	54	107	
22	120	55	53	73	59	
23	156	20	125	109	110	
24	11	114	112	94	12	
25	112	75	65	75	82	
26	24	54	14	50	59	
27	65	84	76	54	112	
28	106	14	98	26	84	
28上	58	29	50	10	16	
29	109	68	87	13	96	
30	35.	45	43	47	53	
30上	5	46	40	36	13	
31	102	97	95	86	117	
31上	40	15	44	3	21	
32	40	56	37	72	122	
32上	16	27	14	26	34	
33	90	92	130	118	157	
33上	42	2	31	16	22	
34	98	151	137	69	110	
35	127	118	3	96	83	
35上	29	17	30	14	22	
36	68	32	73	26	49	
37	80	59	8	60	135	
38	88	20	90	58	98	
38右上	33	20	45	15	54	
38上	29	18	31	14	37	
39	133	66	129	85	112	
39右	37	43	5	56	30	
39上	17	37	18	31	43	
40	148	72	126	37	118	
41	104	70	93	53	101	
角42	70	59	67	69	194	
角43	173	80	180	81	62	
43上	38	7	40	25	16	
44	101	2	87	44	90	
45	66	60	67	60	101	
45上	16	48	18	51	21	
46	65	72	60	22	96	
46左	24	19	36	13	11	
47	12	126	98	129	80	
47右	17	25	16	24	20	
47右上	8	41	11	41	5	
48	38	36	27	45	76	
49	127	43	127	52	126	
49下	65	15	64	13	28	
50	111	11	93	60	112	
51	56	10	56	47	84	
52	78	59	112	74	95	
53	62	67	60	48	147	
54	14	83	152	91	103	
54左	31	25	41	12	13	
55	57	85	113	105	113	
56	90	107	38	96	110	
57	42	36	33	35	87	
58	31	27	36	26	51	
59	49	37	65	26	102	
60	6	50	30	40	7	
61	110	74	126	87	87	
62	114	77	79	39	77	
62左	35	29	1	31	14	
63	18	40	27	47	64	
64	87	87	30	46	120	
65	146	62	142	101	120	
66	40	85	113	62	123	
66上	14	28	36	17	20	
67	67	65	78	69	154	
68	112	76	43	123	130	
69a	52	80	84	66	112	
69b	93	50	78	8	118	
69左上	1	81	116	67	116	
70	118	90	91	68	123	
70右	20	57	21	71	50	70左？

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
71	137	105	138	102	117	
71左下	81	73	91	57	149	
72	37	17	35	26	57	
73	11	90	163	90	120	
73右	16	32	24	35	55	
74	110	106	137	102	98	
74右上	28	19	25	37	15	
75	82	66	56	66	80	
75右	37	23	36	33	71	
76	–	–	–	–	–	
77	80	76	100	64	104	
77右上	56	13	52	10	23	
77右下	20	74	20	80	24	
78	97	70	106	93	100	
79	85	100	57	60	106	
80	80	70	90	75	143	
81	80	83	122	84	126	
81左	28	32	29	21	184	
82	41	46	48	56	159	
82右	26	48	1	42	16	
83	120	67	118	65	111	
83上	15	33	18	32	23	
84	30	57	21	46	71	
85	37	28	39	30	17	
86	114	96	107	58	136	
角87	96	81	112	80	221	
角88	240	87	261	45	94	
88左	22	52	23	45	3	
角89	132	69	125	50	202	(イ)角116
90	2	60	84	81	72	
90左上	40	30	37	50	89	
90上	–	–	–	–	–	
91	72	14	106	28	108	
91左	20	29	15	37	8	
92	142	100	111	82	101	
93	105	83	118	45	113	
94	56	52	6	71	24	
94下	50	14	53	13	19	
95	115	66	175	97	196	
96	74	3	86	20	93	
96上	38	39	51	6	21	
97	16	50	10	48	64	
98	67	54	69	48	113	
99	63	51	90	58	28	
100	89	53	83	56	104	
100上	24	12	43	47	32	
101	1	81	131	72	105	
102	119	54	85	80	155	
103	55	52	36	46	76	
104	78	76	74	63	100	
105	69	66	90	71	112	
106	61	58	27	35	70	
107	73	78	72	89	111	
107上	48	8	47	16	18	
108	78	40	50	33	76	
109	123	70	102	78	97	
110	10	102	198	129	133	
111	52	49	110	84	125	
112	134	67	127	68	134	
113	111	101	149	6	115	
114	32	32	34	25	79	
115	96	87	93	85	103	
116	77	56	21	65	96	
117	85	84	118	82	96	
118	123	70	126	57	73	
119	78	87	76	101	110	
120	29	49	49	58	48	
121	12	82	128	100	120	
122	43	38	44	34	67	
123	88	73	83	80	114	
角124	252	80	208	125	138	
角125	139	83	130	72	208	
126	119	71	82	79	85	
126上	49	6	47	35	12	
127	103	16	94	62	117	
128	18	62	27	58	85	
129	120	38	88	89	112	
130	29	28	36	19	32	
131	102	82	76	66	110	
132	80	84	150	104	114	

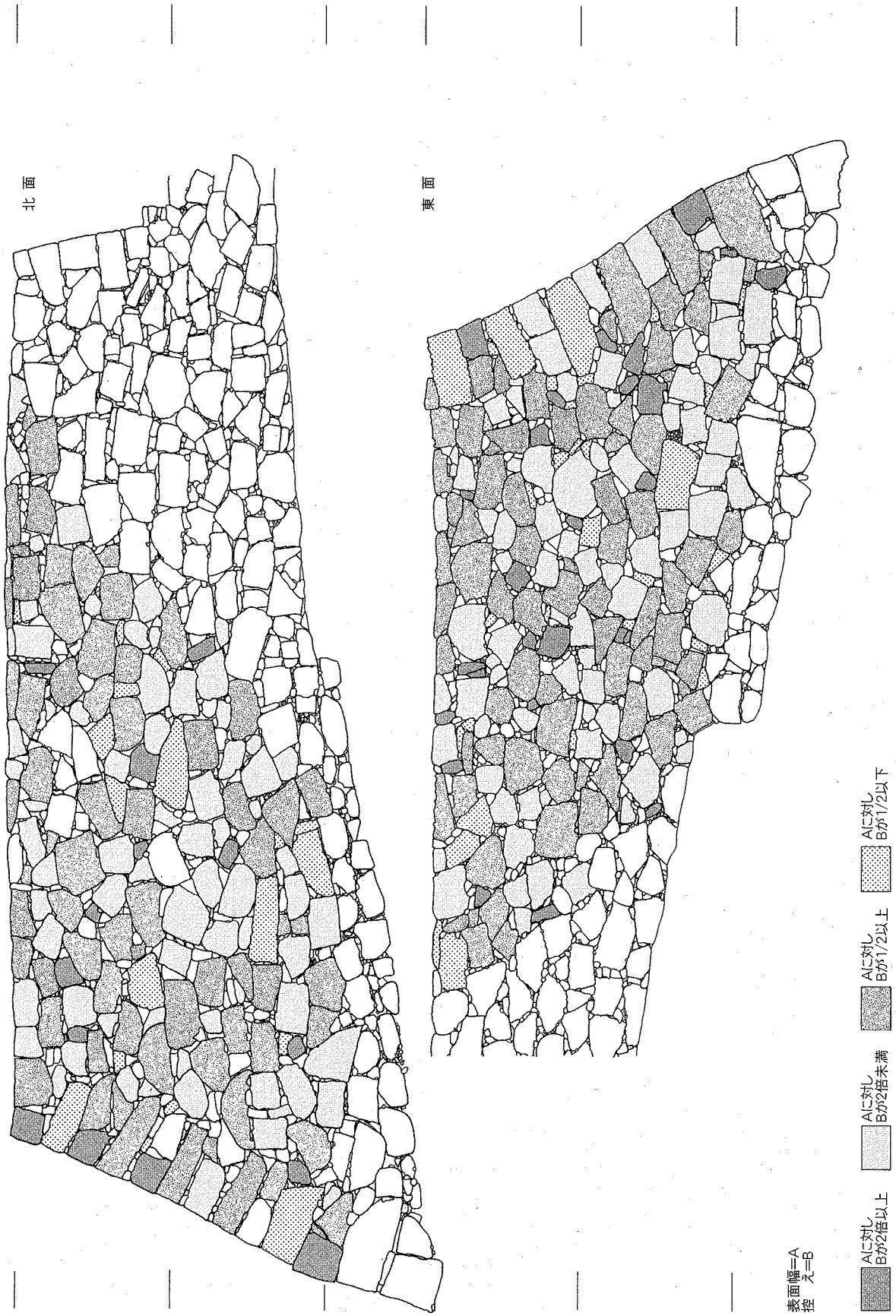
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
133	20	57	15	51	61	
134	119	85	101	85	110	
135	67	86	119	91	156	
135中上	30	11	30	13	19	
136	24	69	25	63	11	
137	164	48	174	25	108	
137上	20	34	28	30	8	
138	18	74	76	72	66	
139	101	73	116	82	97	
139左上	24	37	22	30	18	
139左下	22	34	25	33	22	
140	–	–	–	–	–	
141	146	41	134	72	136	
142	115	43	93	77	128	
143	60	16	42	41	140	
144	121	92	144	30	101	
145	106	122	68	97	114	
146	64	67	22	42	111	
147	23	48	22	52	53	
148	–	–	–	–	–	
149	35	61	58	47	110	
150	30	31	22	44	45	
151	144	90	97	44	135	
152	40	14	45	25	23	
153	73	59	96	69	96	
154	–	–	–	–	–	
155	36	50	22	45	15	
156	135	118	65	22	124	
157	100	81	88	62	131	
158	173	90	148	110	69	
159	55	53	64	43	117	
160	79	71	91	74	118	
160右	18	35	7	37	31	
161	80	68	72	109	135	
162	60	48	67	55	133	
角163	209	81	185	81	110	
角164	77	95	75	102	213	
165	28	78	76	94	145	
166	67	34	56	33	46	
167	111	9	134	84	112	
168	110	89	136	84	139	
168右	14	52	15	50	31	
169	35	67	21	65	65	
170	87	88	109	89	121	
171	67	90	18	50	123	
172	144	83	110	79	117	
172上	59	34	50	2	13	
173	82	73	79	82	116	
174	85	90	79	80	112	
175	34	60	11	56	–	
176	100	130	118	70	156	
177	79	87	128	92	101	
178	–	–	–	–	–	
179	129	91	96	68	154	
180	–	–	–	–	–	
181	64	3	46	42	12	
182	52	48	1	63	28	
183	–	–	–	–	–	
184	65	38	71	12	24	
185	78	50	128	52	126	
186	100	35	108	78	133	
186右	14	39	7	44	11	
187	–	–	–	–	–	
188	65	40	77	50	86	
189	140	91	129	70	156	
189上	56	12	54	12	19	
190	48	27	51	30	28	
191	20	85	43	80	105	
角192	157	120	238	142	130	(イ)角190
角193	–	–	–	–	–	



第61図　本丸北東部石垣石材番号



第62図　本丸北東部石垣石材控えの長さ分布図



第63図　本丸北東部石垣石材形状別分布

表3　盛岡城跡24次本丸北西部石材包量計測表（北面）

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
A1	56	55	53	114	114	
2	70	56	56	94	94	
3	130	40	132	131	131	
4	100	13	83	65	65	
5	61	24	57	62	62	
6	76	53	78	112	112	
7	33	28	34	78	78	
8	82	29	89	112	112	
9	96	49	701	83	83	
10	57	41	11	59	59	
11	145	22	159	71	71	
12	155	94	182	85	85	
13	115	91	142	108	108	
14	39	24	38	77	77	
15	52	94	25	92	92	
16	104	63	134	91	91	
17	113	87	80	172	172	
18	85	101	91	93	93	
19	121	74	116	87	87	
20	56	69	74	186	186	
21	185	75	182	61	61	
22	58	88	91	92	92	
23	40	53	8	22	22	
24	87	86	108	103	103	
25	78	49	85	102	102	
26	73	65	76	106	106	
27	30	21	36	91	91	
28	120	28	122	109	109	
29	73	71	75	184	184	
30	174	81	182	102	102	
31	101	69	35	93	93	
32	50	83	87	141	141	
33	－	－	－	－	－	
34	－	－	－	－	－	
35	79	17	80	42	97	
36	71	113	76	106	198	
37	86	75	98	79	135	
38	45	51	53	39	66	
39	－	－	－	－	－	

盛岡城跡24次本丸北西部石材包量計測表（西面）

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
B1	112	72	104	58	53	
2	76	29	75	6	65	
3	108	49	128	50	92	
4	122	22	95	40	110	
5	107	46	131	42	84	
6	47	14	40	14	52	
7	48	17	83	57	98	
8	36	20	20	20	89	
9	64	18	60	25	60	
10	57	30	71	24	61	
11	162	62	161	56	63	
11右	19	40	7	36	23	
12	78	23	70	13	67	
13	142	113	130	99	72	
14	45	29	56	21	89	
15	86	80	155	106	68	
16	76	60	99	54	134	
17	55	42	4	52	90	
18	64	26	63	6	127	
19	92	12	97	17	74	
20	106	56	130	52	98	
21	175	37	174	66	70	
21下	33	7	33	13	23	
22	90	68	81	55	158	
23	126	70	128	78	90	
24	92	73	138	50	104	
25	101	36.5	81.5	44.5	94	
26	85	19	89	38	142	

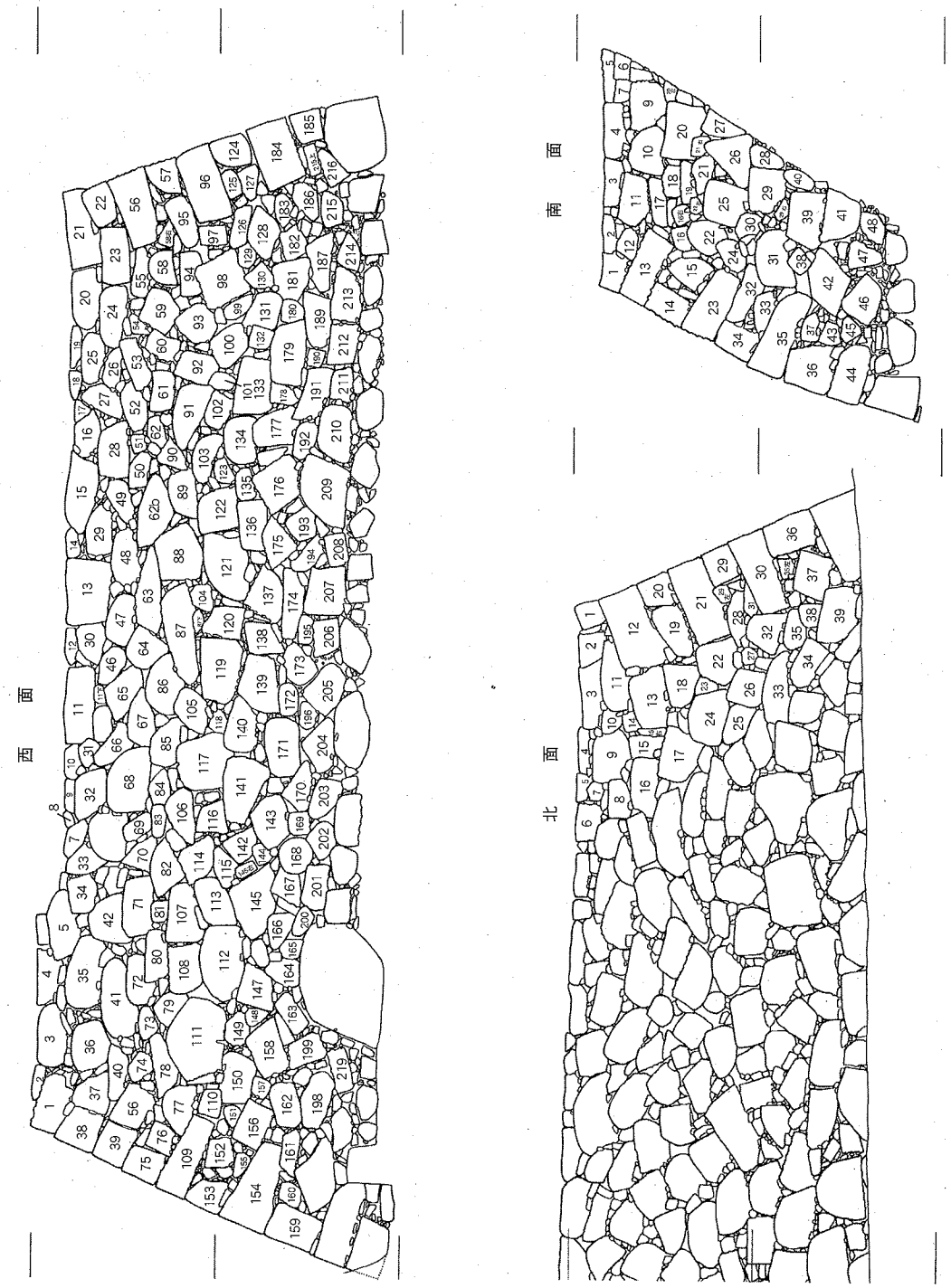
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
27	61	64	42	113	133	
28	95	72	124	66	116	
29	104	46	86	63	94	
29右	20	16	32	32	23	
B30	47	70	73	56	99	
31	33	23	58	37	86	
32	90	71	71	75	92	
33	73	38	54	66	112	
34	70	65	80	51	152	
35	149	37	152	56	108	
36	93	58	99	72	117	
37	34	80	97	79	57	
38	83	74	85	94	155	
39	180	72	182	69	56	A12と同一
40	119	33	110	17	110	A13と同一
41	153	49	159	52	132	
42	48	71	115	86	115	
43	64	32	60	13	126	
44	73	74	91	78	155	
45	68	44	60	34	84	
46	94	43	44	44	93	
47	87	53	112	47	68	
48	135	36	100	80	137	
49	189	42	72	42	122	
50	86	24	63	38	107	
51	38	34	33	31	72	
52	128	24	82	69	118	
53	123	47	103	47	100	
54	42	15	54	30	156	
55	89	12	104	44	82	
56	158	96	166	58	52	
57	61	75	82	51	149	
58	60	57	79	53	60	
59	84	71	71	81	134	
60	44	74	57	72	130	
61	87	49	74	59	129	
B62	48	68	64	46	79	
62b	162	96	84	41	131	
63	171	22	193	54	153	
64	73	90	77	77	109	
65	93	42	102	80	122	
66	100	42	85	40	105	
67	85	24	121	49	94	
68	107	91	151	85	122	
69	38	64	60	51	113	
70	1	87	81	77	78	
71	124	65	129	61	102	
72	115	110	103	39	103	
73	76	13	47	39	96	
74	42	51	56	59	142	
75	61	83	73	75	182	A21と同一
76	61	39	68	69	124	
77	29	89	120	70	80	
78	138	34	105	37	122	
79	57	58	48	49	82	
80	124	103	1	64	104	
81	42	38	47	25	86	
82	149	95	1	83	123	
83	82	33	82	30	108	
84	109	56	82	44	103	
85	70	78	99	45	73	
86	67	77	133	62	87	
87	189	66	216	36	141	
88	84	95	124	100	124	
89	76	56	109	68	79	
90	83	61	55	36	109	
91	102	81	155	40	87	
92	59	81	63	83	109	
B 93	88	76	56	88	119	
94	95	31	101	40	140	
95	110	52	106	28	160	
96	157	85	167	86	57	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
97	40	69	46	69	94	
98	91	89	94	98	130	
99	26	57	49	34	102	
100	81	86	46	81	129	
101	30	48	29	50	83	
102	80	51	67	41	104	
103	85	41	107	32	104	
104	66	61	44	45	93	
105	50	73	58	88	96	
106	39	58	138	73	74	
107	121	53	103	83	113	
108	98	68	115	30	109	
109	184	54	180	71	85	A29と同一
110	67	36	56	57	95	
111	208	81	131	83	124	
112	125	77	161	61	135	
113	93	77	56	54	990	
114	88	65	69	64	115	
115	89	17	64	55	103	
116	62	55	76	87	160	
117	88	107	106	91	118	
118	43	28	44	36	73	
119	136	101	134	51	137	
120	64	73	70	91	118	
121	117	91	135	80	92	
122	80	88	87	92	141	
123	49	55	16	62	82	
124	61	71	72	65	184	
B 125	62	24	62	36	47	
126	77	37	82	35	88	
127	64	54	46	47	104	
128	70	62	76	63	124	
129	49	27	36	26	59	
130	49	61	35	44	62	
131	74	54	68	80	148	
132	47	50	45	42	58	
133	131	66	117	93	97	
134	77	68	97	64	102	
135	55	33	56	40	66	
136	102	65	114	45	101	
137	92	70	74	85	139	
138	69	57	63	55	152	
139	97	60	119	106	98	
140	110	70	58	80	162	
141	141	118	121	40	112	
142	87	47	60	60	103	
143	94	83	87	53	108	
144	45	24	48	40	960	
145	101	133	39	110	118	
146	54	23	57	10	75	
147	86	65	75	86	121	
148	35	53	45	15	79	
149	40	50	60	39	80	
150	115	66	91	62	115	
151	57	31	30	44	74	
152	64	53	49	70	126	
153	67	59	74	81	174	
154	194	40	198	113	76	A30と同一
155	54	38	45	24	83	A36と同一
156	100	64	100	66	123	
B 157	35	33	40	33	96	
158	88	82	115	62	108	
159	79	112	72	104	180	
160	37	48	40	50	−	
161	69	31	105	37	120	
162	83	41	96	69	84	
163	78	45	76	39	150	
164	35	70	59	81	190	
165	41	34	39	31	119	
166	69	59	85	15	82	
167	56	−	61	72	−	A2辺と控え未計測
168	57	66	40	68	119	

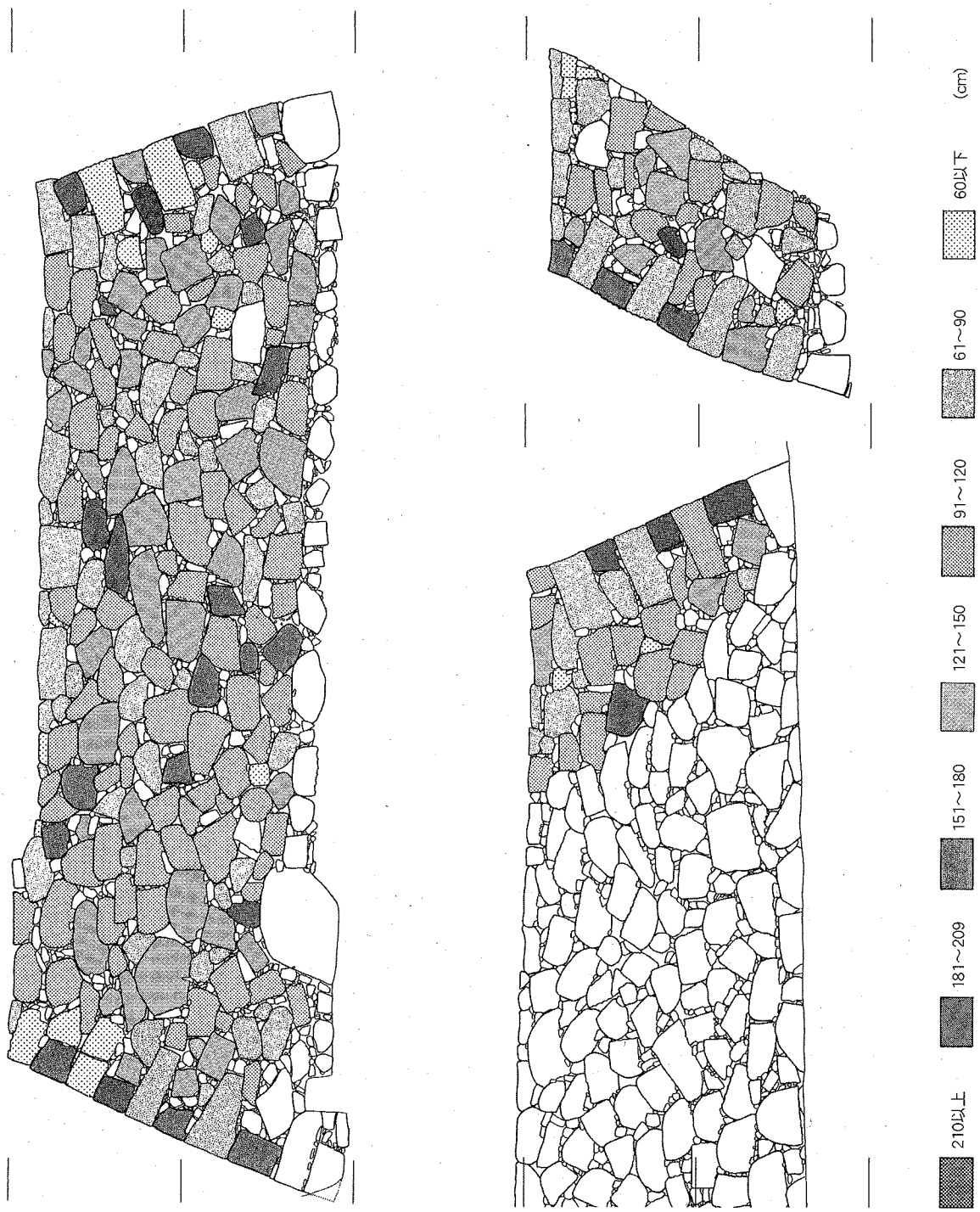
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
169	34	43	38	46	44	
170	84	46	75	54	91	
171	127	77	89	50	116	
172	64	27	48	33	9	
173	72	40	61	54	110	
174	145	65	108	29	74	
175	50	88	73	71	16	
176	92	92	87	83	142	
177	47	93	84	86	125	
178	50	73	11	54	75	
179	114	59	139	69	−	控え未計測
180	41	43	23	44	75	
181	86	91	43	61	98	
182	58	51	64	46	154	
183	53	38	45	34	91	
184	145	97	133	98	71	
185	66	73	67	50	127	C44と同一
186	36	52	57	65	92	
187	129	64	115	25	122	
188	−	−	−	−	−	
B 189	121	64	90	32	96	
190	31	37	35	34	92	
191	113	52	119	47	162	
192	60	44	77	20	66	
193	61	63	32	56	69	
194	99	47	760	43	112	
195	60	28	52	28	−	控え未計測
196	45	44	32	26	106	
197	−	−	−	−	−	
198	126	51	104	35	84	
199	53	77	71	84	109	
199左	36	29	27	29	85	
200	59	32	63	15	118	
201	84	55	101	58	115	
202	74	63	47	59	129	
203	94	50	91	31	88	
204	80	110	17	81	114	
205	100	52	99	71	160	
206	76	53	63	58	92	
207	97	79	112	82	113	
208	69	46	64	42	80	
209	91	97	132	115	147	
210	88	55	112	71	103	
211	59	42	76	46	101	
212	88	630	86	58	143	
213	116	36	106	52	124	
214	71	47	47	68	86	
215	74	45	84	44	127	
216	86	21	87	52	105	
217	−	−	−	−	−	
218	−	−	−	−	−	
219	93	50	90	39	101	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
12	54	38	43	50	140	
13	188	56	153	68	90	B22と同一
14	52	87	61	96	158	B56と同一
15	79	60	58	70	144	
16	42	36	55	38	78	
17	98	43	84	30	92	
18	47	41	62	37	63	
19	83	12	94	19	120	
20	125	85	118	67	105	
21	58	48	76	20	126	
22	51	56	51	50	116	
23	159	53	149	75	82	B57と同一
24	31	57	31	71	151	
25	84	84	86	80	126	
26	16	110	113	131	158	
27	51	64	30	54	109	

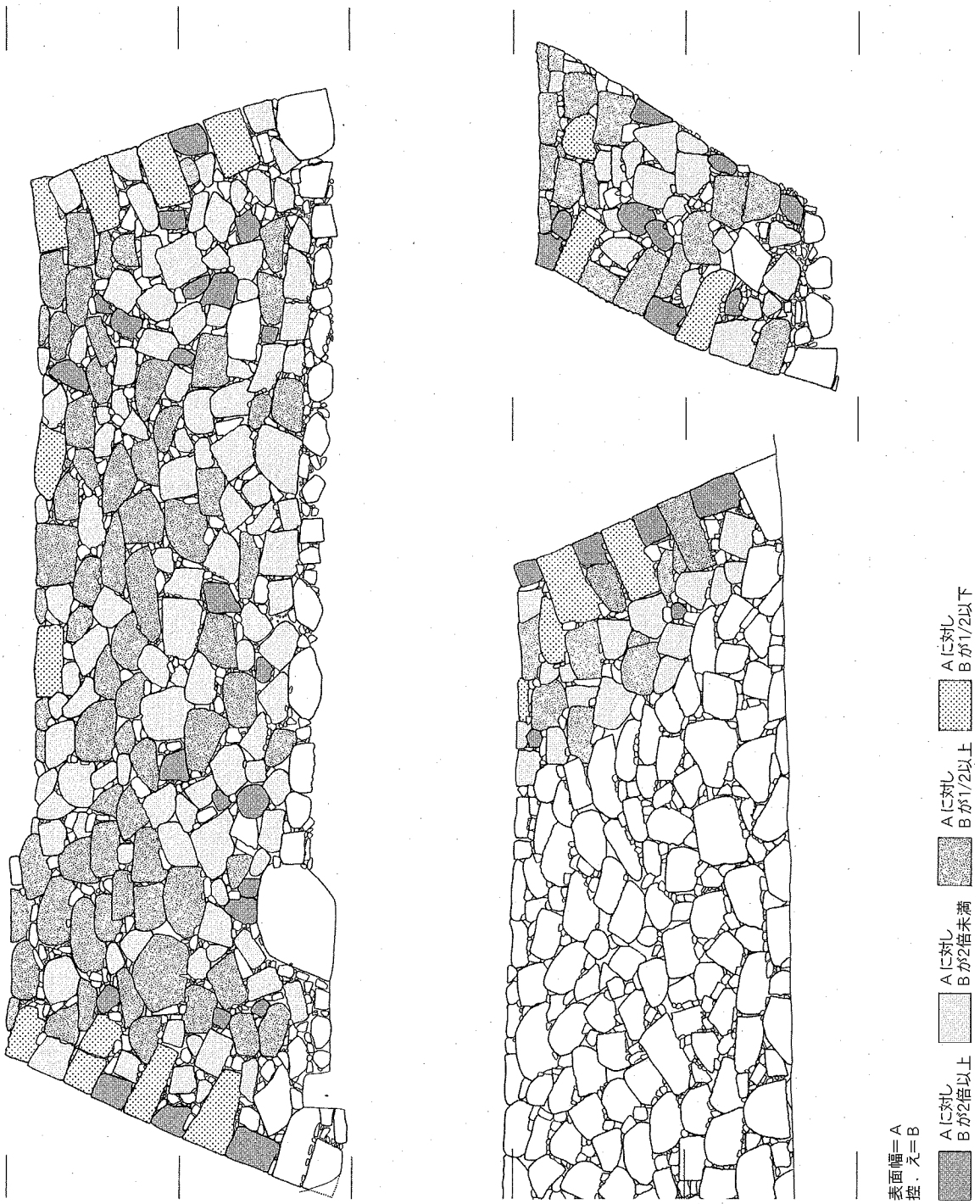
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
C 28	40	18	74	69	87	
29	81	76	90	90	99	
30	44	34	63	28	119	
31	78	56	127	73	123	
32	118	9	117	18	101	
33	75	23	33	62	100	
34	57	84	62	85	168	B96と同一
35	185	46	184	71	61	B124と同一
36	71	89	111	97	145	B184と同一
37	39	36	56	34	132	
38	41	45	47	39	80	
39	113	73	153	70	85	
40	26	89	20	76	66	
41	114	84	55	95	99	
42	56	113	92	116	–	
43	48	33	44	45	68	
44	115	43	128	73	66	B185と同一
45	46	53	40	22	59	
46	92	45	88	75	102	
47	63	64	25	61	87	
48	44	42	42	52	98	



第64図　本丸北西部石垣石材番号



第65図　本丸北西部石垣石材控えの長さ別分布



第66図　本丸北西部石垣石材形状別分布

表4　　盛岡城跡MMO　026　030（東面）

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
A−1	114	21	120	17	未計測	
A−2(A−3)	36	28	36	20	115	
A−3(A−2)	110	32	113	27	36	
A−4	139	44	137	47	80	
A−5	94	56	92	57	102	
A−6	81	51	79	62	91	
A−7	80	59	73	68	76	
A−8	105	52	117	50	115	
A−9	49	48	52	30	94	
A−10	95	41	96	45	60	
A−11	75	16	71	18	67	
A−12	88	16	86	17	76	
A−13	33	10	31	12	35	
A−14(A−15)	79	34	78	44	45	
A−15(A−14)	43	44	45	41	79	
A−16	48	40	50	45	52	
A−17	71	52	84	44	51	
A−18(A−19)	76	25	72	19	51	
A−19(A−18)	51	23	47	25	76	
A−20	71	40	63	43	66	
A−21	44	14	33	16	17	
A−22	85	20	76	40	65	
A−23	60	40	54	47	124	
A−24	136	32	102	43	82	
A−25	81	28	88	71	122	
A−26	83	35	72	54	113	
A−27角	51	50	60	50	84	
A−29	60	46	53	42	82	
A−30	122	38	115	50	68	
A−31	89	26	92	34	74	
A−32	115	24	99	34	105	
A−33	56	23	46	27	85	
A−34	76	55	99	23	92	
A−35	23	38	8	46	45	
A−36	82	40	89	53	57	
A−37角(E−1)	83	37	84	35	135	
A−38角(E−17)	120	57	122	58	80	
A−40	80	28	97	38	54	
A−41	45	32	55	24	73	
A−43	91	48	103	55	96	
A−45	60	64	96	72	114	
A−46	55	43	44	17	94	
A−47	125	1	97	62	138	
A−48	91	55	87	46	57	
A−49	81	46	103	53	66	
A−50	110	65	92	30	86	
A−53	32	50	46	67	84	
A−53−2	98	62	89	30	103	
A−54	74	69	85	69	113	
A−55	72	67	67	66	125	
A−56	85	82	52	72	69	
A−58	46	79	99	93	128	
A−59	110	72	101	50	71	
A−63	56	72	92	56	未計測	
A−64角(E−18)	84	63	86	51	130	
A−65角	68	44	72	44	未計測	
A−67	99	33	75	58	82	
A−70	59	32	49	42	107	
A−72	56	48	52	45	77	
A−73	88	12	84	20	未計測	
A−74	70	35	68	41	86	
A−75	36	19	29	17	57	
A−76	83	53	75	46	67	
A−80	95	30	60	52	93	
A−83	86	38	77	40	79	
A−85	1	74	92	84	118	
A−87	74	39	75	48	70	
A−88	89	63	45	40	103	
A−89	84	32	77	38	70	
A−91	45	40	42	43	70	
A−92	80	51	72	46	56	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
A−93	73	57	79	56	99	
Aネ−1	73	20	75	19	51	
Aネ−2	29	14	27	10	24	
Aネ−3	40	17	30	16	49	
Aネ−4	52	53	45	49	64	

盛岡城跡MMO 026 027 030（南面）

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
C−1	44	28	44	24	未計測	
C−2	37	26	33	23	55	
C−2下	17	8	23	8	25	
C−3	63	70	57	74	92	
C−4	177	55	174	70	56	
C−4下	35	16	31	11	42	
C−5角(D−1)	114	87	110	55	82	
C−6角(D−22)	84	64	84	71	147	
C−7	84	29	85	67	180	
C−8	91	43	80	45	133	
C−9	78	28	80	36	76	
C−10	18	30	27	33	43	
C−11	60	28	56	40	未計測	
C−12	36	52	40	44	未計測	
C−13	84	47	95	31	92	
C−14	124	38	100	66	107	
C−15	80	23	69	39	96	
C−16	54	66	85	50	145	
C−17	48	53	64	74	83	
C−18	80	50	98	70	100	
C−19	86	50	88	30	85	
C−20	80	28	100	20	59	
C−21角(D−23)	134	65	134	70	91	
C−22	105	55	123	60	95	
C−23	102	54	98	59	97	
C−24	113	31	108	29	104	
C−25	88	50	103	41	85	
C−26	96	57	84	47	123	
C−28	74	42	85	47	114	
C−29	89	72	120	55	85	
C−30	41	48	44	48	93	
C−31	144	54	143	34	98	
C−32	85	46	78	52	80	
C−33角(D−40)	72	44	76	59	170	
C−34角(D−41)	117	73	123	67	84	
C−35	130	99	102	70	110	
C−37	184	26	167	60	85	
C−38	82	91	84	27	90	
C−39	46	30	45	1	69	
C−42	104	48	109	46	93	
C−44	65	50	111	32	116	
C−44左	80	28	54	44	50	
C−44左後	65	38	63	41	87	
C−46	68	54	72	46	118	
C−47	108	67	80	48	96	
C−51	67	40	52	43	76	
C−53	54	41	68	41	113	
C−56	116	36	114	53	66	
C−58	105	46	84	60	112	
C−59	113	60	98	49	122	
C−65	105	44	110	39	136	
C−69	116	112	124	88	68	
C−71	16	68	16	68	—	
C−72	76	148	156	148	—	
C−73	24	28	32	4	—	
C−74	36	64	92	84	—	
C−78	54	23	47	24	80	
C−79	79	42	112	59	96	
C−80	68	47	47	45	75	
C−83	105	77	128	1	91	
C−84	91	47	32	60	117	
C−85	44	24	36	34	59	
C−86	60	144	131	176	101	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
C−89	97	63	124	102	104	
C−94	116	85	159	58	152	
C−96	108	65	123	65	110	
C−99角(D−176)	82	61	83	61	133	
C−100角(D−177	104	95	91	94	141	
C−102	108	65	120	71	130	
C−107	60	66	56	65	93	
C−108	152	83	155	72	145	
C−109	52	136	110	110	135	
C−110	58	66	63	65	99	
C−111	60	60	68	60	—	
C−112	100	88	64	24	—	
C−114	48	60	1	52	—	
C−116	56	84	40	88	—	
C−117	60	80	56	68	—	
C−119	44	36	12	40	—	
C−120	58	38	64	51	84	
C−123	91	73	96	77	111	
C−125	100	44	80	45	63	
C−130	140	42	166	63	78	
C−134	111	73	130	77	131	
C−136角(D−260	65	85	70	86	142	
C−137角(D−261	164	101	187	78	83	
C−138	98	58	103	40	105	
C−139	51	43	54	41	93	
C−140	36	48	64	49	95	
C−141	36	64	16	68	77	
C−143	96	65	109	70	111	
C−144	55	40	52	47	80	
C−145	29	39	42	40	28	
C−147	32	48	20	52	—	
C−148	72	56	104	52	—	
C−149	104	48	72	84	—	
C−151	56	24	60	52	—	
C−153	24	28	28	24	—	
C−155	68	32	76	52	—	
C−156	24	36	12	40	—	
C−159	32	40	34	52	36	
C−160	104	68	108	64	—	
C−161	76	72	57	71	84	
C−164	80	60	68	88	—	
C−166	32	48	24	48	—	
C−167	94	84	83	60	155	
C−169	71	71	35	75	158	
C−170	58	50	58	48	76	
C−173	91	46	104	50	95	
C−175	50	34	47	35	88	
C−178	95	67	121	54	140	
C−180角(D−385	85	57	83	71	167	
C−181角(D−386	173	83	161	96	73	
C−182角(D−387	97	71	95	89	135	
C−183	68	44	75	17	112	
C−185	120	39	142	80	138	
C−187	75	59	117	72	132	
C−189	117	44	104	6	100	
C−190	88	84	89	68	132	
C−191	92	36	84	48	—	
C−194	68	68	100	68	—	
C−197	112	80	100	84	—	
C−198	44	36	44	48	—	
C−200	60	56	76	52	—	
C−204	80	−	−	80	—	
C−205	80	76	64	84	—	
C−206	84	72	60	80	—	
C−207角(D−525	168	74	171	75	92	

盛岡城跡MMO 026 030（西面）

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
D-1角(C—5)	80	55	72	68	114	
D-2	121	47	124	42	95	
D-3	56	48	56	46	92	
D-4	85	84	73	83	137	
D-5	103	69	109	62	82	
D-6	115	70	116	65	71	
D-7	104	56	104	46	92	
D-8	139	57	134	52	54	
D-9	138	66	130	62	77	
D-10	157	53	156	53	70	
D-11	156	42	151	41	72	
D-12	15	35	13	39	32	
D-13	93	41	91	57	113	
D-14	91	46	73	38	100	
D-15	84	50	101	31	97	
D-16	69	52	73	41	65	
D-17	34	64	118	47	83	
D-18	61	36	59	30	82	
D-19	83	38	77	26	101	
D-20	107	59	120	74	105	
D-21	110	24	116	23	104	
D-22角(C—6)	147	71	147	68	77	
D-23角(C—21)	92	72	84	60	134	
D-24	132	64	151	19	113	
D-25	52	36	50	34	82	
D-26	74	95	137	57	124	
D-27	108	50	111	63	130	
D-28	80	58	84	48	116	
D-29	86	56	82	77	78	
D-30左	64	51	76	59	73	
D-30右	90	81	86	57	108	
D-31	65	70	73	50	126	
D-32	100	91	108	63	74	
D-33	37	10	26	15	32	
D-34	103	64	115	64	118	
D-34左	153	56	155	76	72	
D-35	78	28	72	32	89	
D-36	85	26	85	18	113	
D-37	70	41	67	26	92	
D-37左	86	45	86	46	80	
D-38	88	54	50	48	146	
D-38左	60	17	40	14	52	
D-39	17	11	21	9	26	
D-39左	38	1	35	26	89	
D-40角(C—33)	151	59	170	23	72	
D-40左	88	30	80	24	54	
D-40付近	39	23	20	29	36	
D-41角(C—34)	84	67	83	60	123	
D-42	67	61	65	52	128	
D-43	64	68	92	62	99	
D-44	117	56	125	77	143	
D-44左	35	53	32	48	45	
D-45	110	53	123	63	81	
D-45左	130	32	128	57	112	
D-47	48	29	45	27	46	
D-54	75	41	79	14	64	
D-57	100	18	95	49	85	
D-66	93	57	100	52	88	
D-70	92	44	87	39	86	
D-73	155	1	156	80	未計測	
D-74	93	56	93	64	97	
D-75	109	66	116	55	78	
D-77	86	66	92	67	90	
D-79	40	62	70	56	118	
D-80角(E—27)	88	52	83	16	146	
D-81角(E—42)	115	71	115	79	82	
D-83	133	74	121	73	105	
D-85	65	78	67	66	112	
D-86	137	60	120	79	126	
D-88	94	72	87	75	99	
D-91	103	53	94	53	126	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
D-94	86	32	80	50	83	
D-100	109	57	87	83	139	
D-101	23	75	70	83	153	
D-102	100	76	101	79	94	
D-104	113	90	76	58	178	
D-106	87	79	82	61	120	
D-110	116	54	116	46	97	
D-112	75	53	71	60	104	
D-115	104	63	111	48	105	
D-118	111	63	137	88	未計測	
D-120角(E—43)	91	84	92	89	138	
D-121角(E—54)	16	134	53	130	60	
D-122角(E—53)	154	63	132	76	67	
D-124	49	49	67	68	100	
D-127	112	36	112	28	86	
D-129	87	45	75	46	104	
D-130	92	44	85	51	71	
D-134	60	12	92	56	124	
D-137	73	66	69	64	96	
D-143	113	75	123	66	110	
D-147	92	85	120	76	108	
D-154	94	79	67	84	109	
D-157	104	119	102	73	79	
D-162	125	85	109	64	111	
D-163	99	76	79	78	99	
D-168	105	63	108	66	90	
D-173	139	56	128	70	71	
D-175	70	49	91	60	123	
D-176角(C—99)	120	61	133	70	83	
D-177角(C—100)	104	95	91	94	141	
D-178	61	50	63	38	101	
D-182	91	38	100	64	112	
D-183	87	70	90	56	146	
D-185	64	53	83	63	110	
D-186	100	73	89	46	155	
D-188	101	51	104	60	97	
D-190	73	75	100	87	117	
D-192	120	79	120	68	94	
D-196	109	71	86	87	128	
D-202	63	74	61	58	87	
D-203	135	72	122	70	125	
D-208	56	64	66	64	114	
D-209	82	63	97	64	127	
D-212	97	71	86	45	138	
D-213	101	60	89	56	139	
D-217	66	52	56	65	101	
D-218	106	61	64	44	94	
D-219	96	41	99	15	103	
D-221	145	28	147	29	63	
D-222	52	56	36	60	未計測	
D-223角(E—66)	84	112	157	44	76	
D-224	121	66	60	60	110	
D-227A	79	59	83	55	103	
D-229B	59	63	81	67	141	
D-230A	108	63	102	61	104	
D-233A	74	69	75	65	115	
D-234B	82	86	81	49	106	
D-237	80	85	103	88	147	
D-240A	125	77	95	72	158	
D-240C	65	77	79	78	165	
D-241	91	76	76	81	81	
D-245	66	44	90	72	108	
D-247	117	60	106	60	111	
D-250	96	95	65	62	154	
D-252	118	75	157	80	101	
D-254	86	78	98	78	152	
D-255	70	65	84	77	130	
D-256	80	56	120	98	123	
D-258	118	25	115	73	102	
D-259	81	75	96	21	117	
D-260角(C—136)	138	86	132	68	70	
D-261角(C—137)	76	78	83	56	187	

石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
D-264	114	61	122	59	138	
D-269	116	56	128	87	79	
D-273	145	88	149	58	104	
D-275右	64	60	80	80	110	
D-280	100	60	122	67	77	
D-282	92	68	132	80	—	
D-283A	86	76	126	80	83	
D-286	80	76	94	72	118	
D-292	70	86	94	83	87	
D-294	111	96	111	79	95	
D-299	140	82	129	26	80	
D-301	184	24	170	74	99	
D-303	102	54	107	47	88	
D-304	46	64	74	82	90	
D-313	88	47	68	61	124	
D-315	87	38	97	50	91	
D-316	124	68	146	70	82	
D-319	88	63	101	60	89	
D-320	96	55	103	69	91	
D-322	129	52	135	73	96	
D-323角(E－67)	84	74	82	68	126	
D-324角(E－78)	115	64	126	73	71	
D-325角(E－79)	58	1	58	24	38	
D-326	73	60	79	55	180	
D-328	61	52	61	46	105	
D-331	102	56	94	57	92	
D-337	84	35	70	47	94	
D-338	70	54	83	50	86	
D-345	68	70	61	62	116	
D-349	107	78	72	51	110	
D-350	55	53	62	66	100	
D-355	137	62	154	36	104	
D-358	72	80	113	43	100	
D-361	51	65	85	50	90	
D-362	80	66	92	54	110	
D-365	96	89	92	85	106	
D-367	88	75	74	92	107	
D-370	66	74	72	10	150	
D-372	72	10	68	44	150	
D-374	68	67	104	70	100	
D-376	53	80	26	71	81	
D-380	84	74	98	84	89	
D-383	90	48	103	81	114	
D-385角(C－180)	167	71	166	68	85	
D-386角(C－181)	73	96	69	80	173	
D-387角(C－182)	135	89	131	84	112	
D-389	100	74	115	57	86	
D-391	148	72	136	56	118	
D-393	78	56	69	65	135	
D-395	49	60	63	60	169	
D-398	24	103	88	64	103	
D-400	95	51	83	67	92	
D-401	112	73	145	44	106	
D-402	57	62	90	76	111	
D-404	36	36	24	50	—	
D-406	58	67	58	60	125	
D-408	46	34	79	58	118	
D-410	64	57	114	76	143	
D-411	40	107	83	64	131	
D-416	97	67	108	60	106	
D-417	153	49	160	51	85	
D-421	69	54	88	76	93	
D-425	94	45	77	42	114	
D-426	100	88	108	44	—	
D-427	124	82	126	54	113	
D-430	145	34	133	41	97	
D-434	85	35	72	53	126	
D-435	72	86	56	34	141	
D-438	125	62	102	30	103	
D-442	136	68	137	28	113	
D-443	38	1	37	18	22	
D-444	83	41	84	21	76	

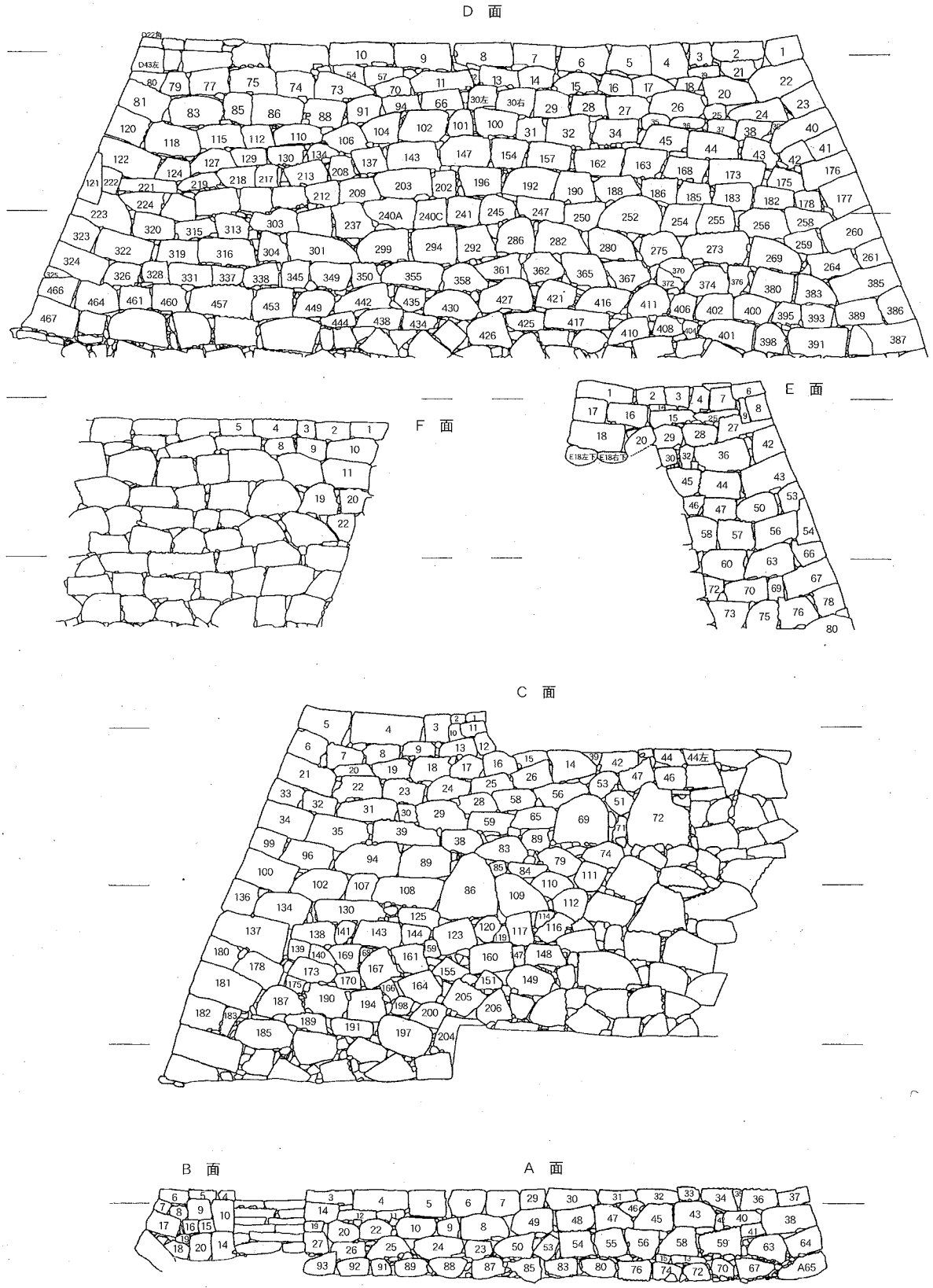
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
D-449	84	62	93	66	120	
D-453	90	76	99	86	145	
D-457	162	79	162	62	91	
D-460	70	68	84	64	—	
D-461	74	54	80	54	—	
D-464	90	50	108	68	—	
D-466角(E—80)	88	72	86	42	—	
D-467角(E—81)	110	74	124	86	—	
D-485	21	7	15	7	23	
D-490	28	18	19	10	33	
D-519	61	49	69	未計測	100	
D-521	78	38	47	36	97	
D-522	124	39	117	31	96	
D-523	62	33	68	58	123	
D-D42左角(E—6)	48	24	64	26	57	
D-D43左角(E—8)	64	61	85	68	48	

盛岡城跡MMO 030（北面）

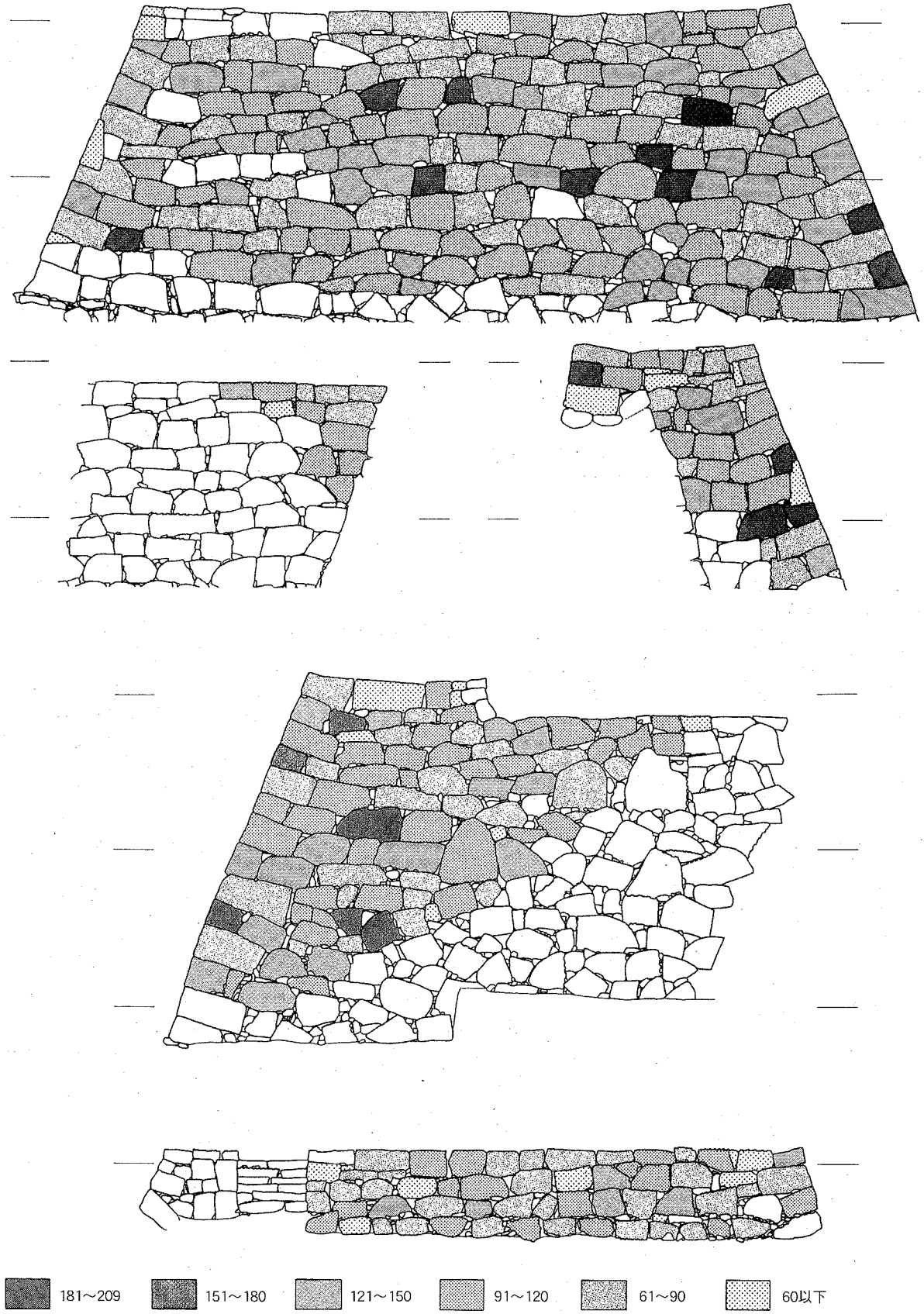
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
E-1角(A—37)	113	36	112	37	84	
E-2	68	44	72	38	102	
E-3	62	60	50	42	111	
E-4	37	55	43	63	88	
E-5	72	6	61	16	33	
E-6角(D—42)	50	26	57	32	77	
E-7	54	57	65	57	61	
E-8角(D—43)	43	68	48	65	87	
E-9	23	65	24	65	58	
E-11	107	9	109	18	90	
E-14	64	11	65	13	40	
E-15	109	30	94	34	49	
E-16	101	54	99	45	101	
E-17角(A—38)	53	56	59	57	122	
E-18角(A—64)	104	30	91	53	60	
E-19	71	54	53	56	68	
E-27角(D—80)	130	16	146	64	88	
E-28	80	44	84	56	140	
E-29	63	50	57	52	84	
E-30	56	40	113	86	132	
E-32	34	63	20	54	103	
E-36	127	84	87	73	149	
E-42角(D—81)	59	79	82	88	115	
E-43角(D—120)	126	89	138	81	92	
E-44	94	73	103	63	102	
E-45	69	38	80	86	114	
E-46	55	55	24	44	78	
E-47	79	59	83	50	95	
E-50	89	56	120	23	98	
E-53角(D—122)	57	76	39	66	154	
E-54角(D—121)	16	130	60	123	53	
E-56(D—222)	109	69	109	77	93	
E-57	85	78	85	74	106	
E-58	80	78	70	91	121	
E-60	92	76	108	72	未計測	
E-63	96	80	128	68	154	
E-66角(D—223)	68	44	64	76	157	
E-67角(D—323)	120	72	132	64	84	
E-69	25	56	37	60	87	
E-70	100	52	104	40	未計測	
E-72	52	52	24	64	未計測	
E-73	60	72	56	68	未計測	
E-75	36	64	84	88	未計測	
E-76	62	68	130	82	79	
E-78角(D—324)	66	73	63	73	126	
E-79角(D—325)	24	24	38	10	58	
E-80角(D—466)	120	40	120	64	未計測	
E-81角(D—467)	46	86	88	76	未計測	
E-83	88	60	108	44	未計測	
E-85	60	48	24	56	未計測	
E-87	26	12	28	36	未計測	

盛岡城跡MMO　030（西2面）

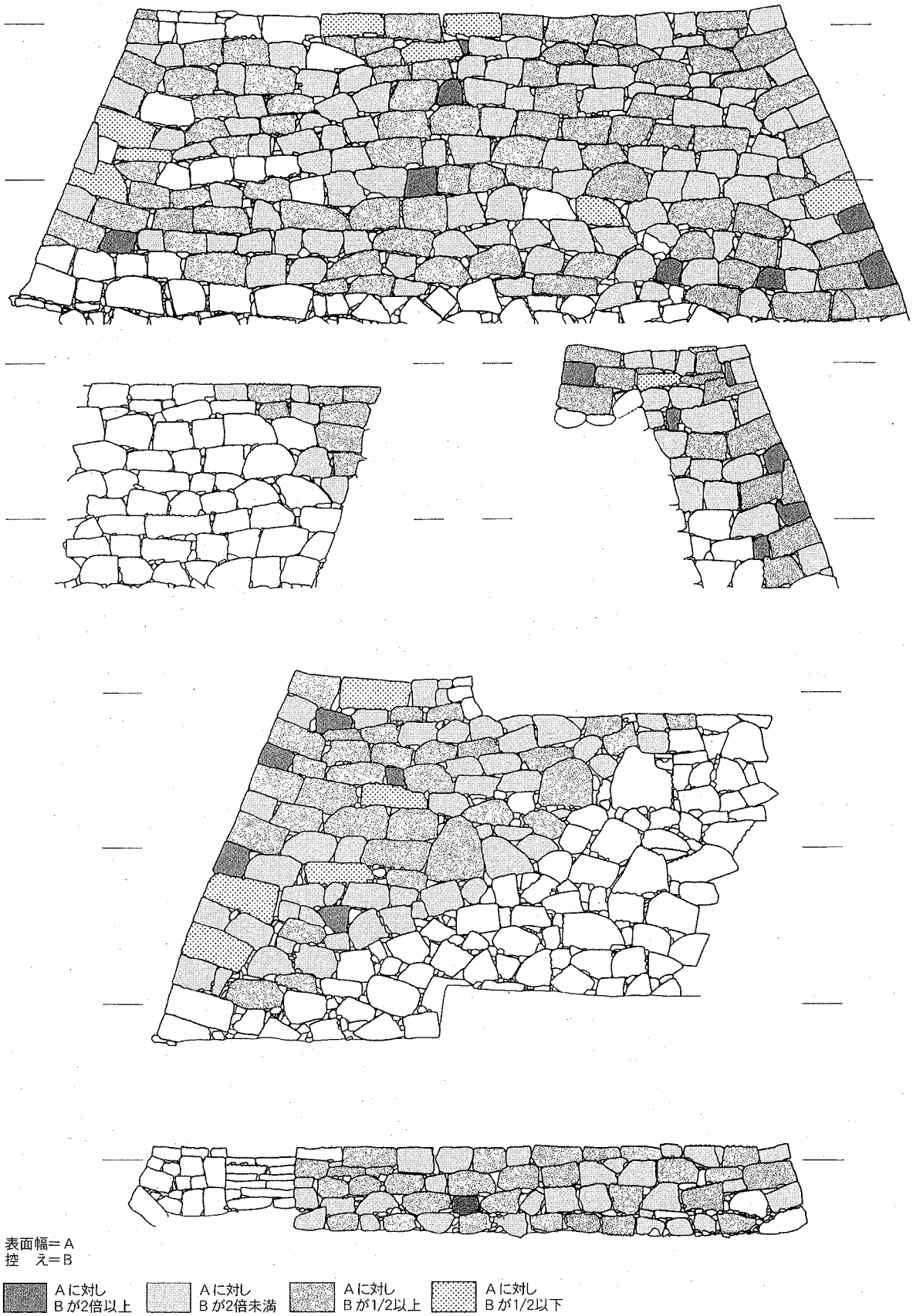
石No	A1	A2	A3	A4	控え	備考
F−1	93	44	81	41	73	
F−2	87	49	82	42	75	
F−3	43	40	47	38	74	
F−4	104	47	97	42	100	
F−5	83	43	79	43	130	
F−8	68	43	72	42	56	
F−9	79	55	71	44	119	
F−10	105	71	115	50	83	
F−11	118	91	110	75	148	
F−17	51	82	103	80	110	
F−20	88	69	90	67	108	
F−22	1	85	86	73	106	



第67図　本丸南西部石垣石材番号



第68図　本丸南西部石垣控えの長さ別分布



第69図　本丸南西部石垣石材形状別分布

5　出　土　遺　物

第２期保存整備事業の発掘調査で出土した遺物は、平成12年12月24日の火災により失われたものが多く、特に陶磁器類の罹災が著しい。瓦や壁土、古銭についても、現在残っているものは、ごく一部であり、遺物一覧表にも掲載できなかった遺物や、一覧表に掲載されていても、罹災により現存しないため、図示できなかった遺物も多く存在する。よって、報告内容は、遺物の全体状況を把握できるものではないことを記しておきたい。

（1）土　器・陶磁器

第64図１～５はロクロ整形のかわらけである。１はＳＢ185冠木門北側の表土から、２はＳＤ100堀切の表土から、３～５はＳＤ103溝の埋土中から出土している。１～３は底部ヘラ切り後、体部下半部分から底部外面にかけて、皮革など、弾力性のあるものを使用し、ロクロ回転しながら再調整している。６はＳＤ100堀切から出土した瓦質火鉢の底部である。

７～20は国産陶器である。７と10はＳＤ107堀のＬ層から出土した陶器である。７は瓷器系の甕の口縁部破片で、外面から内面の口縁部にかけて、緑色の灰釉がかかる。10は瀬戸鉄釉瓶子の底部である。古瀬戸後期Ⅰ期またはⅡ期の製品で、外面は漆黒色の鉄釉である。８と９、11と12は陶器の碗、皿類である。８はＳＤ100堀切の表土から出土した相馬大堀系の灰釉碗、９は同じ遺構からで、灰釉に緑釉の斑紋のある湯飲み碗である。11と12はＳＤ106堀から出土した、瀬戸美濃大窯1段階の灰釉丸皿である。13はＳＤ100の表土から出土した唐津の大皿底部。14はＳＤ100から出土した寺町（盛岡市本町通二丁目）の緑釉大皿である。15はＳＤ103出土の飴釉の鉢、16はＳＤ100堀切表土からの鍛冶町（花巻市）の鉢で、内外とも白濁した釉である。17～19はＳＤ100表土出土の遺物で、17は備前徳利、19は備前擂鉢の口縁部破片である。18はＳＤ100堀切出土の窯道具である。20はＳＤ103出土の擂鉢である。

21～27は国産の磁器類で、27のみ青磁、他は染付けである。21～26はＳＤ100表土から出土したもので、21は肥前の内面草花文の丸皿、22は瀬戸美濃系染付けの湯飲み碗、23は肥前の内面花鳥文、外面唐草文の皿、23は肥前の丸皿で、内面の外区は青磁、圏線の中は壽の文字、外面は唐草文である。26は肥前大皿の底部である。27は国産青磁の香炉である。

28～30は中国の磁器類である。28はＳＤ107堀から出土した白磁皿、29は本丸南西部盛岡城４期石垣裏込から出土した中国染付皿、30は腰曲輪の表土から出土した、中国染付芙蓉手小鉢の破片である。

（2）　瓦

出土遺物の中で、最も多量に出土しているのは瓦である。焼成において、素焼きのものと施釉されたものがあり、素焼きの瓦にも、表面が燻色になる燻瓦と、燻色にならない、灰褐色または青灰色の瓦（本文中では瓦と表記）が存在する。盛岡城跡Ⅰでは、無釉の瓦をすべて燻瓦とし、燻瓦と赤瓦の２種に大別して報告したが、ここでは、燻瓦は表面燻色の瓦に限定し、それ以外の無釉の瓦

については、「瓦」として報告する。ただし、瓦の中には部分的に燻色を呈する瓦も存在し、その分類方法には検討の余地を残している。瓦の形態や調整、瓦当文様の分類については、盛岡城跡Ⅰに準じた。

本丸北東部及び二ノ丸南東部の瓦（第67図～74図）

本丸北東部、ＳＤ100堀切、二ノ丸南東部の瓦であるが、二の丸南東部で図示できた瓦は塀瓦１点のみで、他は本丸北東部や堀切からの出土である。

第67図１～68図７、第69図９は軒丸瓦である。このうち１は燻瓦の菱羽双鶴文、２～４は燻瓦の撥尾羽双鶴文、５～７、９は燻瓦の筆羽双鶴文である。８、10、11は軒丸瓦の丸瓦部分で、８のみ燻瓦で、10、11は瓦である。12は赤瓦の双鶴文軒丸瓦で、瓦当下半部を欠く。第70図13～23は軒平瓦である。このうち13～16が燻瓦、23が赤瓦で、他は瓦である。13と23は飛雲唐草しだれ蔦文14、19、22は連結唐草縁取蔦文、15、16は蕨手唐草太四葉文、17、21は蕨手唐草広四葉文、18、20は飛雲唐草花菱文である。

第71図、第72図は丸瓦である。24、25、28、29は長角玉縁の丸瓦で、24、25は燻瓦、他は瓦である。24は凹面に横方向のコビキ痕が残る。26は短角玉縁の丸瓦で無釉の瓦である。第73図、30～第74図33は平瓦で、30のみ燻瓦、他は瓦である。31の凹面には横方向のナデ調整痕が認められる。第74図34は二ノ丸南東部より出土した燻瓦の塀瓦である。

第74図35、36は半円筒形の輪違いで、35は燻瓦、36は赤瓦である。37と38は赤瓦の鬼瓦の破片である。葉脈状の隆線が付されている。39は赤瓦の棟瓦で、頂部に斜めの釘穴が穿たれている。40は沈線のある磚、または鬼瓦の破片で厚く作られている。41と42は押印のある瓦である。41は丸瓦の玉縁側の小口に丸印、42は平瓦の小口に雪花状の押印がある。

本丸北西部の瓦（第75図～81図）

第75図１～第77図19は軒丸瓦である。このうち１～17は燻瓦、18、19は瓦である。1と10、12は人尾羽根双鶴文、２と13は菱羽根双鶴文、３と８、14は扇羽根双鶴文である。４と５、９は鶴の尾部が判別できず、細かな種類は不明であるが、人尾羽、撥尾羽、並尾羽のいずれかの双鶴文である。５の丸瓦部は短丸玉縁で、凹面のコビキ痕跡は布目でほとんど残らない。６、７、18は粒羽双鶴文、８、14は扇羽双鶴文、10、12は人尾羽双鶴文、11、17は並尾羽双鶴文、15は撥尾羽双鶴文、16は筆尾羽双鶴文、19は連珠文の伴う矢羽双鶴文である。

第77図20～第78図32は軒平瓦である。このうち、20～24は燻瓦、他は無釉の瓦である。瓦当の文様は20、24、28が飛雲唐草しだれ蔦文、21、22、23、25、26、31は飛雲唐草花菱文、23は飛雲唐草三ッ巴文、26は連結唐草縁取蔦文、29、30は蕨手唐草広四葉文、32は蕨手唐草鏃蔦文である。

第78図33～第79図36は丸瓦である。33のみ燻瓦、他は瓦である。33は短角玉縁、34、35は長角玉縁、36は短丸玉縁の短い丸瓦である。第79図37～第80図39は平瓦である。37は断面小湾曲の燻瓦で、凹面に縦方向の敲きの後、横方向と両側を縦にナデ調整している。38は中湾曲の瓦、39は大湾曲の赤瓦である。

第80図40～第81図44は棟込瓦類である。40、41が燻瓦、44は赤瓦である。40は半円筒形の輪違いで、凹面に横方向のコビキ痕が残る。41、42、43は熨斗瓦である。41と43は平瓦の凹面中軸線に箆で切

り込みを入れて、これを割って作成したもので、中央に蛇行した櫛目と、釘穴が認められる。43は割り損ねた製品である。44は棟板瓦である。45は無釉の丸瓦の凸面に、細かい円形の刺突が認められるものである。

本丸南西部の瓦（第82図～95図）

１～７は軒丸瓦である。１は燻瓦、２～６は赤瓦である。７は無釉の瓦である。１と５、６は人尾羽、撥尾羽、並尾羽のいずれかの双鶴文である。２と３は撥尾羽双鶴文、４は人尾羽双鶴文、４と６の丸瓦部凹面は横方向のコビキ痕が残る。７は軒丸瓦の丸瓦部で、長角玉縁で凹面にやや斜めのコビキ痕が残る。８～15は軒平瓦である。８～11は燻瓦、９は瓦、13～15は赤瓦である。８は連結唐草葉脈蔦文、９は飛雲唐草四ッ割菱文、10は飛雲唐草しだれ蔦文、11は飛雲唐草花菱文、12は飛雲唐草三ッ巴文、13～15が蕨唐草鏃蔦文である。

16～18は丸瓦である。３点とも赤瓦である。16と17は長丸玉縁で、16は凹面に横方向のコビキ痕と棒状の敲きがある。18は短丸玉縁で、17と18は横方向のコビキがかすかに残り、角棒状の叩きが残る。19～21は平瓦である。19は燻瓦で横断面が大湾曲。20は無釉の瓦で大湾曲、21は赤瓦で中湾曲である。22～33は無段玉縁の輪違いである。22と23は燻瓦、他は赤瓦である。赤瓦のものは凹面に横方向のコビキ痕が残る。34～37は半円筒形輪違いで、34のみ燻瓦で、35～37は赤瓦である。38～56は棟板瓦である。このうち燻瓦が38～45、46は無釉の瓦、赤瓦は47～56である。

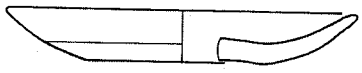
（３） その他の遺物

壁土は本丸南西部の２期盛土下部から２点、１期石垣上面から６点、３期石垣裏込、及び、盛土層から43点の焼けた壁土が出土している。壁土の中には、建物の小舞の痕跡が残るものも認められる。

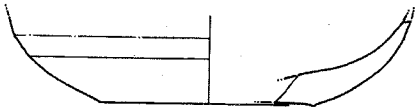
古銭は各調査区より寛永通寶が出土しているが、罹災時の散逸により、種別、数量は把握できない。一覧表に揚げたのは、全体の中のごく一部にすぎない。

金属製品は各調査区より鉄釘、銅製の鋲が出土している。罹災時の散逸により、種別、数量は把握できない。一覧表に揚げたのは、全体の中の一部である。

石製品は本丸北西部ＳＢ170多聞櫓の上面から石臼の破片が１点、本丸南西部石垣裏込内から砥石が１点、本丸南西部下の腰曲輪盛土Ｃ層から砥石１点、碁石１点が出土している。

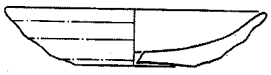


1. 冠木門前 Ia 層 No.1

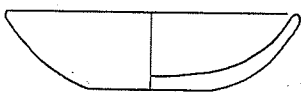


2. SD100 Ia 層 No.2

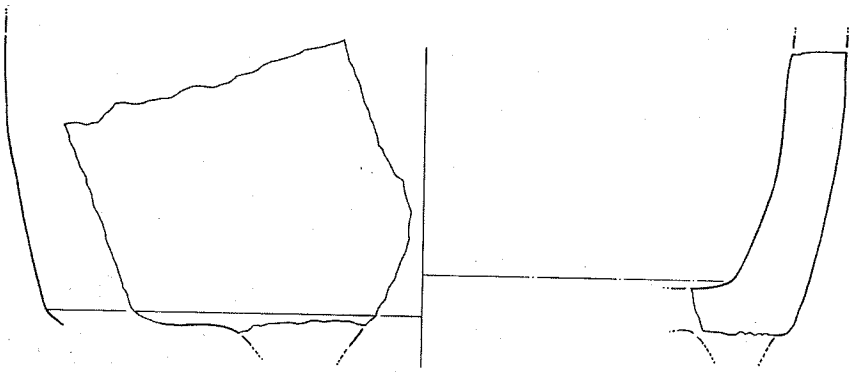
3. SD103 E6-S11 埋土No.6



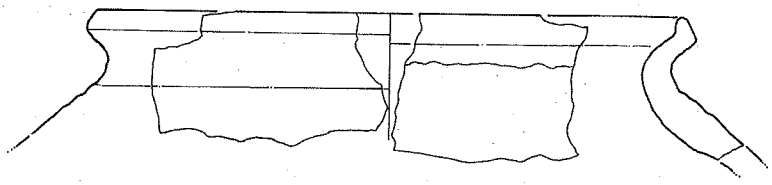
4. SD103 E6-S11 埋土No.11



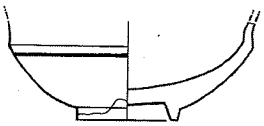
5. SD103 E6-S11 埋土No.12



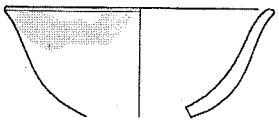
6. SD100 Ia 層 No.7



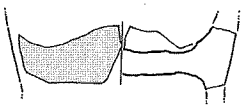
7. SD107－L 層



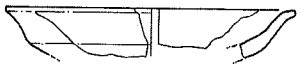
8. SD100 Ia 層 No.45



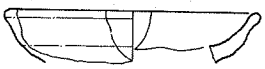
9. SD100 Ia 層 No.51



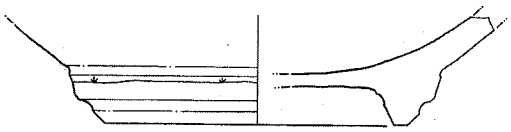
10. SD107－L 層



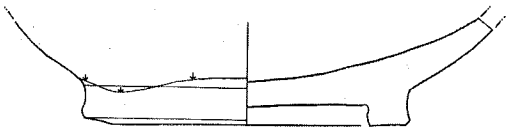
11. SD106 H 層



12. SD106 H 層



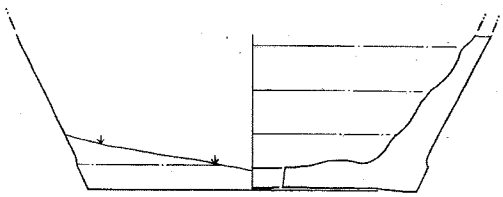
13. SD100 Ia 層 No.24



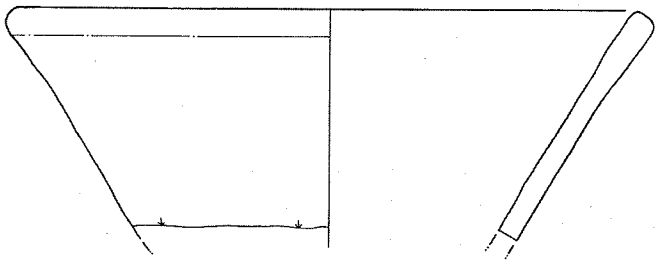
14. SD100 Ia 層 No.23

0　1：3　10cm

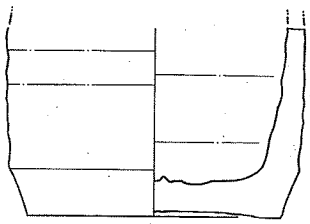
第70図　土器、陶磁器1



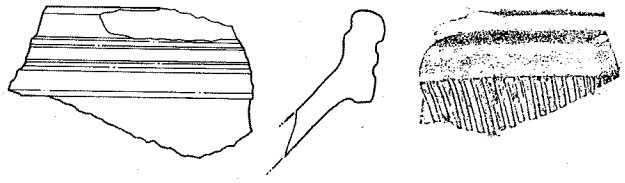
15. SD103 E6-S11 埋土No.8



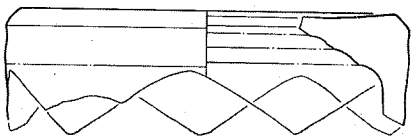
16. SD100 Ia層 No.27



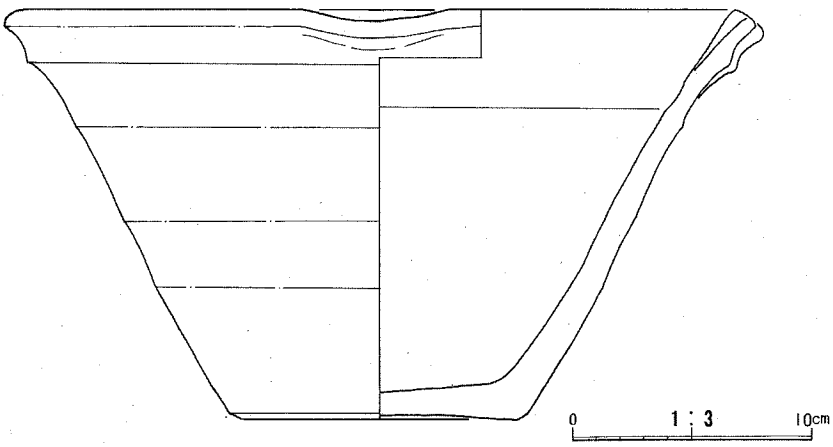
17. SD100 Ia層 No.18



19. SD100 Ia層 No.19

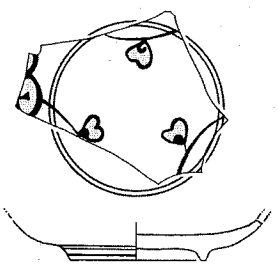


18. SD100 Ia層 No.8

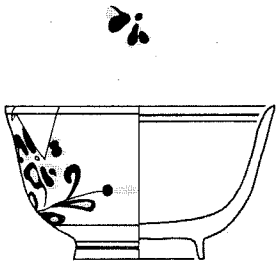


20. SD103 E6-S11 埋土No.9

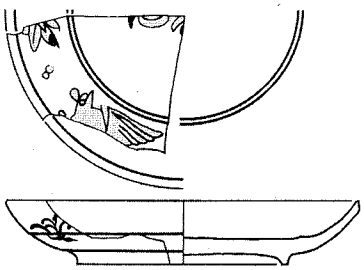
第71図　陶磁器2



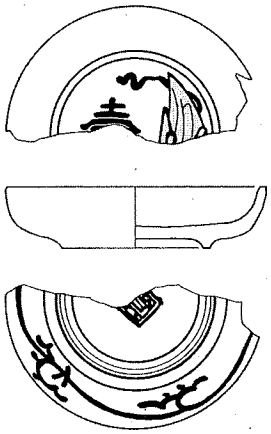
21. SD100 Ia層 No.110



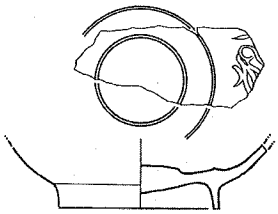
22. SD100 Ia層 No.111



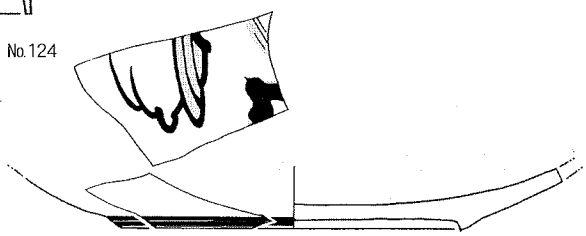
23. SD100 Ia層 No.117



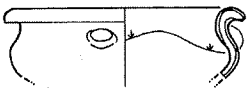
24. SD100 Ia層 No.123



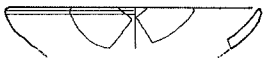
25. SD100 Ia層 No.124



26. SD100 Ia層 No.126



27. E6-E16 盛土A No.66



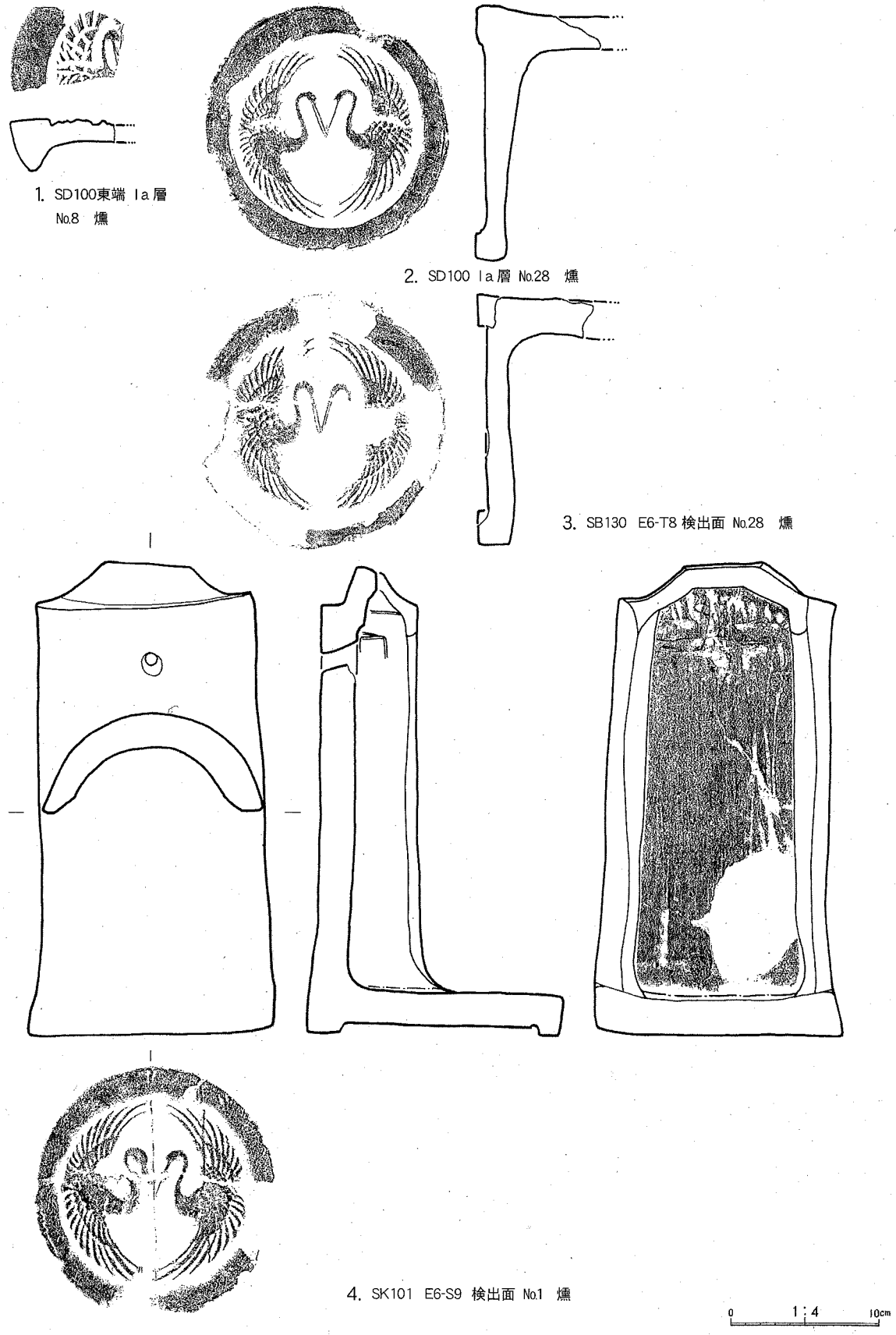
28. SD106

29. E6-F13 3期裏込 No.133

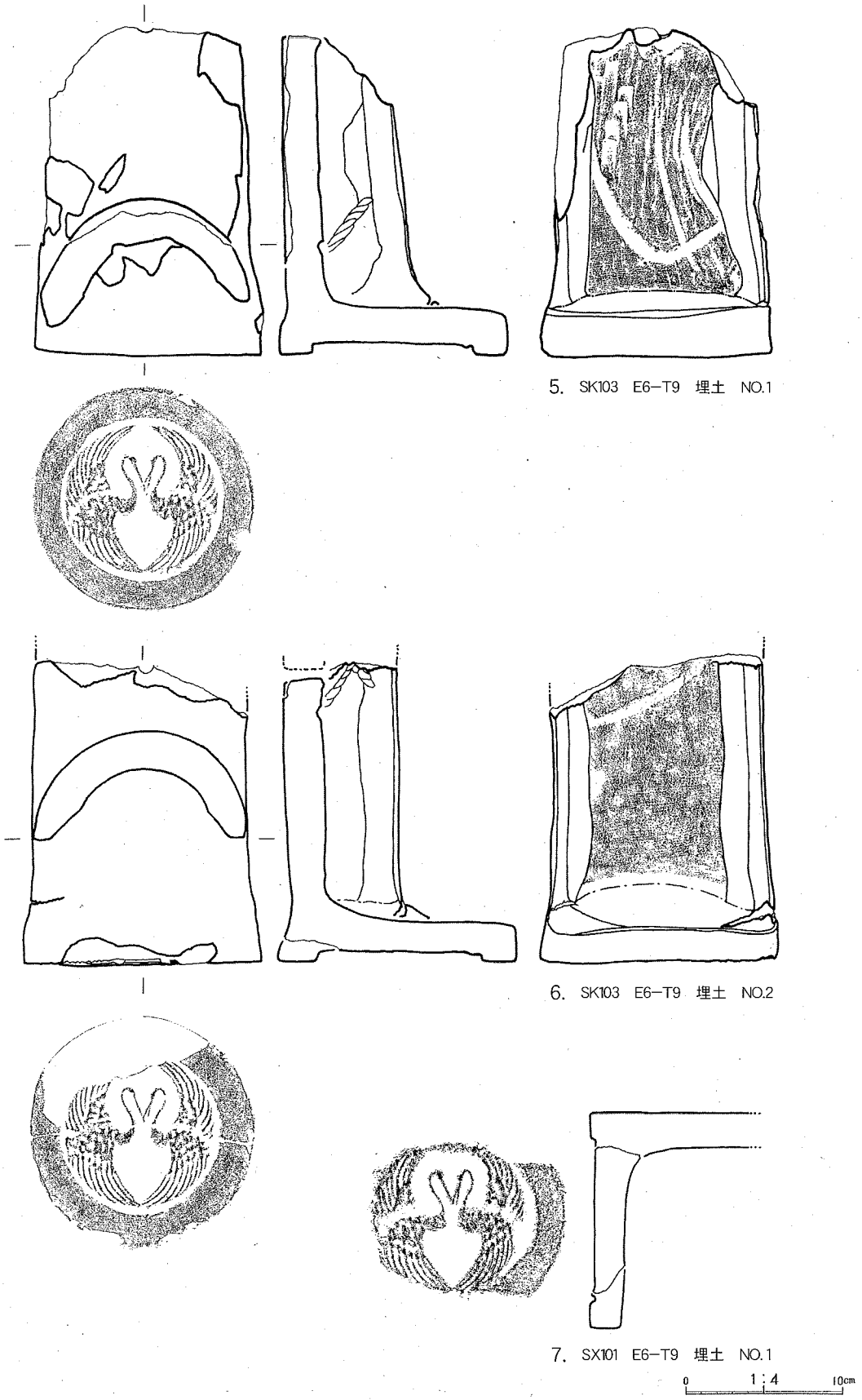
30. E6-F14 Ia層 No.156

0 1:3 10cm

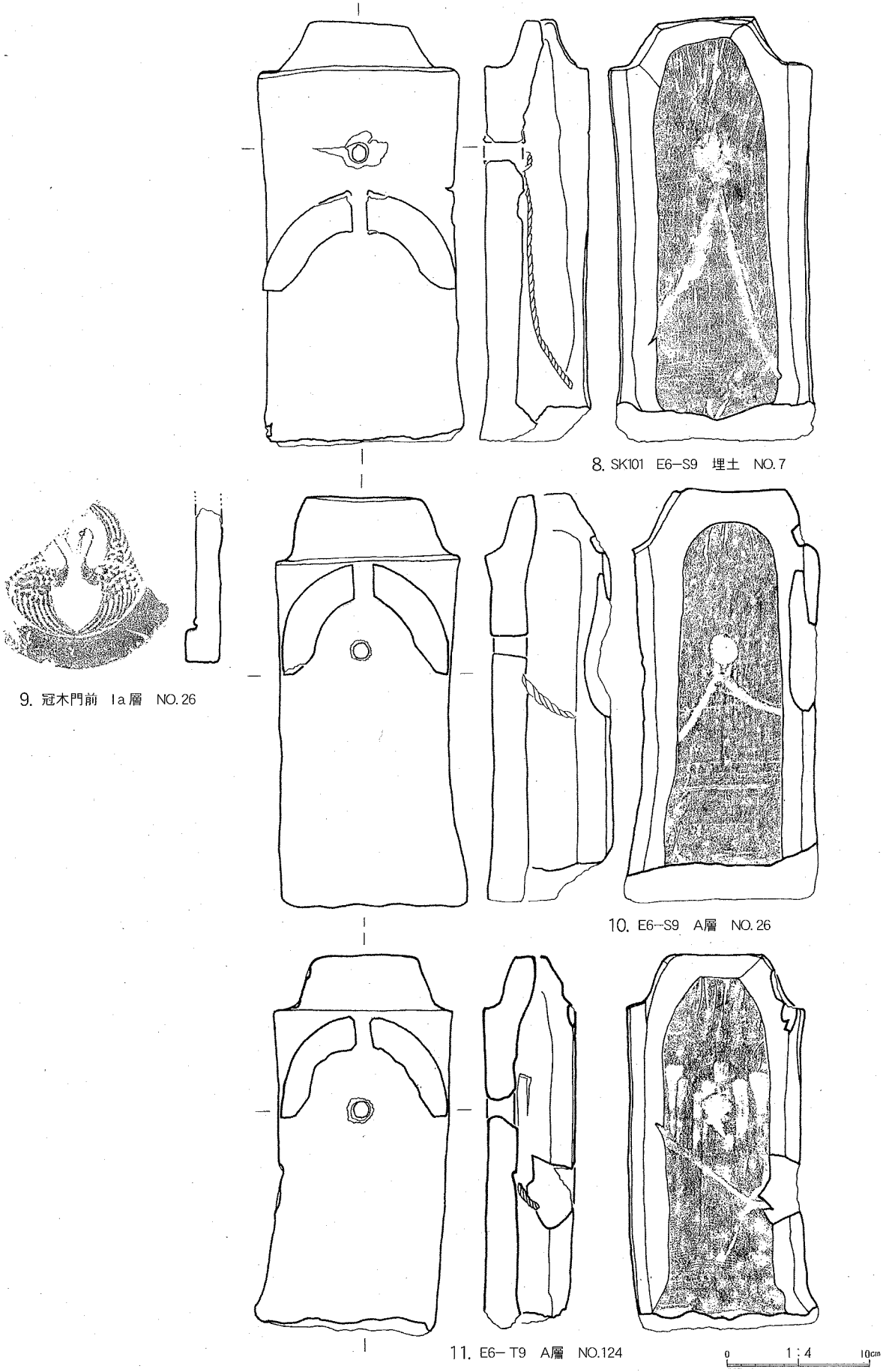
第72図　陶磁器3



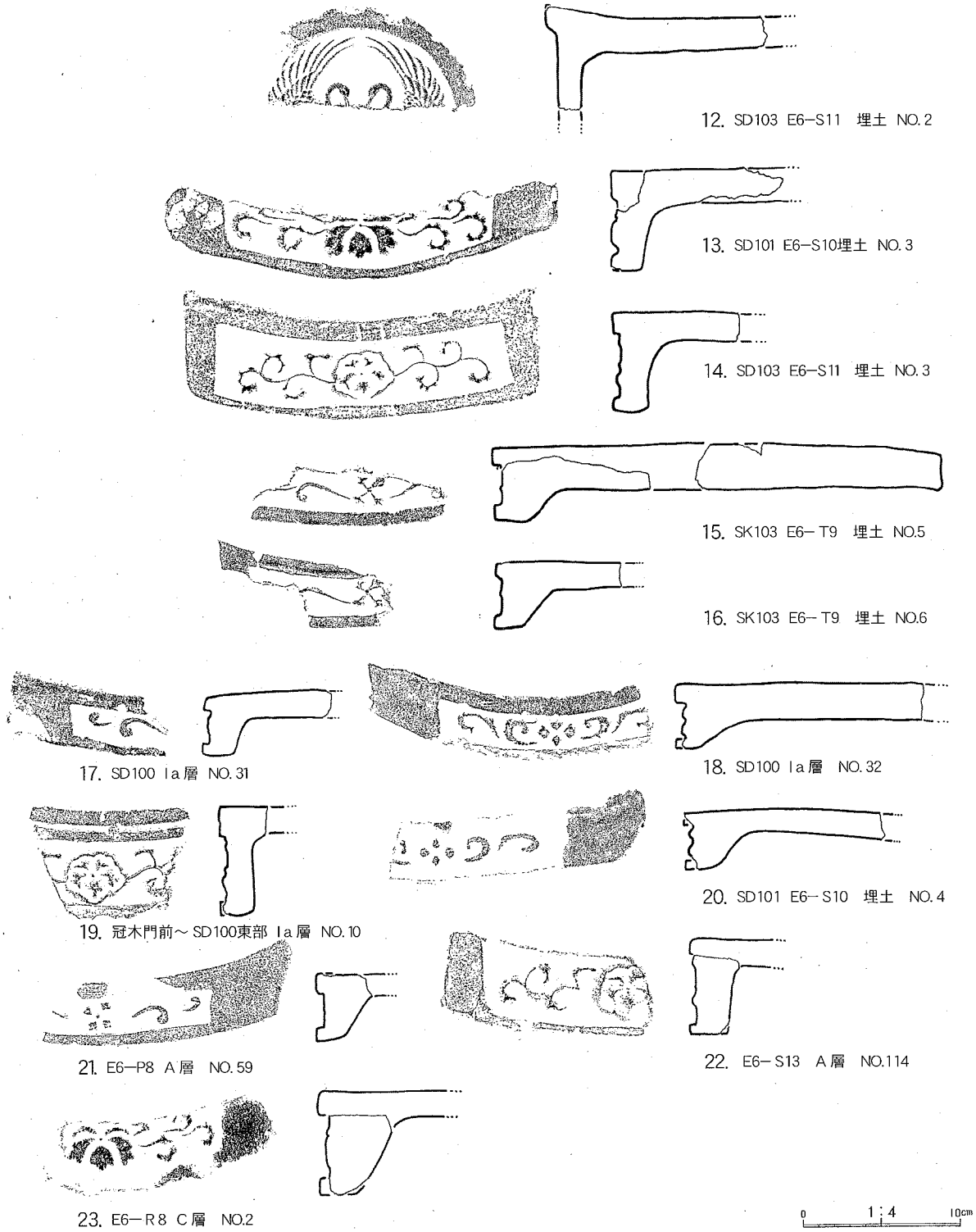
第73図　本丸北東部の瓦 1



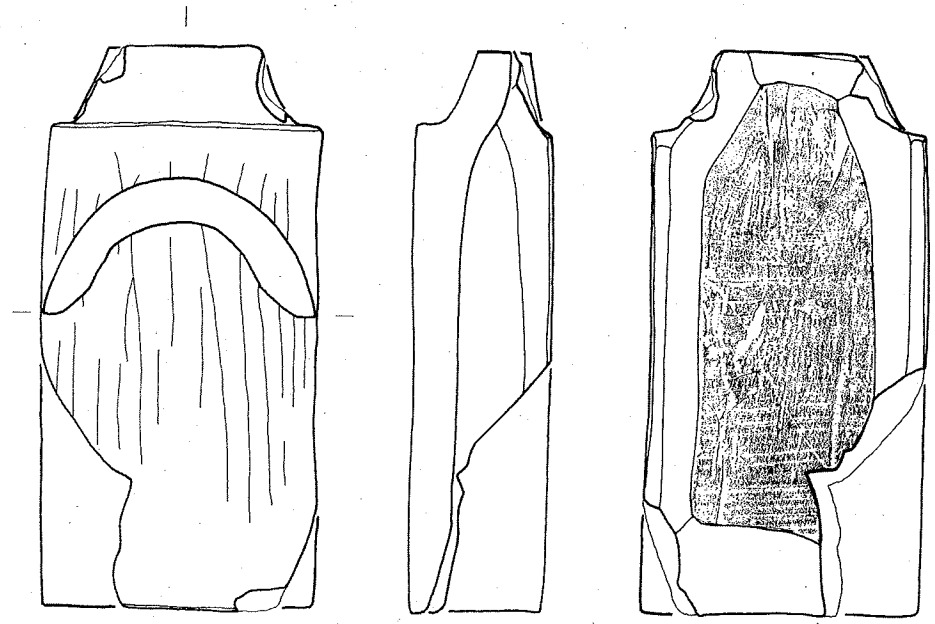
第74図　本丸北東部の瓦2



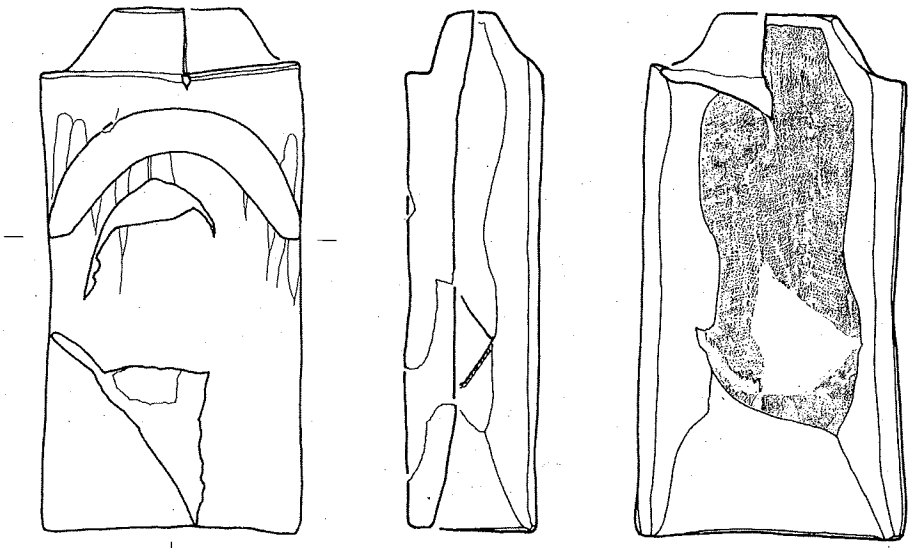
第75図　本丸北東部瓦3



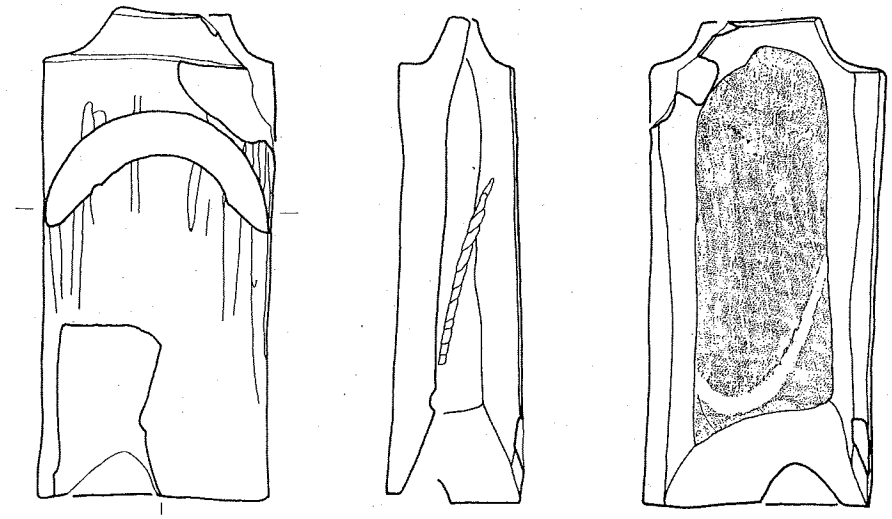
第76図　本丸北東部の瓦4



24. SB170 多門櫓中部 Ia層 NO.6



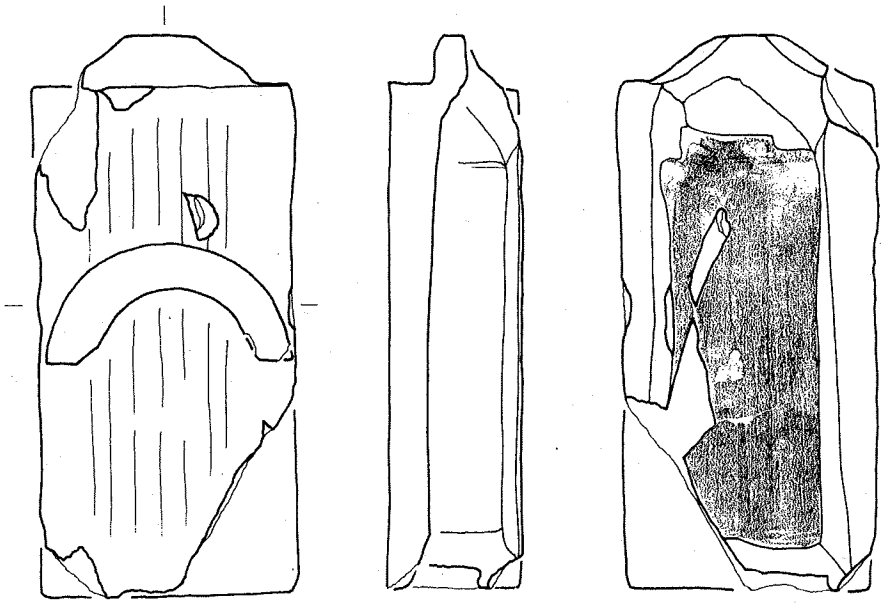
25. SK103 E6−T9 NO.11



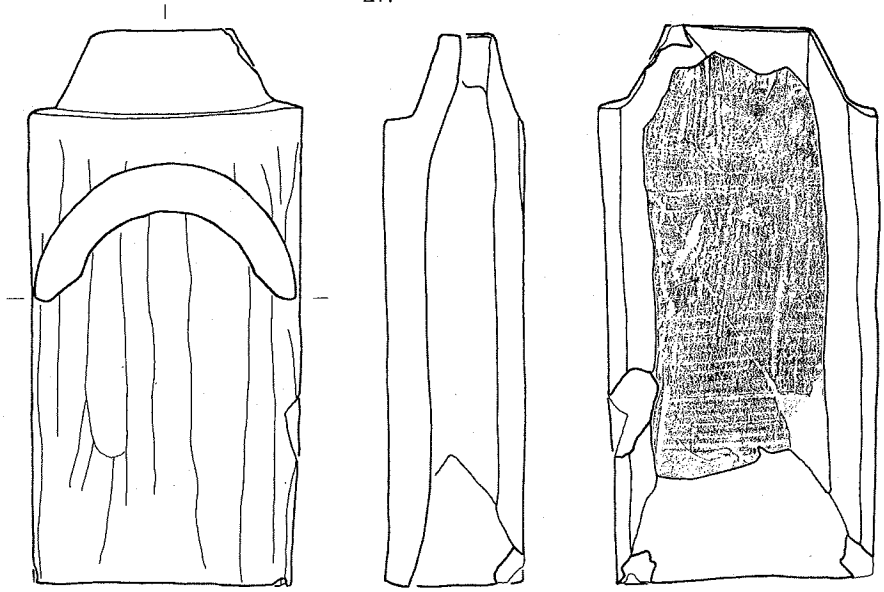
26. SX101 埋土 NO.5

0 1:4 10cm

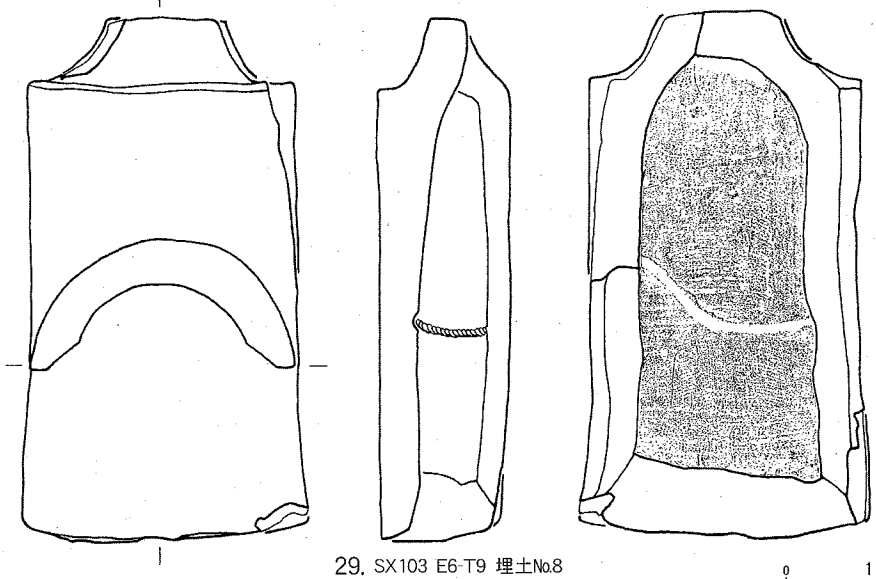
第77図　本丸北東部の瓦5



27. SX201 E6-S4 No.3



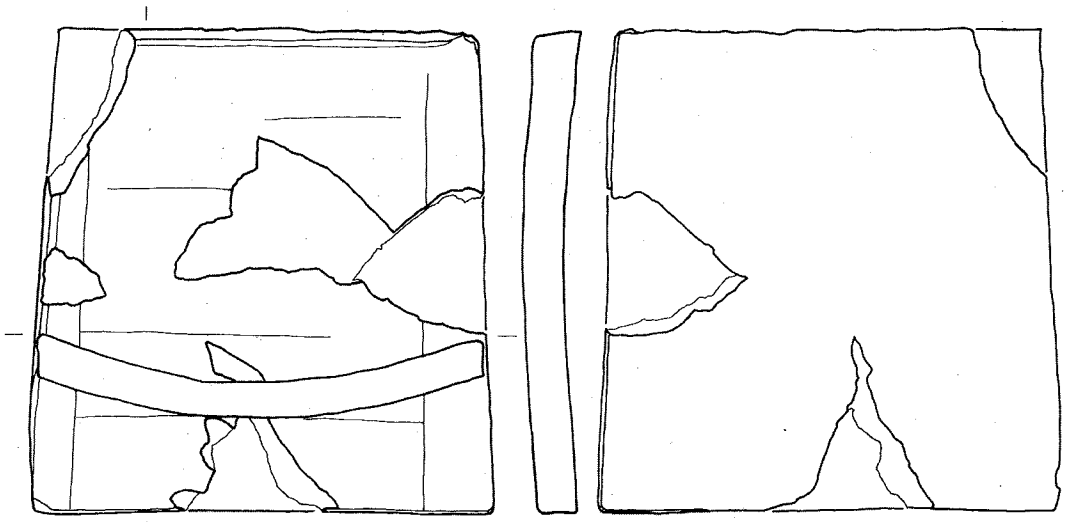
28. SX101 E6-S9 埋土No.6



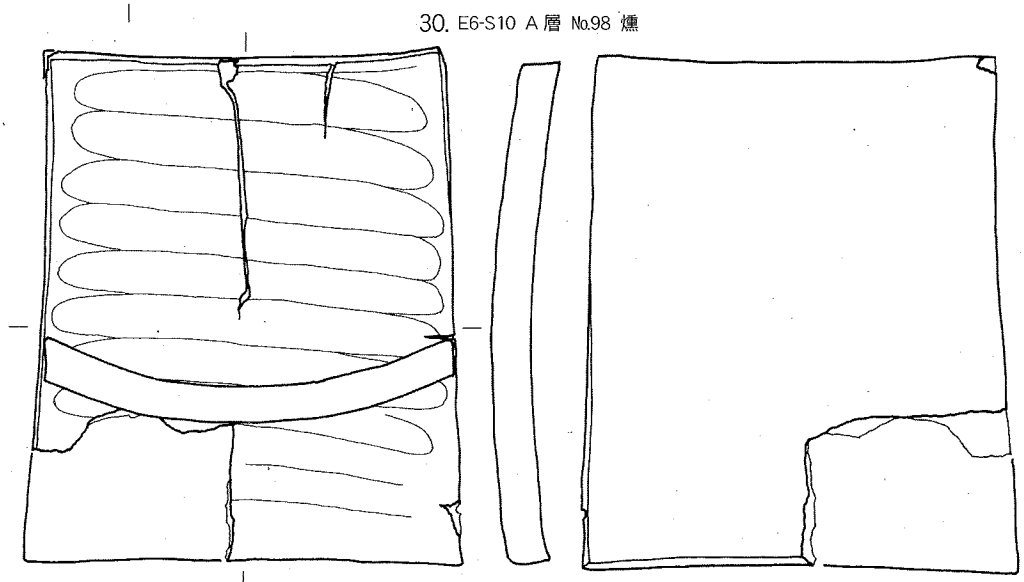
29. SX103 E6-T9 埋土No.8

0 1:4 10cm

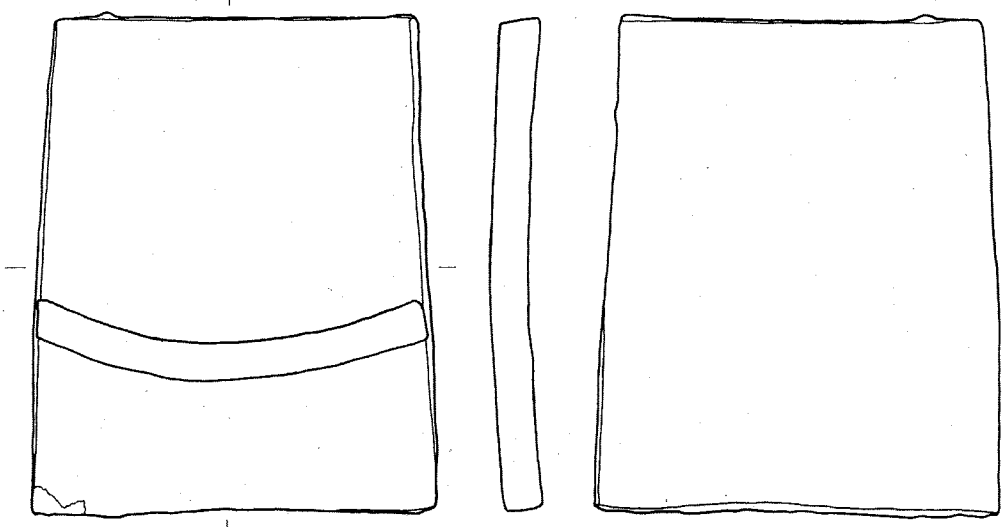
第78図　本丸北東部の瓦6



30. E6-S10 A層 No.98 燻



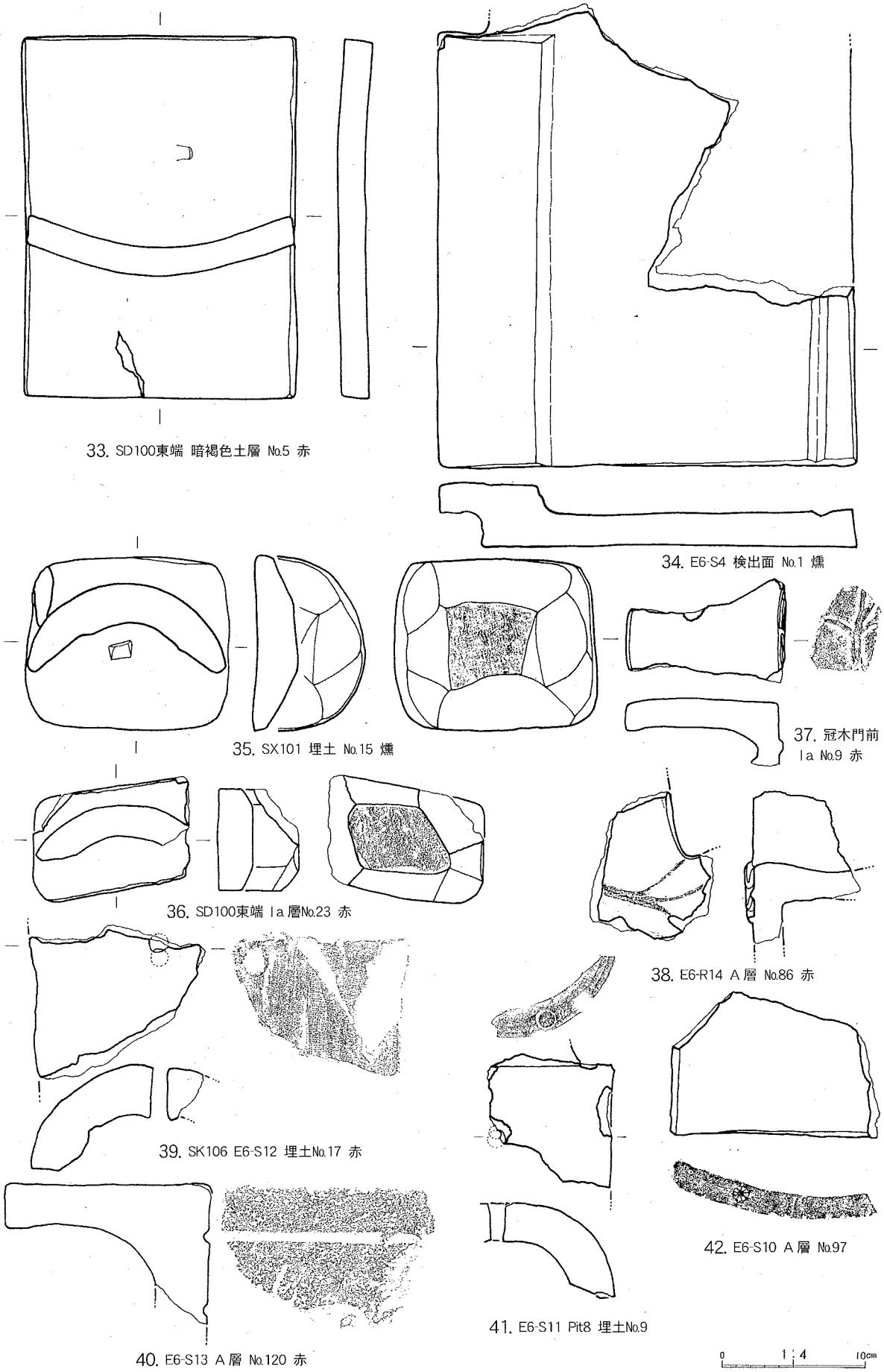
31. SX101 廊下橋下 No.2



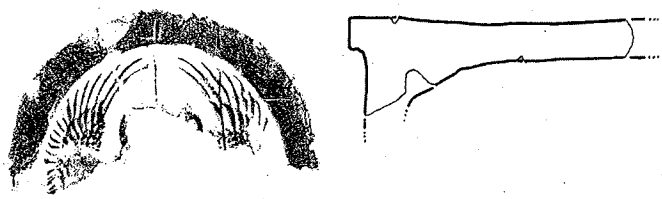
32. E6-S13 A層 No.117

0 1:4 10cm

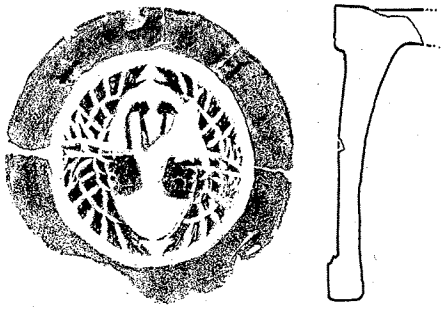
第79図　本丸北東部の瓦7



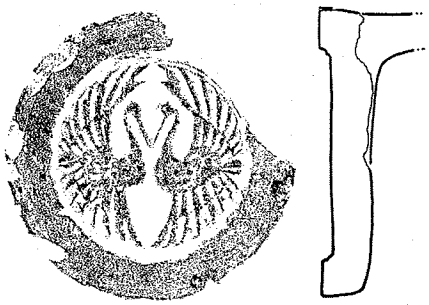
第80図　本丸北東部の瓦 8



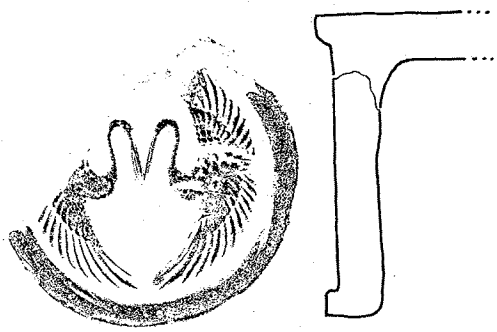
1. E6-L6 Ib層 No.79 燻



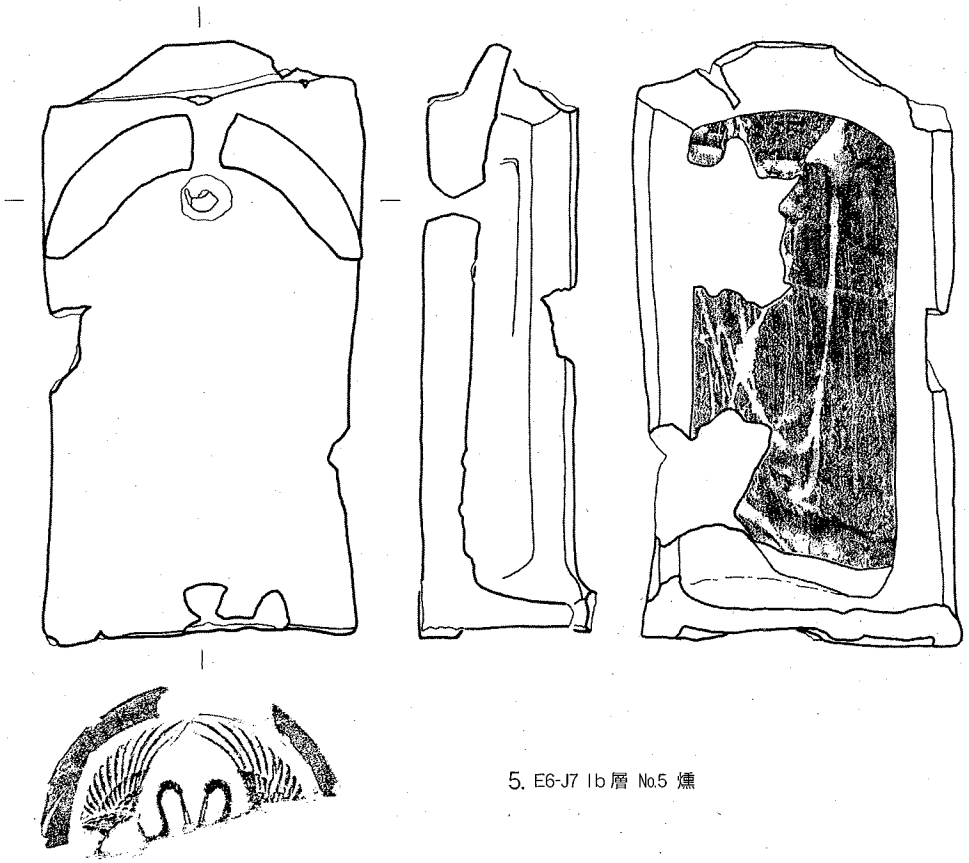
2. E6-M6 Ib層 No.118 燻



3. E6-M6 Ib層 No.119 燻



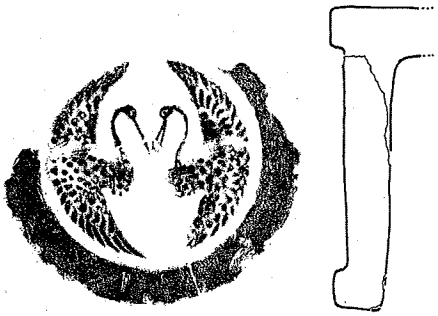
4. E6-J7 Ia層 No.1 燻



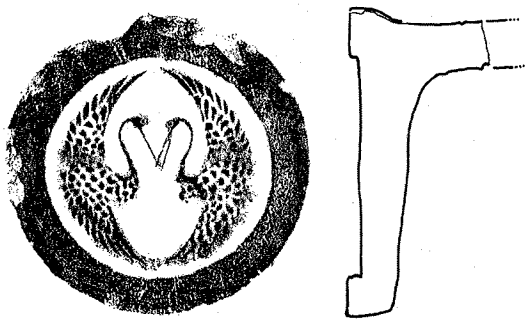
5. E6-J7 Ib層 No.5 燻

0 1:4 10cm

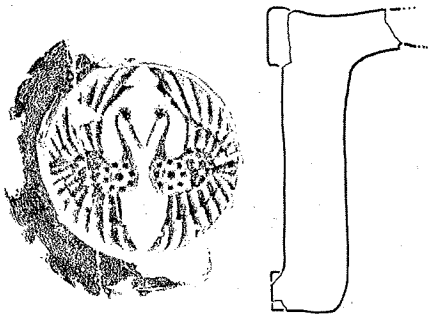
第81図　本丸北西部の瓦 1



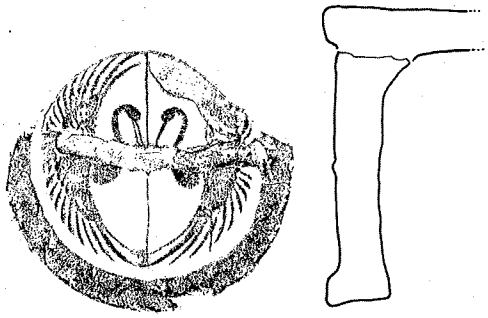
6. E6−K7 Ⅰa層 NO.8



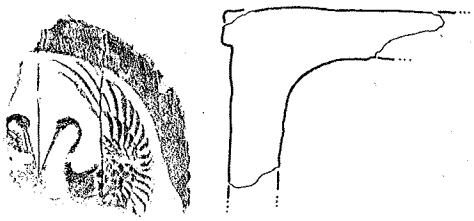
7. E6−K8 Ⅰa層 NO.16



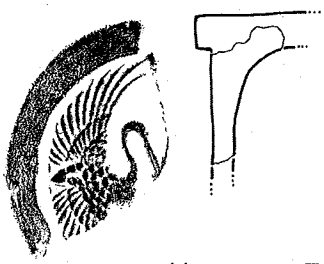
8. E6−K8 電柱撹乱 NO.10



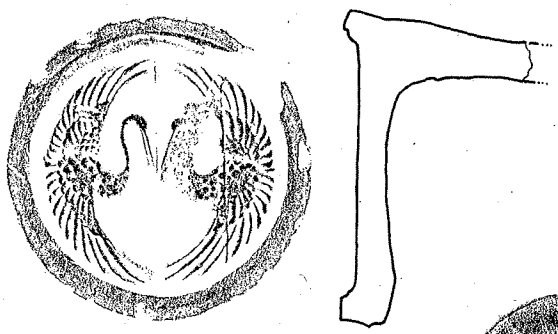
9. E6−J7 Ⅰb層 NO.8



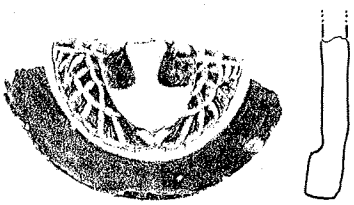
10. E6−J7 Ⅰb層 NO.9



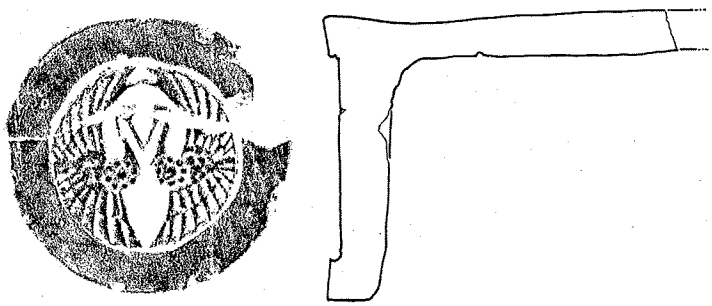
11. E6−J7 Ⅰb層 NO.10



12. E6−J7 Ⅰb層 NO.60



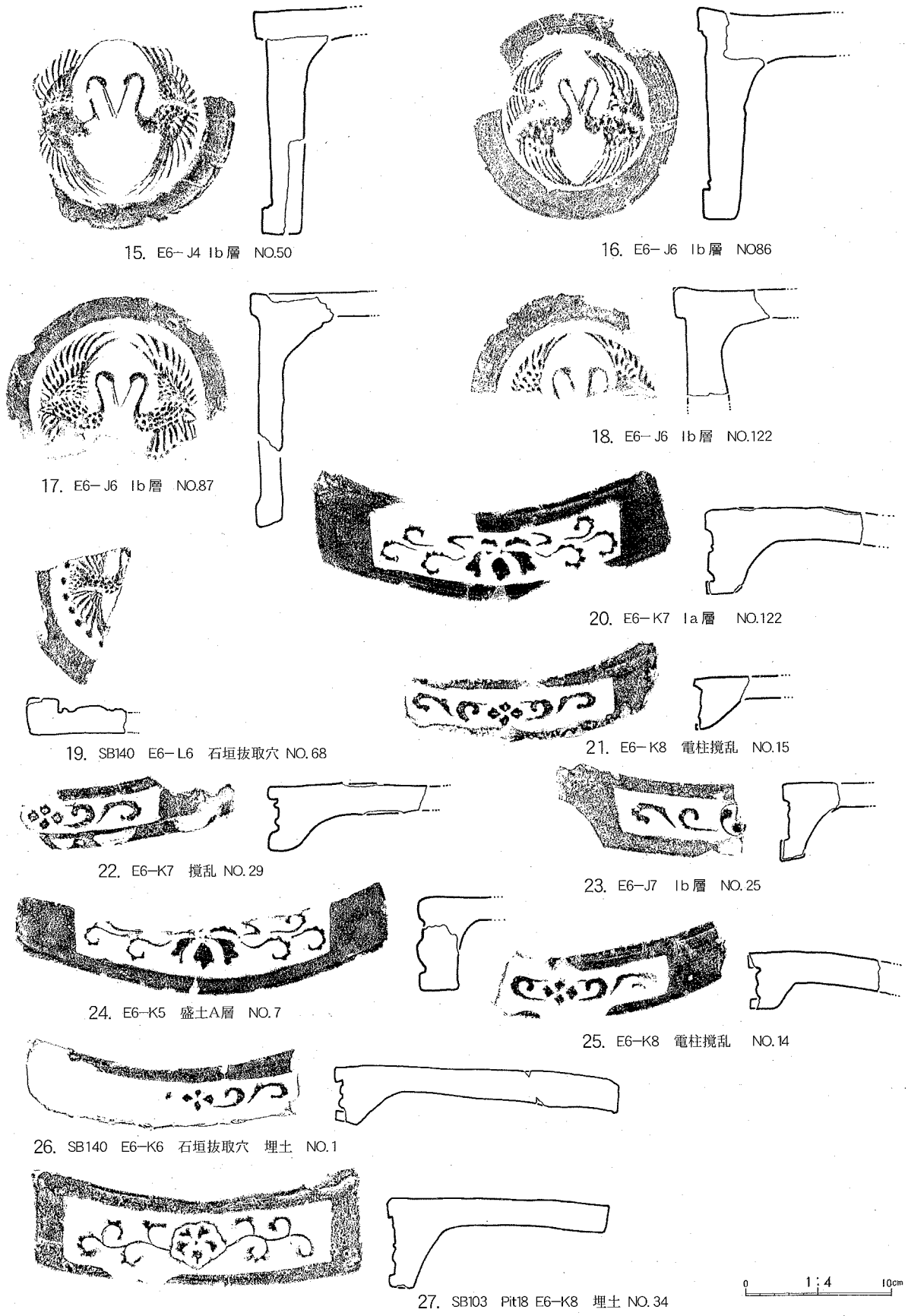
13. E6−K5 盛土A層 NO.2



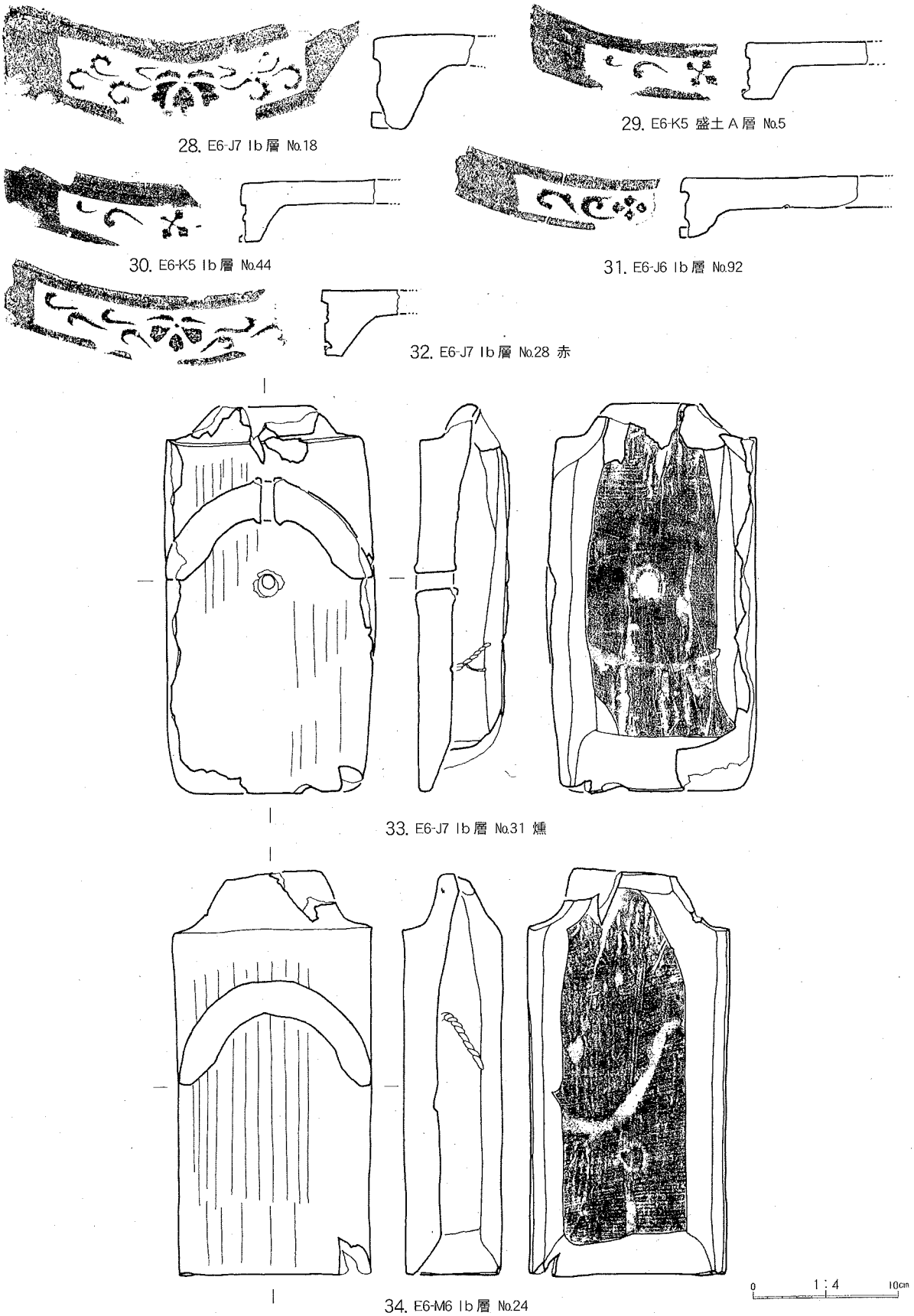
14. E6−K5 盛土A層 NO.1

0 1:4 10cm

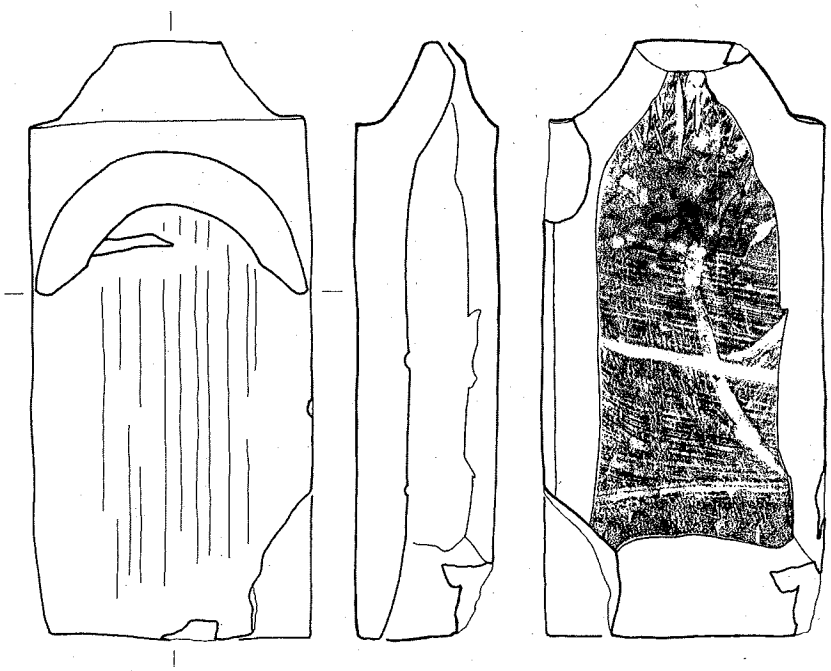
第82図　本丸北西部の瓦2



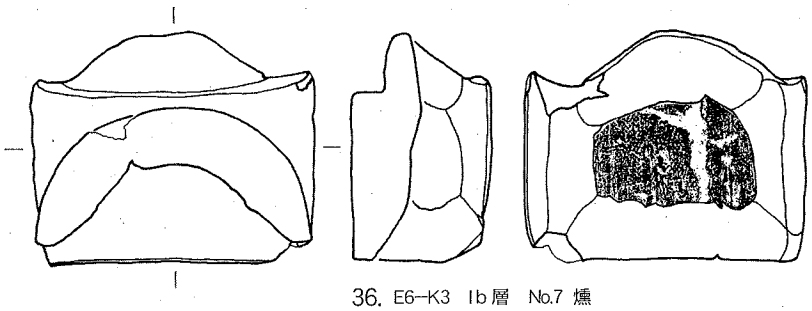
第83図　本丸北西部の瓦3



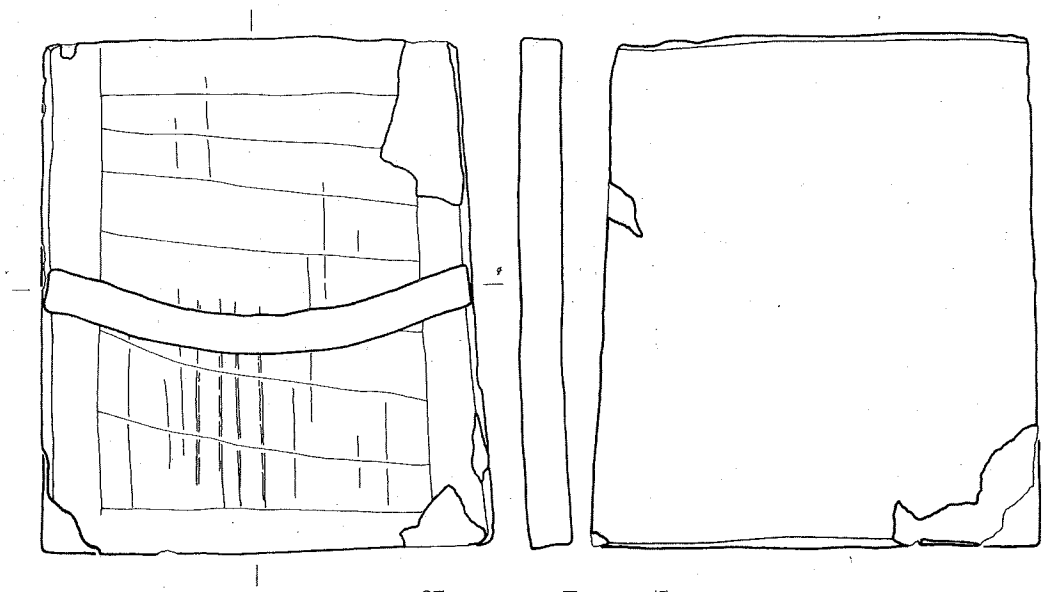
第84図　本丸北西部の瓦 4



35. E6−M7 Ib層 No.43



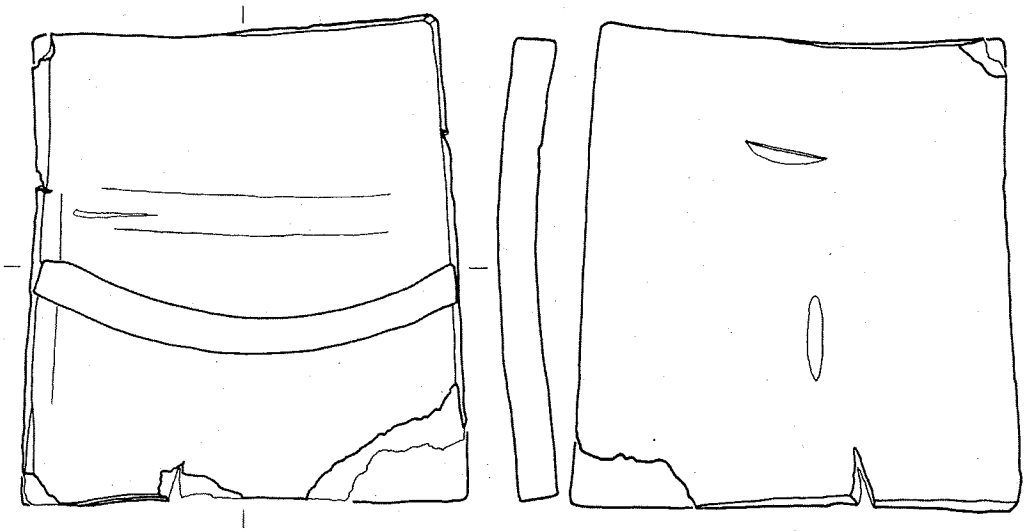
36. E6−K3 Ib層 No.7 燻



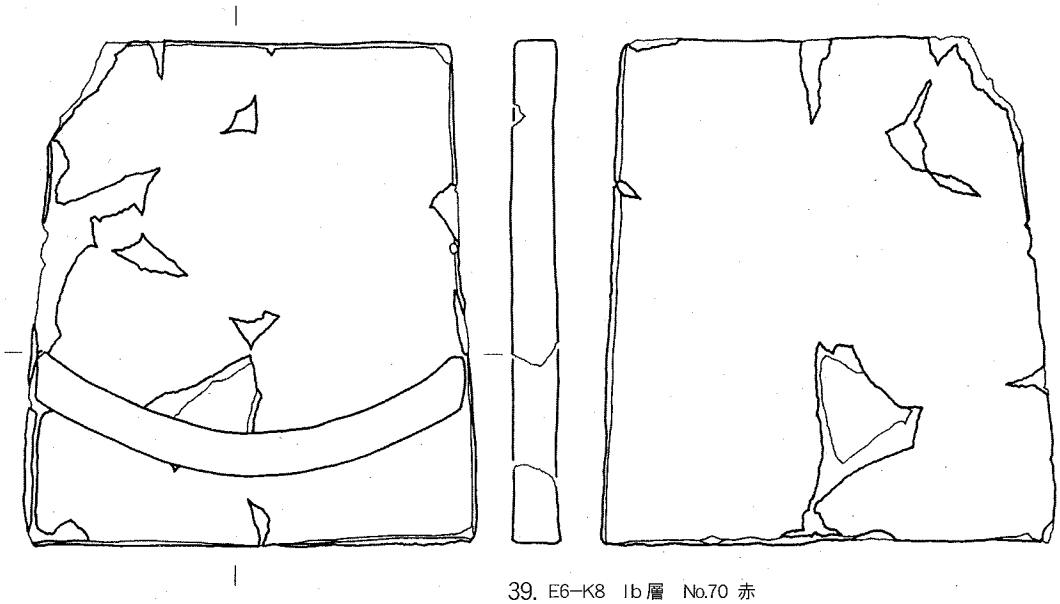
37. E6−M6 Ib層 No.33 燻

0 1:4 10cm

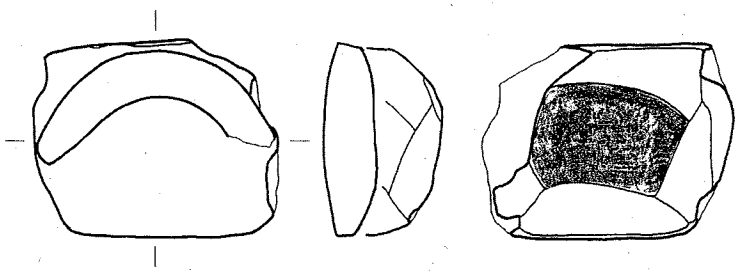
第85図　本丸北西部の瓦5



38. E6−L6　Ib 層　No.103



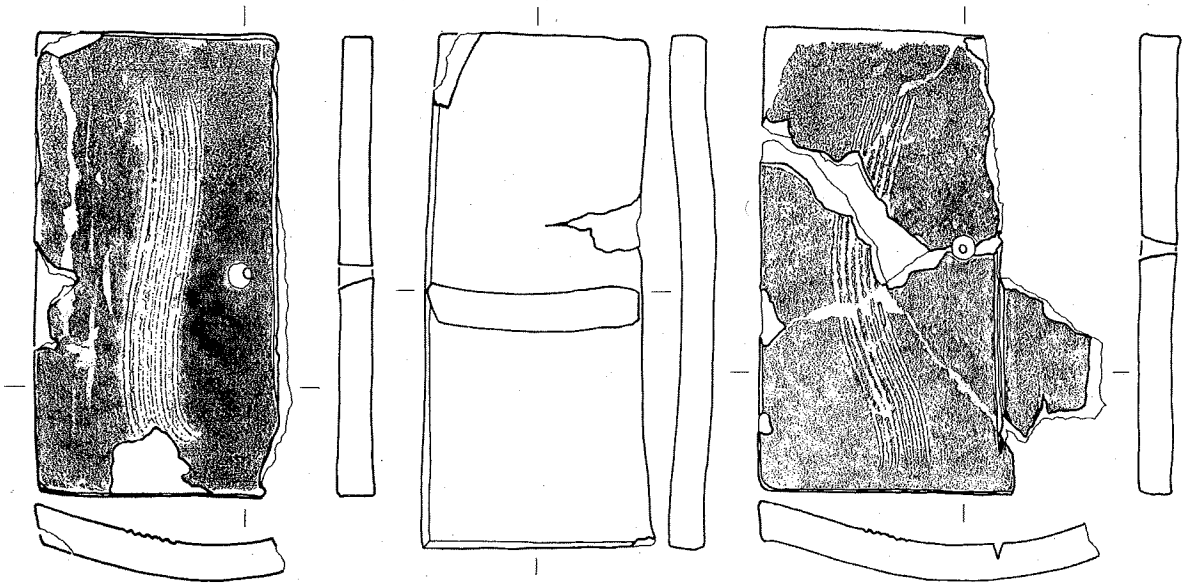
39. E6−K8　Ib 層　No.70 赤



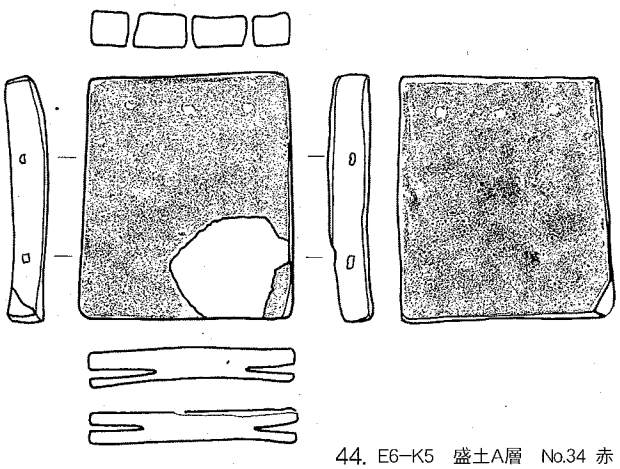
40. E6−L6　盛土B層　No.35 燻

0　1:4　10cm

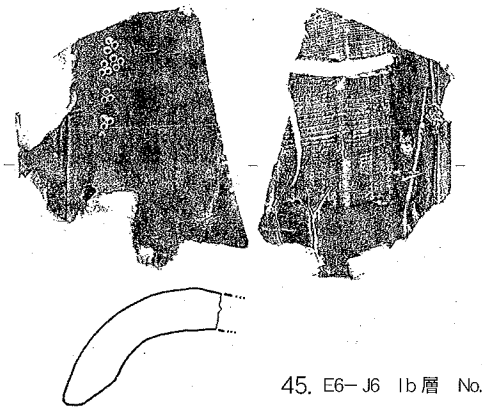
第86図　本丸北西部の瓦6



41. E6−K3 Ib層 No.23 燻　　42. SB103 E6−Pit12埋土 No.33　　43. E6−K3 Ib層 No.22



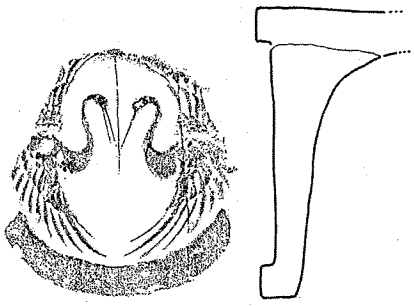
44. E6−K5 盛土A層 No.34 赤



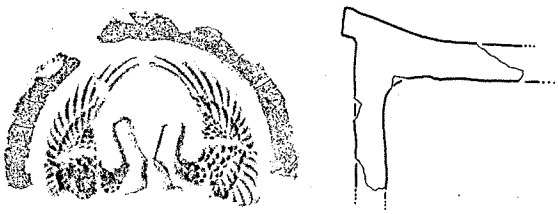
45. E6−J6 Ib層 No.99

0　1:4　10cm

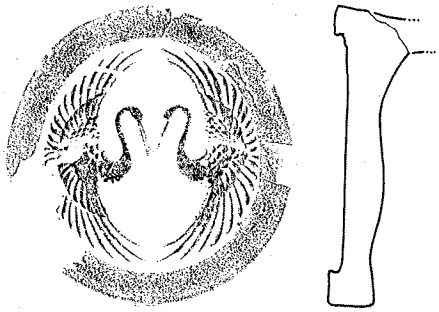
第87図　本丸北西部の瓦7



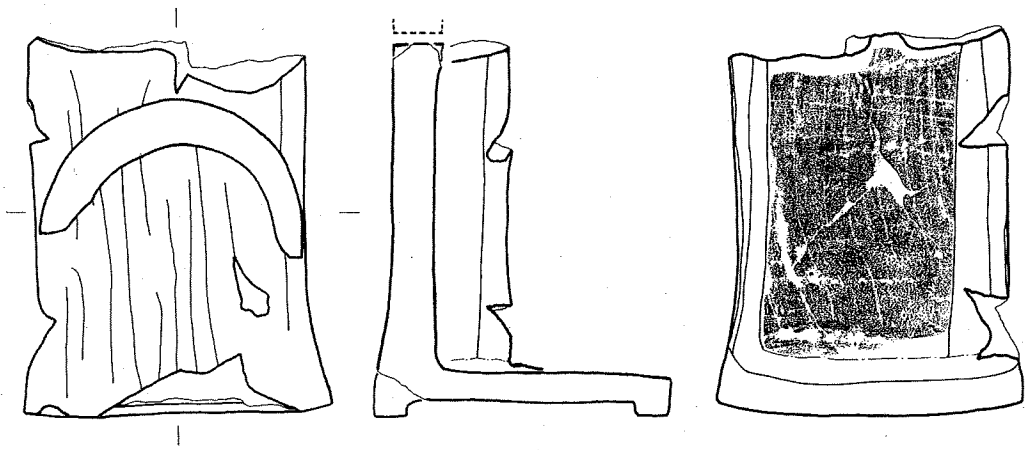
1. E6−F16，No.6 燻

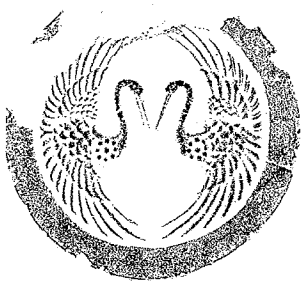


2. E6−E15 裏込　No.68 赤

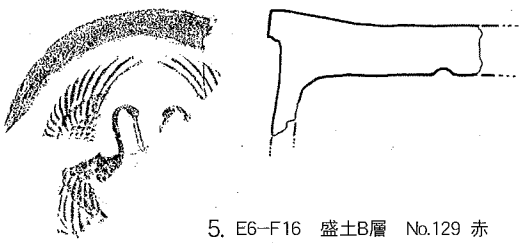


3. E6−E14　盛土C層　No. 5 赤





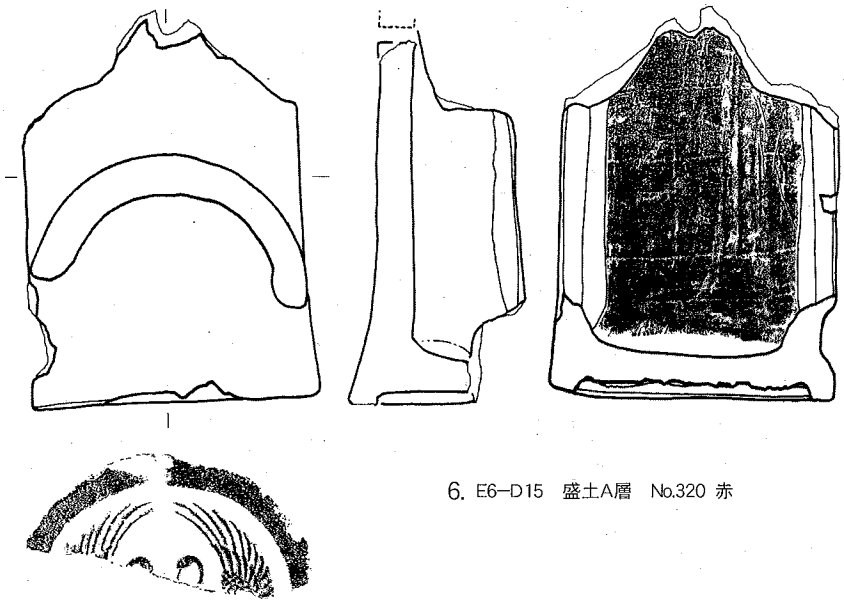
4. E6−F16　盛土B層　No.127 赤



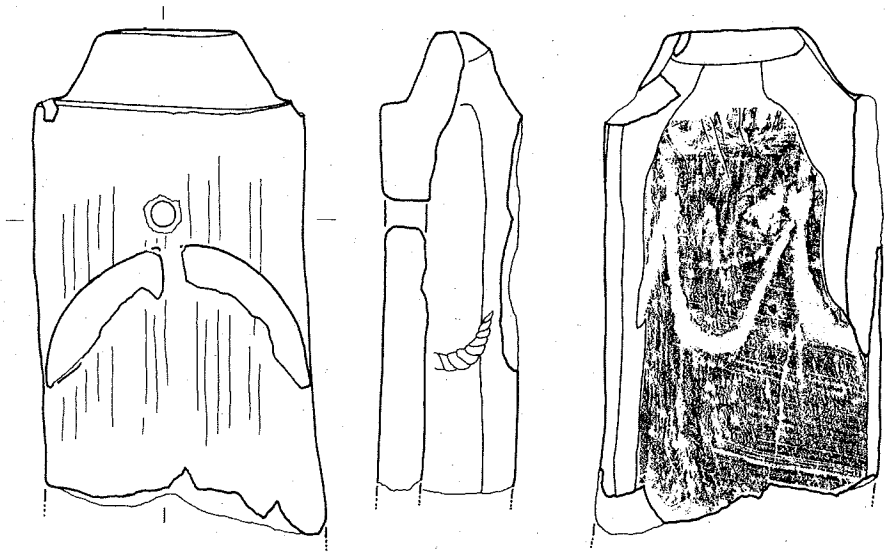
5. E6−F16　盛土B層　No.129 赤

0　1：4　10cm

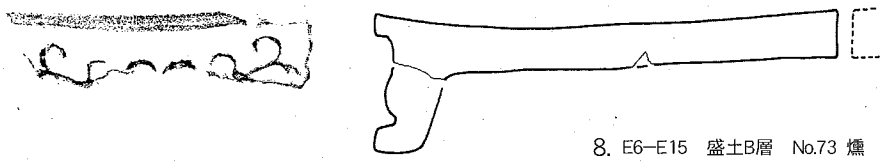
第88図　本丸南西部の瓦1



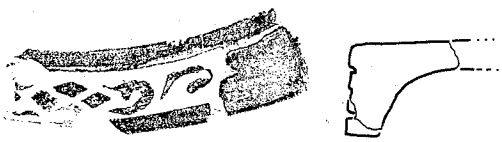
6. E6−D15　盛土A層　No.320 赤



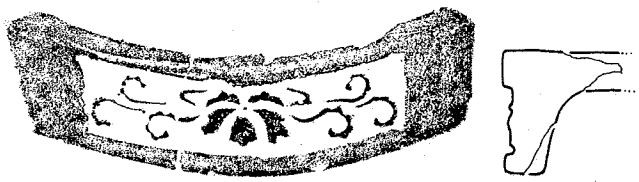
7. E6−E15　2期根堀　No.1



8. E6−E15　盛土B層　No.73 燻



9. E6−D15　盛土A層　No.322 燻

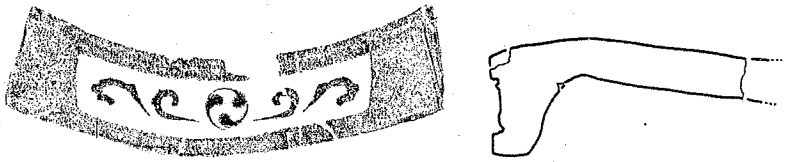


10. E6−D15　盛土A層　No.434 燻

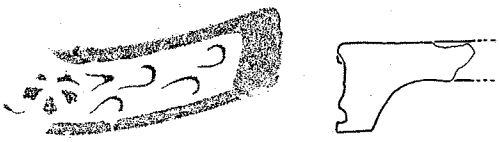
0　1:4　10cm

第89図　本丸南西部の瓦2

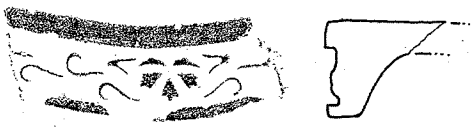
11. E6−E16 Ⅰa層 No.14 燻



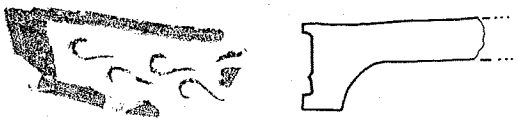
12. E6−E14 盛土B層 No.66



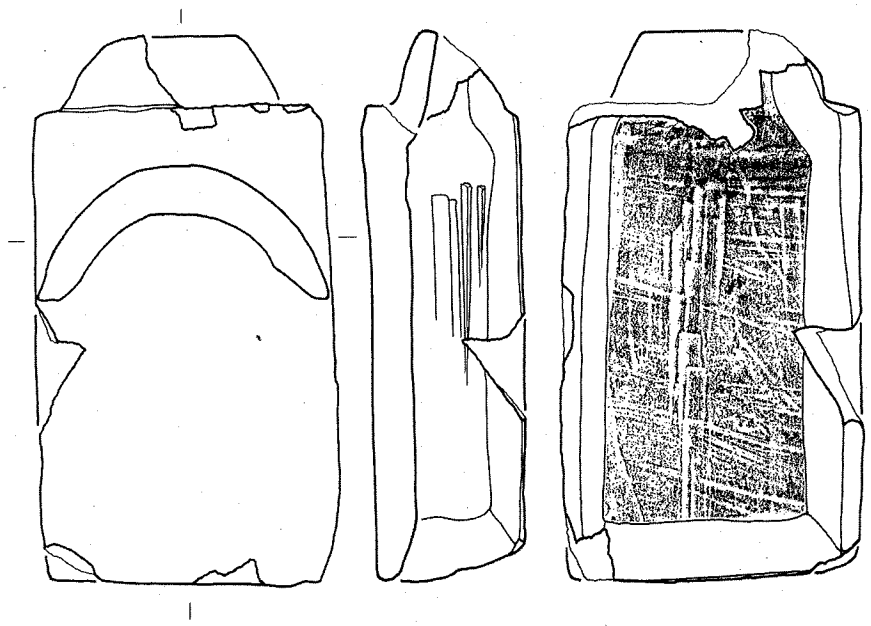
13. E6−F16 盛土B層 No.135 赤



14. E6−F12 盛土A層 No.371 赤



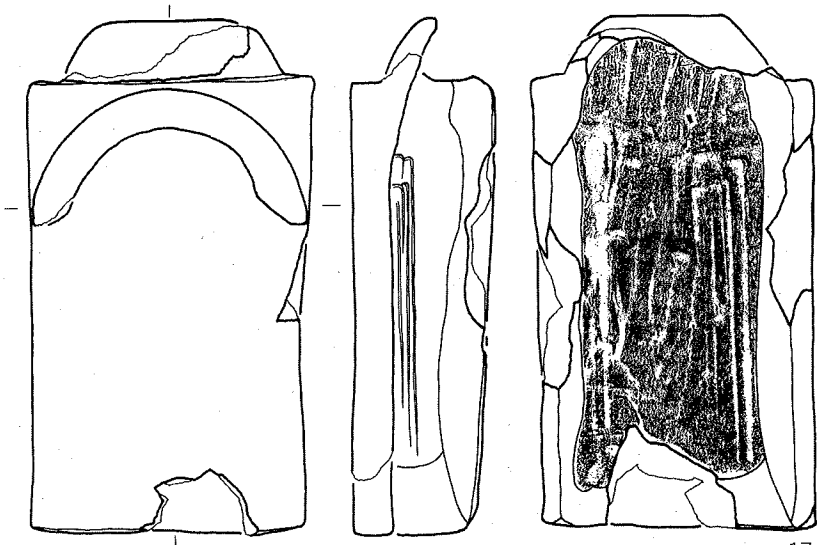
15. E6−F13 Pit 4埋土 No.36 赤



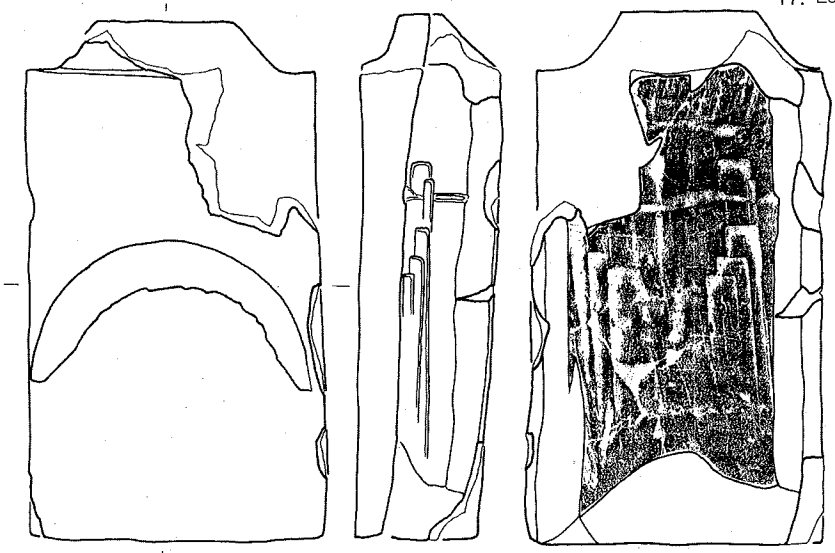
16. E6−F16 盛土B層 No.144 赤

0 1:4 10cm

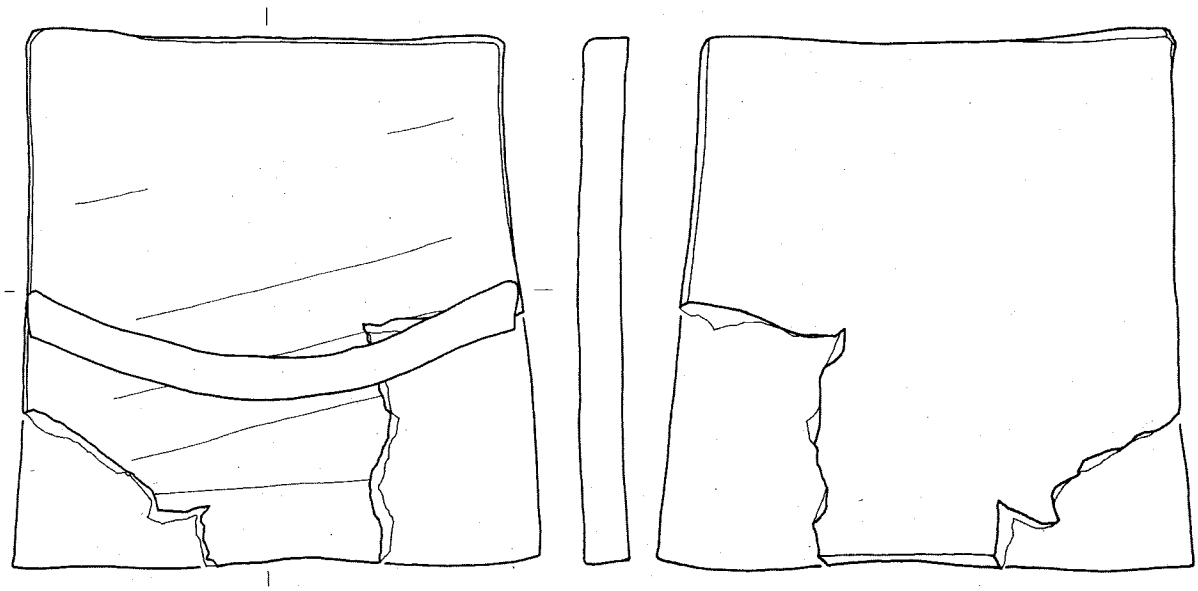
第90図 本丸南西部の瓦3



17. E6−F14 Ⅰa層 No.58 赤



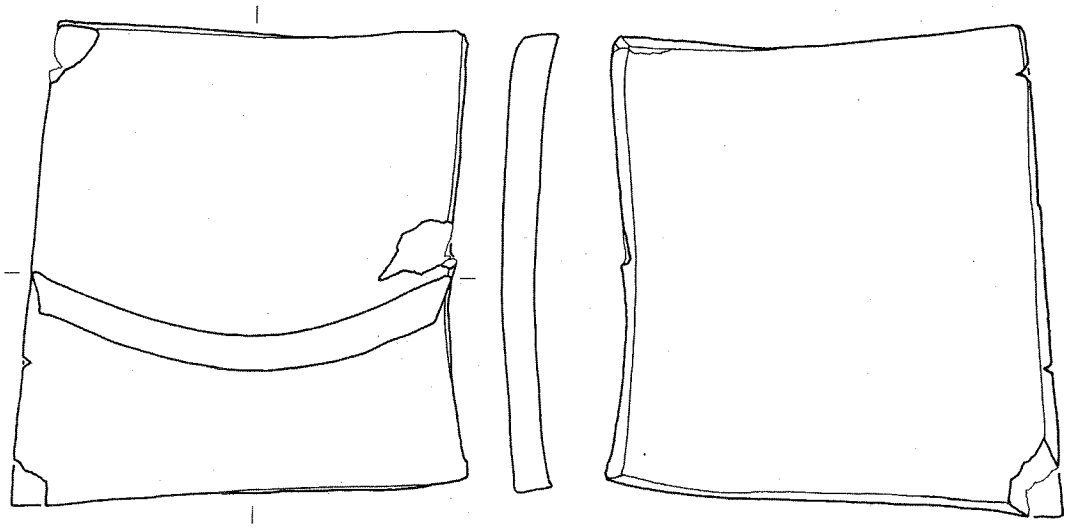
18. E6−F14 Ⅰa層 No.60 赤



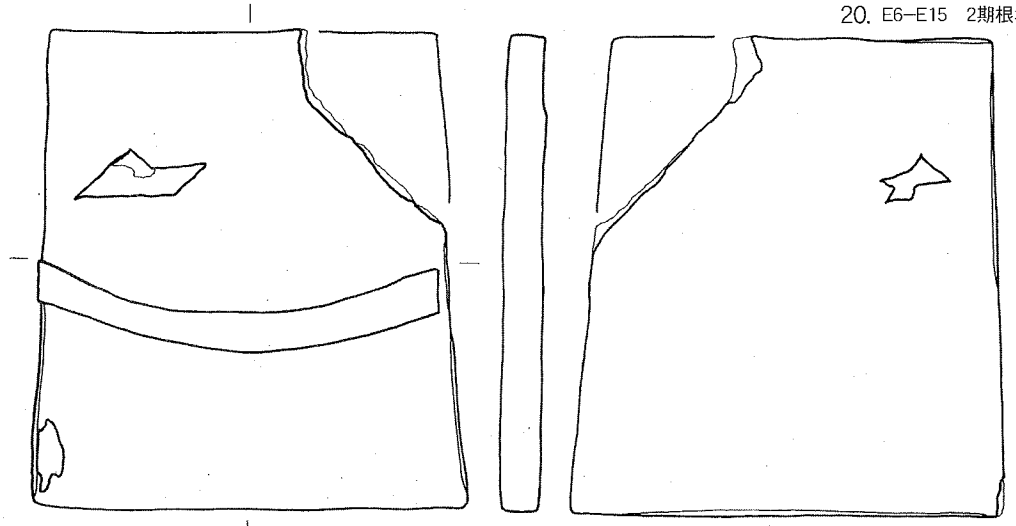
19. E6−E15 盛土B層 No.79 燻

0 1:4 10cm

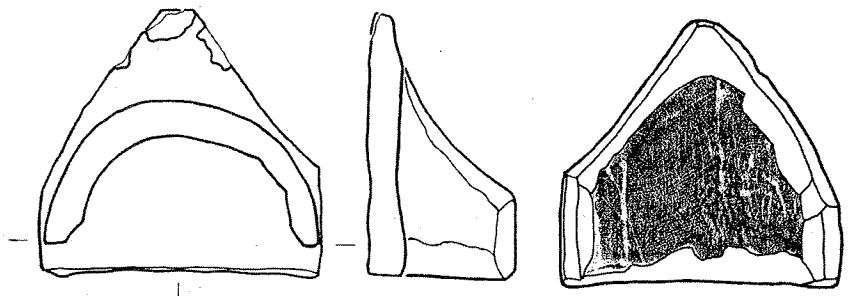
第91図 本丸南西部の瓦4



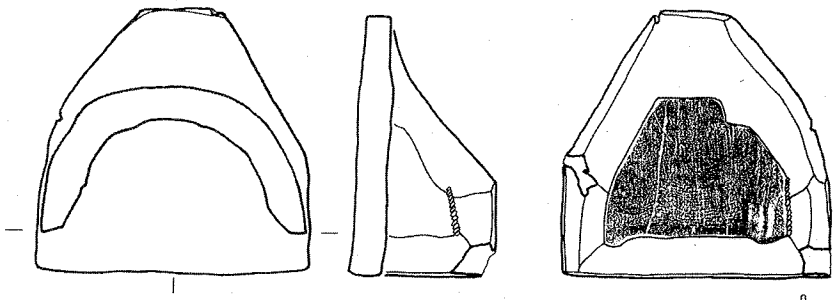
20. E6−E15　2期根堀　No. 2



21. E6−F16　盛土B層　No.180 赤



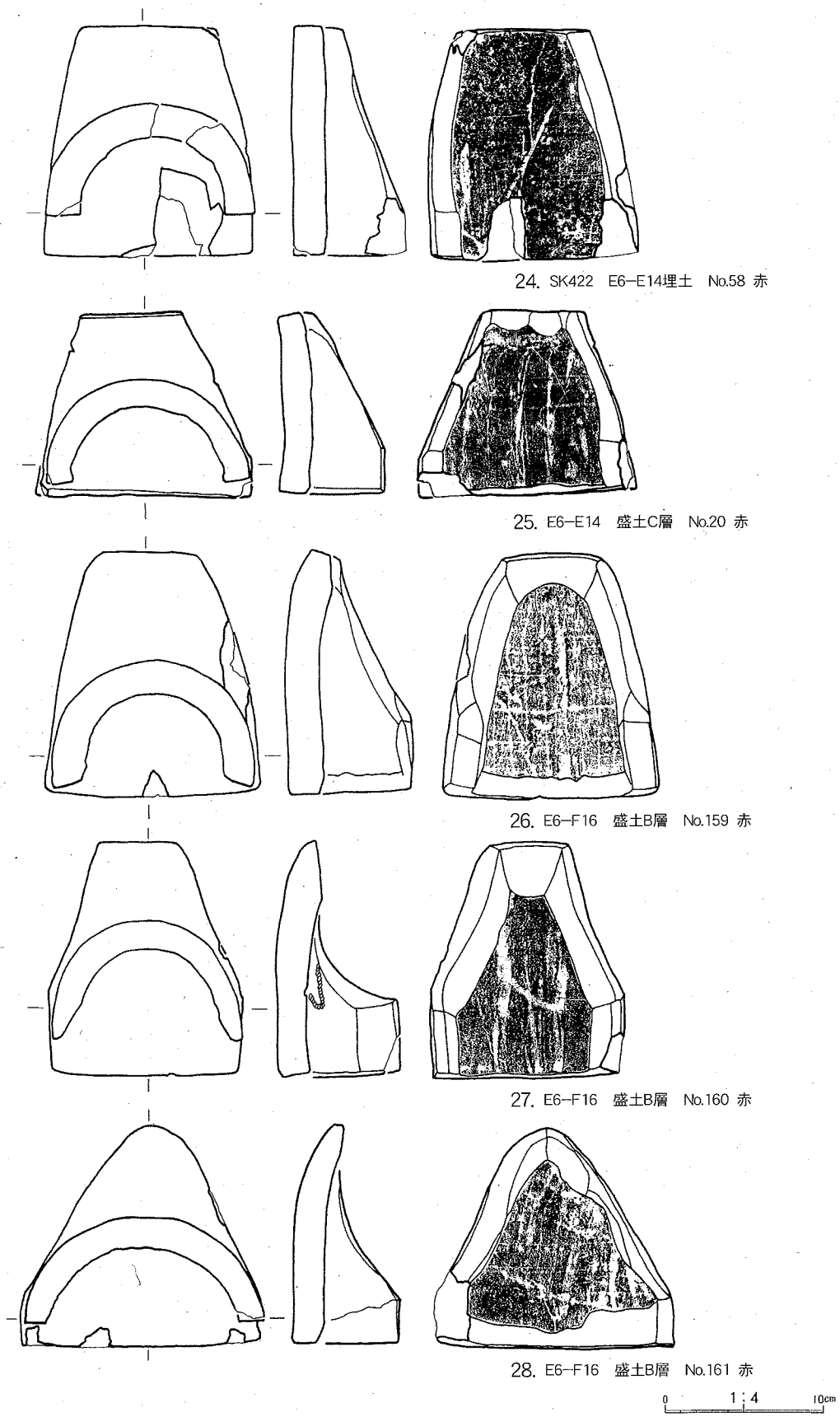
22. E6−G17　盛土B層　No.252 燻



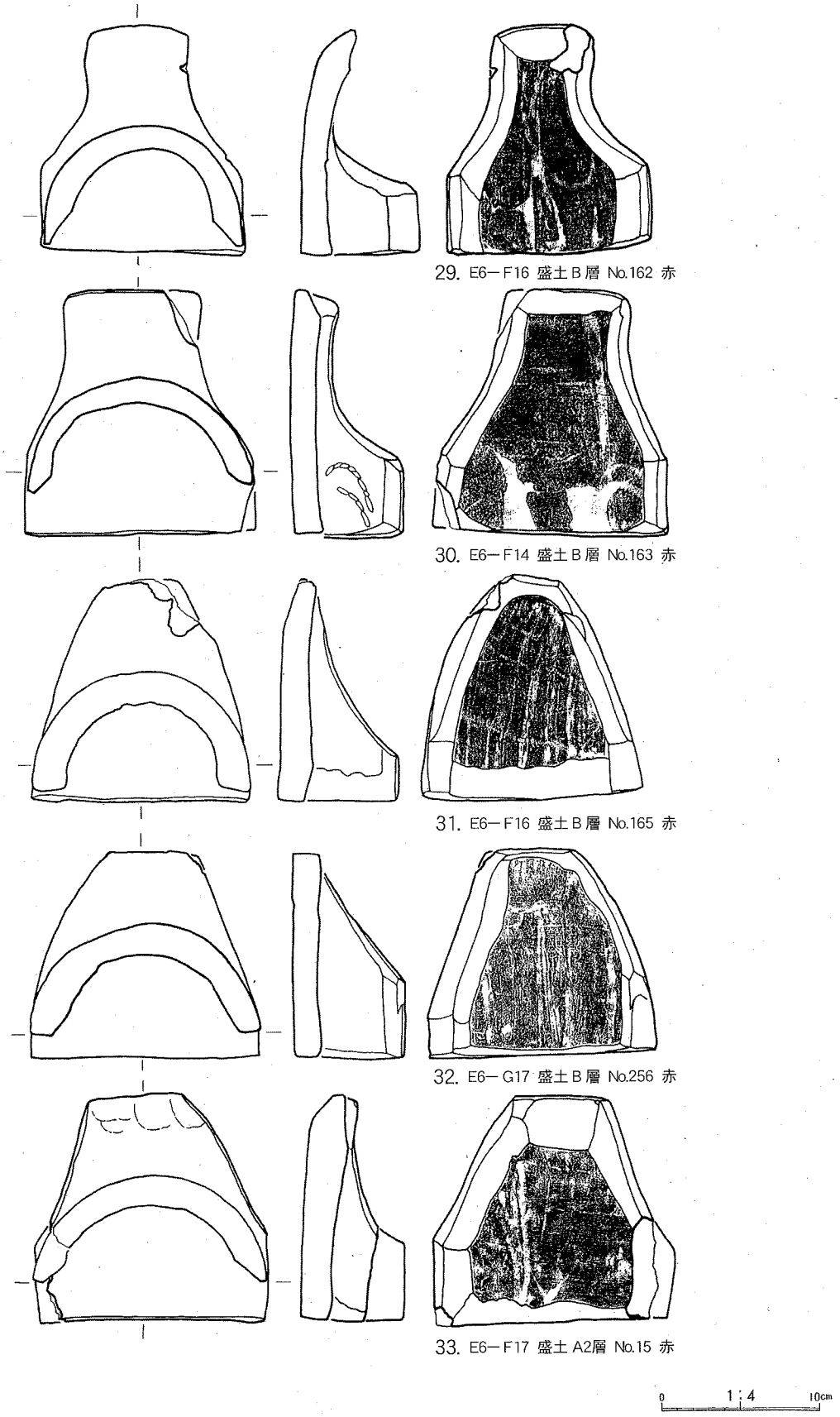
23. E6−G17　盛土B層　No.253 燻

0　1：4　10cm

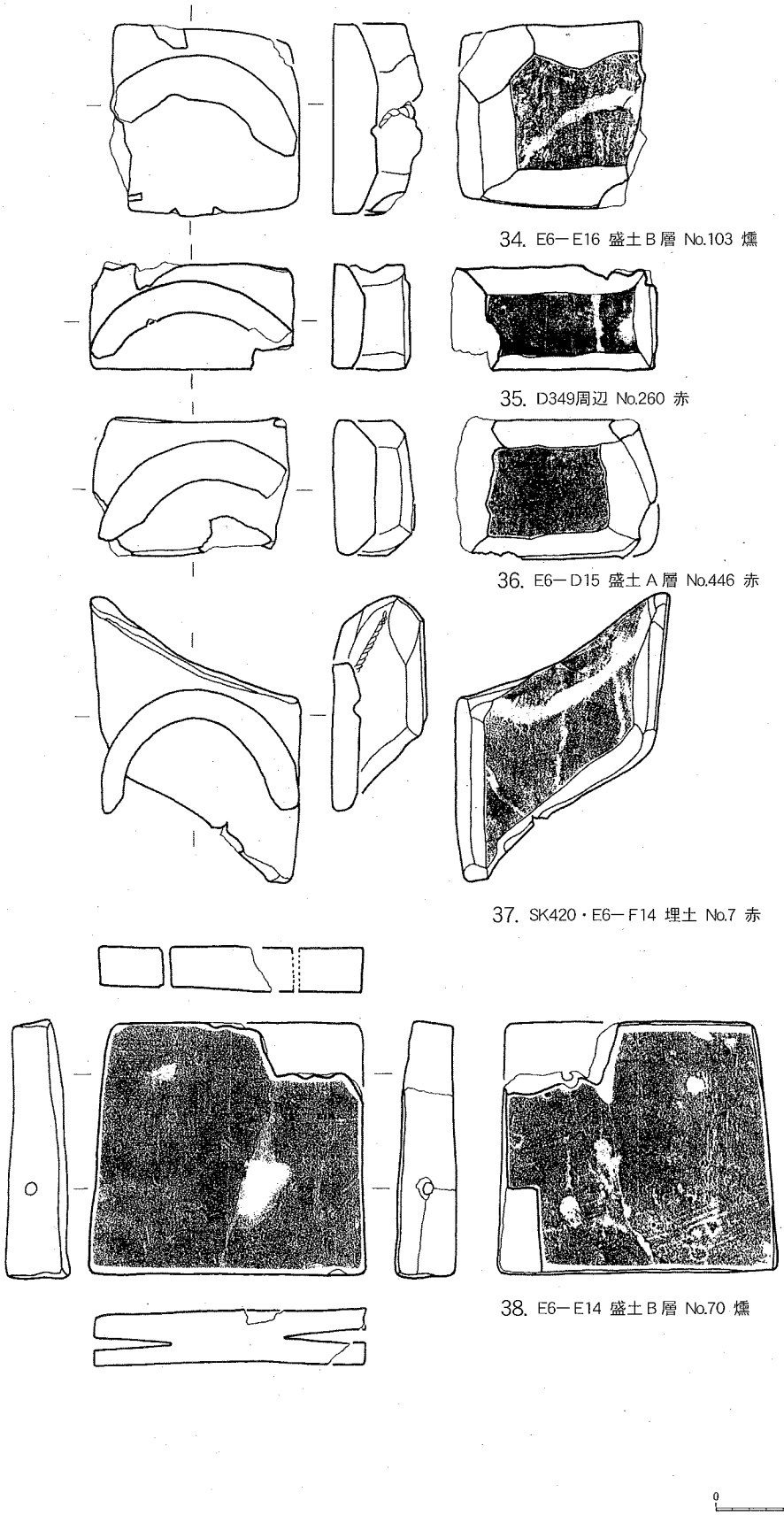
第92図　本丸南西部の瓦5



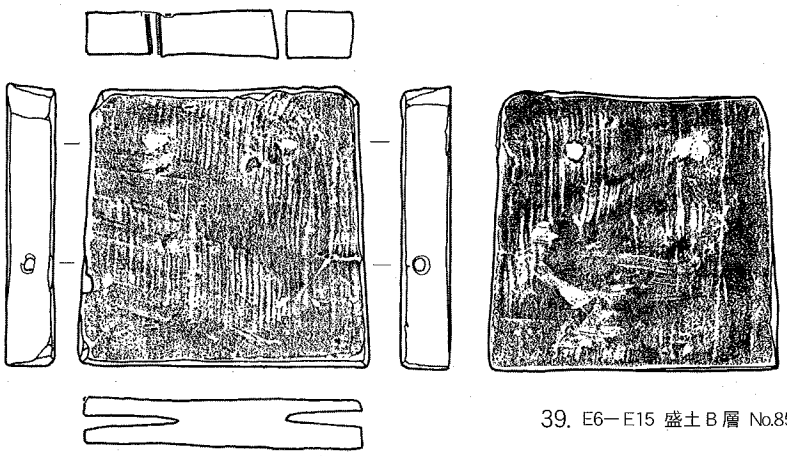
第93図　本丸南西部の瓦6



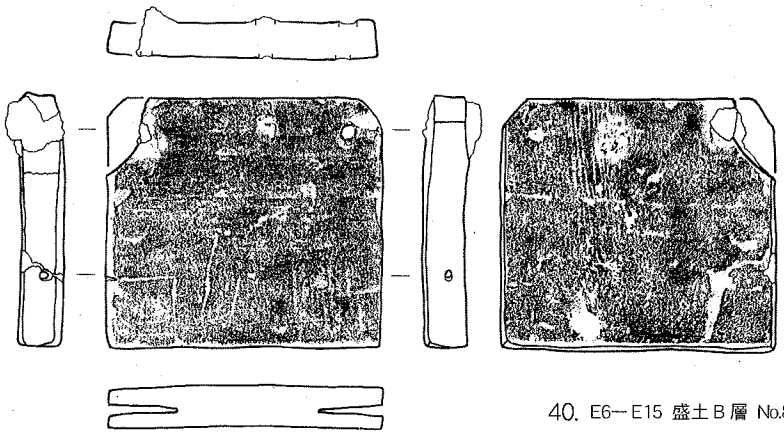
第94図　本丸南西部の瓦7



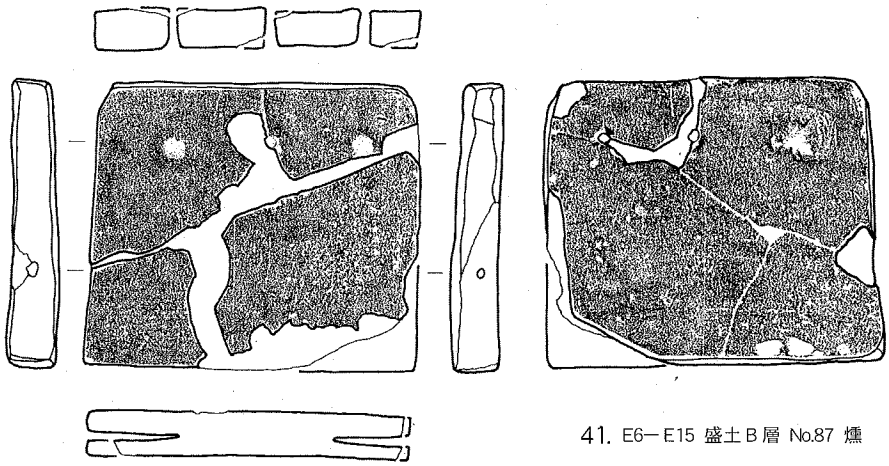
第95図　本丸南西部の瓦8



39. E6－E15 盛土B層 No.85 燻



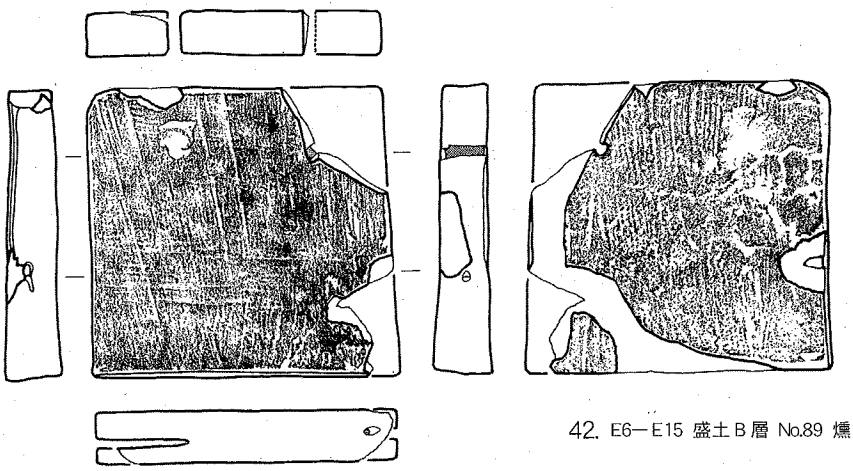
40. E6－E15 盛土B層 No.86 燻



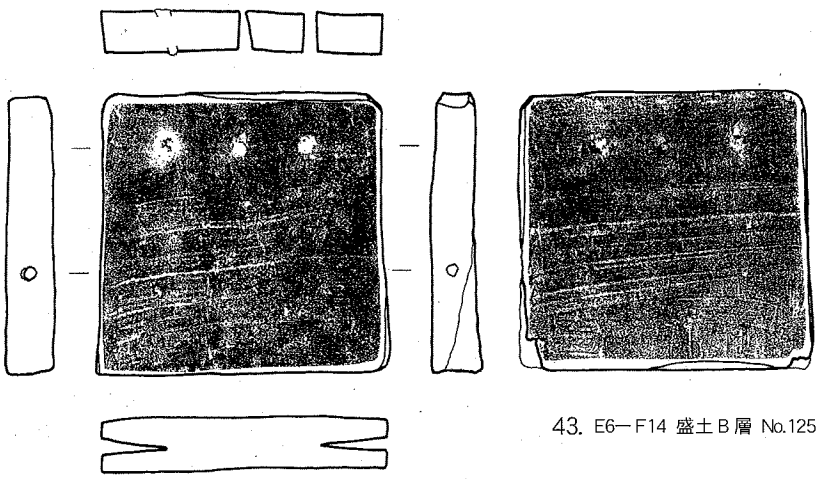
41. E6－E15 盛土B層 No.87 燻

0　1：4　10cm

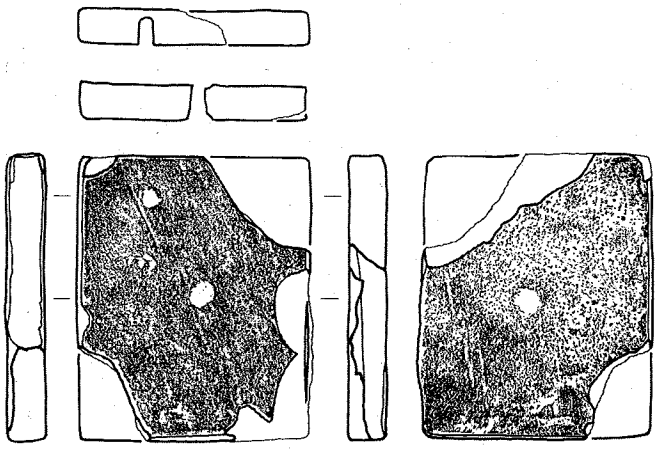
第96図　本丸南西部の瓦9



42. E6—E15 盛土B層 No.89 燻



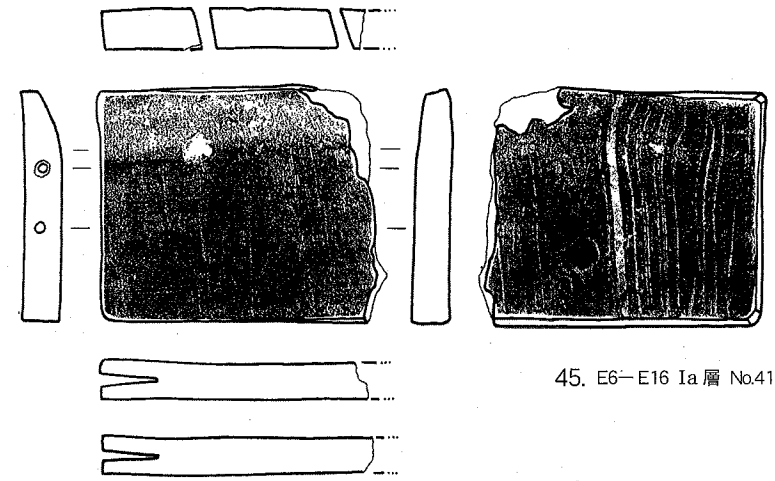
43. E6—F14 盛土B層 No.125 燻



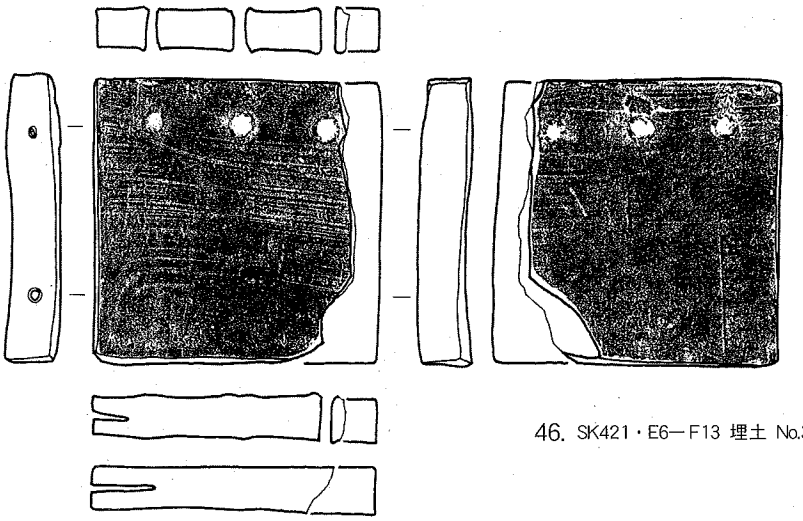
44. E6—F16 盛土B層 No.192 燻

0 1:4 10cm

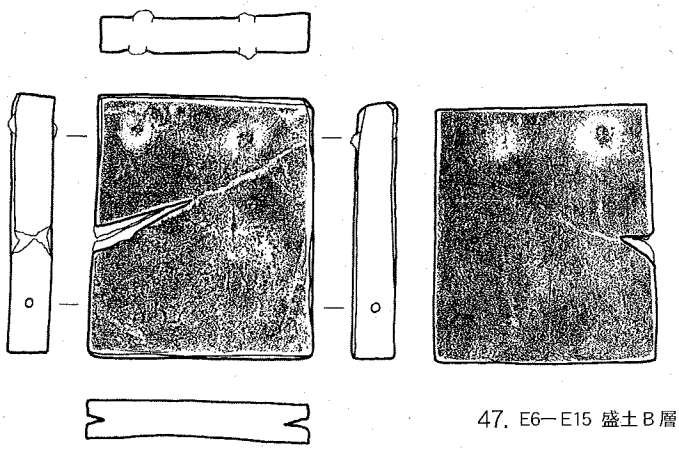
第97図　本丸南西部の瓦 10



45. E6－E16 Ia 層 No.41 燻



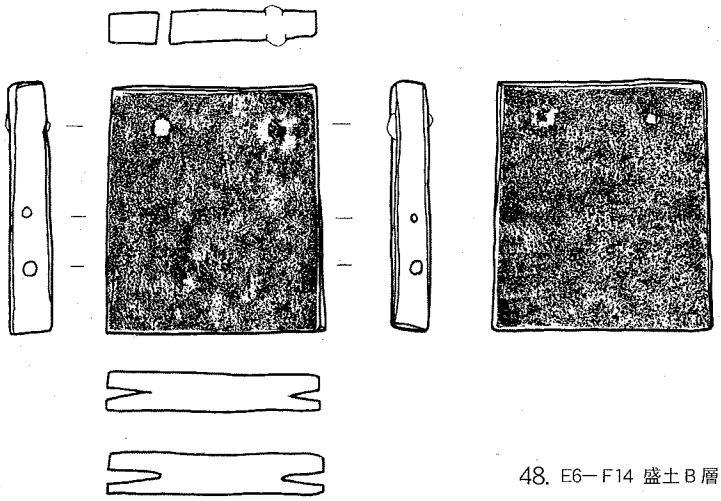
46. SK421・E6－F13 埋土 No.33



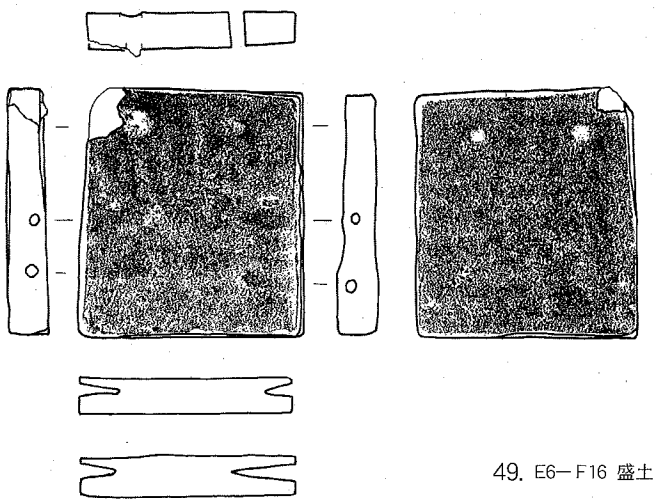
47. E6－E15 盛土B層 No.95 赤

0　1：4　10cm

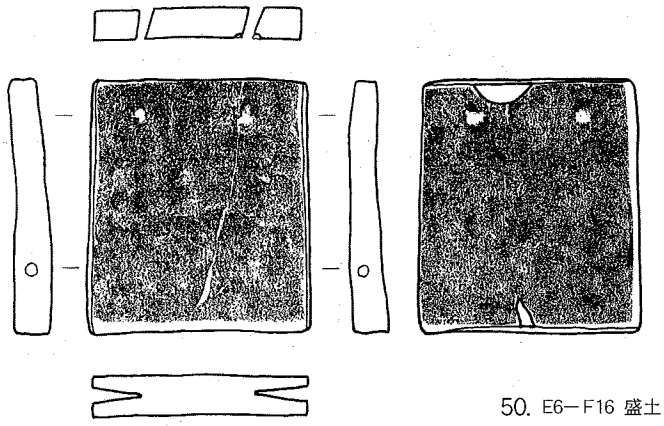
第98図　本丸南西部の瓦 11



48. E6－F14 盛土B層 No.126 赤



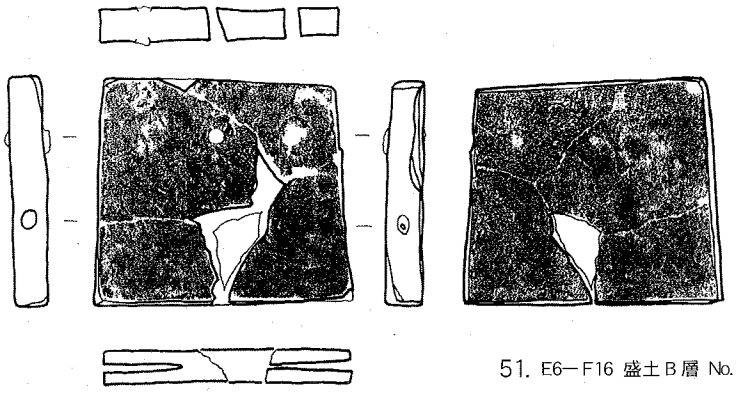
49. E6－F16 盛土B層 No.194 赤



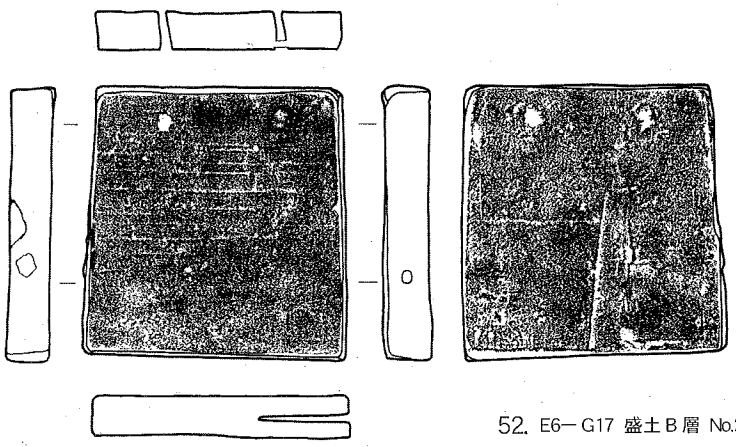
50. E6－F16 盛土B層 No.195 赤

0　1：4　10cm

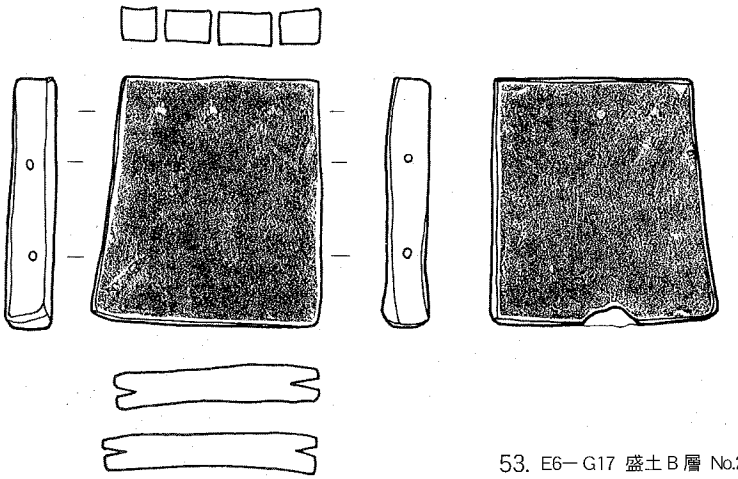
第99図　本丸南西部の瓦 12



51. E6－F16 盛土B層 No.199 赤



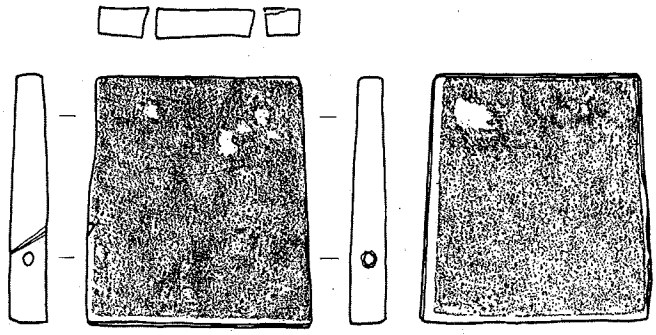
52. E6－G17 盛土B層 No.270 赤



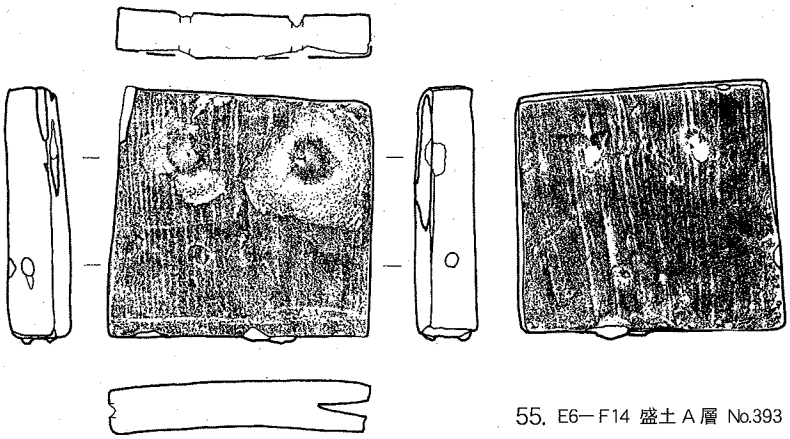
53. E6－G17 盛土B層 No.271 赤

0　1：4　10cm

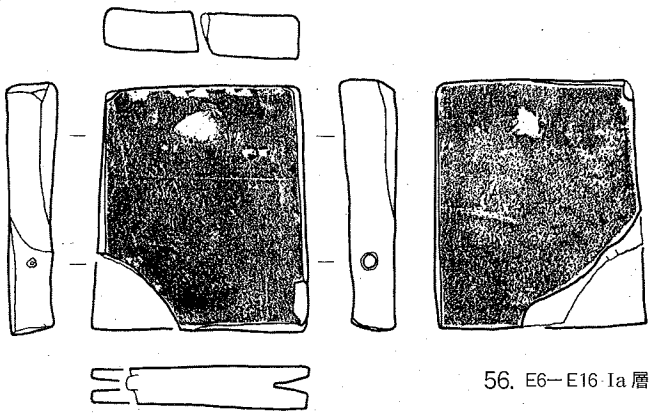
第100図　本丸南西部の瓦 13



54. E6—F17 盛土 A 層 No.20 赤



55. E6—F14 盛土 A 層 No.393 赤



56. E6—E16 Ia 層 No.43 赤

0 1:4 10cm

第101図　本丸南西部の瓦 14

表5　　土器、陶磁器一覧表

本丸，二ノ丸堀切　（第20次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	火鉢	SD100		表土	底部1			
2	かわらけ	SD100		表土	体部～底部1		18C～19C	70図2
3	かわらけ	SD100		表土	体部～底部1		18C～19C	
4	かわらけ	SD100		表土	体部1		18C～19C	
5	かわらけ	SD100		表土	口縁部～体部1		18C～19C	
6	かわらけ	SD100		表土	体部～底部1		18C～19C	
7	火鉢	SD100		表土	体部～底部1　瓦質		江戸	70図6
8	焼台	SD100		表土	体部～底部1		18C～19C	71図18
9	焼台	SD100		表土	体部～底部1		18C～19C	
10	火鉢	SD100		表土	体部～底部1　瓦質		18C～19C	
11	かわらけ	SD100		表土	体部～底部1		18C～19C	
12	かわらけ	SD100		表土	体部～底部1		18C～19C	
13	擂鉢	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
14	擂鉢	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
15	擂鉢	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
16	擂鉢	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
17	一	SD100		表土	体部1	国産	江戸	
18	徳利	SD100		表土	体部～底部1	備前	江戸	71図17
19	擂鉢	SD100		表土	口縁部～体部1	備前	17C～18C	71図19
20	擂鉢	SD100		表土	口縁部～体部1	備前	17C～18C	
21	擂鉢	SD100		表土	体部1	備前	18C～19C	
22	擂鉢	SD100		表土	体部1	備前	17C～18C	
23	大皿	SD100		表土	体部1　体部～底部1(同一固体)	寺町	18C～19C	70図14
24	大皿	SD100		表土	体部～底部1	備前	18C～19C	70図13
25	大皿	SD100		表土	体部1	備前	18C～19C	
26	片口鉢	SD100		表土	口縁部～体部1	備前	18C～19C	
27	片口鉢	SD100		表土	口縁部～体部1	備前	18C～19C	
28	片口鉢	SD100		表土	体部1	備前	18C～19C	
29	片口鉢	SD100		表土	口縁部～体部1	備前	18C～19C	
30	徳利	SD100		表土	体部1	備前	江戸	
31	鉢？	SD100		表土	口縁部～体部1	備前	江戸	
32	湯呑埦	SD100		表土	体部～底部1　肥前京焼風	肥前	18C～19C	
33	湯呑埦	SD100		表土	体部1　肥前京焼風	肥前	18C～19C	
34	鉢？	SD100		表土	体部～底部1	相馬	18C～19C	
35	土瓶	SD100		表土	体部～底部1	相馬	18C～19C	
36	土瓶	SD100		表土	口縁部～体部1　白色釉	相馬	18C～19C	
37	土瓶	SD100		表土	体部～底部1	相馬	18C～19C	
38	湯呑埦	SD100		表土	口縁部～体部1　灰釉	相馬	18C～19C	
39	湯呑埦	SD100		表土	口縁部～体部1　灰釉	相馬	18C～19C	
40	猪口	SD100		表土	口縁部～体部1	相馬	18C～19C	
41	土瓶	SD100		表土	注口1　白色釉	相馬	18C～19C	
42	皿	SD100		表土	体部～底部1	国産	19C～20C	
43	埦	SD100		表土	体部～底部1　肥前京焼風		18C～19C	
44	茶埦	SD100		表土	体部～底部1　ナマコ釉	相馬	18C～19C	
45	茶碗	SD100		表土	体部～底部1　灰釉	相馬	18C～19C	70図8
46	埦	SD100		表土	体部～底部1　ナマコ釉	相馬	18C～19C	
47	埦	SD100		表土	体部～底部1　灰釉	相馬	18C～19C	
48	埦	SD100		表土	体部～底部1　灰釉	相馬	18C～19C	
49	埦	SD100		表土	口縁部～体部1　灰釉	相馬	18C～19C	
50	埦	SD100		表土	口縁部～底部1　灰釉	相馬	18C～19C	
51	茶碗	SD100		表土	口縁部～体部1	相馬	18C～19C	
52	土瓶	SD100		表土	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	70図9
53	土瓶	SD100		表土	口縁部～体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
54	土瓶	SD100		表土	口縁部～体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
55	土瓶	SD100		表土	蓋1　緑釉	相馬	18C～19C	
56	土瓶	SD100		表土	蓋1　緑釉	相馬	18C～19C	
57	徳利	SD100		表土	体部1	肥前	18C	
58	徳利	SD100		表土	体部1	肥前	18C～19C	
59	手塩皿	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
60	輪花皿	SD100		表土	口縁部～体部2　口紅	国産	18C～19C	
61	猪口	SD100		表土	口縁部～体部1　雨降文	肥前	18C	
62	皿	SD100		表土	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
63	碗	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
64	一	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
65	皿	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
66	碗	SD100		表土	口縁部～体部1	肥前	18C後半～19C	
67	火入れ	SD100		表土	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
68	碗	SD100		表土	体部1	国産	19C	
69	輪花皿	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	19C	
70	碗	SD100		表土	口縁部～体部1　網目文	肥前	18C	
71	湯呑碗	SD100		表土	口縁部～体部1	瀬戸美濃	18C～19C	
72	段重	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C後半～19C	
73	小坏	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
74	猪口	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
75	小坏	SD100		表土	体部～底部1　松葉文	国産	18C～19C	
76	湯呑碗	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	19C以後	
77	湯呑碗	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
78	碗	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C後半～19C	

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
79	碗	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C後半～19C	
80	碗蓋	SD100		表土	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
81	碗蓋	SD100		表土	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
82	碗蓋	SD100		表土	体部1	国産	18C後半～19C	
83	湯呑碗	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C後半～19C	
84	碗	SD100		表土	体部1	肥前	18C～19C	
85	輪花皿	SD100		表土	口縁部～体部1		18C～19C	
86	小坏	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
87	湯呑碗	SD100		表土	口縁部～体部1　外面、雲？	国産	18C～19C	
88	手塩皿	SD100		表土	口縁部～体部1　外、草花文　内、タコ唐草文	国産	18C～19C	
89	猪口	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
90	湯呑碗	SD100		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
91	小鉢	SD100		表土	体部～底部1　蛇目凹形底		18C末～19C	
92	碗	SD100		表土	体部1	国産	19C	
93	湯呑碗	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
94	湯呑碗	SD100		表土	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
95	碗	SD100		表土	体部1	肥前	18C後半～19C	
96	徳利	SD100		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
97	湯呑碗	SD100		表土	体部1　網目文	国産	19C	
98	皿	SD100		表土	口縁部～体部1　内、タコ唐草文	肥前		
99	湯呑碗	SD100		表土	体部1	国産	18C～19C	
100	茶碗	SD100		表土	体部～底部1	肥前	18C後半～19C	
101	湯呑碗	SD100		表土	口縁部～体部1		18C末～19C	
102	碗	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C末～19C	
103	湯呑碗	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C末～19C	
104	猪口	SD100		表土	口縁部～底部1	国産	18C～19C	
105	碗	SD100		表土	体部1	肥前	18C～19C	
106	碗	SD100		表土	体部～底部1　二重網目文	肥前	18C	
107	湯呑碗	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
108	湯呑碗	SD100		表土	口縁部～体部1	瀬戸美濃	18C末～19C	
109	湯呑碗	SD100		表土	体部1	国産		
110	皿	SD100		表土	体部～底部1　草花文	肥前	18C	72図21
111	碗	SD100		表土	口縁部～底部1	瀬戸美濃		72図22
112	湯呑碗	SD100		表土	体部～底部1　丸文	国産	18C～19C	
113	皿	SD100		表土	口縁部～体部1　唐草文	肥前	18C～19C	
114	碗	SD100		表土	口縁部～体部1、体部～底部1	瀬戸美濃	18C～19C	
115	碗	SD100		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
116	碗	SD100		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
117	皿	SD100		表土	口縁部～底部1	肥前	17C～18C	72図23
118	皿	SD100		表土	体部1　染付陶器	肥前	17C～18C	
119	広東碗	SD100		表土	体部～底部1	肥前	18C末～19C	
120	段重	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
121	碗	SD100		表土	体部～底部1	肥前	18C	
122	湯呑碗	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
123	丸皿	SD100		表土	体部～底部1　外、,唐草　内面外周、青磁	肥前	18C後半	72図24
124	皿(形抜)	SD100		表土	体部～低部1	花古	19C	72図25
125	皿	SD100		表土	体部～底部1　蛇目凹型高台	国産	19C	72図26
126	大皿	SD100		表土	体部～底部1	肥前	17C～18C	
127	大皿	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
128	大皿	SD100		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
129	皿	SD100		表土	体部～底部1　外、唐草　内、菊ちらし	国産	18C～19C	
130	甕	SD100東端部		表土	体部1　鉄釉	国産	18C～19C	
131	土瓶	SD100東端部		表土	蓋1　白色釉	相馬		
132	土瓶	SD100東端部		表土	取手1　緑釉	相馬	18C～19C	
133	湯呑碗	SD100東端部		表土	体部1　白色釉	国産	18C～19C	
134	湯呑碗	SD100東端部		表土	口縁部～体部1	国産	19C～20C	
135	碗	SD100東端部		表土	体部～底部1　外,青磁	肥前	18C～19C	
136	碗？	SD100東端部		表土	体部1　瑠璃釉		19C～20C	
137	瓶子	SD100東端部		表土	体部1	肥前	18C～19C	
138	手塩皿	SD100東端部		表土	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
139	皿	SD100東部		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
140	手焙り	SD100東部		表土	体部1　瓦質			
141	土瓶	SD100東端部		A期盛土	口縁部1　緑釉	相馬	18C～19C	
142	土瓶	SD100東端部		A期盛土	体部1　白色釉	相馬	18C～19C	
143	土瓶	SD100東端部		A期盛土	低部1	相馬	18C～19C	
144	土瓶	SD100東端部		A期盛土	低部1	相馬	18C～19C	
145	鉢	SD100東端部		A期盛土	体部1	鍛冶町	19C	
146	土瓶	SD100東部		検出面	体部1　白色釉	相馬	18C～19C	
147	徳利	SD100東部		検出面	頸部1　白色釉	相馬	18C～19C	
148	碗	SD100東部		検出面	口縁部～体部1	瀬戸美濃	18C～19C	
149	碗	SD100東部		検出面	口縁部～体部1	瀬戸美濃	18C～19C	
150	皿	SD100東部		検出面	体部1	肥前	18C～19C	
151	皿	SD100東部		検出面	体部1　タコ唐草文	肥前	18C～19C	
152	碗	SD100		攪乱	口縁部～体部1　二重網目文	肥前	17C後半	
153	瓶子	SD100		攪乱	体部1	肥前	18C	
154	土鍋	SD100調査区西端		攪乱	口縁部～体部1			
155	土瓶	SD100		水道管攪乱	口縁部1　緑釉	益子	18C～19C	
156	碗	SD100		水道管攪乱	口縁部～体部1　梵字文	肥前	18C～20C	
157	碗	SD100		水道管攪乱	体部～底部1	瀬戸美濃	18C～21C	
158	焼台	SD100		水道管攪乱	台1		18C～22C	

本丸、二ノ丸堀切　　（第20次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	土瓶	SX101	E6-R6	埋土	体部1　白色釉	相馬	18C～19C	
2	碗	SX101	E6-R6	埋土	口縁部～体部1	瀬戸美濃	19C	

本丸冠木門前　　（第20次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	かわらけ	冠木門前		表土	口縁部～底部1		18C～19C	70図1
2	かわらけ	冠木門前		表土	体部～底部1		18C～19C	
3	かわらけ	冠木門前		表土	体部1		18C～19C	
4	かわらけ	冠木門前		表土	体部～底部1		18C～19C	
5	埦	冠木門前		表土	体部～底部1　国産陶器	国産	18C～19C	
6	埦	冠木門前		表土	体部～底部1　鉄釉	東北		
7	匣鉢	冠木門前		表土	体部1		18C～19C	
8	土瓶	冠木門前		表土	底部1	相馬	18C～19C	
9	壷	冠木門前		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
10	土瓶	冠木門前		表土	口縁部1　緑釉	相馬	18C～19C	
11	土瓶	冠木門前		表土	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
12	碗	冠木門前		表土	体部1	国産	18C～19C	
13	碗	冠木門前		表土	体部～底部1　格子目文	肥前	18C	
14	碗	冠木門前		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
15	碗	冠木門前		表土	口縁部～体部1	国産	19C	
16	碗	冠木門前		表土	口縁部～底部1	瀬戸美濃	19C	
17	碗	冠木門前		表土	口縁部～体部1　菊ちらし文	国産	19C	
18	碗	冠木門前		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
19	碗	冠木門前		表土	体部～底部1	国産	19C～20C	
20	碗蓋	冠木門前		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
21	段重	冠木門前		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
22	湯呑碗	冠木門前		表土	口縁部～体部1、体部1　タコ唐草文	国産	18C～19C	
23	湯呑碗	冠木門前		表土	口縁部～体部1	瀬戸美濃	19C	
24	湯呑碗	冠木門前		表土	口縁部～体部1	瀬戸美濃	19C	
25	皿	冠木門前		表土	体部1	肥前	18C～19C	
26	皿	冠木門前		表土	体部～底部1	国産	18C～19C	
27	皿	冠木門前		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
28	皿	冠木門跡NO.1柱穴		―	体部～底部1	肥前	18C～19C	
29	?	冠木門跡NO.1柱穴		―	体部1　国産陶器	国産		
30	湯呑碗	冠木門跡NO.3柱穴		―	体部1	国産	19C	
31	かわらけ	冠木門前NO.4柱穴		―	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
32	埦	冠木門前		砂礫	体部～底部1　かけわけ茶碗	相馬	18C～19C	
33	徳利	冠木門前		砂礫	体部1　鉄釉～ナマコ釉	国産	19C	

本丸、二ノ丸堀切　　（第20次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	土瓶	―		表土	口縁部1　白色釉	相馬	18C～19C	
2	土瓶	―		表土	注口1　緑釉	相馬	18C～19C	
3	土瓶	―		表土	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
4	碗	―		表土	口縁部～体部1　灰釉	国産	18C～19C	
5	碗	―		表土	体部1	肥前	18C～19C	
6	碗	―		表土	体部1,体部～底部1　五弁花文	国産	18C～19C	
7	碗	―		表土	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
8	碗	―		表土	体部1	肥前	18C～19C	
9	碗	―		表土	体部1	肥前	18C～19C	
10	碗	―		表土	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
11	碗	―		表土	体部～底部1	瀬戸美濃	18C～19C	
12	碗	―		表土	口縁部～体部1、体部1、体部～底部1 格子目文、丸文	肥前	18C～19C	
13	湯呑碗	―		表土	体部～底部1　矢羽文	肥前	18C～19C	
14	湯呑碗	―		表土	体部～底部1	瀬戸美濃	19C～20C	
15	湯呑碗	―		表土	体部～底部1	肥前	18C～19C	
16	湯呑碗	―		表土	口縁部～体部1　矢羽文	肥前	18C～19C	
17	皿	―		表土	体部～底部1　菊ちらし文	国産	18C～19C	
18	皿	―		表土	体部～底部1	肥前		
19	徳利	―		表土	体部1	備前	18C～19C	
20	植木鉢	―		表土	口縁部1　灰釉	瀬戸美濃	19C	
21	壷か甕？	―		表土	底部1	国産	18C～19C	

二ノ丸南東部　　（第21次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	かわらけ	E6-S4a		2層(黒褐)	口縁部～底部1、口縁部1		18C～19C	
2	碗	E6-S4a		2層(黒褐)	口縁部～体部1　梵字文	肥前	18C～19C	
3	碗	E6-S4a		2層(黒褐)	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
4	湯呑碗	E6-S4a		2層(黒褐)	口縁部～体部1、体部～底部1	相馬	18C～19C	
5	皿	E6-T5c		表土直下	体部～底部1	国産	18C～19C	
6	丸皿	E6-T4		12層	口縁部　灰釉	瀬戸美濃	14C～15C	―

本丸北東部　　（第22次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	植木鉢	SB130①	E6―S10	垣上の検出	底部破片1	瀬戸美濃	19C	
2	かわらけ	SB130①	E6―S10	垣上の検出	体部1		18C～19C	
3	碗	SB130①	E6―S10	垣上の検出	体部4	相馬	18C～19C	
4	土瓶	SB130①	E6―S10	垣上の検出	口縁部1	益子	19C	

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
5	徳利		E6—T9	石垣裏込	頸部～体部1　鉄釉	国産	18C～19C	
6	かわらけ	SD103	E6—S11	埋土	口縁部～底部1、1/3残		18C～19C	70図3
7	かわらけ	SD103	E6—S11	埋土	体部～底部1、体部3		18C～19C	
8	壷	SD103	E6—S11	埋土	体部～底部1、体部3　飴釉	国産	18C～19C	71図15
9	擂鉢	SD103	E6—S11	埋土	口縁部～底部1、1/5残	瀬戸美濃	18C～19C	71図20
10	擂鉢	SD103	E6—S11	埋土	体部1	瀬戸美濃	19C	
11	かわらけ	SD103	E6—S11	埋土	口縁部～底部1、1/2残1/4残		18C～19C	70図4
12	かわらけ	SD103	E6—S11	埋土	口縁部～底部1、1/2残		18C～19C	70図5
13	茶椀	多門櫓		表土	体部2　灰釉	相馬	18C～19C	
14	土瓶	根石・角石		上面	底部1	相馬	18C～19C	
15	焼塩壷		E6－S9	石垣抜取穴	体部1		江戸	
16	そば猪口		E6—T9	石垣裏込上部	口縁部～体部1	肥前	18C～19C	
17	甕		E6—Q8	A層	口縁部1　瓦質		18C～19C	
18	碗		E6—S9	A層	口縁部1	国産	18C～19C	
19	碗		E6—S10	A層	体部1	肥前	18C～19C	
20	碗		E6—T10	A層	体部1　松文	国産	18C～19C	
21	茶埦		E6—T10	A層	口縁部1　灰釉	相馬	18C～19C	
22	土瓶		E6—T10	検出面	体部1	相馬	18C～19C	
23	茶碗		E6—T10	検出面	口縁部～体部1、体部～底部2　灰釉	相馬	18C～19C	
24	徳利		E6—T10	検出面	体部1	相馬	18C～19C	
25	碗蓋		E6—T10	検出面	口縁部～体部1	国産	18C～19C	
26	埦		E6—T10	攪乱	体部1	肥前	18C～19C	
27	鉢		E6—S13	A層	体部2　寺町焼か？		18C～19C	71図16
28	碗		E6—Q8	A層	口縁部2、体部2　染付			
29	碗		—	—	口縁部1、体部3	国産		
30	甕	SD107		L層	口縁部	瓷器系	13C	70図7
31	瓶子	SD107		L層	底部　根来形鉄釉	瀬戸美濃	14C～15C	70図10
32	丸皿	SD106		H層	口縁部　灰釉	瀬戸美濃	16C	70図11
33	丸皿	SD106		H層	口縁部　灰釉	瀬戸美濃	16C	70図12
34	皿	SD106		H層	口縁部　白磁	中国	15C～16C	72図28

本丸北西部　（第24次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	
1	?	SB170	E6—M6	Ⅰb	体部1　緑釉		18C～19C	
2	かわらけ	SB170	E6—M6	Ⅰb	口縁部1、体部3		18C～19C	
3	皿		E6—L6	Ⅰb	体部1	唐津	江戸	
4	徳利		E6—L6	Ⅰb	体部～底部1	備前	江戸	
5	?		E6—J7	Ⅰa	体部4　国産陶器	国産	18C～19C	
6	碗		E6—J7	Ⅰa	体部～底部1　国産磁器	国産	18C～19C	
7	蓋		E6—J7	Ⅰa	蓋1　国産磁器	国産	19C	
8	土瓶		E6—J7	Ⅰa	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
9	かわらけ		E6—J7	Ⅰa	体部1		18C～19C	
10	皿		E6—J8	Ⅰa	底部1　国産染付	国産	18C～19C	
11	土瓶		E6—J8	Ⅰa	口縁部～体部1、体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
12	徳利		E6—J8	Ⅰa	体部1　ナマコ釉	国産	19C～20C	
13	湯呑碗		E6—K5	Ⅰa	体部～底部1	肥前	18C～19C	
14	蓋		E6—K8	Ⅰa	蓋　国産陶器	国産	?	
15	土瓶		E6—K8	Ⅰa	蓋1、体部1　緑釉	相馬		
16	土瓶		E6—K8	Ⅰa	体部1　白色釉	相馬		
17	不明		E6—K8	Ⅰa	体部2　国産陶器	国産	19C～20C	
18	皿		E6—K8	Ⅰa	底部1　染付	肥前	18C	
19	皿・他		E6—K8	Ⅰa	口縁部1、体部6、底部2、うさぎ形1　国産磁器	国産	19C～20C	
20	大甕		E6—K8	Ⅰa	体部3　須恵器		9C～10C	
21	塑像		E6—K8	Ⅰa	体部1		19C～20C	
22	火鉢		E6－L6	攪乱	口縁部～体部1　瓦質		19C～20C	
23	かわらけ？		E6－L6	Ⅰb	底部1			
24	皿	2期盛土	E6-K8	M	口縁部～体部　染付皿C群	中国	15C～16C	—

本丸北西部　（第25次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	かわらけ	SB170	E6—M6	Ⅰb	体部～底部1			
2	鉢		E6—K3	Ⅰb	体部～底部1　国産陶器	国産	19C～20C	
3	手焙り		E6-J17	Ⅰb	体部～底部1　瓦質		18C～19C	
4	擂鉢		E6-J17	Ⅰb	口縁部～体部1、体部1	瀬戸美濃	19C以降	
5	土瓶		E6-J17	Ⅰb	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
6	湯呑椀		E6-J17	Ⅰb	口縁部2、体部1、体部～底部1　灰釉	相馬	18C～19C	
7	碗		E6-J17	Ⅰb	体部1、体部～底部2　染付	国産		
8	醤油皿		E6-J17	Ⅰb	一部欠損　染付	肥前	18C～19C	
9	土瓶		E6-K5	盛土A層	体部1　白色釉	相馬	18C～19C	
10	湯呑椀		E6-K5	盛土A層	体部～底部1　染付	国産	19C～20C	
11	—		—	—		国産	—	
12	—		—	—		国産	—	
11	植木鉢		E6－K4	Ⅰb	体部～底部1	瀬戸美濃	19C	
12	かわらけ		E6－K4	Ⅰb	体部～底部1			
13	碗蓋		E6－J4	Ⅰb	体部～底部1　染付	国産	18C～19C	
14	—		E6-J6	Ⅰb	口縁部～体部3、体部～底部1　染付	国産	18C～19C	
15	かわらけ		E6-J6	Ⅰb	体部～底部1			
16	大皿		E6-I8	Ⅰb	体部1　染付	肥前	18C	
17	皿		E6－J8	Ⅰb	口縁部～体部1(披熱)　白磁	中国	16C～17C	
18	—		腰曲輪	Ⅰb	体部～底部4、体部4　国産陶器	国産		
19	碗・皿類		腰曲輪	Ⅰb	口縁部～体部9、体部3、体部～底部5　染付	国産	18C～19C	

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
20	土瓶		E6－K4	A～B層	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
21	碗		E6－K4	A～B層	体部1　染付	国産	19C～20C	

本丸南西部

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	皿	3期石垣	E6-G15	裏込	体部～底部1　染付	肥前	18C～19C	
2	碗	3期石垣	E6-G15	裏込	体部1　染付	国産	18C～19C	
3	碗	3期石垣	E6-G14	裏込	体部1　染付	国産	18C～19C	
4	碗	3期石垣	E6-G14	裏込	口縁部～体部1　染付	国産	19C～20C	
5	土瓶	3期石垣	E6-G14	裏込	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
6	火鉢	3期石垣	E6-G14	裏込	体部～底部1		19C～20C	
7	碗	3期石垣	E6-G13	裏込	口縁部～体部2　染付	国産	18C～19C	
8	碗	3期石垣	E6-G13	裏込	体部1　染付	国産	18C～19C	
9	碗蓋	3期石垣	E6-G14	裏込	蓋1　染付	国産	19C～20C	
10	碗	3期石垣	E6-G14	裏込	口縁部～体部1　染付	肥前	18C～19C	
11	－	3期石垣	E6-F14	裏込	体部1、体部～底部1　染付	国産	18C～19C	
12	湯呑埦	3期石垣	E6-G13	裏込	口縁部～体部1　灰釉	相馬	18C～19C	
13	かわらけ	3期石垣	E6-G13	裏込	口縁部～体部1			
14	鉢	3期石垣	E6－F15	裏込	体部1　ナマコ釉　国産陶器	国産	18C～19C	
15	皿	3期石垣	E6-F14	裏込	体部～底部1　染付	肥前	18C～19C	
16	土瓶	3期石垣		裏込	体部1　緑釉	相馬	18C～19C	
17	かわらけ	3期石垣		裏込	体部～底部1			
18	湯呑碗	サイレン周辺	E6-G13	攪乱	体部～底部1　染付	国産	18C～19C	
19	土瓶	SJ102	E6-G16		体部1　白色釉	相馬	19C以降	
20	湯呑碗	SJ102	E6-G16		体部1　染付	国産	19C以降	
21	土瓶	SJ102	E6-G16		体部1　緑釉	相馬	18C～19C	

本丸南西部　（第30次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
1	茶碗	SD422	E6-E16	埋土	体部1　国産染付	国産		
2	茶碗	SK420	E6-F13	埋土	口縁部～底1、口縁部～体部1、底部1、肥前染	肥前	18C	
3	皿	SK420	E6-F13	埋土	底部2、国産染付	国産		
4	茶碗	SK420	E6-F13	埋土	3　国産染付	国産	19C～20C	
5	擂鉢	SK420	E6-F13	埋土	1　鉄釉　国産陶器	国産		
6	鉢	SK420	E6-F13	埋土	2　鉄釉			
7	皿	SK420	E6-F13	埋土	1　鉄釉			
8	碗	SK420	E6-F13	埋土	体部1　国産染付	国産	18C～19C	
9	壷	SK420	E6-F13	埋土	底部1、高台　外面白濁釉　国産陶器	国産		
10	碗	SK420	E6-F13	埋土	底部高台1　無釉　国産陶器	国産		
11	―	SK420	E6-F13	埋土	体部2　白濁釉　国産陶器	国産		
12	火鉢	SK421	E6-F13	埋土	口縁部～体部1　瓦質		18C～19C	
13	碗	SK421	E6-F13	埋土	口縁部～体部2　肥前染付	肥前		
14	擂鉢	SK421	E6-F14	埋土	底部1	国産	18C～19C	
15	鉢	SK421	E6-F14	埋土	体部1　ナマコ釉		18C～19C	
16	火鉢	SK422	E6－？	埋土	口縁部1　瓦質			
17	瓶子	SK422	E6－？	埋土	頸部1　タコ唐草文　肥前染付	肥前	18C～19C	
18	湯呑碗	SK422	E6－？	埋土	体部～底部1　国産染付	国産	18C～19C	
19	小坏	SK422	E6－？	埋土	底部1、高台　国産染付	国産	18C～19C	
20	碗	SK422	E6－？	埋土	体部～底部1、高台　国産染付	国産	19C～20C	
21	壷	SK422	E6－？	埋土	体部1　国産染付	国産	19C	
22	碗	SK422	E6－？	埋土	体部2、底部1　国産染付	国産	19C～20C	
23	皿	SK422	E6－？	埋土	口縁部1　波状口縁　国産染付	国産	19C～20C	
24	皿		E6―E16	盛土C層	体部1　披熟　灰釉	瀬戸美濃	16C	
25	火入れ		E6―E16	盛土C層	体部1　肥前青磁	肥前	17C～18C	
26	火鉢		E6―E16	盛土B層	底部1　瓦質			
27	甕		E6―E16	盛土B層	体部1　瓷器系			
28	碗		E6―E16	盛土B層	体部1　国産染付	国産	18C～19C	
29	火入れ		E6―F13	盛土B層	底部1　国産色絵	国産	18C～19C	
30	土瓶		E6―F13	盛土B層	注口1		18C～19C	
31	碗		E6―F13	盛土B層	体部1　国産鉄釉	国産		
32	湯呑碗		E6―F13	盛土B層	口縁部1　国産白色釉	国産		
33	碗		E6―F13	盛土B層	口縁部2、体部1　国産染付	国産	18C～19C	
34	碗		E6－F16	盛土B層	口縁部～底部1　肥前染付	肥前	18C	
35	徳利		E6－F16	盛土B層	体部1　肥前染付	肥前	18C～19C	
36	碗蓋		E6－F16	盛土B層	蓋1　肥前染付	肥前	18C	
37	皿		E6－F16	盛土B層	底部高台2　国産染付	国産	18C～19C	
38	碗		E6－F16	盛土B層	口縁部1、体部2　国産染付	国産	18C～19C	
39	火入れ		E6－F16	盛土B層	口縁部～体部1　国産染付陶器	国産	18C～19C	
40	碗		E6－F16	盛土B層	体部3　国産鉄釉	国産		
41	壷		E6－F16	盛土B層	体部1　オリーブ色釉	国産		
42	甕		E6－F16	盛土B層	口縁部1　ナマコ釉			
43	大皿		E6－F16	盛土B層	体部1　雷文　肥前青磁	肥前	17C～18C	
44	―		E6－F16	盛土B層	体部7　灰釉他　国産陶器	国産		
45	壷？		E6－G17	盛土B層	つばを境にかけわけ　白濁釉　鉄釉			
46	皿		E6－G17	盛土B層	体部1　肥前染付	肥前	18C～19C	
47	茶碗		E6－G17	盛土B層	口縁部1　白濁釉　国産陶器	国産		
48	瓶子		E6－D15	盛土A層	底部高台1		18C	
49	湯呑碗		E6－D15	盛土A層	口縁部1　肥前青磁	肥前		
50	瓶子		E6－D15	盛土A層	高台付底部1　国産染付	国産	18C～19C	
51	碗、皿類		E6－D15	盛土A層	口縁部2、体部3　国産染付	国産	18C～19C	
52	碗		E6－E15	盛土A層	底部1　五弁花文　肥前染付	肥前	18C	

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
53	丸皿		E6－E15	盛土A層	底部1　高台付　肥前染付	肥前	18C	
54	碗		E6－E15	盛土A層	体部1　国産染付	国産	19C～20C	
55	段重		E6－E15	盛土A層	底部1　肥前染付	肥前	18C	
56	大皿		E6－E15	盛土A層	底部高台2　肥前染付	肥前	18C～19C	
57	碗		E6－E15	盛土A層	口縁部4、体部8　肥前染付	肥前		
58	火鉢		E6－E15	盛土A層	体部1　瓦質		19C～20C	
59	小型壷		E6－E15	盛土A層	底部1　鉄釉　国産陶器	国産	18C～19C	
60	甕		E6－E15	盛土A層	底部1　国産鉄釉	国産	18C～19C	
61	擂鉢		E6－E15	盛土A層	口縁部1、体部1		18C～19C	
62	火入れ		E6－E15	盛土A層	口縁部1　肥前青磁	肥前	18C～19C	
63	小型甕		E6－E15	盛土A層	口縁部1　国産陶器	国産	19C	
64	碗		E6－E15	盛土A層	体部2　灰釉	相馬		
65	皿		E6－E15	盛土A層	体部1、底部1　国産陶器	国産	20C	
66	香炉		E6－E16	盛土A層	口縁部1　肥前青磁	肥前	18C～19C	72図27
67	火入れ		E6－E16	盛土A層	口縁部1　肥前青磁	肥前		
68	輪花皿		E6－E16	盛土A層	口縁部1　内面タコ唐草　外面唐草　肥前染付	肥前	18C	
69	そば猪口		E6－E16	盛土A層	底部1　肥前染付	肥前	18C～19C	
70	碗		E6－E16	盛土A層	高台付底部1　肥前染付	肥前	19C	
71	段重蓋		E6－E16	盛土A層	蓋1　国産染付	国産	19C	
72	皿		E6－E16	盛土A層	底部1　肥前染付	肥前	18C	
73	皿		E6－E16	盛土A層	底部1　蛇の目凹型　肥前染付	肥前	19C	
74	小皿		E6－E16	盛土A層	底部高台1　肥前染付	肥前	18C～19C	
75	皿		E6－E16	盛土A層	底部1　国産染付	国産	19C	
76	皿		E6－E16	盛土A層	体部1　肥前染付	肥前	18C～19C	
77	湯呑碗		E6－E16	盛土A層	高台付底部4　国産染付	国産		
78	湯呑碗		E6－E16	盛土A層	口縁部3、体部12　肥前染付	肥前		
79	猪口		E6－E16	盛土A層	底部1　鉄釉　国産染付	国産	19C～20C	
80	皿		E6－E16	盛土A層	底部1　鉄釉　国産染付	国産		
81	碗		E6－E16	盛土A層	体部5　灰釉他　国産染付	国産		
82	茶碗		E6－E16	盛土A層	口縁部1、体部1　鉄釉　国産染付	国産		
83	茶碗		E6－E16	盛土A層	体部3　鉄釉他　国産染付	国産	20C	
84	擂鉢		E6－E16	盛土A層	口縁部1、体部4	国産		
85	甕		E6－E16	盛土A層	体部1、底部1　国産陶器	国産	19C～20C	
86	皿		E6－E16	盛土A層	底部1　国産陶器	国産	20C	
87	小皿		E6－F12	盛土A層	口縁部～底部1　肥前青磁	肥前	18C～19C	
88	皿		E6－F12	盛土A層	高台付底部1　肥前染付	肥前		
89	八角小鉢		E6－F12	盛土A層	底部1　肥前染付	肥前	18C～19C	
90	碗		E6－F12	盛土A層	体部2、高台付底部1　肥前染付	肥前	18C～19C	
91	鉢		E6－F12	盛土A層	口縁部～体1　花巻鍛冶町焼			
92	湯呑碗		E6－F12	盛土A層	口縁部1、高台付底部1　国産染付	国産		
93	碗		E6－F12	盛土A層	体部2　灰釉1　鉄釉1	国産	18C～19C	
94	瓶子		E6－F13	盛土A層	体部1　肥前青磁	肥前	18C	
95	碗		E6－F13	盛土A層	体部～底部1　国産染付色絵	国産	18C～19C	
96	小坏		E6－F13	盛土A層	体部～底部1　肥前染付	肥前	18C	
97	碗		E6－F13	盛土A層	高台付底部1、口縁部1、体部5　肥前染付	肥前	18C～19C	
98	植木鉢		E6－F13	盛土A層	体部1　刻画文　灰釉　鉄釉	瀬戸美濃	19C	
99	段重		E6－F13	盛土A層	底部1　鉄釉		19C～20C	
100	擂鉢		E6－F13	盛土A層	体部1	国産		
101	鉢		E6－F13	盛土A層	体部2　外面鉄釉　内面灰釉			
102	火入れ		E6－F13	盛土A層	体部1　灰釉	国産	18C～19C	
103	火鉢		E6－F13	盛土A層	体部1　瓦質		19C～20C	
104	擂鉢		E6－F14	盛土A層	体部1			
105	碗		E6－F14	盛土A層	口縁部1　国産染付	国産	18C～19C	
106	一		E6－F14	盛土A層	体部1　相馬緑釉	相馬	18C～19C	
107	一		E6－F14	盛土A層	体部1　相馬白色釉	相馬	18C～19C	
108	碗		E6－F15	盛土A層	口縁部2、体部2　国産染付	国産	18C～19C	
No.	器種		平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
109	擂鉢		E6－G12	盛土A層	口縁部1、体部1　鉄釉			
110	擂鉢		E6－G12	盛土A層	底部1			
111	片口鉢		E6－G12	盛土A層	口縁部1		18C～19C	
112	小型甕		E6－G12	盛土A層	口縁部1、体部1　鉄釉			
113	鉢		E6－G12	盛土A層	体部2　鉄釉		18C～19C	
114	甕		E6－G12	盛土A層	体部1、底部1　鉄釉			
115	甕		E6－G12	盛土A層	体部1　素焼			
116	皿		E6－G12	盛土A層	底部1　相馬白色釉	相馬	18C～19C	
117	猪口		E6－G12	盛土A層	体部～底部1　灰釉	相馬	18C～19C	
118	猪口		E6－G12	盛土A層	底部1　灰釉	相馬		
119	湯呑碗		E6－G12	盛土A層	口縁部1、体部1　白色釉	相馬		
120	土瓶		E6－G12	盛土A層	体部1　白色釉	相馬		
121	碗		E6－G12	盛土A層	底部1　紫色透明釉	国産		
122	碗		E6－G12	盛土A層	体部1　灰釉	国産		
123	菊皿		E6－G12	盛土A層	底部1　蛇の目凹型高台　肥前染付	肥前	18C～19C	
124	皿		E6－G12	盛土A層	底部1　蛇の目凹型高台　肥前染付	肥前	18C～19C	
125	碗		E6－G12	盛土A層	高台付底部1　肥前染付	肥前	18C～19C	
126	手塩皿		E6－G12	盛土A層	口縁部～体部1　内面松葉文　肥前染付	肥前		
127	徳利		E6－G12	盛土A層	体部2　肥前染付	肥前	18C～19C	
128	皿		E6－G12	盛土A層	高台付底部3　肥前染付	肥前	18C～19C	
129	碗		E6－G12	盛土A層	高台付底部2、口縁部3、体部11　肥前染付	肥前		
130	湯呑碗		E6－G12	盛土A層	高台付底部3　国産染付	国産	19C	
131	小皿	3期石垣隅根固	E6－E15	埋土	底部1　肥前染付	肥前	18C	

No.	器種	平面位置		層位	特徴・点数	産地	年代	挿図
132	蓋	3期石垣裏込	E6－E15	裏込	蓋1　国産染付	国産	19C	
133	皿	3期石垣裏込	E6-F14	裏込	高台付底部1　中国染付	中国	16C～17C	72図29
134	擂鉢	1期石垣	E6－G14	上面	口縁部1		18C～19C	
135	大皿	トレンチ	E6－G12	盛土	体部1	唐津	18C～19C	
136	甕	トレンチ	E6－G12	盛土	体部1　黄色釉　国産陶器	国産		
137	茶碗	トレンチ	E6－G12	盛土	体部2　国産染付	国産		
138	碗	トレンチ	E6－G12	盛土	底部1　灰釉　鉄釉のかけわけ	国産		
139	茶碗	Pit 1	E6－E15	埋土	口縁部1　国産染付	相馬		
140	段重	Pit 1	E6－E15	埋土	体部1　歓業場焼	国産	18C～19C	
141	碗	Pit(？)	E6－E14	埋土	底部1　国産染付			
142	皿		E6－E14	表土	口縁部1,体部1　肥前染付	国産	19C	
143	碗		E6－E14	表土	底部1　肥前染付	肥前		
144	皿		E6－E14	表土	口縁部1,体部1　国産陶器	肥前		
145	甕		E6－E14	表土	底部1　肥前染付	国産		
146	碗		E6－E15	表土	体部1　披熱　肥前染付	肥前	18C	
147	碗		E6－E15	表土	口縁部1,体部5　鉄釉他　国産陶器	肥前		
148	一		E6－E16	表土	注口1	国産		
149	土瓶		E6－E16	表土	口縁部3、体部4、底部1　国産染付	国産	19C～20C	
150	碗・皿他		E6－E16	表土	体部1　国産染付	国産	18C～19C	
151	－		E6－F12	表土	口縁部1、底部1　鉄釉　国産陶器　京焼？	国産		
152	平碗		E6－F14	表土	口縁部2、体部1　肥前染付	国産		
153	碗		E6－F14	表土	口縁部1、体部2　国産染付	肥前	18C～19C	
154	碗		E6－F14	表土	底部1　蛇の目凹型高台　国産染付	国産		
155	皿		E6－F14	表土	体部1　披熱　フヨウ手　中国染付	国産		
156	小鉢		E6－F14	表土	体部1　白濁釉　国産陶器	中国	16C末～17C初	72図30
157	碗		E6－F14	表土	高台付底部1　肥前染付	国産	18C～19C	
158	皿		E6－F14	表土	口縁部1　黄色釉　国産陶器	肥前	18C	
159	小型甕		E6－F13	廃土	体部1　緑釉　鉄釉	国産	18C～19C	
160	甕		E6－F16	表土	体部1	国産		
161	碗		E6－F16	表土	体部1　肥前染付	相馬		
162	碗		E6－E16	表土	底部1　鉄釉	肥前	18C	
163	甕		E6－E16	表土	底部1　鉄釉　黄色釉			
164	徳利		E6－E16	表土				
165	皿	2期石垣背面	E6－F15	I層	口縁部　鉄絵	唐津	16C末～17C初	

表6　　縄文、古代土器、石製品、金属製品、古銭、壁土、動物遺体

縄文～古代土器

二ノ丸南東部　（第21次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	深鉢	柱穴2付近		－	体部1　地文			

本丸南西部　（第30次調査）

No.	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	あかやき　坏	SK421	E6-F14	埋土	底部1			
2	尖底土器		E6-E16	盛土B層	貝殻文　物見台			
3	土師器　甕		E6-F13	盛土B層	体部1			
4	土師器　甕		E6-E16	盛土A層	体部3、底部1			
5	あかやき　坏		E6-F13	盛土A層	口縁部1、体部1			
6	深鉢		E6-G12	盛土A層	縄文			
7	あかやき　坏		E6-F16	―	底部1			
8	あかやき　坏		E6-F16	表土	体部1			

石製品

本丸・二ノ丸堀切　（第20次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	リング状石	SD100		表土	1			
2	加工石	冠木門跡No.2柱穴堀方		－	1			

二ノ丸南東部　（第21次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	磨石	柱穴2付近		－	1			

本丸北西部　（第25次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	石臼	SB170	E6-M6	Ⅰb	破片1　沈線？			

本丸南西部　（第28次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	砥石	E24周辺		―	1			
2	石皿	D192周辺		―	1			
3	石皿	D203周辺		―	1			

本丸南西部　（第30次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	？	(SK②)		埋土	1　べんがら付着			
2	スクレイパー		E6-E16	盛土E層	1			
3	砥石		E6-E16	盛土C層	1			
4	碁石		E6-F10	盛土C層	1			
5	スクレイパー		E6-E15	盛土A 層	1			
6	石鏃		E6-F12	盛土A 層	1			
7	加工痕のある石	北トレンチ	E6-G12	盛土A 層	1			

鉄製品

本丸・二ノ丸堀切(20次調査)

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	釘	SD002		－	20（破片あり）			
2	銅管	SD100		表土	体部1			
3	銅板	SD100		表土	3cm			
4	釘	SD100		表土	破片7			
5	角釘	―		表採	1			

本丸北東部　（第22次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	釘	SB130	E6-S9	石垣抜取穴	4			
2	鋲	SB130	E6-S9	石垣抜取穴	1			
3	鉄滓	SB130	E6-S9	石垣抜取穴	1			
4	鋲	SD105	E6-S11	埋土	1			
5	釘	石垣抜取穴	E6-R9	下のPit	1			
6	釘	石垣抜取穴	E6-S9	裏込上部	4			
7	釘		E6-S10	A層	2			
8	釘		E6-T9	裏込上部	2			

鉄製品

本丸南西部　（第28次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	鉄滓	C26周辺		―	2			
2	鉄滓	D240A周辺		―	1			
3	鉄滓	D361周辺		―	22			
4	釘	サイレン周辺		―	2			

本丸南西部　（第30次調査）

No	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	角釘	(SK002)		埋土	1			
2	鉄の板		E6-E16	盛土E層	2			
3	釘		E6-E15	盛土C層	2			
4	釘		E6-E16	盛土C層	2			
5	鉄滓		E6-E15	盛土B層	1			
6	釘		E6-F13	盛土B層	3			
7	釘		E6-F16	盛土B層	2			
8	鋲		E6-F16	盛土B層	1　銅			
9	鉄滓		E6-E15	盛土A層	3			
10	釘		E6-E15	盛土A層	4			
11	鉄滓		E6-E16	盛土A層	3			
12	釘		E6-F14	盛土A層	1			
13	鉄滓		E6-F14	盛土A層	1			
14	釘		E6-F14	盛土A層	2			
15	鉄滓		E6-G12	盛土A層	3			
16	?		E6-E15	表土	1　銅			
17	釘		E6-E16	表土	4			
18	釘		E6-F13	根固層	1			
19	釘	保留①	E6-F16	表土	2			
20	釘	保留④	E6-F15	表土	2			
21	?		E6-E17	A2層	1 約35cm			

古銭

本丸南西部　（第30次調査）

NO	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	寛永通宝		E6-F14	盛土C層	1			
2	古銭		E6-E15	B層	1			
3	古銭		E6-E15	表土	1			

壁土

本丸南西部　（第28次調査）

NO	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	壁土	A24周辺		―	1			
2	壁土	C38周辺		―	1			
3	壁土	C38周辺		―	18			
4	壁土	D157周辺		―	2			
5	壁土	D203周辺		―	2			
6	壁土	D219周辺		―	1			
7	壁土	D227周辺		―	1			
8	壁土	D247周辺		―	2			
9	壁土	D294周辺		―	2			
10	壁土	D435周辺		―	1			
11	壁土	F4周辺		―	1			
12	壁土	F4周辺		―	10			
13	壁土	排土中		―	1			

本丸南西部　（第30次調査）

NO	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	壁土		E6	1期石垣上面	6（1点小舞）			
2	壁土	D509		2期盛土下部	2（1点小舞）			
3	壁土		E6-E16	盛土C層	1			
4	壁土		E6-E16	盛土B層	2			
5	壁土		E6-F16	盛土B層	2			

動物遺体

本丸南西部　（第30次調査）

NO	器種	遺構	平面位置	層位	特徴・点数	産地	年代	挿図・写真
1	馬の骨		-	1期石垣上面	1			

表7　　瓦集計表

本丸・二の丸間堀切　　（第20次調査）

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾（とりふすま）						磚（せん）瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SD100		廊下橋下													1						1																																													
SD100	埋土	廊下橋下			1	1									2	1		1		1		1		2		1		1																		1																					
SD100	暗褐色土	堀切東端														2		2							1																																								
SD100	Ⅰa	堀切東端			4	1									1	1	1	1		3		1		1		1		1		1															1			2																			
SD100	Ⅰa	堀切	2		1	1	1		2	1						2		1		1		1		1		1															1																									
SD100	撹乱	堀切														2																																																
SD100	上層	西端部トレンチ														1		1				1		1																																									
SD100	暗褐色土	西端部トレンチ														1						1		1																																								
冠木門前	Ⅰa	冠木門前	3													1				1		1		1				1																						1														
冠木門前	Ⅰa	冠木門前～堀切東部							1															1																																								
SB115―P1		冠木門前跡No.1柱穴														1		1				1		1				1																																					
SB115―P2		冠木門前跡No.2柱穴																								1																																					
SB115―P4		冠木門前跡No.4柱穴														1						1		1																																								
SB115―P5		冠木門前跡No.5柱穴														1								1																																								
SB115―P6		冠木門前跡No.6柱穴																						1																																								
SB115―P7		冠木門前跡No.7柱穴																						1																																								
SB115	砂礫層	冠木門跡														2				1		1								1																																			
			5	0	6	3	1	0	3	1	0	0	0	0	4	16	1	7	0	7	1	9	0	13	2	3	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

二の丸南東部　　（第21次調査）

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚（せん）瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SX201	瓦溜	E6－S4d	1												1	4	2	4				1	1	2			1			1																																							
SK201		SK201																2				1		1		1				1																																				
SK205	上面盛土	SK205																1				2		1																																									
SK206	上面盛土	SK206														1		2				1		1																																								
西端トレンチ	B層															1		1										1		1																																			
黒褐色土	黒褐色土	E6－T4a														1						1		1																																								
2～3層	2～3層	E6－S4a														1		3				1						1		1																																		
2層	2層	E6－S4b																2				1		1				1		1																																		
2層	2層	E6－S4d		1												1		2										1						1																																
2層	2層(黒褐)	E6－T4a																2				1		1				1		3																																		
栗石	栗石内	イ262～264														2	1	1				1		1																																								
栗石	裏込上面	南東隅																				1		1																																								
検出面	検出面	E6－S4																				1		1			1			2																																		
検出面	検出面															1		3				1						1		1																1																		
			1	1											1	12	3	23				13	1	11		1	2	6	0	11				1												1																				

本丸北東部　　（第22次調査）

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚（せん）瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SB130	Ⅰb(褐色盛土)	多聞櫓東端																2						1																																								
SB130	Ⅰa	多聞櫓東端			1																	1		1																																								
SB130	石垣抜取	E6－S9	1															2				1		1																																								
SB130	石垣抜穴	E6－S9														1		2		1		1		1		1				1																																		
SB130	ウラゴメ上部	E6－T9			1													3				1																																								
SB130	ウラゴメ上部											1						1				1		2				1																																			
SB130	検出面	E6－T8			1																																																								
SB130	検出面	E6－T9																1		1		1		1																																						
SB170	Ⅰa	多聞櫓																1				1	1	1																																						
SB170	Ⅰa	多聞櫓中部			1										1	1		2				1		1																																						
SB170	Ⅰa	多聞櫓西部																2						1																																						
SB170	埋土	E6－Q7	1															3				1		1									1			1																										
SD101	埋土	E6－S9																				1		1																																						
SD101	埋土	E6－S10							1		1																																																		
SD101	埋土	E6－S11			1											1		1						1		1																																				
SD101	埋土	E6－S12																1																																										
SD101	埋土	E6－T9																1																																										
SD103	埋土	E6－S11				1	1				1	1				1		1				1		1		1																						1														
SD103	埋土	E6－T10														3		1		1		1		1																																						
SD103	埋土	E6－T9																			1	1		1		1																																				

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SK101	埋土	E6－S9			2					1	1				2	1		2				1		1		1																																											
SK102	埋土	E6－R12			1							1		1		2		1		1																																																	
SK103	埋土	E6－T9			3	2					2	1			1	2	2	3				1	1	1		1																																											
SK106	埋土	E6－S11		1					1			1				2		2		1		1		1																						1																						
SK106	埋土	E6－S12																1	1			3		2														1																														
SK108	埋土	E6－T9																						1																																										
SX101	埋土	E6－T9			1																																																													
柱穴群		柱穴No.16 E6－S11														1				1		1		1																																											
柱穴群		柱穴No.22 E6－S9														1		1				1																									1																			
柱穴群	埋土	柱穴No.8 E6－S11													1									1																																										
柱穴群	埋土	柱穴No.15 E6－S11																2				1		1																																										
石垣抜取穴C層	C層	E6－R8								1				1		1						1																																													
石垣抜取穴C層	C層	E6－R9				1																		1																																										
石垣抜取穴C層	C層	E6－S9				1				2						3		2				1		1																						1																				
石垣抜取穴B層	B層	E6－R9																			1	1		1																																										
石垣抜取穴B層	B層	E6－S9										1				1		1				1		1																																											
石垣抜取穴A層	A層	E6－S9	1	1												3		1				1		1																																										
石垣抜取穴A層		E6－S9														2		1				1		1		1													1																													
新石垣ウラゴメ	新石垣ウラゴメ	E6-S8														1					1	1		1																																										
ウラゴメ上層	ウラゴメ上層	E6－S10		1														2				1		1		1																									1													
A層	A層	E6－P7														1		1		1		1		1																																										
A層	A層	E6－P8	1						1									1				2		1																																										
A層	A層	E6－Q8	1	3	1					2								3		1		1		1			1																																						
A層	A層	E6－R14	1	1					1							1		1		1		1		1		1																																								
A層	A層	E6－S9								1								1						1																																										
A層	A層	E6－S10		2								1				2		1		1	1	1	1	1			1																																								
A層	A層	E6－S11				1										2		2				1		1		2																																								
A層	A層	E6－S12		1												1		1																																															
A層	A層	E6－S13							1							1		1			1	1		1																																								1	
A層	A層	E6－T9	1	1		1		1								2		2			1	1		1			1																																						
A層	A層	E6－T10														1		1				1		1		1																																								
腰掛	Ⅰa	E6－S11		1	1						1	1						3				1		1		1																						1																	
検出面	検出面	E6-S8																				1		1																																									
検出面	検出面	E6－S10			1																																																												
検出面	検出面	E6－T8																1				1		1																																									
検出面	検出面	E6－T9																		1				1		1																																							
検出面	検出面	E6－T10														1						1		1		1																																								
攪乱	攪乱	E6－S11		1														1				1		1																																									
攪乱	攪乱	E6－S12														1								1																																									
攪乱	攪乱	E6－T10				1										1		1				1		1		1																						1																	
表土	表土								1																																																							
			7	13	15	8	1	1	5	8	6	8	1	1	5	41	2	64	1	11	6	46	3	51	0	16	0	4	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

本丸北西部　　（第24次調査）

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SB103	埋土	No.1pit																						1																																										
SB103	埋土	E6－K7 No.3pit														1		1																																														
SB103	埋土	E6－K7 No.4pit																1																					1																									
SB103	埋土	E6－K7 No.5pit														1		2																																													
SB103	埋土	No.12pit								1		1				1		1																																														
SB103	埋土	No.17pit										1										1																																										
SB103	埋土	E6－K8 No.18pit								1						1		1				1																																									
SB103	A2	E6－K8 No.19pit																				1		1																																								
SB120(小納戸	Ⅰb	E6－L5				1				1		1			1	2		3				2		1																						1																		
SB120(小納戸	明治ウラゴメ	E6－L5				1						1				3						1		1														1																									
SB170(多聞櫓	Ⅰb	E6－L6		1					1	1		1				2		1																																													
SB170(多聞櫓	Ⅰb	E6－M6				1				1						1		2		1		2		1																																							
SB170(多聞櫓	Ⅰb	E6－N6	1																			1		1														1																									
SB170(多聞櫓	Ⅰb	E6－O6																				1		1																																						
SD001	埋土	SD001 E6－K7														1		1				1		1																																							
SD106	埋土	SD106 E6－K7		1												2		3																												1																
SD107	埋土	SD107 E6－L6		1												1		2				1		1																																							
SK108	Ⅰb	E6－L6		1												3		3				1		1		1																																					
SK108	埋土	E6－K6		2												1		1				1		1					1																																		
SK109	埋土	E6－K7	1	3												3		1				2		2																						1																
SK109	埋土	E6－K8		1	1	1				3		2				4	1	3				2		2		1		1										1																									
SK109	B	E6－K7														1						1		1		1																																				

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SK109	A	E6－K7							1					1		1			1																																													
SK109	A	E6－K8		4		1				1											1		1		1				1																																									
盛土C層	C層	E6－K7														2					2		1																																														
盛土B層	B層	E6－L6														1		2			3		2		1							1													1																							
盛土B層	B層	E6－L7														1					1		1																																														
盛土A層	A層	E6－J8									1	2			1		2			2		2		1							1																																							
盛土A層	A層	E6－K7		1		1							1					1			1		1		1		1													1				1																									
盛土A層	A層	E6－K8	1	1	1	3					1		1					8		4			2	1	2		2		2						2																																			
石垣抜取穴	埋土	E6－K6							1										1					1																																											
石垣抜取穴	埋土	E6-K6																	2			1		1																																														
石垣抜取穴	埋土	E6－L6	1	1													1		1			1		1		1																																												
トレンチ	Ⅰb	E6－M6						1								1		1			1		1																																														
トレンチ	Ⅰb	E6－M7		1												2		3																																																				
トレンチ	Ⅰb	E6－M6				1				1							2		1			2		3																	1																													
トレンチ	Ⅰb	E6－M6										1			1	4		3			2	1	1																																														
トレンチ	Ⅰb	E6－M6										1				2		3																																																				
トレンチ	Ⅰb	E6－M7				1				1				1	3		3			2		1																																														
Ⅰb	Ⅰb	E6－J8														2																																																								
Ⅰb	Ⅰb	E6－K7								1	1						3		5			3		2		1																			1															1								
Ⅰb	Ⅰb	E6－K8		1	3	3				1		1				5		6		1	1	3		3	2	1	1						3		1	1				2				2																								
Ⅰb	Ⅰb	E6－L5														1					2		1																																														
Ⅰb	Ⅰb	E6－L6	2	4	1	6							2			1	4		5		1	4	2	1	1		1		1																			1		1							1																		
Ⅰb	Ⅰb	E6－M6				3										1	2		2					1		2																		1																														
Ⅰb	Ⅰb	E6－K6		1	1												1		2																																																		
Ⅰb	Ⅰb	E6－L7	1							1														1		1		1																																												
Ⅰa	Ⅰa	E6－J7				1										2		1			1		1		1																																												
Ⅰa	Ⅰa	E6－J8														2		1			1				1							1																																							
Ⅰa	Ⅰa	E6－K6 |1|																																																																	
Ⅰa	Ⅰa	E6－K7				2	1			1	3	1					4		3			2		1		1																																										
Ⅰa	Ⅰa	E6－K8				1	2				1		2					3		3		1		1		1		1							1						1				1																											
Ⅰa	Ⅰa	E6－L6														1											1																																												
攪乱	攪乱	電柱 E6－K8	1	2	1	1			1	1	1	1				4		4			2		2		1																						1																								
攪乱	攪乱	E6－K7							1													1																																																
攪乱	攪乱	E6－K8																								1			1																																										
攪乱	攪乱	E6－L6		1		1											2		2							1		1																																												
			9	27	15	25	0	1	5	21	4	19	0	0	5	93	1	88	0	4	5	61	3	52	2	21	1	6	0	2	0	0	5	4	1	1	0	0	0	9	0	1	0	4	0	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

本丸北西部　　　　　　（第25次調査）

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SB103		pit2 E6－K7						1								1					2		1																																														
SB103		pit4 E6－L7														1					1		1																																														
SB103		pit7 E6－K6														3		3			1		1						1																																								
SB103		pit8		1								1				1		1			1		1																																														
SB103		pit9 E6－K7																						2		1		1		1																																								
SB103		pit10																						1																																														
SB103		pit12																				2		1																																														
SB103		pit18 E6－K8							1																											1																																		
SB103	埋土	pit12																																	1																																	
SB140	Ⅰb	E6－K6														1					1		1																																														
SB140	Ⅰb	E6－L5				1				2		1				2		2			3		1		1				1																																								
SB140	Ⅰb	E6－M5		1												2		2			1		1		1																																												
SB140	Ⅰb	E6－M6								2						4		4			2	1	1						1										1																																
SB140	Ⅰb	E6 東側				1												1			1		1		1																																												
SB140	Ⅰb	E6 西側		1												1					2		1		1																																												
SB140	ウラゴメ	E6－L6		1		3										4		1			2		1											1															1																								
SB140	ウラゴメ	石垣抜取穴 E6－L6	2	3						1						2		3			1		1																																														
SB140		石垣抜取穴																				2		1						1																																								
SB170	Ⅰb	E6－L6																1			1		1																																														
SB170	Ⅰb	E6－M6		1						1		1			1	6		3		1	2	2		1				1														1																														
SB170	Ⅰb	E6－N6														1		3			1		1						1																																								
SB170	Ⅰb	E6－O6														1																																																						
SB170	Ⅰb層下部	礎石跡 E6－O6														1		4			1		1																1																																
南深掘	Ⅰb	E6－J7		4	8	6			1	4	1	4	1		1	5	1	4		3	2	3	3	2		1		2		1				1						1										1																								
北深掘	盛土A層	E6－K5				2	2			1	1	1	3		1		5	1	4			2	1	1	2				4													1				1				4																									
北深掘	Ⅰb	E6－K5						5		1	1	3	1	2				4		4		1		3				1				2				1										1				1		2		1																			
1区	Ⅰb	E6－K3						2				2		2				1	1	5		1		3		2		2		4		2			1	1	1																																					

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
2区	Ⅰb	E6－K4															3		4		1	1	1		1		1		1		2																			1																								
3区	Ⅰb	E6－J4		2	3	1				2		1				3		5				1		2				1																	1																												
4区	Ⅰb	E6－J5		1		1				1	1						3		3				3		1														1			1																																
5区	Ⅰb	E6－J6	1	1	3	1		1	1	1		4				1	3		5		1	3	4		1		1		1		1																1				2																				
6区	Ⅰb	E6－J6	1			1					2						2		3		1		2		1		1												1			1																																
7区	Ⅰb	E6－I7															2		2				1		1																			1							1																				
8区	Ⅰb	E6－I8															1		2				1		1				1																																											
9区	Ⅰb	E6－J8																					1																																																	
石垣下	Ⅰb	石垣下				1			1								1		3		2		2		2		1		1										1							1																										
北トレンチ	A～B層	E6－K4	1														2		2				1		1		1		1		2									1									1				1																		
			5	16	17	24	0	3	6	22	4	19	1	1	3	66	3	74	0	11	#	54	5	38	0	14	0	#	0	16	0	0	2	5	1	3	0	1	0	7	0	3	1	2	0	6	0	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

本丸南西部　（第28次調査）

遺構	層位	グリッド	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
D168周辺	ウラゴメ	E6－E15		4				2									3		2		3		2		2		3																																										
C134周辺	ウラゴメ	E6－E16		1												1		2		3		1		2		4																			1					3																		
D209周辺	ウラゴメ	E6－13		1				1		1		1		2		12		4		8		7		7		7				1								1														1	4																		
D11周辺	ウラゴメ	E6－F14		4		1				4		2				12		19		8		10		11		12																		1						2																		
C26周辺	ウラゴメ	E6－F16					1	1										2		3		2		1		4																								1																		
D327周辺	ウラゴメ	E6－G12																					2		2		2																																												
D219周辺	ウラゴメ	E6－G13				2				1						4		6		3		3		4		3															1																													
A30周辺	ウラゴメ	E6－G14				1		1		1						5		3		8		6		3		5		1		1		1																			1																			1
A24周辺	ウラゴメ	E6－G15															4		3		2		4		3		3															1																													
C47周辺	ウラゴメ	E6－G16			1														1																																																					
F12周辺	ウラゴメ	E6－H12				1				2						3		3				1		2		1																							1	2																		
A59周辺	ウラゴメ	E6－H13																	1		1				1		1																	1																								
A72周辺	ウラゴメ	E6－H14																							1																																													
捨石周辺～一期角石		捨11周辺					1										1				1		1		1																																										
捨石周辺～一期角石		一期角石																	1		1				1		1																																										
サイレン周辺・撹乱	撹乱	E6－G13サイレン周辺															2		1		2		1		1		1				1							2						1	1																							
サイレン周辺・排土中	排土中																2		1		2		1		1		1		1																						1																			
			0	10	1	5	2	5	0	9	0	3	0	2	0	48	0	50	0	44	0	41	0	43	0	49	0	2	0	3	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	3	2	0	0	1	2	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

本丸南西部　（第30次調査）

遺構	層位	んせいn	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
SK420	埋土	E6－F13																			1				1		1		1																																								
SK420	埋土	E6－F14																			1						1																						1	1																		
SK420	埋土																				1						1																																										
SK002	埋土			1												3		2		1				1		1		2		1																					1																		
SK421	埋土	E6－F13													2				1		2				1		1													1	1	1											1																		
SK421	埋土	E6－F14								1						1		1		3		1		1		1																									2																		
SK422	埋土	E6－E14						1										1		1				1		1																							1																			
SK426	埋土	E6－F12													1		1		1		1						2																								1																		
根固層(SK00	埋土	E6－E15														1						1																																															
SD422	埋土	E6－E16														1								1		1																																										
根固層(SD003)		E6－E15														1				2		1																																													
根固層(SD00	埋土	E6－F13																								1																																										
盛土E層	E層	E6－E14																				1																																															
盛土E層	E層	E6－F13												1						1				1		1																																										
盛土E層	E層	E6－F14																	1		1						1																																										
盛土C層	C層	E6－E14			1	3	1	7				1				1				4		1		2	1	3											2												3	8																		
盛土C層	C層	E6－E15																			4		2		1	1	2																								1																		
盛土C層	C層	E6－E16	1													1	1		1		1		1		2		2																								1																		
盛土C層	C層	E6－F13																	2		2				1		3														1		1							1																				
盛土C層	C層	E6－F14																	1		1						1	1																								1																		
盛土C層	C層	E6－F16		1																		2						3																						1																				
盛土C層	C層	E6－G12		2								1				3		4		3		2		2		2		1														1												1																		
盛土B層	B層	E6－E14							1														1		1																2	1	0																										
盛土B層	B層	E6－E15									1						1		2		3	1	1		2		1														1		7	4	1	1																								
盛土B層	B層	E6－E16																	1		1	1		1		1				1																			1			2																		
盛土B層	B層	E6－F13														3		1		1	2		2		2																								2	7																		
盛土B層	B層	E6－F14																						1		1															1	1		1																									

遺構	層位	んせいn	軒丸瓦						軒平瓦						丸瓦						平瓦						塀瓦						熨斗瓦						棟板瓦						輪違い						鬼瓦						鳥衾						磚(せん)瓦					
			瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦		瓦		燻瓦		赤瓦	
			固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片	固体	破片
盛土B層	B層	E6－F16		1	1	1	3	3				1	1	4		1		6	4	10		2		2	4	6		1									2	4	1	1	1		7	13		2		4	7	14																		
盛土B層	B層	E6－G17						1						1		2		1		4		2		1	3	1		1					1				1	3	1	2			2	1		1	3		1	6																		
盛土A層	A層	E6－D15					1	1			1	1		1				2		2		1		1		1												1	1			1						3		2																		
盛土A層	A層	E6－E14																		1				1		1																								1																		
盛土A層	A層	E6－E15														1		2		3		2		1		1												1				1		1																								
盛土A層	A層	E6－E16				1				1		1						3		2		1		1		1												1		1				1																								
盛土A層	A層	E6－F12											1											1		1														1										1																		
盛土A層	A層	E6－F13												2				1		2				1		1				1										1				1																								
盛土A層	A層	E6－F14																1		3				1		2				1													1	1																								
盛土A層	A層	E6－F15												1				1		2				1		1		1																						1																		
盛土A層	A層	E6－F16																		1		1		1		2																		1						1																		
盛土A層	A層	E6－F17											1			1				1																	1							1																								
盛土A層	A層	E6－G12														1		1		1				1		1																																										
盛土A層	A層	E6－　－						1								2		3		1		1		1		2												1		1										3																		
盛土A層	A層	礎石E6－D15				1					1				1	2		2		2		1		1		1								1						1				1				1	1	2																		
盛土A2層	A2層	E6－F17																1		3				3		1				2				1									1	1					2	2																		
1期～3期	2期根掘	E6－E15													1						1																																															
1期～3期	2期根掘	E6－F13						1														1				1																																										
1期～3期	3期ウラゴメ	E6－　－　D387																		1				1		1																																										
1期～3期	3期ウラゴメ	E6－　－　D522																		1		1				1																																										
1期～3期	3期ウラゴメ	E6－　－　D524																																																1																		
1期～3期	3期根掘	E6－E15														2		1		1		1		1		1																																										
1期～3期	3期根掘	E6－E16																		1						1																																										
1期～3期	3期根掘	E6－G12																1		1				1		1																																										
1期～3期	1期石垣上	E6－G14		1				1								1								1		1																																										
トレンチ・北トレ:	トレンチ	E6－E15																		1		1				1															1																											
トレンチ・北トレ:	北トレンチ	E6－G12														4				3		2		1																1		1																								
保留①		E6－F16														1				1		1				1																								1																		
保留②		E6－F16			1											1		1		5		1		1		1		1										1																														
保留④		E6－E15						1								1								1		1																																										
保留④		E6－F16		2												1		1		1		1		1		1				1																				1																		
Pit1	埋土	E6－E15																1																																																		
Pit1	埋土	E6－E16																				1		1																																												
pit1	埋土	E6－G12																		2						1																																										
Pit2	埋土	E6－E14					1													2		1				1																																										
Pit2	埋土	E6－E15														1				3						1												1												1																		
Pit2	埋土	E6－E16																				1				1														1																												
Pit3	埋土	E6－E15																								1																																										
Pit3	埋土	E6－E16			1			1										2		2		1		1		1												1						1																								
Pit4	埋土	E6－E16																1						1																																												
Pit4	埋土	E6－F13											1			1		1		2				1																																												
Pit6	埋土	E6－E16																																																1																		
Pit8	埋土	E6－F13																								1																																										
Pit9	埋土	E6－E16																				1				1																																										
Ⅰa	Ⅰa	E6－E14												1						3		1				1												1						1																								
Ⅰa	Ⅰa	E6－E15																								1																																										
Ⅰa	Ⅰa	E6－E16		1	1	2					1	3		1		1		3		3		1		3		1				1					1				1	1	2	1	1	3				1		5																		
Ⅰa	Ⅰa	E6－F12																								1																1		1																								
Ⅰa	Ⅰa	E6－F13																		2		1		1																				1																								
Ⅰa	Ⅰa	E6－F14												1				1	2	5		1		1		2																1		1						1																		
Ⅰa	Ⅰa	E6－F16														1		1		2		1		1		1		2										1						1						2																		
攪乱	攪乱	E6－E15																		1						1																																										
攪乱	攪乱	E6－G12														1				1				1		1																																										
			1	9	5	8	6	18	1	2	4	8	4	#	3	43	0	57	6	119	1	45	1	59	10	86	0	#	0	8	0	0	1	2	1	0	4	19	6	17	13	11	14	32	0	3	4	11	18	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅵ　まとめと課題

1　遺構変遷と課題

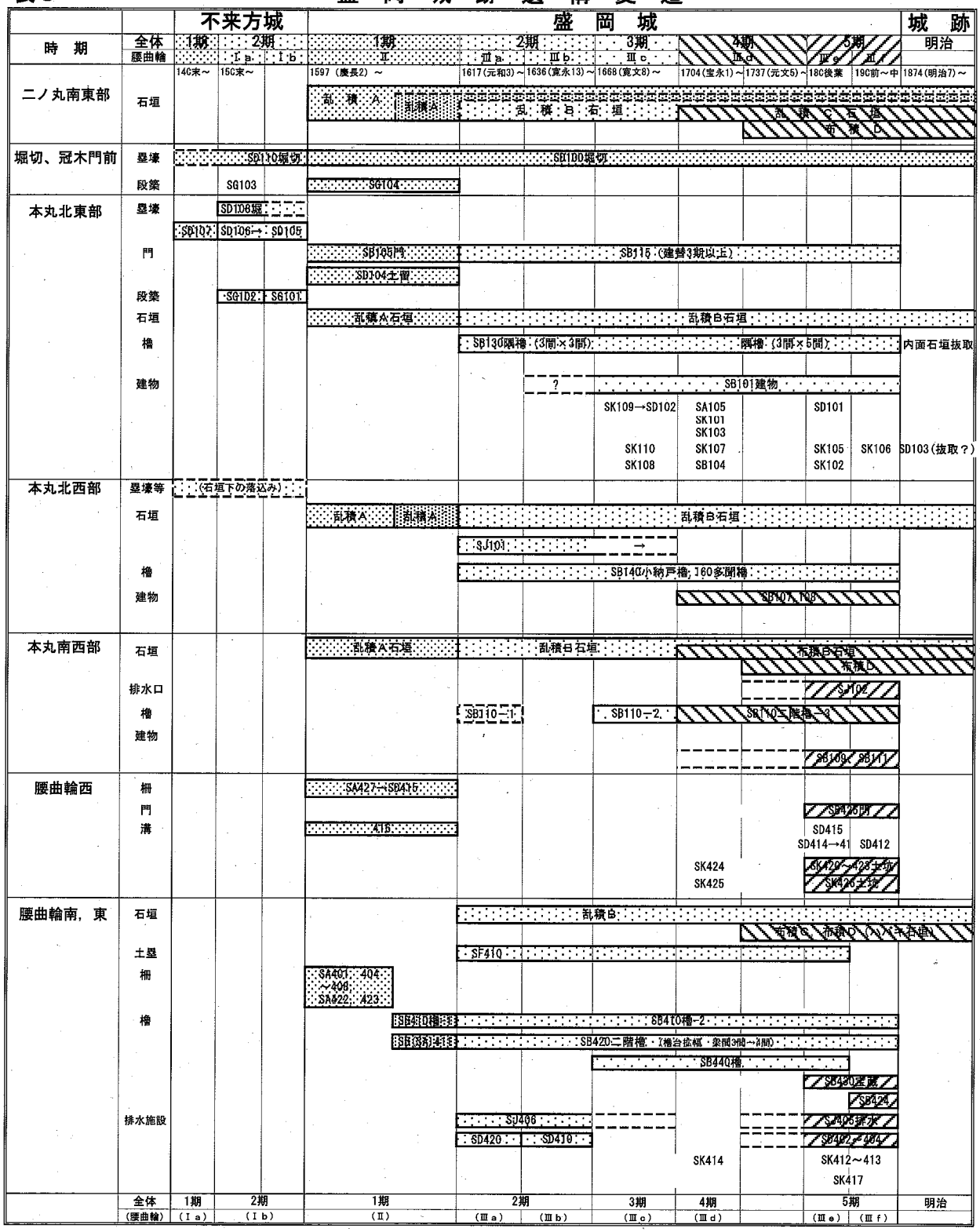
第１期保存整備事業の腰曲輪では、室町時代の15世紀後葉から、幕末期の19世紀中ごろに至る遺構変遷が把握されていた。この腰曲輪の遺構変遷に対応させる形で本丸から腰曲輪にかけての遺構変遷を考察したが、第１期事業の報告書と今回の報告では、各時期の捉え方や年代観に多少の違いがある。各時期の内容の詳細については、紙数の関係から、本文では詳述できないが、表８の遺構変遷表、及び第102図の遺構変遷図により、盛岡城本丸から腰曲輪の遺構変遷を提示したい。

不来方城期　不来方城期については、腰曲輪下層のＩａ、Ｉｂの２時期であり、Ｉａ期を15世紀後葉から16世紀前半。Ｉｂ期を16世紀後半に考えていた。また、Ｉａ期よりも古い15世紀代または14世紀後半ごろの遺物も認められ、この時期の遺構の存在も予想されたが、腰曲輪では確実な遺構は確認されておらず、遺物の出土位置から、丘陵頂部を中心とした、古い城館の存在する可能性を指摘していた。今回、本丸北東部において、埋土の関係や出土陶磁器から、腰曲輪Ｉａ期よりも古い可能性のあるＳＤ107堀が確認され、これを不来方城１期とした。年代は14世紀後葉から15世紀中葉ごろまでと推定する。腰曲輪のＩａ期、Ｉｂ期に対応する時期は不来方城の２ａ期、２ｂ期とし、２ａ期は15世紀後葉から16世紀前半、２ｂ期は16世紀後半と推定する。

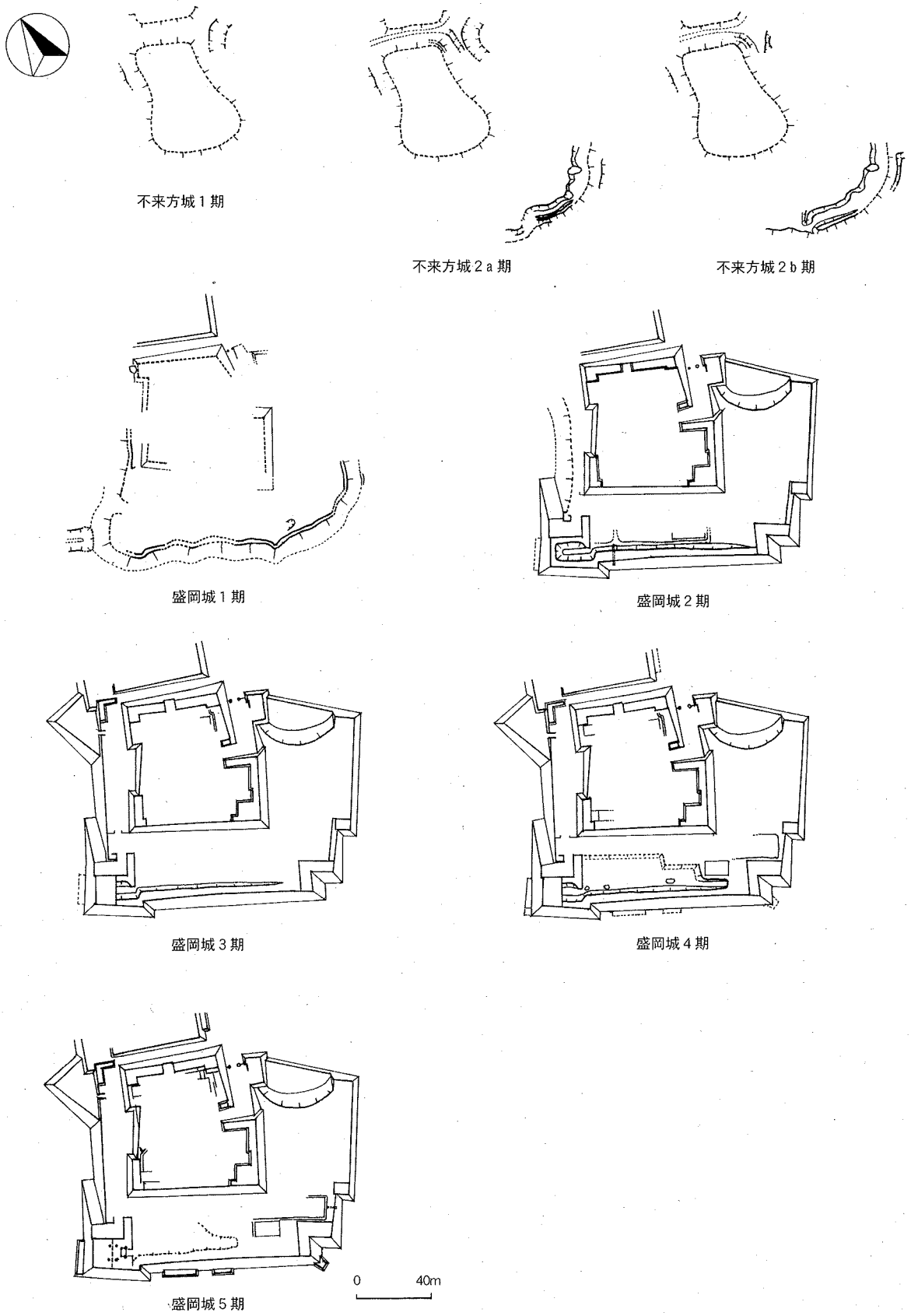
盛岡城期　腰曲輪のⅡ期を盛岡城１期、Ⅲａ期とⅢｂ期を併せて盛岡城２期とした。Ⅲｂ期は17世紀末までとしていたが、次のⅢｃ期は後述するように17世紀後葉と考えるのが妥当であり、これとの関係から、Ⅲｂ期は17世紀中葉の時期と考えたい。Ⅲｃ期は盛岡城３期で17世紀後葉、Ⅲｄ期が盛岡城４期で18世紀前葉から中葉。Ⅲｅ期とⅢｆ期を併せて盛岡城５期とし、18世紀後葉から19世紀中葉の年代である。今回提示した盛岡城期の各期の年代観は、『盛岡城跡Ⅰ』の年代観と齟齬が生じている。腰曲輪の窪地はⅢａ期以後、年代を追って順次浅く埋め立てられており、例えば、３ｂ層はⅢａ期の開始からⅢｂ期の盛土造成に至るまでの遺物が包含され、Ⅲｃ期の上に堆積する３ｄ層は、Ⅲｃ期間中からⅢｄ期造成時までの遺物が包含される。盛岡城跡Ⅰでは、陶磁器の消費期間を考慮して、各時期の年代について、遺構面を直接被覆している土層のみではなく、より上層の遺構面、盛土からの出土陶磁器まで使用して年代を決めたため、Ⅲｂ期からⅢｄ期の各時期の終末年代が新しくなっていた。今回の報告での遺構の年代、特に腰曲輪のⅢｂからⅢｄ期の年代については、各時期の遺構面に直接盛土された土層からの出土陶磁器のみに限定して年代を再整理し、これに本丸周辺の遺構変遷を対応させた。

１期と２期　盛岡城１期は、腰曲輪では石垣がなく、木柵の廻る時期であった。本丸では北東部、北西部、南西部のそれぞれから、盛岡城２期（Ⅲａ期）に先行する石垣が確認され、盛岡城１期には、本丸や二の丸を中心に、築石に野面石を用いた、乱積Ａ石垣が構築されていることと、本丸のプランが現

表8　盛岡城跡遺構変遷



・太い罫線で囲んだ遺構は、時期、存続期間が判明している遺構。囲んでいない遺構は、凡その帰属時期を示すが、多少前後する可能性のある遺構。
・破線は、帰属時期や存続期間に、やや不確定要素があるもの。
・石垣相互間の破線の場合は、積み方が近似しているため、境界線が明瞭でない場合を示す



第102図　本丸、腰曲輪遺構変遷

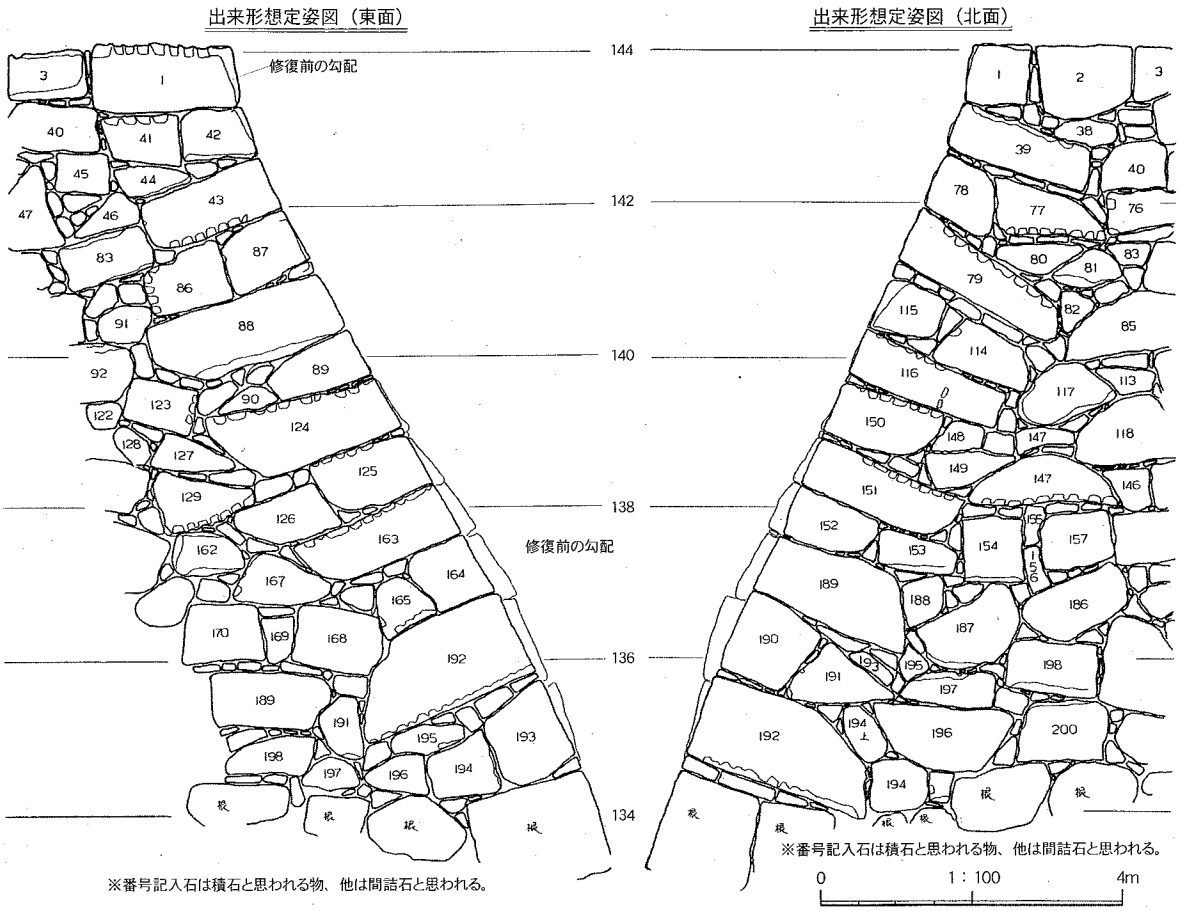
状とは異なっていたことが明らかになった。これにより、盛岡城１期は概ね慶長年間のものであり、次の盛岡城２期前半の時期（Ⅲａ期）は、元和３年（1617）から同５年（1619）にかけての大修築（『藩史草稿』）がこれに該当すると考えた。修築の契機としては、元和２年に、沿岸の大槌や仙台領内において、地震や大津波による多数の犠牲者が出ており、この時の城の罹災が考えられる。この時の造営により、本丸プランは現状の石垣プランに改められ、腰曲輪や三の丸も、木柵や土坡から石垣に改められた。

本丸北西部では、１期の乱積Ａ石垣と同じプランで、割り石と野面石を混用する乱積Ａ´石垣が構築され、２期の乱積Ｂ石垣期のよりも先行することが確認された。このタイプの石垣は、二の丸東面石垣の下部や、南面石垣の中央付近。本丸御末門東の出角北側石垣にも存在する。また、石垣ではないが、腰曲輪の遺構で、２期のＳＢ410櫓の捨石列に先行する櫓礎石の存在（『盛岡城概報80』）。ＳＢ420櫓の下層に存在するＳＡ411掘立柱列は、それぞれ盛岡城２期の櫓の前身建物の存在を示す。このことから、盛岡城１期に後続し、２期に先行する１ｂ期というべき時期の存在が考えられる。しかし、いまのところ他の箇所では明確な時間差は認められず、今回明らかになった変遷も、部分的変遷の可能性もある。したがって、本報告では、盛岡城１期、または２期が細分される可能性のみ指摘しておきたい。

2　石垣修復と課題

本丸北東部石垣は、平成５年度から同７年度にかけて、発掘調査と修復工事を実施した。事実報告で述べたとおり、石垣は不来方城２期の堀に堆積した、軟弱な埋土の上に構築されていた。このため、修復前は、石垣隅角部の下部が著しく孕み出していた。本来この石垣は根石から66°～68°の勾配で直線的に立ち上がり、石垣上部が緩く反りをもつ石垣である。石垣下部の著しい孕みは、この石垣隅が、周辺地形のなかで最も低い地点の軟弱地盤の上に存在し、石垣全体の過重が、常に隅の根石に集中し、根石や石垣下部が、前のめりに沈下したためと考えられる。この石垣の復元にあたっては、石垣下層のＳＤ106堀の堆積土を精査、除去した後、堀の内部に栗石を充填、填圧したうえで、根石を据付け、石垣を復元している。復元にあたっては、工事を担当した大林組が作成した、石垣隅部の復元計画図（第103図）と、修復石垣の現地状況を確認しながら、都市整備部公園緑地課（現公園みどり課）と教育委員会文化財担当者、工事業者の間で、復元方法を検討した。

この石垣の場合、孕みの顕著な箇所は、石垣隅部分を中心とする範囲であるが、工事範囲南端の石垣断面（第24図）や、西端の石垣断面（第11図版）で明らかなように、実際の石垣の孕みは、工事範囲外にまで及んでいた。先述のように、石垣の過重は全て隅の根石に集中し、経年変化による孕みの進行で、石材相互間の空隙が拡大し、石材の脱落などが生じたところに補充石材が充填された結果が修復前の石垣である。事実、石垣隅の孕みが顕著な部分には、石材表面の風化の少ない、小形の矢穴のある新しい詰石や石材が目立つ。石垣の復元に当たっては、これら新しい石材を廃し、石材相互の空隙を縮小しなければ、石垣の孕みは解消できない。では、実際にどの石材が後の補充材で、何処までが当初の石材かという問題に直面する。小形の矢穴や風化のほとんどないような石材は判別できるが、構築から300年以上経過した石垣では、石材の全てを正確に峻別することはほとんど不可能である。したがって、小形の矢穴など明確な根拠のある石材以外は、復元対象の石材



第103図　本丸北東部石垣復元案

から除外することはできなかった。また、石垣の孕みや緩みが広範囲であることから、今回の工事対象範囲内のみで、石垣の変位を全て解消することは不可能である。その結果、石垣下部の孕みは修復前の状況から、内側へ30cmほど押し込めて、勾配を可能な範囲で修正した。本来の石材と新補石材の区別が明確でないことと、石垣修復範囲が、石垣変移の範囲より狭かったことから、今回の修復工事では、石垣勾配の完全な修復には至らなかった。石垣修復の計画策定と、修復の設計、工事の実施にあたっては、解体前における石垣の充分な事前調査と、様々な角度、視点からの検討が必要であることを痛感した。

盛岡城跡の石垣の場合、石材は全て花崗岩であり、本丸石垣、二の丸石垣ともに、石材は全て再利用可能な状態であったため、隅石や築石の補充石材は全く存在しない。石材は全て、旧来の石材を用いて復元している。石垣は近世城郭の重要な構成要素であり、石垣そのものが文化財である以上は、石垣や石材の旧状を変えずに修復し、後世に伝えていくことこそが、城の石垣修復における第一条件である。石材の再加工は、石材の一部に劣化や割れがある場合などに、その部分を除去するための加工など、必要最小限度の加工にとどめるべきである。したがって、石垣勾配の完全な復元に固執し、多くの石材を加工することは、それは文化財保存の観点から見れば本末転倒である。復元にあたり、再利用する石材の新たな加工は、原則として避けるべきであり、盛岡城のように、新たな補充石材を必要としない石垣であれば、なおさらである。

盛岡城跡に残る石垣には、その構築から300年以上経過した石垣が多い。そして今日残るどの石

垣も、過去数百年にわたる変移を積み重ねた結果であり、また、今後も石垣の変移はさらに積み重ねられていくことは、これまでの石垣移動量調査報告書や石垣変移調査の結果を見れば明らかなことである。今回修復した本丸、二の丸石垣も、数百年以上後には、再び修復の必要に迫られると予測されるが、将来においても、石垣の特徴を残した修復を行うには、石垣全体の積み方や特徴はもちろんのこと、個々の石材も大切に扱わなければならない。そのころには、現在よりも高度な石垣修復技術や、修復方法が確立されていることと思われるが、現代の修復においても、未来の修復への備えが必要であることは、言うまでもない。

引用、参考文献

金森安孝、我妻仁（1999）「仙台城本丸」『第１回北日本近世城郭検討会資料』北日本近世城郭検討会

神山　仁（1987）「金沢市立図書館所蔵の盛岡城之絵図について」『いわて文化財第101号』岩手県文化財愛護協会

神山　仁（1990）『陸奥盛岡城（三）』日本古城友の会

菅野文夫（2000）『二戸市史第１巻』（第三篇中世）二戸市

吉川保正（1981）『盛岡の仏像』（盛岡市文化財シリーズ第５集）盛岡市教育委員会

佐嶋與四右衛門（1985）『北上川の歴史』（盛岡市文化財シリーズ第14集）

田中喜多美（1951）『盛岡市史第三冊中世期』盛岡市

田中喜多美（1963）『岩手県史第三巻』岩手県

田中喜多美（1979）『盛岡城』（盛岡市文化財シリーズ第２集）盛岡市教育委員会

星川正甫（1874）「盛岡砂子」『南部叢書第一冊』（南部叢書刊行会1927）所収

細井　計（1987）「盛岡築城年代考」『岩手史学研究70号』岩手史学会

細井　計、伊藤博幸、菅野文夫、鈴木宏（1999）『岩手県の歴史』山川出版社

森嘉兵衛（1970）『盛岡市通史』盛岡市

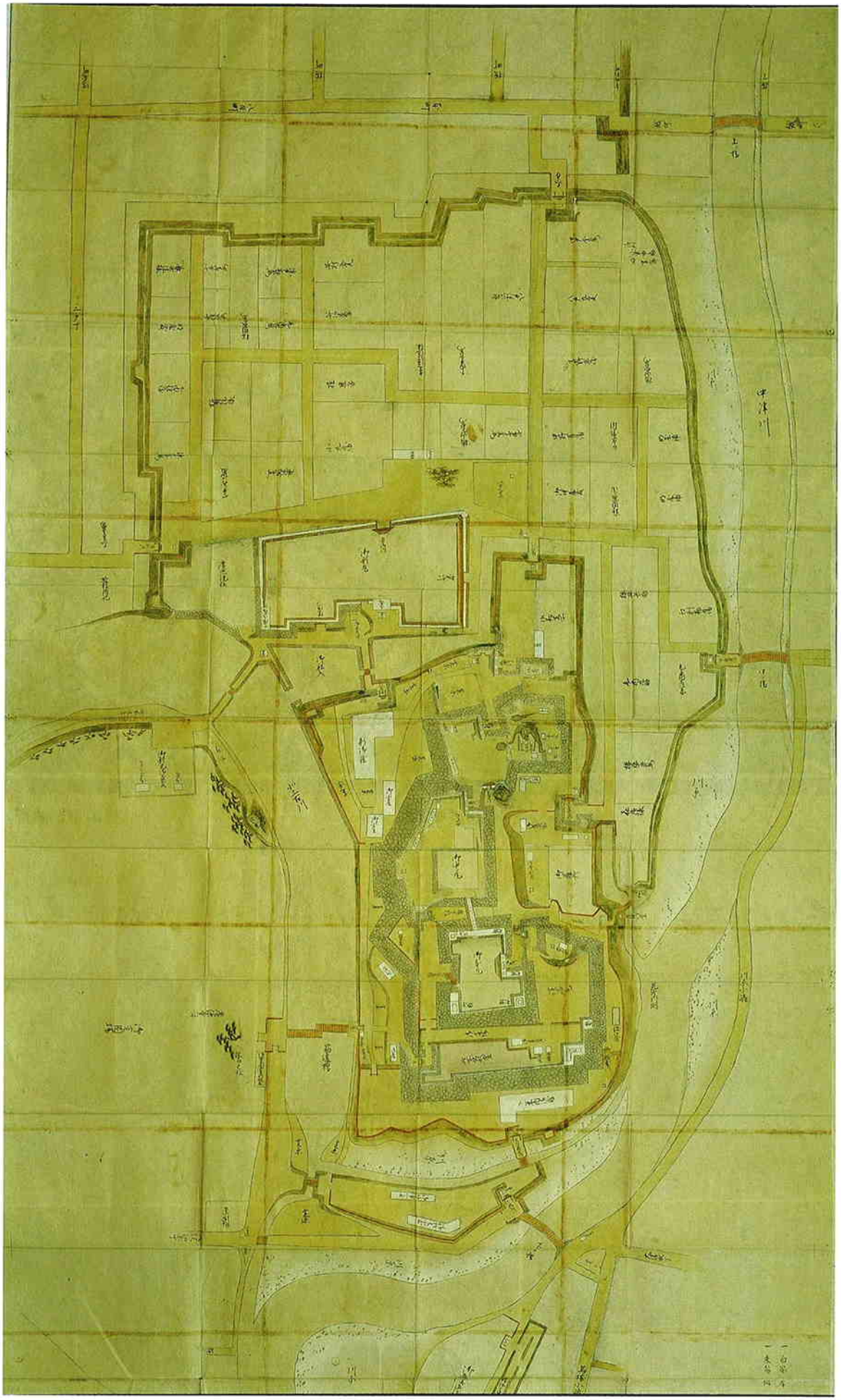
吉田義昭（1961）『史蹟盛岡城』盛岡市公民館

吉田義昭、及川和哉（1983）『図説盛岡四百年江戸時代編』郷土文化研究会

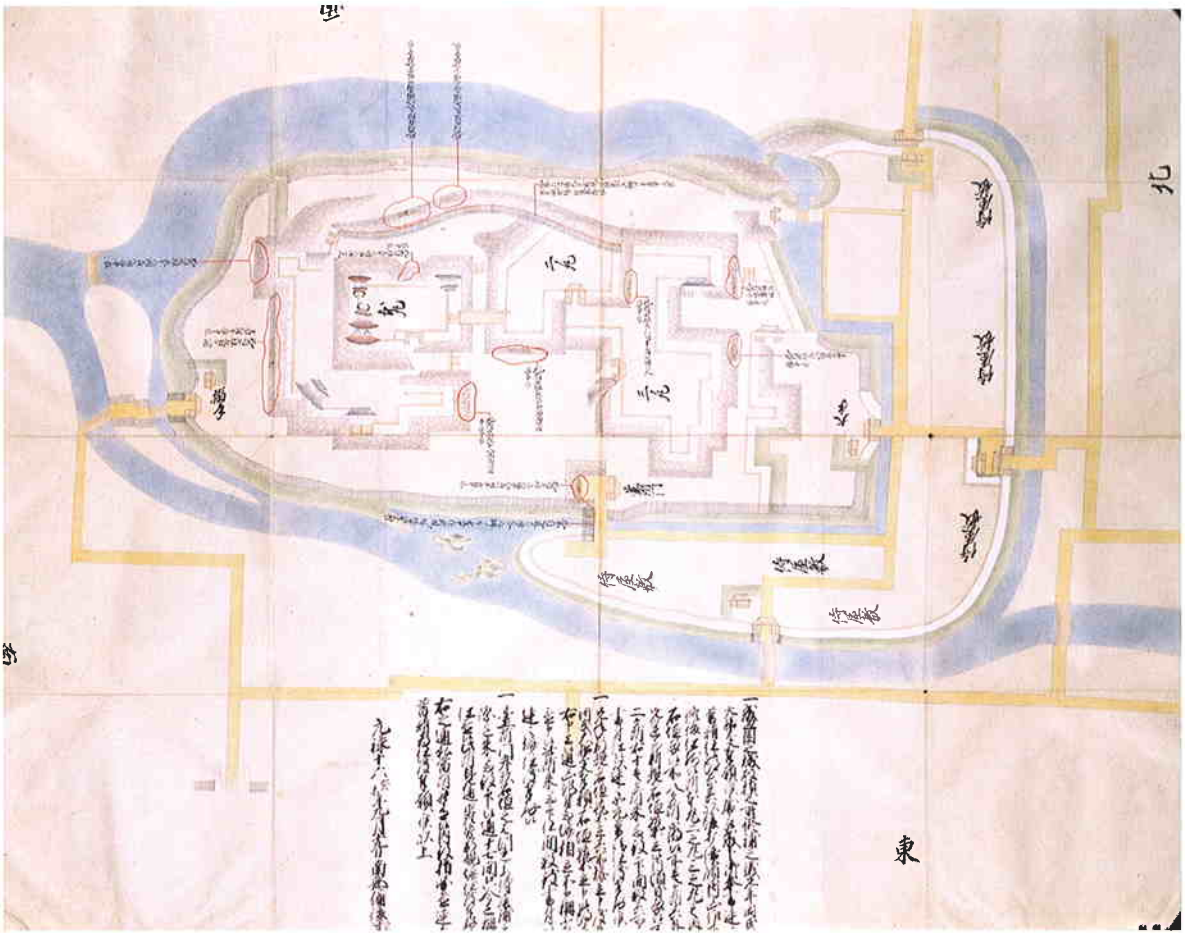
写　真　図　版

史跡盛岡城跡全景　（盛岡市建設部）

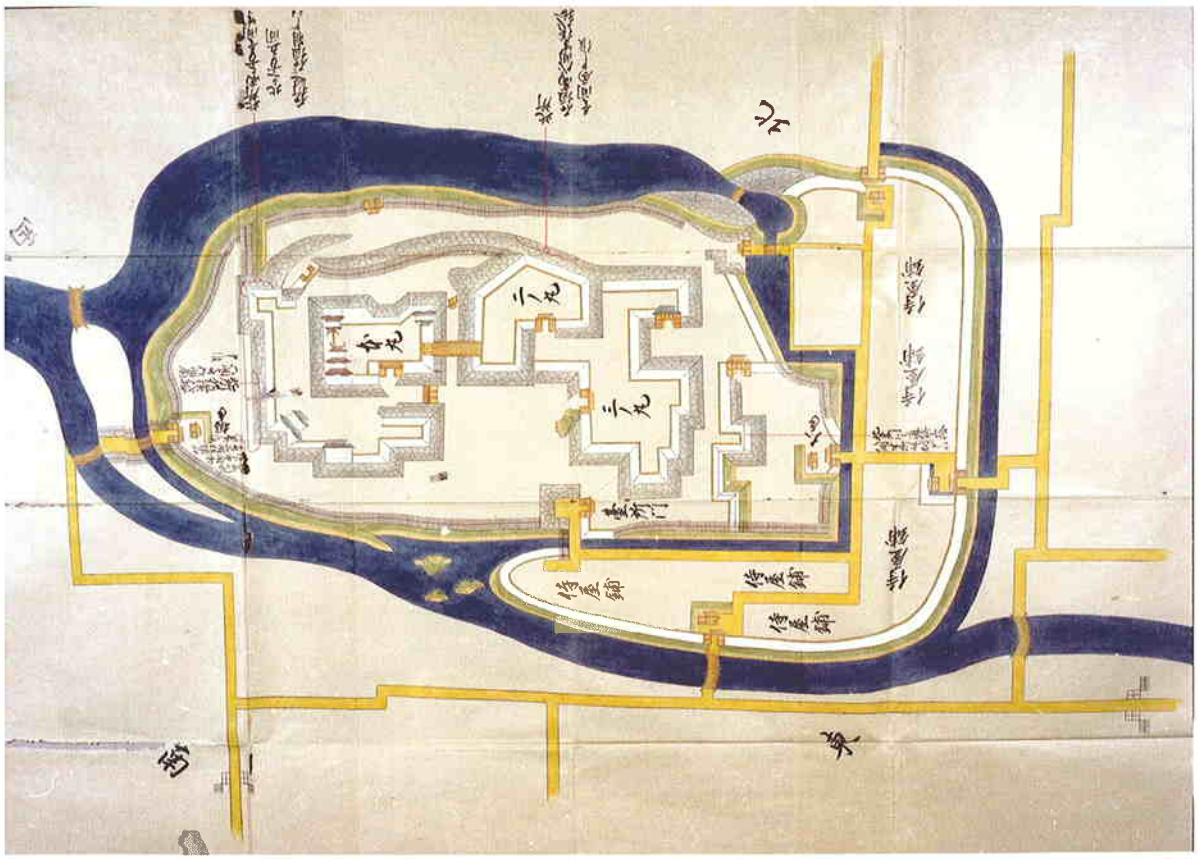
第２図版



明和３年盛岡城図　（盛岡市中央公民館所蔵）



元禄16年普請伺絵図　（盛岡市中央公民館所蔵）



元文５年普請伺絵図　（盛岡市中央公民館所蔵）

軒　丸　瓦

軒　平　瓦

本　丸　遠　望

二　ノ　丸　遠　望

第６図版

本丸南西部盛岡城１期石垣

本丸南西部盛岡城１期石垣隅部

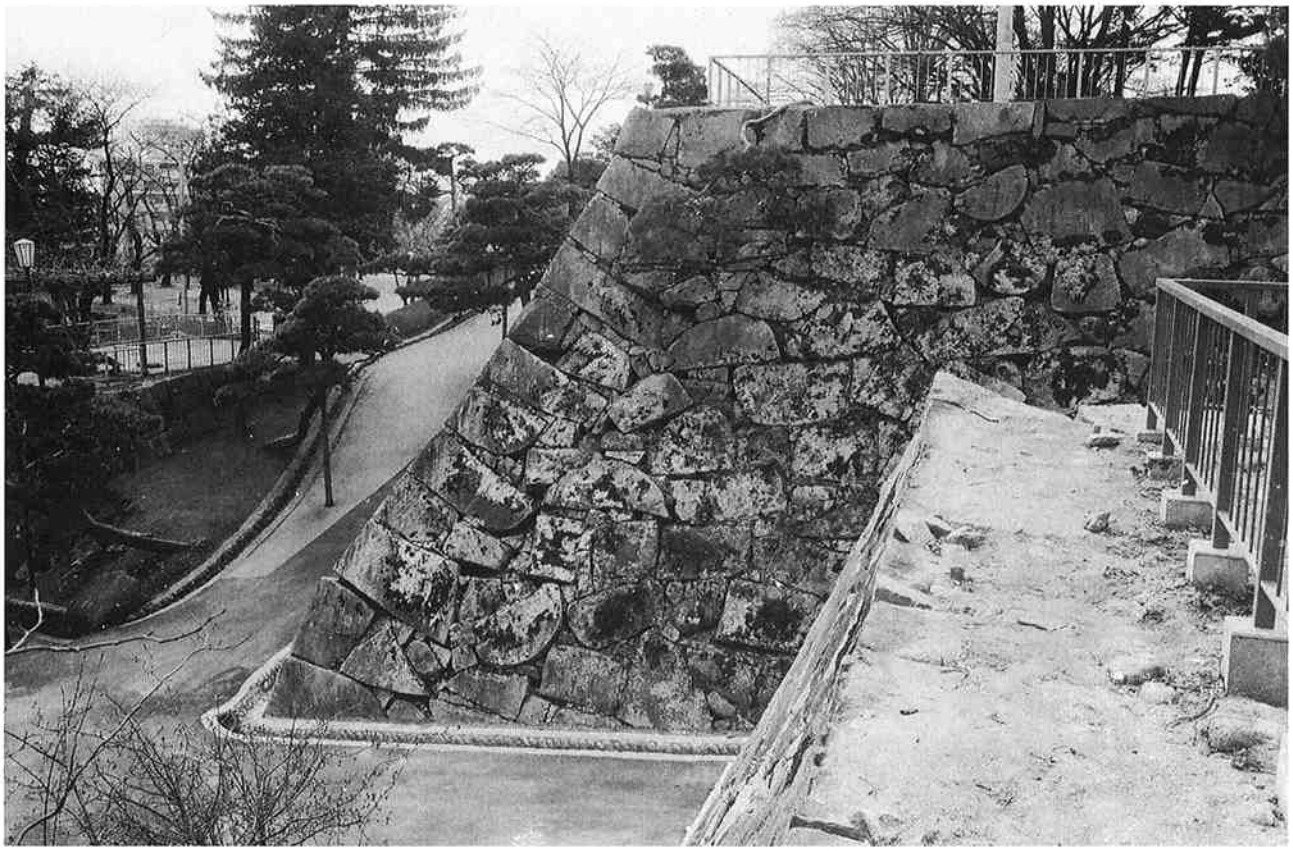
本丸東側盛岡城１期石垣

二ノ丸北東部盛岡城１期石垣（手前）、盛岡城４期石垣（後方）

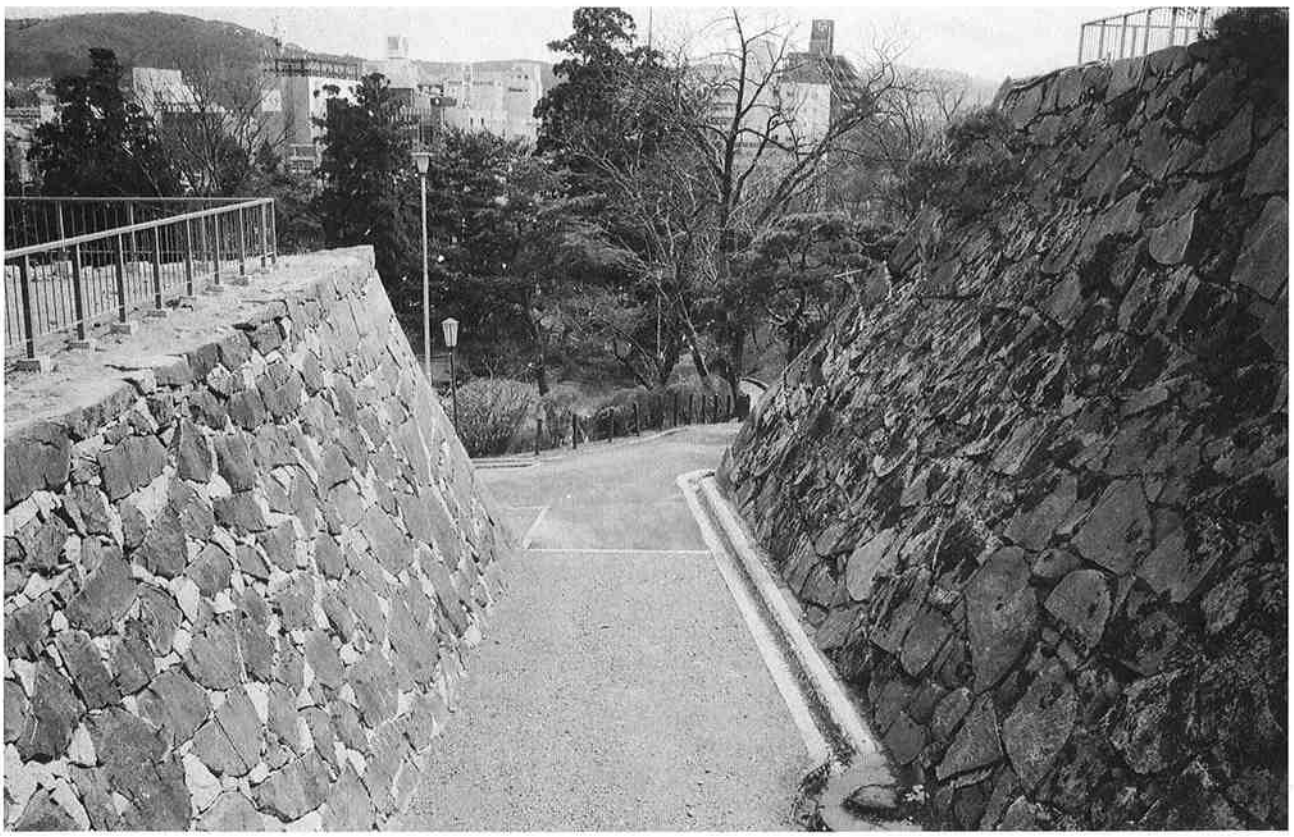
第８図版

本丸南西部二階櫓石垣（修復後）

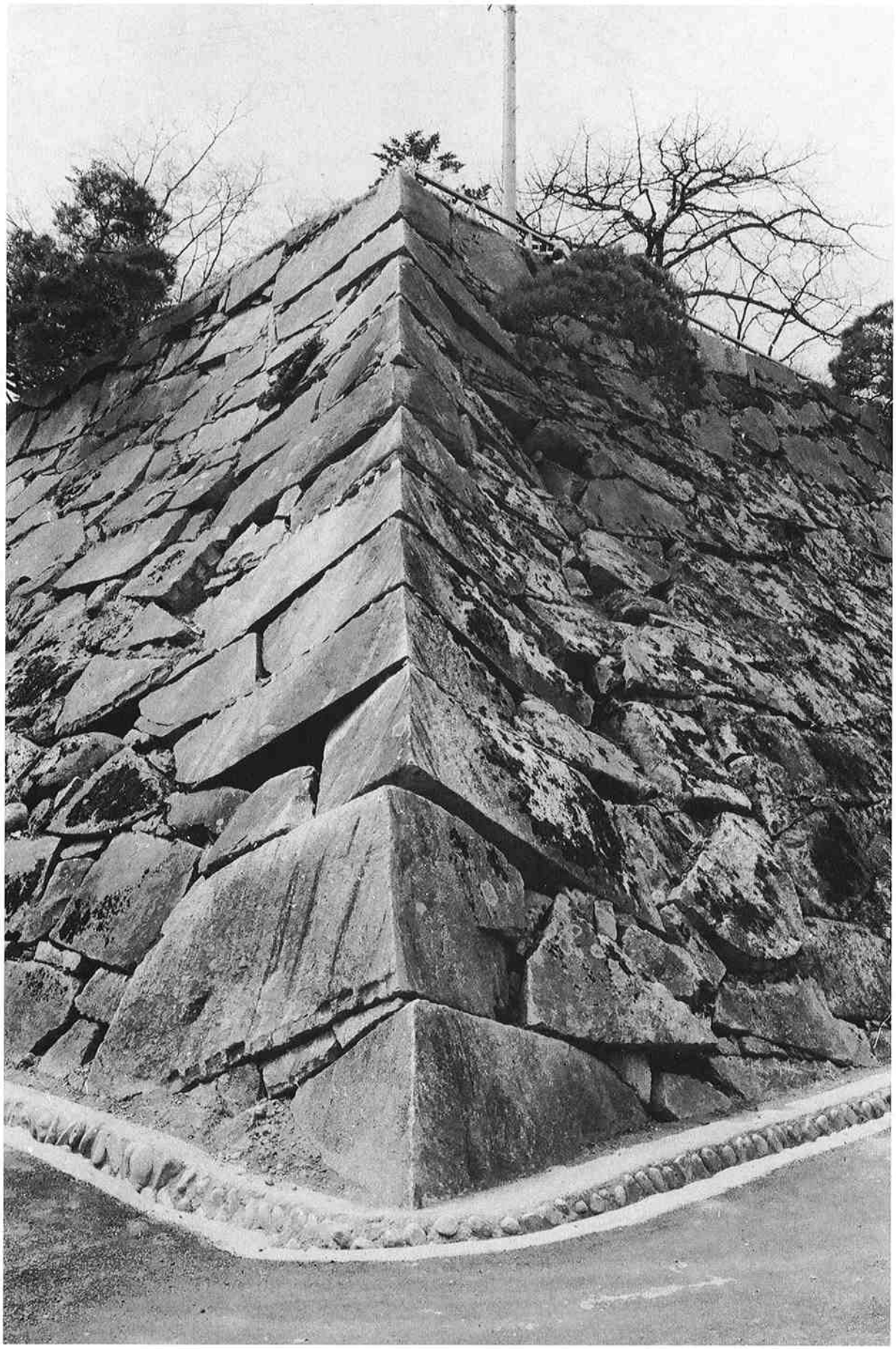
本丸南西部二階櫓石垣（修復後）



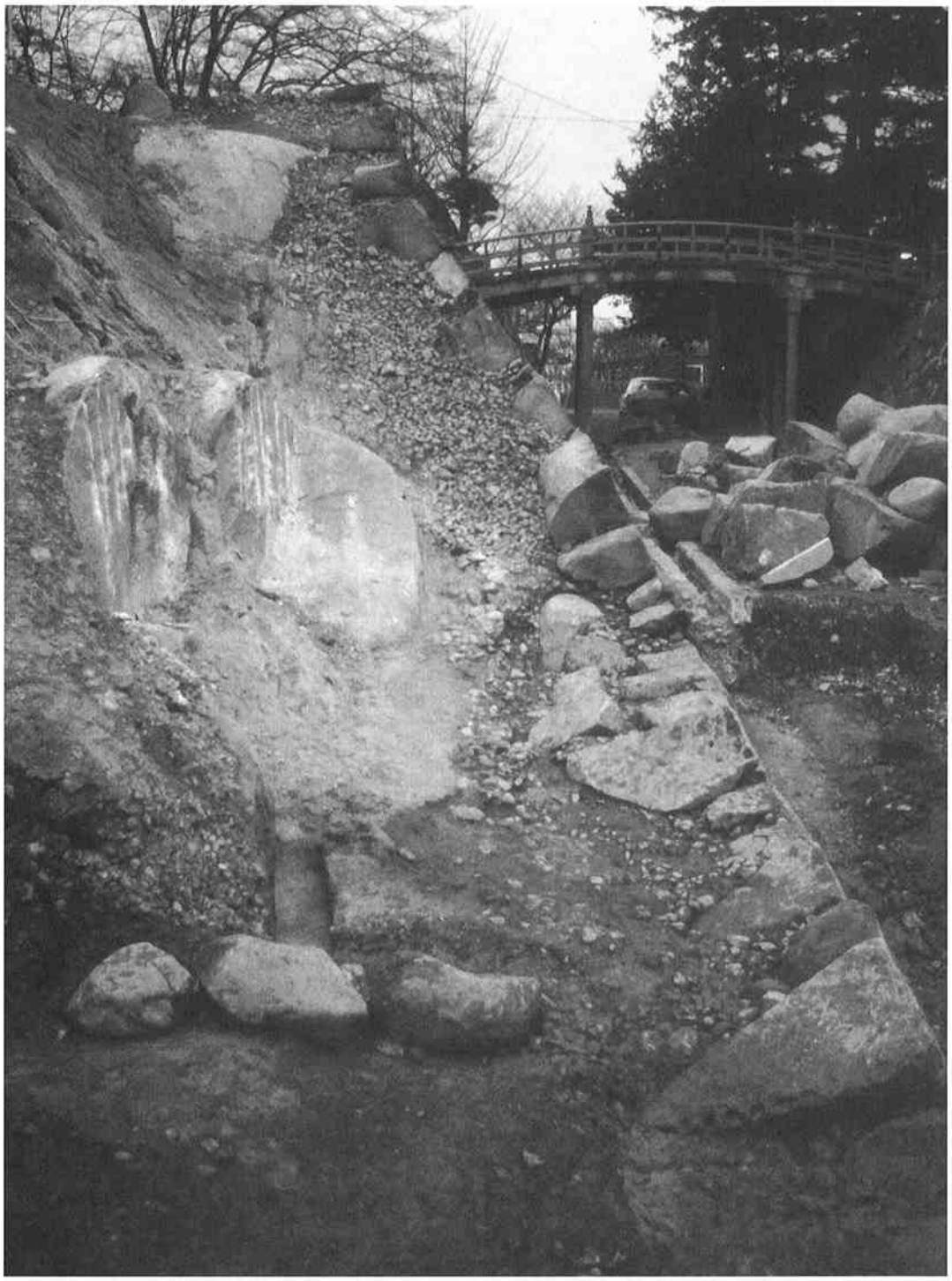
本丸北東部石垣



本丸、二ノ丸間の堀切（左側二ノ丸石垣は修復後）



本丸北東部石垣隅部分（修復前）

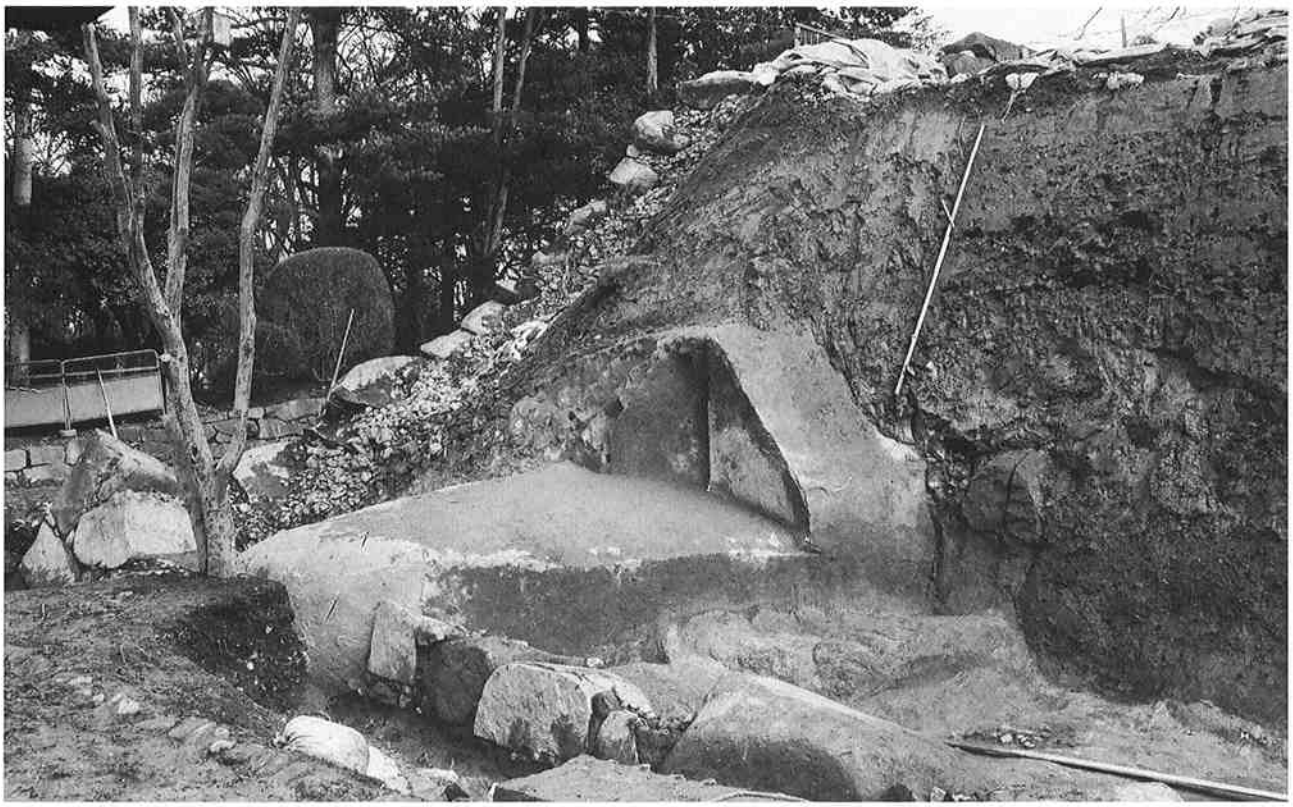


本丸北石垣断面及び盛岡城１期石垣根石

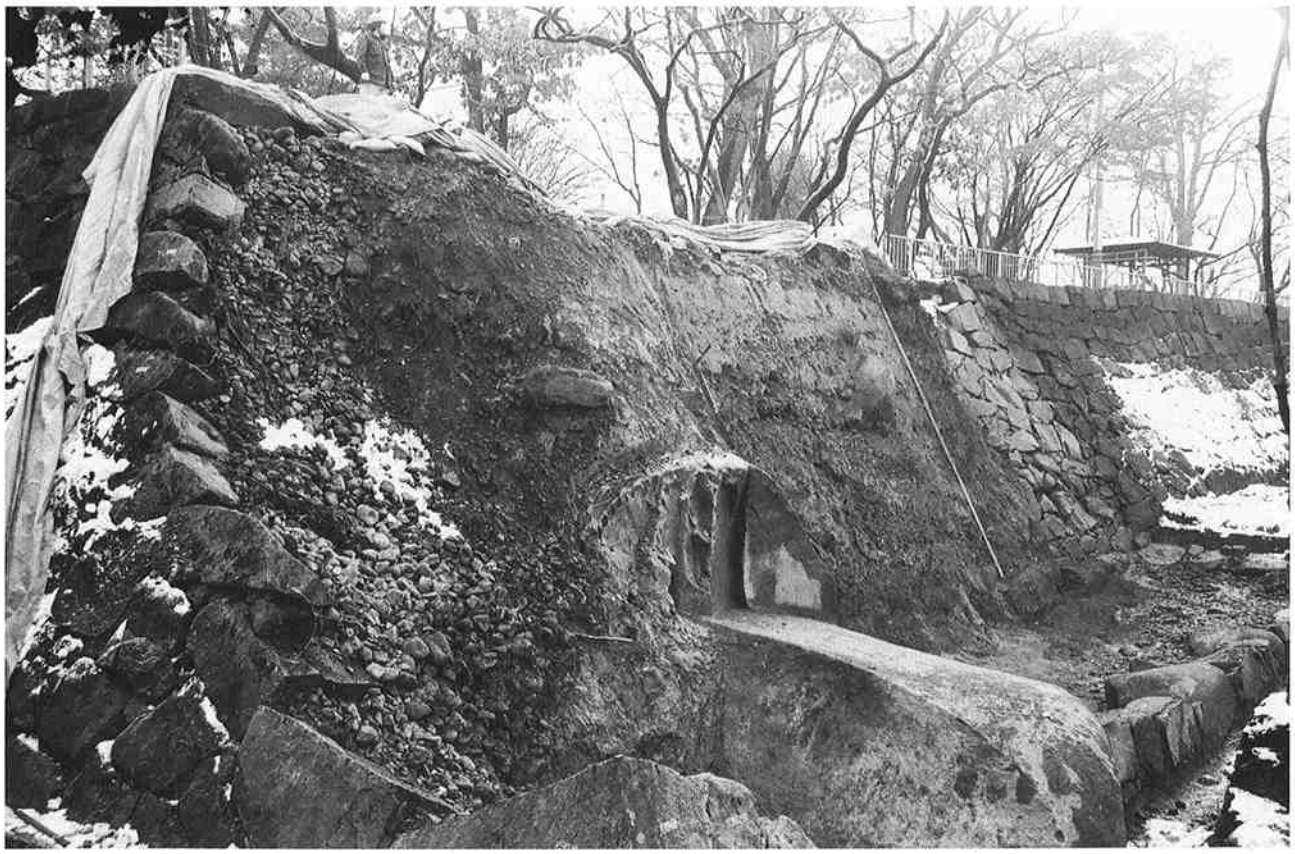
第12図版

本丸北西部石垣（修復前）

本丸北西部盛岡城１期石垣

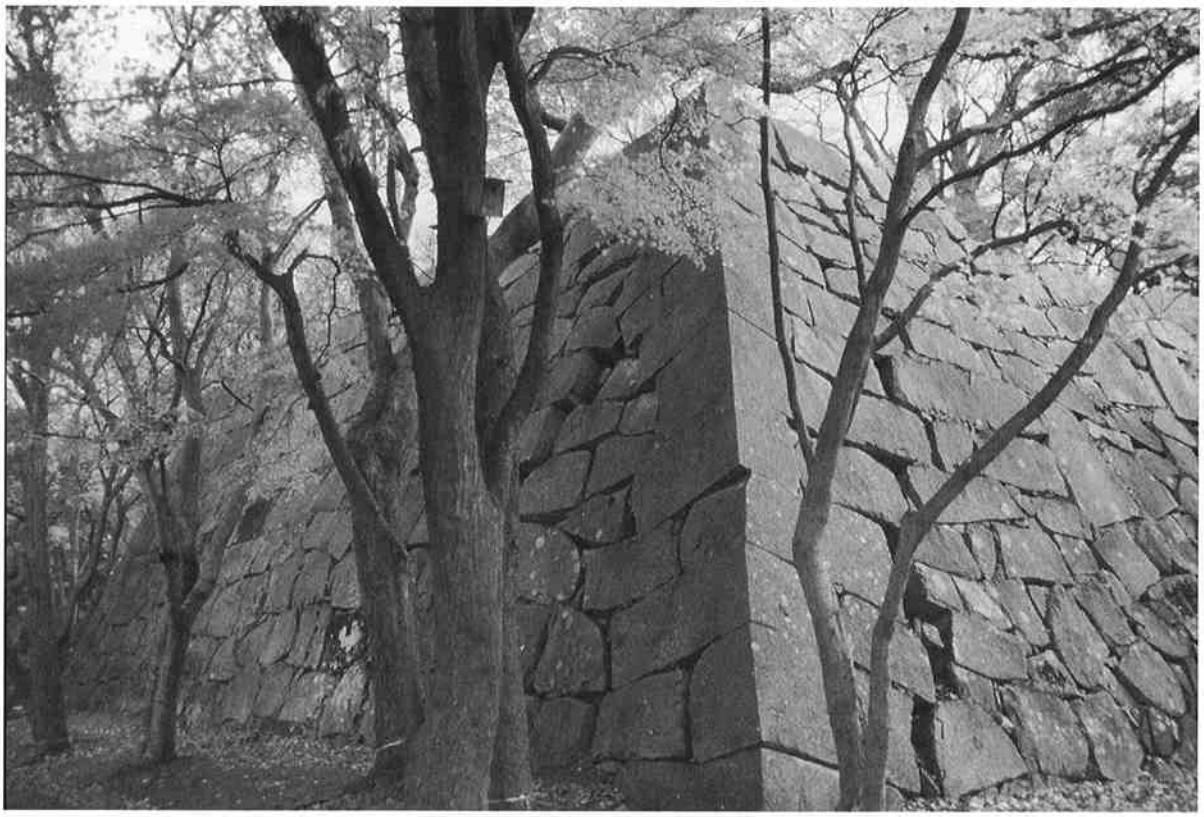


本丸北西部石垣解体後、矢穴のある花崗岩（南西から）

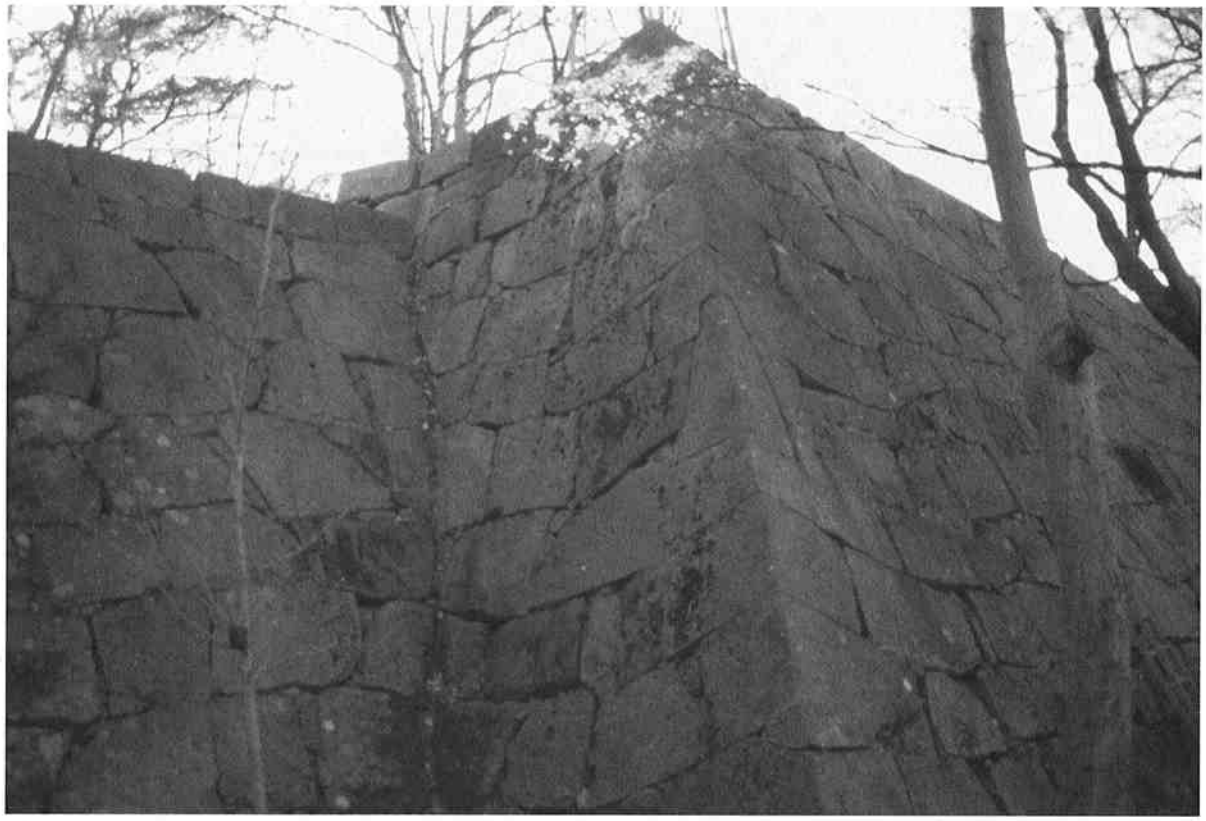


本丸北西部石垣解体後、矢穴のある花崗岩（北から）

第14図版



本丸南西部二階櫓石垣（修復前）



本丸南西部二階櫓石垣北西隅（修復前）

本丸南西部石垣北西隅根石の下部

本丸南西部石垣解体後の状況

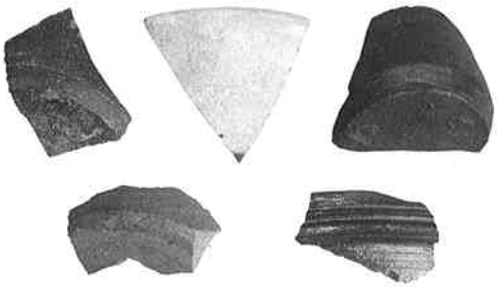
第16図版

土　器　（表）

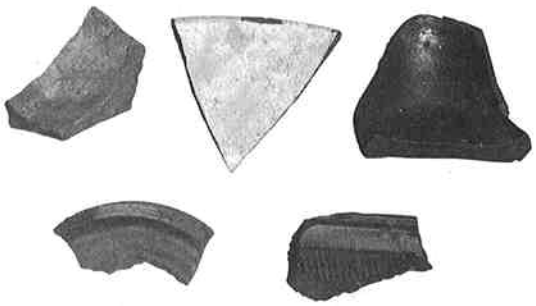
土　器　（裏）

陶　器　（表）

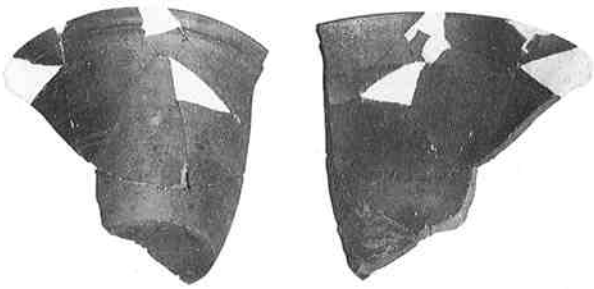
陶　器　（裏）



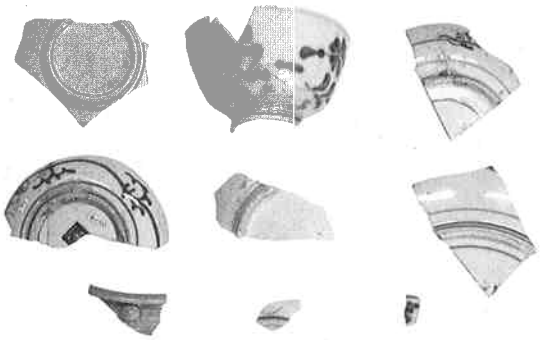
陶　器　（表）



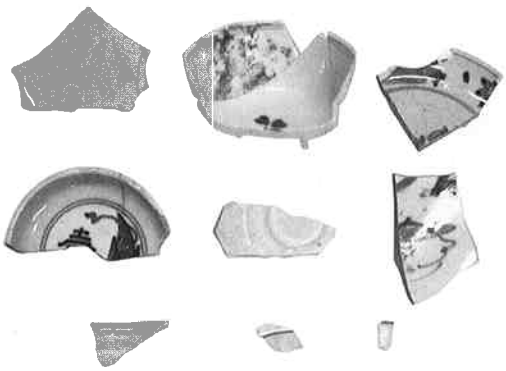
陶　器　（裏）



擂　鉢



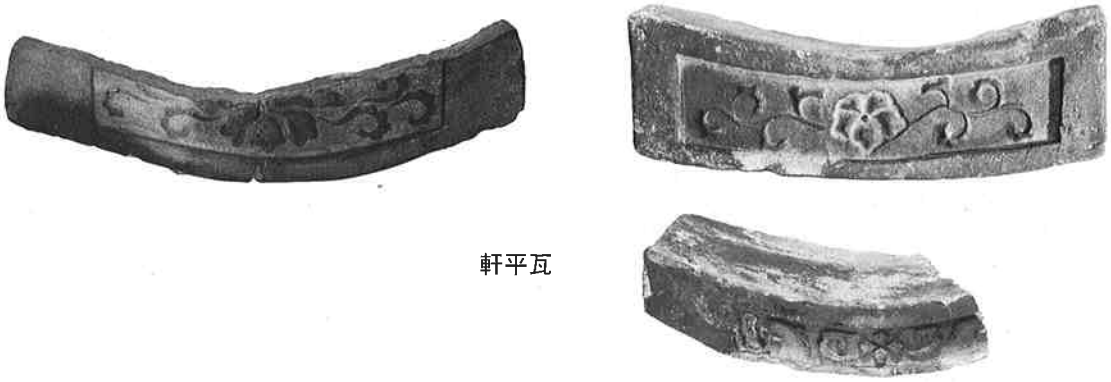
国産、中国染付（表）



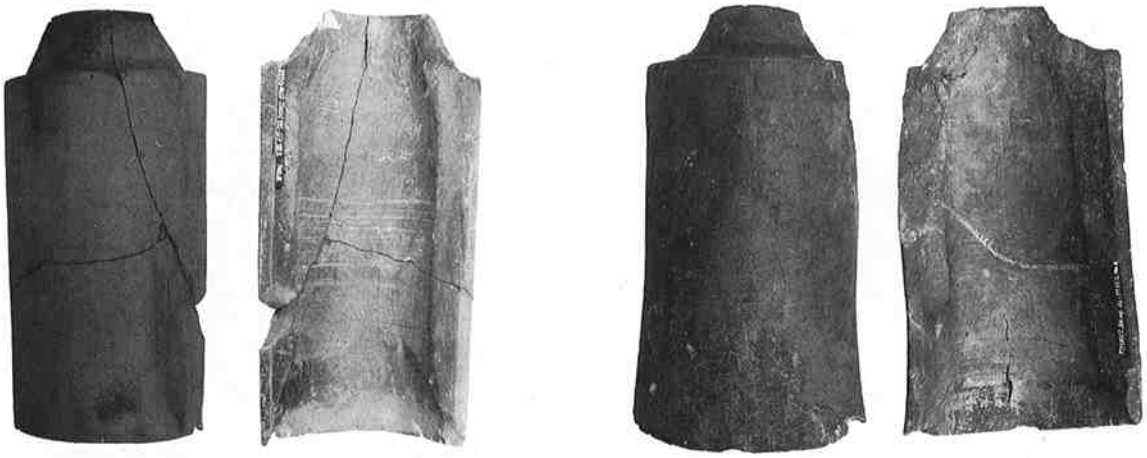
国産、中国染付

本丸北東部の瓦

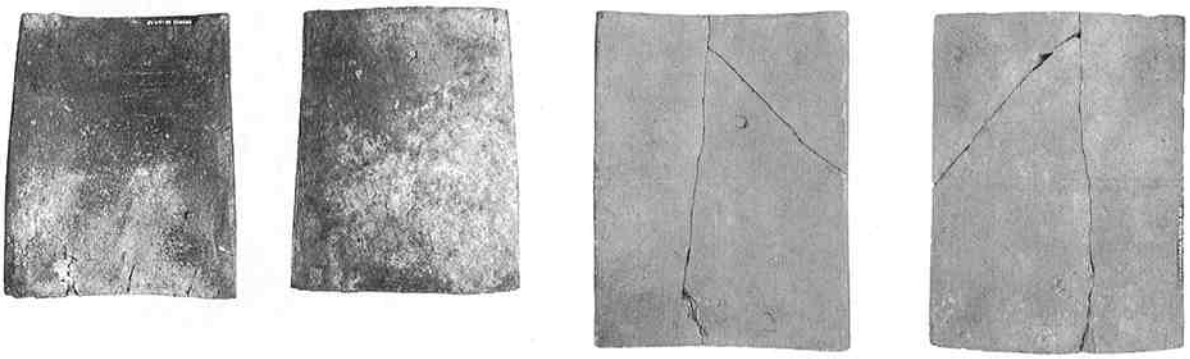
軒　丸　瓦



軒平瓦

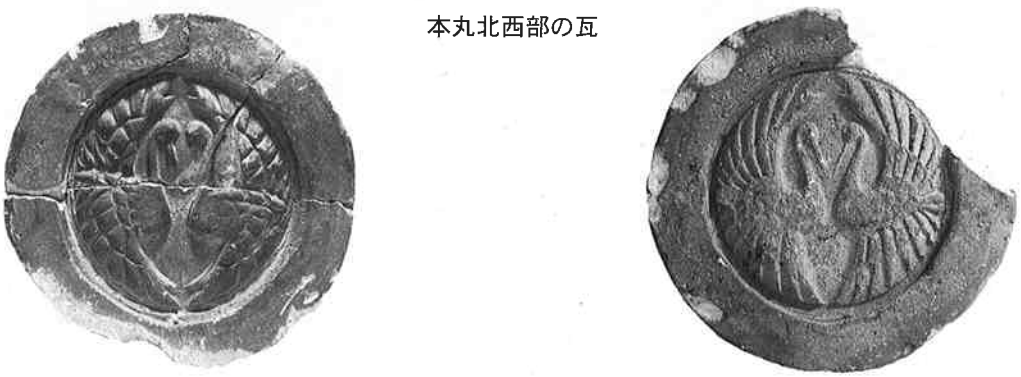


丸　瓦



平　瓦

本丸北西部の瓦



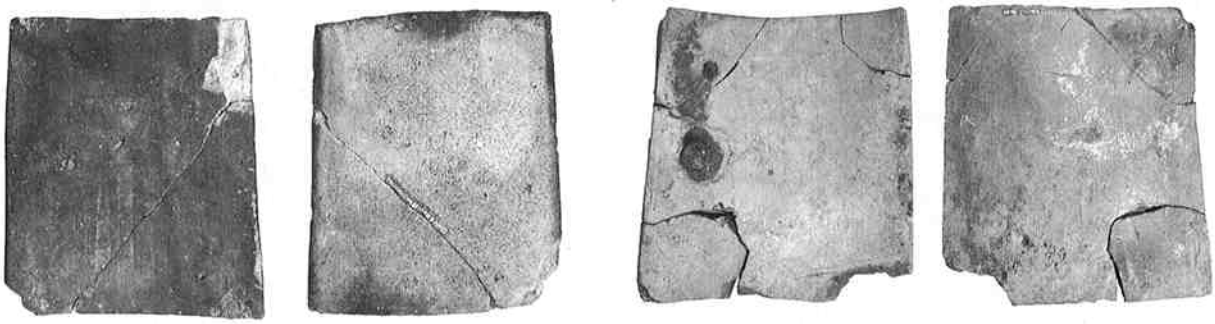
軒丸瓦

軒　丸　瓦

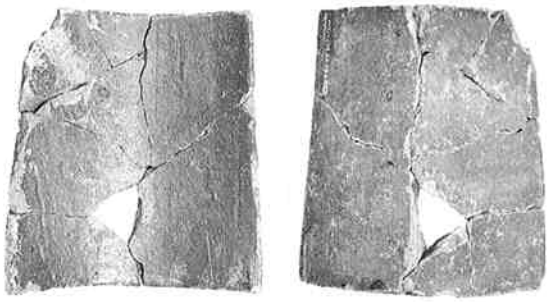
第20図版

軒平瓦

丸　瓦



本丸南西部の瓦

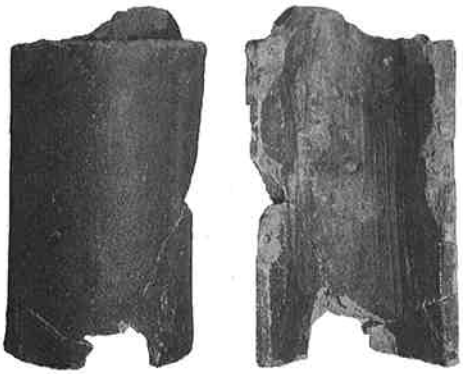


平　瓦

軒丸瓦

軒丸瓦

軒平瓦



丸　瓦

報告書抄録

ふりがな	しせきもりおかじょうあとに
書　　名	史跡盛岡城跡Ⅱ
副 書 名	第2期保存整備事業報告書
編著者名	室野秀文
編集機関	盛岡市 遺跡の学び館
所 在 地	〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地１　TEL019-635-6600
発行年月日	2009/3/31

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
史跡盛岡城跡（しせきもりおかじょうあと）	岩手県盛岡市内丸（いわてけんもりおかしうちまる）			39° 42′ 0″	141° 9′ 9.2″	1991.11.12 ～ 2001.10.7	2,101	石垣修復工事

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
史跡盛岡城跡 第 20次～22次、 24次～26次、 28次、30次、 31次	城館跡	中世 ～ 近世	本丸、二の丸石垣 櫓跡５、門跡３、礎石建物跡３、掘立柱建物跡２、堀５、溝５、土坑20 排水口２、	中世国産陶器、中国磁器、近世国産陶磁器、瓦、赤瓦、燻瓦、壁土、	・不来方城期（中世） 14世紀後半から16世紀末にいたる３期の遺構変遷を確認。 ・盛岡城期（近世） 16世紀終末から19世紀中葉にいたる５期の遺構変遷を確認。１期本丸はやや小規模で、現状の本丸は２期以後のプランであることが判明。

史跡盛岡城跡Ⅱ

― 第２期保存整備事業報告書 ―

2008年３月31日

編集　盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地１

発行　盛岡市教育委員会
〒020-8532　岩手県盛岡市津志田14地割37番２

印刷　有限会社 山本印刷
〒020-0004　岩手県盛岡市山岸一丁目8-9